

茨城県教育財団文化財調査報告第208集

二の沢 A 遺跡  
二の沢 B 遺跡(古墳群)  
ニガサワ古墳群

十万原新住宅市街地開発事業・  
都市計画道路十万原東西線街路整備事業地内  
埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成 15 年 3 月

茨城県住宅供給公社  
茨城県水戸土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第208集

に<sup>に</sup>の<sup>さわ</sup>沢 A 遺跡  
に<sup>に</sup>の<sup>さわ</sup>沢 B 遺跡(古墳群)  
ニガサワ古墳群

十万原新住宅市街地開発事業・  
都市計画道路十万原東西線街路整備事業地内  
埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成 15 年 3 月

茨城県住宅供給公社  
茨城県水戸土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団



ニガサワ古墳群 第1号墳横穴式石室（上） 第2号墳主体部遺物出土状況（下）

## 序

茨城県水戸市藤井町十万原地内において、十万原新住宅市街地開発事業、都市計画道路十万原東西線街路整備事業が、茨城県住宅供給公社及び茨城県水戸土木事務所によって計画されています。この計画は、21世紀の新しい街づくりのモデルとして、地区の環境特性を生かしつつ、これからの時代の新しい生活ニーズを先取りし、多様な機能が備わった個性的で魅力的な街づくりを目指すものであります。その事業予定地内に二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群が所在していたため、財団法人茨城県教育財団は、茨城県住宅供給公社及び茨城県土木部水戸土木事務所から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成13年4月から平成14年2月まで発掘調査を実施してまいりました。

本書は、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群の調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史への理解を深めると共に教育・文化の向上の一助として、御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県住宅供給公社及び茨城県土木部水戸土木事務所からいただいた多大なる御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成15年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 齋藤佳郎

# 例 言

1 本書は、茨城県住宅供給公社、茨城県土木部水戸土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成13年4月1日から平成14年2月28日まで発掘調査を実施した、茨城県水戸市藤井町に所在する二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群の発掘調査報告書である。

2 3遺跡の委託者別発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

## 調 査

茨城県住宅供給公社	二の沢A遺跡	平成13年4月1日～平成13年12月31日
	二の沢B遺跡（古墳群）	平成13年4月1日～平成14年2月28日
	ニガサワ古墳群（第2・3区）	平成14年1月1日～平成14年2月28日
茨城県水戸土木事務所	ニガサワ古墳群（第1区）	平成14年2月1日～平成14年2月28日

## 整 理

茨城県住宅供給公社	二の沢A遺跡	二の沢B遺跡（古墳群）	ニガサワ古墳群（第2・3区）	平成14年4月1日～平成15年3月31日
茨城県水戸土木事務所	ニガサワ古墳群（第1区）			平成14年10月1日～平成14年11月30日

3 3遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久の指揮のもと、同課第2班長川津法伸、首席調査員江幡良夫、山口厚、主任調査員川村満博、黒澤秀雄、横倉要次、綿引英樹、副主任調査員浦和敏郎が担当した。

4 3遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長川井正一の指揮のもと、首席調査員江幡良夫、主任調査員黒澤秀雄が担当した。執筆は、第1・2章、第3章第1・2節、第3章第3節1・2・4・5、第3章第4節、第5章を江幡が、第3章第3節3、第4章を黒澤が担当した。

5 当遺跡から出土した須恵器の生産地及び時期については愛知県陶磁資料館の井上喜久男氏に、横穴式木室については静岡県浜松市立伊場遺跡資料館の鈴木敏則氏に、前方後方形周溝墓については栃木県小川町教育委員会の真保昌弘氏に、凝灰岩（勝見沢石）の分布範囲については常陸太田市在住の大森信義氏に御指導いただいた。

6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

# 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第2系座標を原点とし、X軸=+50,920m、Y軸=+50,120mの交点を基準点(C2a1)とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の覧には、世界測地系に基づく緯度・経度を( )を付して併記した。

3 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次の通りである。






遺構 住居跡-S I 土坑-S K 古墳・周溝墓-T M 溝-S D 井戸-S E

遺物 土製品-D P 石器・石製品-Q 金属製品・古銭-M 拓本土器-T P

その他-Y

土層 攪乱-K

4 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

竈・炉  粘土・柱痕  焼土  黒色処理  赤彩・繊維土器   
土器・拓本土器 ● 土製品 ○ 石器・石製品 □ 金属製品・古銭 △ 硬化面 -----

5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

6 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺跡の全体図は800分の1の縮尺、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に縮尺をスケールで表示した。

7 「主軸方向」は、炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし、その他の遺構については長軸(径)方向を主軸とみなした。主軸方向は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。なお、[ ]を付したものは推定である。

8 遺物観察表の作成方法については次のとおりである。

(1) 計測値の( )内の数値は現存値を、[ ]内の数値は推定値を表した。

(2) 土器の計測値は、口径-A 器高-B 底径-Cとし、単位はcm、重量についてはgで示した。

(3) 備考欄は、土器の残存率、写真図版番号(PL)及びその他必要と思われる事項を記した。

# 抄 録

ふりがな	にのさわえーいせき		にのさわびーいせき (こふんぐん)			にがさわこふんぐん		
書名	二の沢A遺跡		二の沢B遺跡 (古墳群)			ニガサワ古墳群		
副書名	十万原新住宅市街地開発事業・都市計画道路十万原東西線街路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第208集							
著者名	江幡 良夫 黒澤 秀雄							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2003 (平成15) 年3月21日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	経度	標高	調査期間	調査面積	調査原因
にのさわえーいせき 二の沢A遺跡	茨城県水戸市藤井町字十万原1117番地の645ほか	08201	36度	140度	40	20010401	26,305m <sup>2</sup>	十万原新住宅市街地開発事業に伴う事前調査
		—	27分	23分	~	~		
045	26秒	38秒	44	20011231				
			(36度 27分 37秒)	(140度 23分 26秒)	m			
にのさわびーいせき 二の沢B遺跡 (古墳群)	茨城県水戸市藤井町字十万原1117番地の1000ほか	08201	36度	140度	30	20010401	15,550m <sup>2</sup>	
		—	27分	23分	~	~		
110	29秒	44秒	32	20020228				
			(36度 27分 40秒)	(140度 23分 32秒)	m			
にがさわこふんぐん ニガサワ古墳群	茨城県水戸市藤井町字十万原1117番地の1065ほか	08201	36度	140度	40	20020101	12,009m <sup>2</sup>	十万原新住宅市街地開発事業・都市計画道路十万原東西線街路整備事業に伴う事前調査
		—	27分	23分	~	~		
112	23秒	48秒	43	20020228				
			(36度 27分 34秒)	(140度 23分 36秒)	m			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
二の沢A遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	1軒	縄文土器片		西田川右岸の十万原台地上に広がる縄文~古墳時代及び平安時代にかけての複合遺跡である。古墳時代前期の住居跡が主で、エリア全体で確認されている。遺物では特にS字状口縁の台付甕が出土している。	
		弥生時代	竪穴住居跡	2軒	弥生土器(広口壺, 台付甕, 紡錘車)			
		古墳時代	竪穴住居跡	75軒	土師器(壺, 台付甕, 器台, 高坏, 埴)			
		平安時代	竪穴住居跡	6軒	土師器(坏, 高台付坏, 甕)			
		不明	土坑	90基	弥生土器片, 土師器片			
			溝	1条				

二の沢B遺跡 (古墳群)	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 4軒 陥し穴 1基	縄文土器片	西田川右岸の低位段丘上に広がる遺跡である。弥生時代後期の住居跡を主とし、十王台式土器が出土している。また、管玉を副葬品とする同時期の墓壙が1基確認されている。周溝墓は前期のもので、前方後方形周溝墓3基が隣接して並ぶ。さらに、近接して円形周溝墓、方形周溝墓が確認されている。平安時代の住居跡から「幡田郷戸主君子部大倡麻呂」と刻書された石製紡錘車が出土している。
		弥生時代	竪穴住居跡 13軒 墓壙 1基 土坑 4基	弥生土器(広口壺) 土製品(紡錘車) 石製品(管玉)	
		古墳時代	竪穴住居跡 6軒 土坑 2基	土師器(甕, 台付甕, 壺, 器台, 埴, 高坏)	
		平安時代	竪穴住居跡 11軒	土師器(坏, 高台付坏, 甕, 甌), 須恵器(坏, 高台付坏, 短頸壺, 甌, 甕), 石製品(紡錘車, 砥石), 鉄製品(刀子, 鎌, 鋤先)	
		時期不明	溝 2条 土坑 132基 井戸 2基	弥生土器片, 土師器片, 須恵器片	
	墓跡	古墳時代	前方後方形周溝墓 3基 円形周溝墓 1基 方形周溝墓 1基	弥生土器片, 土師器片	
ニガサワ古墳群	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 10軒	弥生土器(広口壺) 土製品(紡錘車)	谷津を挟んで二の沢A遺跡の南方に位置し、古墳時代前期の集落跡を主に、古墳が5基確認されている。6～7世紀にかけての古墳群と考えられる。円墳1基、前方後円墳4基で主体部は、横穴式石室-1, 木棺直葬-3, 横穴式木室-1と判断される。古墳時代の住居跡からS字状口縁の台付甕が多数出土している。
		古墳時代	竪穴住居跡 29軒 土坑 1基	土師器(甕, 台付甕, 壺, 器台, 埴, 高坏) 須恵器(坏, 高台付坏, 甕, 甌), 鉄製品(刀子)	
		平安時代	竪穴住居跡 5軒 土坑 2基	土師器(坏, 高台付坏, 甕, 甌), 須恵器(坏, 高台付坏, 短頸壺, 甌, 甕, 多孔土器), 砥石, 鉄製品(刀子)	
		不明	掘立柱建物跡 3棟 土坑 52基	弥生土器片, 土師器片	
	古墳群		前方後円墳 4基 (横穴式木室1, 木棺直葬3) 円墳 1基 (横穴式石室)	須恵器(横瓶, 脚付長頸瓶), 鉄製品(直刀, 刀子, 鉄鏃, 轡, 弓飾鉾)	



# 目 次

〈上巻〉

序  
例 言  
凡 例  
抄 録

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 二の沢A遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 縄文時代の遺構と遺物	10
(1) 竪穴住居跡	10
2 弥生時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 土坑	14
3 古墳時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居跡	15
4 平安時代の遺構と遺物	173
(1) 竪穴住居跡	174
5 その他の遺構と遺物	189
(1) 土坑	189
(2) 溝	199
(3) 遺構外出土遺物	200
第4節 まとめ	207
第4章 二の沢B遺跡(古墳群)	211
第1節 遺跡の概要	211
第2節 基本層序	211
第3節 遺構と遺物	212
1 縄文時代の遺構と遺物	212
(1) 竪穴住居跡	212
(2) 土坑	217
2 弥生時代の遺構と遺物	217
(1) 竪穴住居跡	217
(2) 土坑	247
3 古墳時代の遺構と遺物	254
(1) 竪穴住居跡	254
(2) 周溝墓	264
(3) 土坑	293
4 平安時代の遺構と遺物	295
(1) 竪穴住居跡	295
5 中世の遺構と遺物	320
(1) 地下式墳	320
6 その他の遺構と遺物	322
(1) 土坑	322
(2) 溝	326
(3) 井戸	327
(4) 遺構外出土遺物	328
第4節 まとめ	334

〈下巻〉

第5章 ニガサワ古墳群	339
第1節 遺跡の概要	339
第2節 基本層序	339
第3節 遺構と遺物	340
1 第1区の遺構と遺物	340
(1) 弥生時代	340
① 竪穴住居跡	340
(2) 古墳時代	345
① 竪穴住居跡	345
(3) 平安時代	364
① 竪穴住居跡	364
② 土坑	365
(4) その他の遺構と遺物	366
① 掘立柱建物跡	366
② 土坑	368
2 第2区の遺構と遺物	372
(1) 弥生時代	372
① 竪穴住居跡	372
(2) 古墳時代	376
① 竪穴住居跡	376
② 土坑	390
(3) 平安時代	391
① 竪穴住居跡	391
② 土坑	399
(4) その他の遺構と遺物	401
① 掘立柱建物跡	401
② 土坑	402
3 第3区の遺構と遺物	405
(1) 弥生時代	405
① 竪穴住居跡	405
(2) 古墳時代	414
① 竪穴住居跡	414
② 古墳	461
(3) 平安時代	495
① 竪穴住居跡	495
② 土坑	497
(4) その他の遺構と遺物	497
① 掘立柱建物跡	497
② 土坑	499
4 遺構外出土遺物	507
第4節 まとめ	514

写真図版

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県住宅供給公社は、水戸市十万原地区において、21世紀の新しい街づくりのモデルとして、「次世代を担う複合機能都市の形成」を目標とし、十万原新住宅市街地開発事業を計画した。また、それに伴い茨城県水戸土木事務所は、都市計画道路十万原東西線街路整備事業を進めている。

平成8年10月11日、茨城県土木部都市局住宅課から茨城県教育委員会に、十万原地区住宅団地開発事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取り扱いについて照会があった。茨城県教育委員会は、平成9年5月15日から6月5日にかけて二の沢遺跡付近の、平成9年10月15日から10月30日にかけてニガサワ遺跡付近の現地踏査及び試掘調査を実施した。その結果、茨城県教育委員会から茨城県土木部都市局住宅課に、事業地内に二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群が所在する旨回答を行った。平成10年1月8日、茨城県土木部都市局住宅課、茨城県教育委員会、茨城県住宅供給公社の協議により、今後の事業者側取り扱い窓口を茨城県住宅供給公社とすることを確認した。茨城県住宅供給公社と茨城県教育委員会との協議の結果、遺跡の現状保存が困難であることから、平成13年3月19日、茨城県住宅供給公社に対し、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群を記録保存とする旨回答をし、調査機関は財団法人茨城県教育財団となることを示した。茨城県と茨城県教育財団は、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成13年4月1日から平成14年2月28日にかけて、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群の発掘調査を実施することとなった。平成14年1月21日、茨城県教育委員会は茨城県水戸土木事務所に、ニガサワ古墳群の調査の進捗に伴い、茨城県が開発を進めている都市計画道路用地にも遺跡の範囲が広がるため、遺跡の保存措置が必要である旨通知した。協議の結果、平成14年1月25日、茨城県教育委員会は茨城県水戸土木事務所に、発掘調査の範囲及び面積等について回答した。調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介し、追加調査することになった。

## 第2節 調査経過

当初、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群第1号墳の3遺跡の調査を、平成13年4月1日から平成13年12月31日までの9か月間の予定で開始した。二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）の表土除去終了後、9月に業務量と期間について協議した。その結果、平成14年1月1日から平成14年2月28日までの2か月間調査期間を延長することとし、ニガサワ古墳群第1号墳と併せて二の沢B遺跡（古墳群）の第6号墳を追加して調査することになった。しかし、12月上旬に既に工事を着工していたニガサワ古墳群第1号墳の北側周辺から住居跡44軒、古墳4基が新たに確認された。協議の結果、これらの遺構をニガサワ古墳群の一部と判断し、2か月間の延長期間の中に入れて緊急調査を実施することになった。以下、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群の調査の経過について表に示す。

年度 月	平成13年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
二の沢 A 遺跡	試掘	表土除去		遺構調査								
二の沢 B 遺跡 (古墳群)	試掘			表土除去		遺構調査						
ニガサワ古墳群 (2・3区)										表土除去		
										遺構調査		
ニガサワ古墳群 (1 区)											表土除去	
											遺構調査	

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群は、茨城県水戸市藤井町字十万原に所在している。水戸市は、茨城県のほぼ中央に位置している。

当遺跡の所在する水戸市藤井地区は、北部に突き出した位置で、東・西・北の三方が常北町に接している。常北町の地形は、西から東に丘陵性山地、台地、沖積低地に大別される。西部の丘陵性山地は、八溝山地の南の鶏足山塊の東縁部にあたり、標高200m程度の低山が連なる。鶏足山塊は、主に砂岩、頁岩の互層からなり、一部にチャートや石灰岩をはさんでいる。また、丘陵性山地周辺部には、凝灰岩（通称勝見沢石）、砂岩、泥岩等からなる地層が分布しており、台地の基盤岩となっている。常北町の台地は、那珂西台地あるいは石塚台地と呼ばれる洪積台地であり、市街地の大部分がここに形成されている。台地は、標高40～50m程度で低地との比高は約20mあり、急崖に囲まれている。那珂川の支流である藤井川、西田川等は、台地を開析し沖積低地を形成している。低地は主に水田に利用されている。

二の沢A遺跡他2遺跡は、那珂川の支流である藤井川と西田川に挟まれた那珂西台地の一部である十万原台地の最東端に位置し、二の沢A遺跡、ニガサワ古墳群は西田川右岸の標高40～45m前後の河岸段丘上、二の沢B遺跡は標高30～32m前後の中位段丘に所在している。西側の台地は畑地で、東側の低地は水田として利用されている。調査前の現況は、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）が畑地、ニガサワ古墳群は畑地及び一部山林である。

### 第2節 歴史的環境

二の沢A遺跡、二の沢B遺跡、ニガサワ古墳群付近は、那珂川とその支流によって開析された台地が展開している。そのため、古くから人々の絶好の生活の場であり、多くの遺跡が所在している。ここでは、西田川や藤井川流域に沿って当遺跡に関連する主な遺跡について時代ごとに述べることにする。

#### 1 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、水戸市十万原台地上のドウゼンクボ遺跡<11>、及び十万原遺跡<12>が知られている。平成11年度に調査された十万原遺跡<sup>1)</sup>からは、スクレイパーや石核が出土している。また、平成5年に調査された上入野遺跡<sup>2)</sup><14>からは、出土遺物はないが旧石器時代の土坑が3基確認されている。

#### 2 縄文時代

縄文時代の遺跡は、水戸市十万原台地上で今回調査した二の沢A遺跡<1>、二の沢B遺跡（古墳群）<2>をはじめ、ドウゼンクボ遺跡、ニガサワ遺跡<sup>3)</sup><4>、十万原遺跡<sup>4)</sup>、那珂川右岸の藤井町遺跡<18>、清水台遺跡<20>、南駒形遺跡<21>、塙東遺跡<sup>5)</sup><25>、鳴沢大塚遺跡<27>、下宿遺跡<32>、馬場尻遺跡<sup>6)</sup><35>等が知られている。藤井地区周辺の遺跡としては、常北町の中妻遺跡<8>、那珂西遺跡<17>、外ノ内・天神遺跡<7>等が挙げられる。ニガサワ遺跡からは、沈線文系土器の三戸式土器や石鏃・石皿といった石器が出土している。また十万原遺跡では早期4軒、中期3軒の計7軒の住居跡が確認されている。

### 3 弥生時代

弥生時代の遺跡も十万原台地上には比較的多く見られ、今回調査した二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群<3>をはじめ、ポンポン遺跡<10>、ドウゼンクボ遺跡、十万原遺跡、那珂川右岸の馬場尻遺跡などがあげられる。藤井地区周辺の遺跡としては、常北町の片山遺跡<sup>かたやま</sup>、風隼前遺跡<sup>かざはやまえ</sup><sup>7)</sup>、上入野遺跡などがあげられる。上入野遺跡、十万原遺跡では、後期後半（十王台式期）の竪穴住居跡確認されている。また、ドウゼンクボ遺跡では中期の土器が採集されている。そのことから、弥生時代後期頃は、十万原台地周辺や藤井地区において集落があったことが考えられる。

### 4 古墳時代

古墳時代前期・中期の遺跡では、二の沢A遺跡、二の沢B遺跡（古墳群）、ニガサワ古墳群をはじめ、ニガサワ遺跡では30軒、十万原遺跡では44軒の住居跡が確認されている。このことから、この時期の集落跡が今後増えていく傾向にあると思われる。

古墳時代後期になると、遺跡数も増加する。平成5年度に調査した青木遺跡<sup>あおき</sup><sup>8)</sup><15>ではこの時期の住居跡が12軒、同じく後側遺跡<sup>うしろかわ</sup><sup>9)</sup><5>からは住居跡が2軒確認されている。平成8年度に調査した仲郷遺跡<sup>なかごう</sup><sup>10)</sup><13>では、この時期の住居跡が2軒確認されている。那珂西地内の外ノ内・天神遺跡からは、後期の土器が多数出土している。石塚地内の風隼前遺跡からは、多量の後期の土器とともに石製模造品、滑石製勾玉や白玉等が出土している。

古墳では十万原台地のニガサワ古墳群、二の沢B遺跡（古墳群）、清水台古墳群<sup>しみずだい</sup><19>、十万原古墳群<29>、山ノ上古墳<40>等が知られている。藤井地区周辺では、飯富地区<sup>おんたてやま</sup>の御立山古墳群、大井古墳群<34>、常北町の増井古墳<23>、上青山古墳群、長峰古墳群、石塚古墳群、安戸星古墳群<sup>あどほし</sup><sup>11)</sup><36>等が知られている。安戸星古墳群では前期の前方後方墳が確認されており、二の沢B遺跡（古墳群）との関連が注目される。

### 5 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡としては、水戸市の台渡廃寺跡<sup>だいわたり</sup>がある。この寺は、「徳輪寺」、「仲寺」と呼ばれた那賀郡の「郡の寺」であり、これまでの調査で塔跡、門跡、工房跡、柵列等が確認されており、さらに寺の北側には、那賀郡の郡衙の存在も想定されている。また、南西約6kmの前沢川上流には木葉下窯跡<sup>あはつけ</sup><sup>12)</sup>（水戸市）があり、現在までに1.5km四方に金山支群、三ヶ野支群、高取山支群の3支群が確認されている。これらの窯跡は、8世紀初頭から9世紀後半まで操業していたと考えられている。当窯跡からは台渡廃寺に供給していたとみられる瓦も出土しており、台渡廃寺や那賀郡衙とかかわりのある官窯としての性格を有していたものと考えられている。さらに、南東3kmの那珂川右岸の台地上には、火葬骨を納めた蔵骨器が密集して発見された飯富火葬墓跡<30>がある。常北町内では、中妻遺跡<sup>なかつま</sup>、北米遺跡<9>、那珂西遺跡、増井本郷遺跡、上入野遺跡、青木遺跡、後側遺跡、前側遺跡<sup>まえかわ</sup><sup>13)</sup><6>、仲郷遺跡等が確認されている。仲郷遺跡の第35号土坑からは、甲冑の小札152点が出土している。

### 6 中世・近世

平安時代から中世にかけては、この地域は常陸大掾氏、那珂氏、佐竹氏の勢力下にあり、各種の抗争の舞台となった。そのため、各氏の一族や臣下の城館が各所に造られた。常北町内にある石塚城跡や県指定の那珂西城跡<sup>なかせい</sup><sup>14)</sup><16>は今でも堀や土塁の跡を留めている。周辺には、神生館跡<sup>じんせいかん</sup><26>をはじめ多くの城館が存在したと思われる。また、藤井川右岸の上入野台地最西部には小松寺<sup>こまつ</sup><sup>15)</sup>があり、境内には平重盛のものと思われる墓がある。

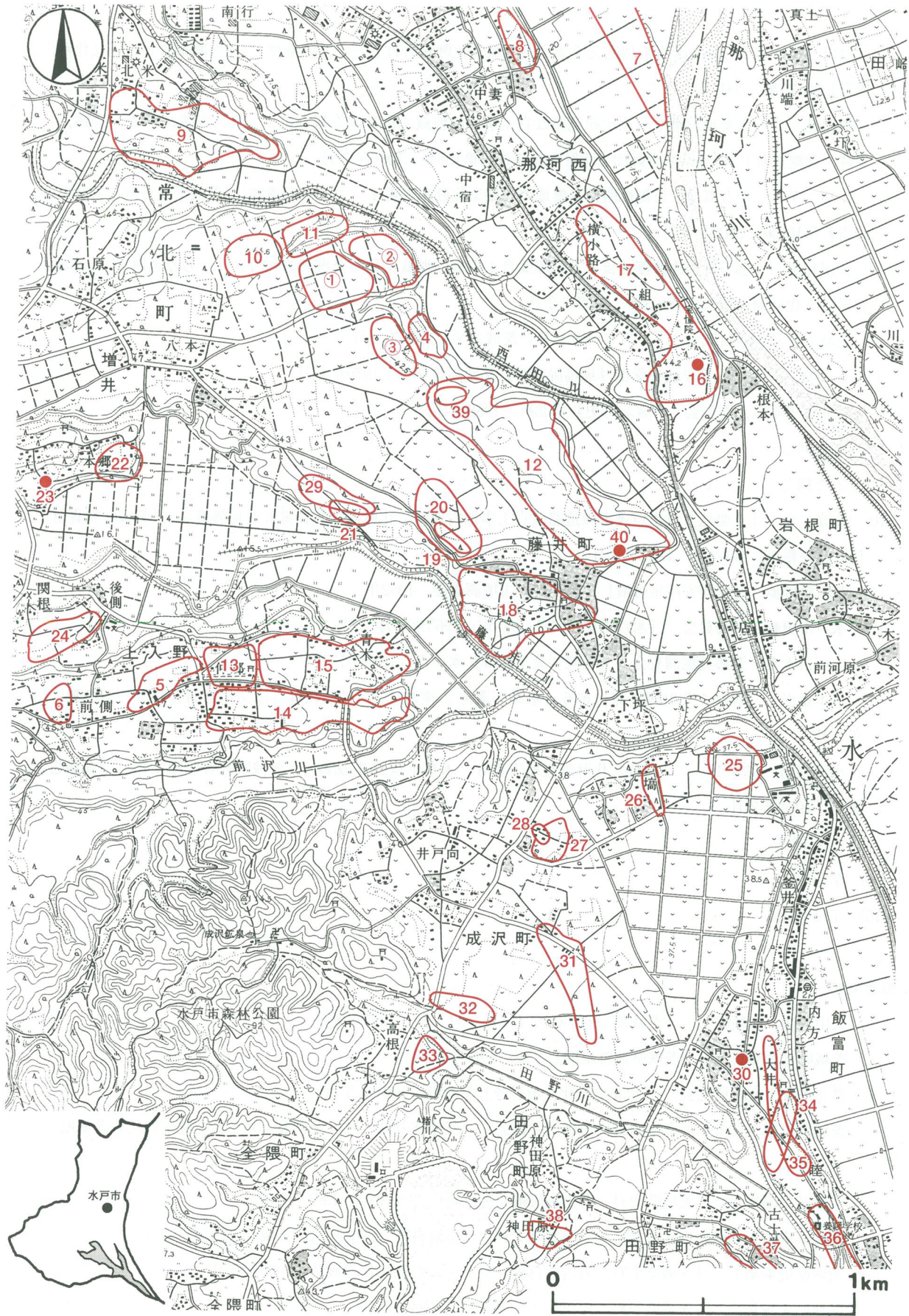
近世になると、この地域は水戸藩領となり、佐竹氏、大掾氏、江戸氏の一族や家臣で帰農した者や、戦国以降に移住した武士や農民も加わり近世の村を形成した。

註

- 1) 皆川 修 「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財報告書Ⅱ 十万原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集 2001年3月
- 2) 池田晃一 「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 上入野遺跡, 青木遺跡, 後側遺跡, 前側遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第108集 1996年3月
- 3) 小林 孝 「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財報告書Ⅰ ニガサワ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第169集 2000年3月
- 4) 宮田和男 「都市計画道路藤井橋十万原線改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 十万原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第193集 2002年3月
- 5) 茨城大学考古学研究会 『さらしい第Ⅴ号』茨城大学 1982年2月
- 6) 5)と同じ。茨城高等学校史学部『馬場尻遺跡』茨城高等学校 1979年8月
- 7) 常北町史編さん委員会 『常北町史』常北町 1988年3月
- 8) 2)と同じ。
- 9) 2)と同じ。
- 10) 仙波 亨 「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 仲郷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第124集 1997年6月
- 11) 茂木雅博他 『常陸安戸星古墳』常陸安戸星古墳調査団 1982年
- 12) 水戸市史編さん委員会 『水戸市史 上巻』水戸市 1963年9月  
水戸市木葉下遺跡発掘調査会 『常陸木葉下窯跡』水戸市 1985年12月  
根本康弘 「埋蔵文化財調査報告書6 木葉下遺跡Ⅰ(窯跡)」『茨城県教育財団文化財調査報告』第21集 1983年3月  
小河邦男・川井正一 「埋蔵文化財調査報告書8 木葉下遺跡Ⅱ(窯跡)」『茨城県教育財団文化財調査報告』第26集 1984年3月
- 13) 2)と同じ。
- 14) 7)と同じ。
- 15) 7)と同じ。

参考文献

- ・ 大山年次, 蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』コロナ社 1977年8月
- ・ 茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』2版 1990年3月
- ・ 常北町郷土文化研究会 『常北の文化 第17号』常北町 1994年3月
- ・ 茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会 『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 1979年3月
- ・ 茨城県史編集会 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』茨城県 1991年3月
- ・ 茨城県史編さん原始古代史部会 『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』茨城県 1974年2月
- ・ 茨城県史編集会 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』茨城県 1995年3月
- ・ 茨城県史編集会 『茨城県史料 中世編1』茨城県 1986年3月



第1図 周辺遺跡分布図 (国土地理院2万5千分の1「石塚」)



表1 二の沢A遺跡・二の沢B遺跡（古墳群）・ニガサワ古墳群周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	二の沢A遺跡	○	○	○	○	○	○	21	南駒形遺跡		○		○	○			
②	二の沢B遺跡（古墳群）				○	○	○	22	増井本郷遺跡		○		○	○			
③	ニガサワ古墳群	○		○	○	○		23	増井古墳				○				
4	ニガサワ遺跡				○	○	○	24	関根遺跡		○		○				
5	後側遺跡		○		○	○		25	埜東遺跡		○		○	○			
6	前側遺跡					○		26	神生館跡						○	○	
7	外ノ内・天神遺跡		○		○			27	鳴沢大塚遺跡		○		○				
8	中妻遺跡		○					28	鳴沢大塚古墳群				○				
9	北米遺跡					○		29	十万原古墳群				○				
10	ポンポン遺跡			○				30	飯富火葬墓跡					○			
11	ドウゼンクボ遺跡	○	○	○	○	○		31	塚山古墳群				○				
12	十万原遺跡	○	○	○	○	○		32	下宿遺跡		○						
13	仲郷遺跡				○	○		33	高根遺跡				○	○			
14	上入野遺跡		○	○	○	○		34	大井古墳群				○				
15	青木遺跡				○	○	○	35	馬場尻遺跡	○	○	○	○				
16	那珂西城跡					○	○	36	安戸星古墳群			○	○				
17	那珂西遺跡		○			○		37	古志巻遺跡		○						
18	藤井町遺跡		○	○				38	前山田遺跡		○		○				
19	清水台古墳群		○		○			39	駒形端古墳群				○				
20	清水台遺跡		○		○	○		40	山ノ上古墳				○				



第2図 大グリット設定図

## 第3章 二の沢A遺跡

### 第1節 遺跡の概要

二の沢A遺跡は、水戸市藤井町字十万原1117番地645ほかに所在し、常北町と接する水戸市の北部にあたり、藤井川と西田川に挟まれた舌状台地の東端、西田川右岸の標高40～44m前後の河岸段丘上に位置している。調査面積は26,305㎡で現況は畑地である。当地ではゴボウ、山芋の栽培が昭和30年代からおよそ30年間にわたり盛んに行われていた。そのため耕作機械であるトレンチャーにより深さ1.2m～1.6m程度、幅10～15cmの溝が縦横無尽に掘られている。トレンチャーによる遺構の攪乱は激しく残存率は10～50%で、多量の土器片がトレンチャー溝内に取り込まれている。さらに、耕作土中や地表面に多量の土器細片が散在してしまっているため、遺構に伴うと判断できる資料は少ない。

当遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。今回の調査により、縄文時代の遺構は前期の住居跡1軒を確認した。弥生時代の遺構は、後期後半の時期の住居跡2軒、土坑1基を確認した。縄文時代と弥生時代の遺構は、やや緩斜する台地の東端部に位置している。古墳時代の遺構が最も多く、住居跡を75軒確認した。時期は前期から中期にかけてで、後期期ものは確認されていない。平安時代の遺構は、住居跡を6軒確認した。時期が特定できないその他の遺構は、溝1条、土坑90基である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に67箱出土した。縄文土器（深鉢）、弥生土器（広口壺）、土師器（坏、高坏、器台、埴、壺、甕、台付甕、甑、手捏土器）、須恵器（坏、甕、甑）、土製品（紡錘車、支脚）、石製品（有孔円板、勾玉）、石器（石鏃、磨石、敲石、砥石）等がある。土師器では、S字状口縁台付甕の破片が多くみられる。

### 第2節 基本層序の検討

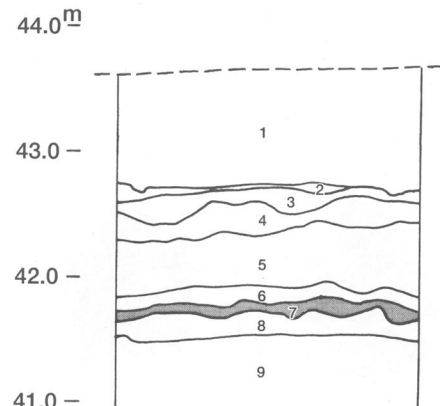
調査区域の西端部（F1i9区）にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況を観察した（第3図）。前述したとおり耕作のための攪乱が激しく、その深さは現地地表から1.2～1.6mにまで及んでいる。従って場所により上層部の残存する土層状況はかなり異なっている。土層断面図中には記録されていないが、地境場所に現存している上層部及び一部の確認面上で今市・七本桜軽石層が確認できた。第7・8層は赤城・鹿沼軽石層に相当する。以下、テストピットの観察から層序を説明する。

第1層 ロームブロック中量と赤褐色粒子を少量含む50～90cmの黒色の耕作土である。

第2層 20～34cmの褐色のハードローム層で、第1黒色帯を含む層と思われる。

第3層 第2層よりわずかに明るい8～22cmの褐色のハードローム層である。

第4層 白色粒子を少量含む8～28cmの黄褐色のハードローム層で、始良T n火山灰含む層と思われる。



第3図 基本土層図

- 第5層 36～60cmの黄褐色のハードローム層で、第2黒色帯を含む層と思われる。
- 第6層 黄褐色粒子を少量含む4～15cmの黄褐色のハードローム層である。
- 第7層 鹿沼軽石粒子を中量含む6～16cmの明黄褐色の層で、赤城・鹿沼軽石層の漸移層である。
- 第8層 鹿沼軽石粒子を多量含む10～22cmの明黄褐色の層で、赤城・鹿沼軽石層である。
- 第9層 黄褐色粒子を多量含む34～50cmの黄褐色のソフトローム層である。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡を1軒確認した。調査区域内の南東端部に位置し、わずかに傾斜が認められる地点である。遺構は、耕作により攪乱されているため、形状等は不明確な点が多い。以下、確認した遺構と遺物の特徴について記載する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第3号住居跡（第5図）

**位置** 調査区の南東端部、F7c5区に位置している。

**規模と形状** 規模と形状は削平により明確ではないが、柱穴の配列から長径5.8m、短径5.25mの楕円形と推定される。推定長径方向はN-67°-Wである。耕作による攪乱のため壁は残存していない。

**床** 床面は削平され残存していない。

**炉** 確認されていない。

**ピット** 7か所。P1～6は円形、P7は楕円形で、深さは17～42cmである。配置から柱穴と考えられる。

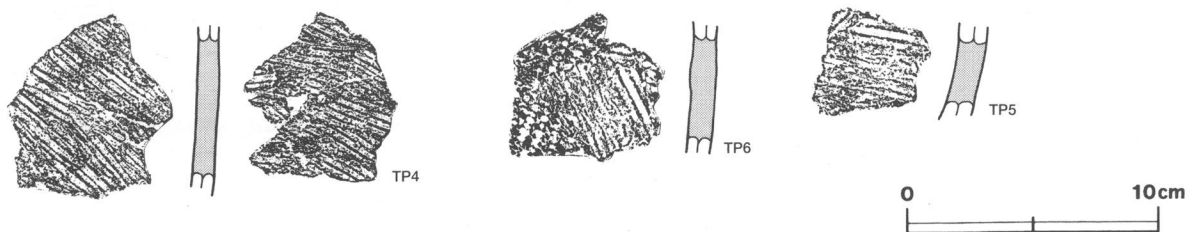
##### P土層解説

- |       |           |        |           |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色  | ローム粒子中量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |        |           |

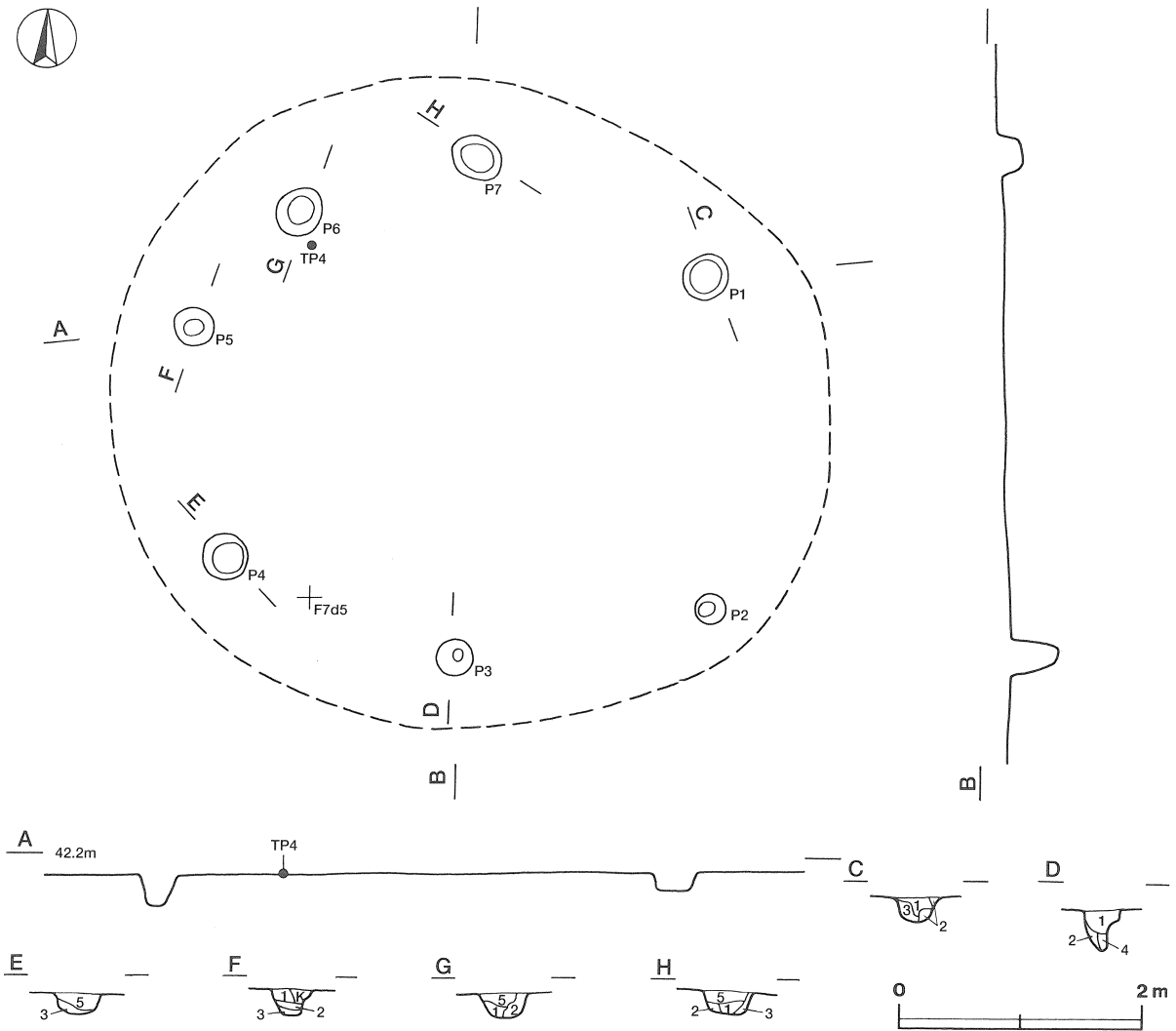
**覆土** 残存していない。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 削平されているためピットのみが残存し、床面や壁、炉等は確認されていない。判断の根拠にできる資料はわずかであるが、柱穴の規模や配列から住居跡と判断した。遺物は遺構内からは出土していないが、その周囲やトレンチャー溝内からTP1～3の縄文土器片が出土している。出土状況から推定し、攪乱以前は遺構に伴っていた遺物の可能性が高い。以上のことから、縄文時代草期末葉（茅山上層式期～）の遺構と思われる。



第4図 第3号住居跡出土遺物実測図



第5図 第3号住居跡実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第4図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP4	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石	暗赤褐	普通	胴部片 内外面に細沈線施文 織維土器	床面	PL29
TP5	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石, 石英	橙	普通	胴部片 外面に細沈線施文 織維土器	床面	PL29
TP6	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石	橙	普通	胴部片 0段多条の単節縄文施文 織維土器	床面	PL29

## 2 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は竪穴住居跡2軒，土坑1基を確認した。遺構は，調査区東端部で緩やかに傾斜する台地縁辺部に位置している。さらに調査区外である南東方向に集落が広がる可能性がうかがえる。調査区内の耕作土中や地表面に弥生土器片が散在している。これは，住居跡が比較的浅い位置で存在し，耕作により攪乱された結果と推測される。散在していた弥生土器片の大多数には十王台式土器の文様が認められ，他にはわずかに附加条一種（附加2条）の文様を有する土器片が混在している。確認した住居跡はいずれも削平・攪乱を受け，規模や形状等不明な点が多い。以下，確認された遺構の特徴と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第6図)

**位置** 調査区の南東端部, F7e6区に位置している。

**規模と形状** 耕作による削平のため壁, 床面は残存していない。住居跡の掘り方と思われる部分から判断し, 長軸3.62m, 短軸3.30mのほぼ方形と推測した。推定主軸方向はN-27°-Eと思われる。

**床** 削平され硬化面は確認できない。

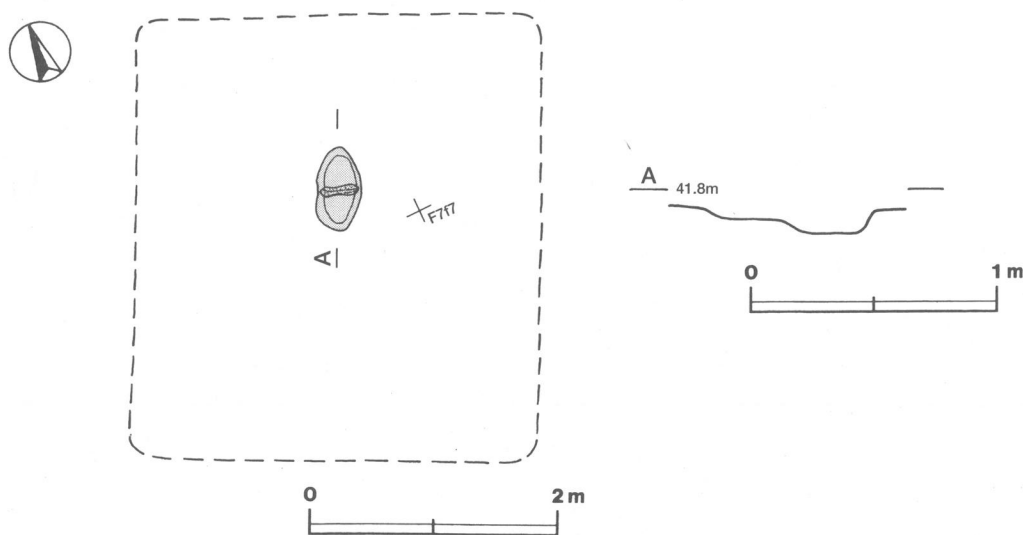
**炉** 上部は削平されている。確認できたのは, 長径56cm, 短径35cmの長楕円形で, 深さ5cmの皿状に掘りくぼめた地床炉である。中央部には長径方向に直行する状態で炉石が設置されている。炉床は, 炉石から南西側が攪乱されているが, 残存部は被熱し赤変している。しかし, 硬化は弱く長期間の使用は考えにくい。

**ピット** 精査したが確認できなかった。

**覆土** 削平のため確認できなかった。

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 第2号住居跡と主軸方向や規模等が近似しており, ほぼ同一時期と判断した。また, 遺構に伴う遺物は出土していないが, 攪乱により本跡の周囲から出土している弥生土器片(十王台式)3点を考慮すると, 時期は弥生時代後期と考えられる。



第6図 第1号住居跡実測図

第2号住居跡 (第7図)

**位置** 調査区の南東端部, F7e5区に位置している。

**規模と形状** 長軸4.00m, 短軸3.98mのほぼ方形と推測される。推定主軸方向はN-25°-Eである。壁は耕作による攪乱のため確認できない。

**床** 南東部にわずかに残存しているのが確認された。残存部は硬化している。

**炉** ほぼ中央に位置していたと推測される。上部は削平されており, 現存で深さ5cmの皿状に掘り窪めた地床炉である。長径62cm, 短径21cmの長楕円形で, 炉床は中央部が被熱し硬化している。土層は焼土ブロックや焼土粒子が少量認められ, 第2層がやや硬化している。炉石は出土していないが, 炉床面のくぼみの痕跡から耕作により失われた可能性が高い。

炉土層解説

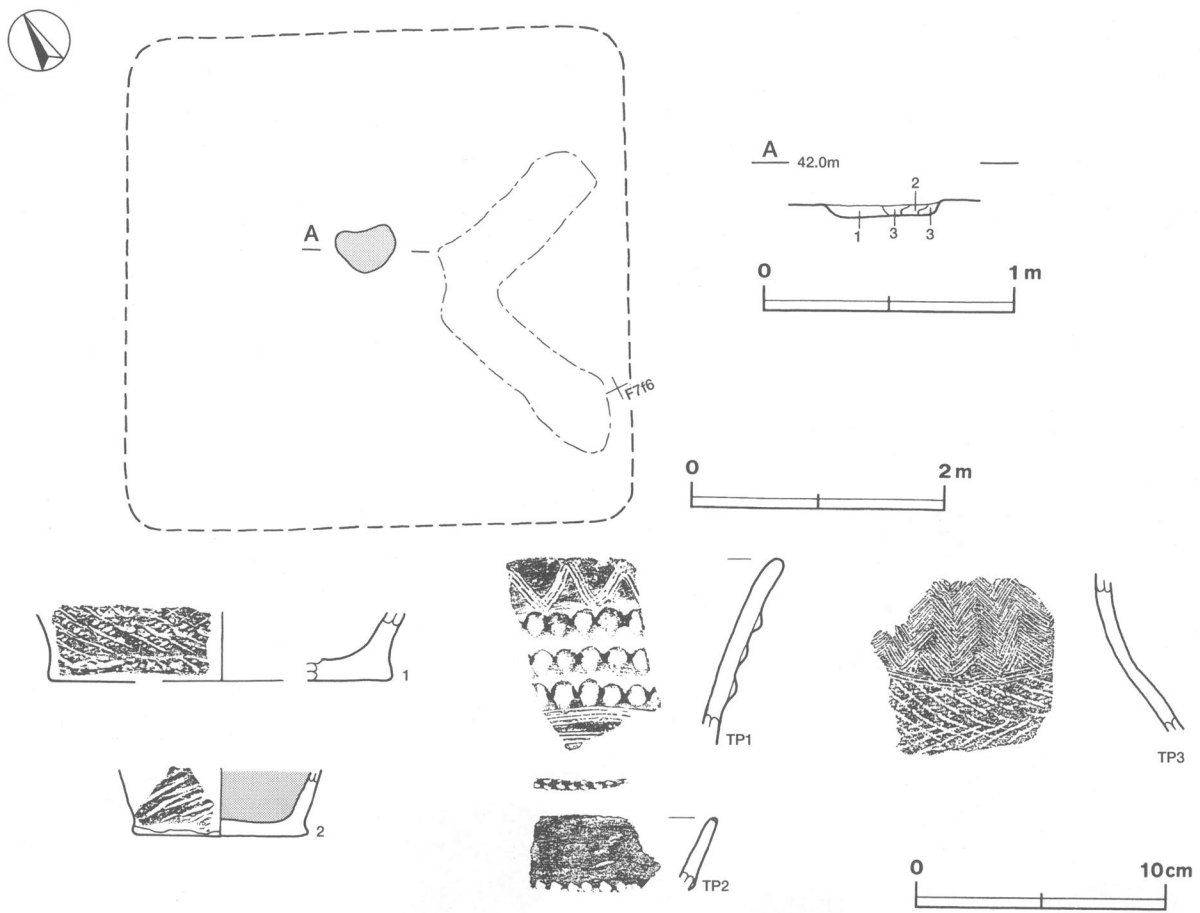
- |         |                           |       |                         |
|---------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色  | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量   |       |                         |

ピット 精査したが確認できなかった。

覆土 耕作による削平のため残存していない。

遺物出土状況 弥生土器片13点, 土師器片2点が出土している。1・2は, 弥生土器壺の体部から底部にかけての小破片である。P1は南東コーナー近く, P2は東壁際のそれぞれ床面から出土している。

所見 遺構の残存部がわずかのため規模や形状は推測による所が多い。時期は, 遺物から弥生時代後期と思われる。



第7図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	-	(2.7)	[13.6]	長石, 石英	にぶい黄橙	普通	胴部片 胴部外面下端に附加条二種(附加1条)の縄文施文	床面	5%
2	弥生土器	広口壺	-	(2.7)	7.1	長石, 石英	浅黄橙	普通	胴部外面下端に附加条二種(附加1条)の縄文施文 内面赤彩	床面	10%
TP1	弥生土器	広口壺	-	(7.6)	-	長石, 石英	黄橙	普通	口縁部片 口縁部上位櫛歯状工具(3本)による山形文, 下位は3段の隆帯が貼られ, 棒状工具により押圧	床面	PL29
TP2	弥生土器	広口壺	-	(3.0)	-	長石, 石英	浅黄橙	普通	口縁部片 口縁部と口縁部下端は縄文原体により押圧	床面	
TP3	弥生土器	広口壺	-	(6.4)	-	長石, 石英	灰白	普通	胴部から頸部にかけての破片 頸部は櫛歯状工具(4本)による山形文 胴部は附加条二種(附加1条)の縄文 羽状構成	床面	PL29

(2) 土坑

当時期の土坑は、調査区域東端の境界付近で1基のみ確認されているが、耕作による攪乱を大きく受けている。以下、遺構の特徴と遺物について記載する。

第93号土坑 (第8図)

**位置** 調査区の東端部, E7c3区に位置している。

**規模と形状** 長径3.18m, 短径2.48mの不整楕円形で、深さ33cmである。壁面は外傾して立ち上がり、底面は平坦で踏み固められ硬化している。東壁中央付近に幅0.85cm, 奥行き0.45cmの方形状の突出部があるが、性格は不明である。

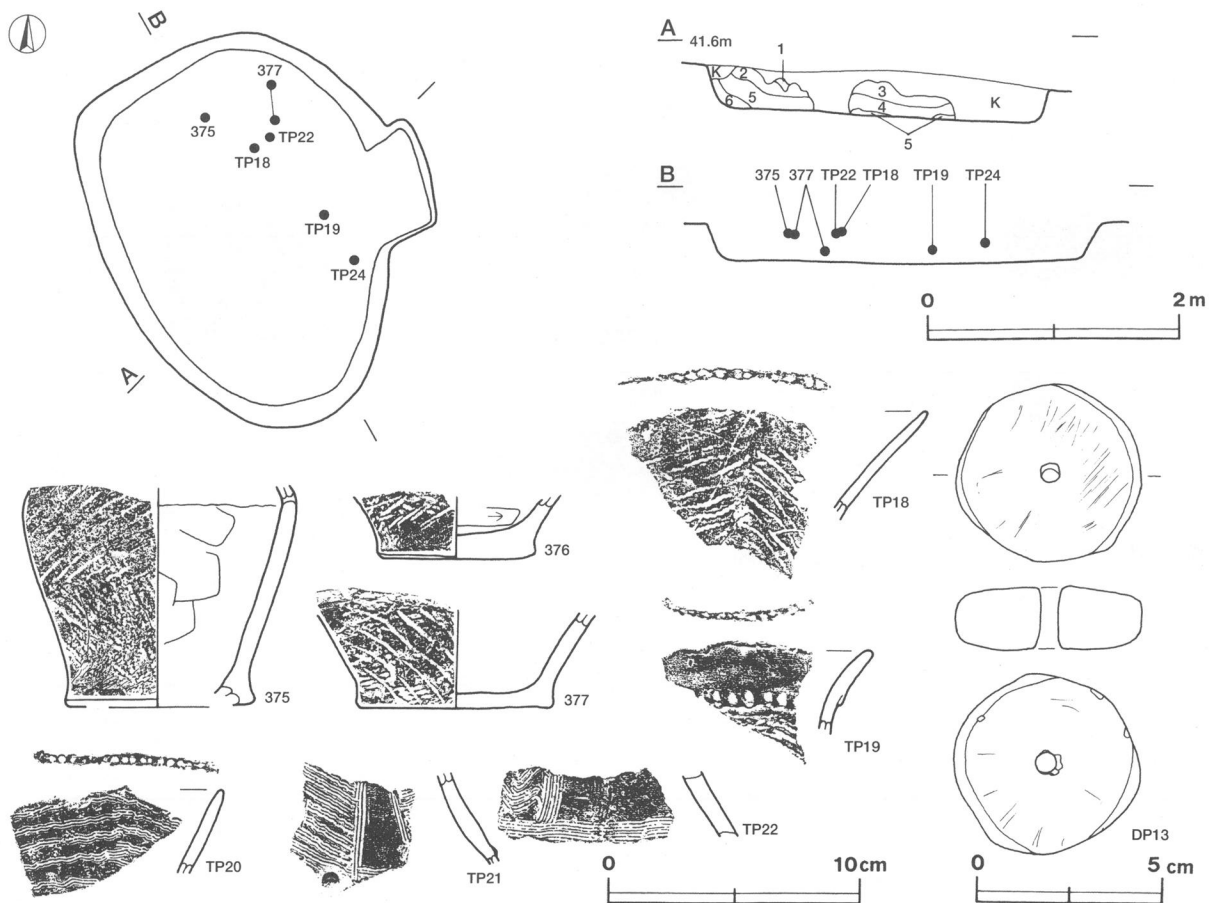
**覆土** 6層からなる。層の大半が、ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。覆土の大半が耕作により攪乱されている。

土層解説

- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量        | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量      | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量         |

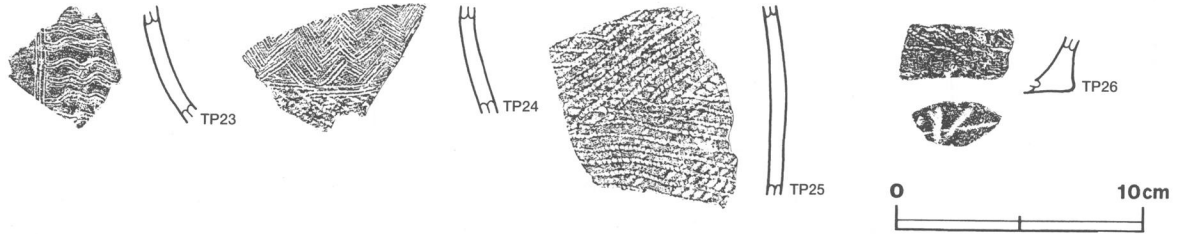
**遺物** 弥生土器片260点が出土している。その他、耕作・攪乱による混入と思われる土師器片44点, 須恵器片3点が出土している。375・377の壺は、どちらも北壁寄りの底面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第8図 第93号土坑・出土遺物実測図





第9図 第93号土坑出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表（第8・9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
375	弥生土器	壺	—	(8.8)	[7.6]	長石、赤色粒子	淡黄	普通	附加条縄文による羽状構成（摩滅） 底部に焼成後の穿孔有り底部に木葉痕	底面	30%
376	弥生土器	壺	—	(2.52)	[6.3]	長石、石英	にぶい黄橙	普通	附加条二種（附加1条）の縄文施文 底部外面ヘラナデ	覆土下層	5%
377	弥生土器	壺	—	(3.8)	7.8	長石・石英・金雲母	橙	普通	附加条二種（附加1条）の縄文施文	底面	5%
TP18	弥生土器	広口壺	—	(4.4)	—	長石・石英・スコリア	にぶい黄橙	普通	口唇部に縄文原体による押圧 口縁部外面に附加条二種（附加1条）の縄文施文	中央部 覆土中層	PL29
TP19	弥生土器	広口壺	—	(3.4)	—	長石・スコリア	黄橙	普通	口唇部・口縁部下端に縄文原体による押圧 頸部外面に附加条一種（附加2条）の縄文施文	東壁付近 覆土下層	PL29
TP20	弥生土器	広口壺	—	(3.4)	—	長石・金雲母・スコリア・針状鉱物	浅黄橙	普通	口唇部に縄文原体による押圧 口縁部外面に櫛歯状工具（3本櫛歯）による横走波状文 片口	覆土中	PL29
TP21	弥生土器	壺	—	(3.8)	—	スコリア・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具（3本櫛歯）による縦区画後、区画内に横走波状文充填 円形の瘤貼り付け	覆土中	PL29
TP22	弥生土器	壺	—	(2.6)	—	長石・石英・スコリア・針状鉱物	黄橙	普通	櫛歯状工具（6本櫛歯）による縦区画後、区画内に横走波状文充填	中央部 覆土中層	PL29
TP23	弥生土器	壺	—	(4.6)	—	長石・スコリア	黄橙	普通	櫛歯状工具（3本櫛歯）による縦区画後、区画内に横走波状文充填	覆土中	
TP24	弥生土器	壺	—	(4.5)	—	長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具（3本櫛歯）による鋸歯状文施文	東壁付近 覆土中層	PL29
TP25	弥生土器	壺	—	(7.8)	—	長石・石英・スコリア	黄橙	普通	附加条二種（附加1条）の縄文施文 羽状構成	中央部床面	PL29
TP26	弥生土器	壺	—	(2.2)	—	長石・スコリア	浅黄橙	普通	附加条二種（附加1条）の縄文施文 底部に木葉痕	覆土中	

番号	器種	長さ(径)	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	紡錘車	4.9	0.5	1.7	44.8	土	断面長方形 無文	覆土中層	100% PL30

### 3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された古墳時代の遺構は、竪穴住居跡74軒である。これらの遺構は調査区域全体に位置し、時期は前期が70軒で、ほかに明確ではないが古墳時代と考えられるものが4軒ある。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について、記述していく。

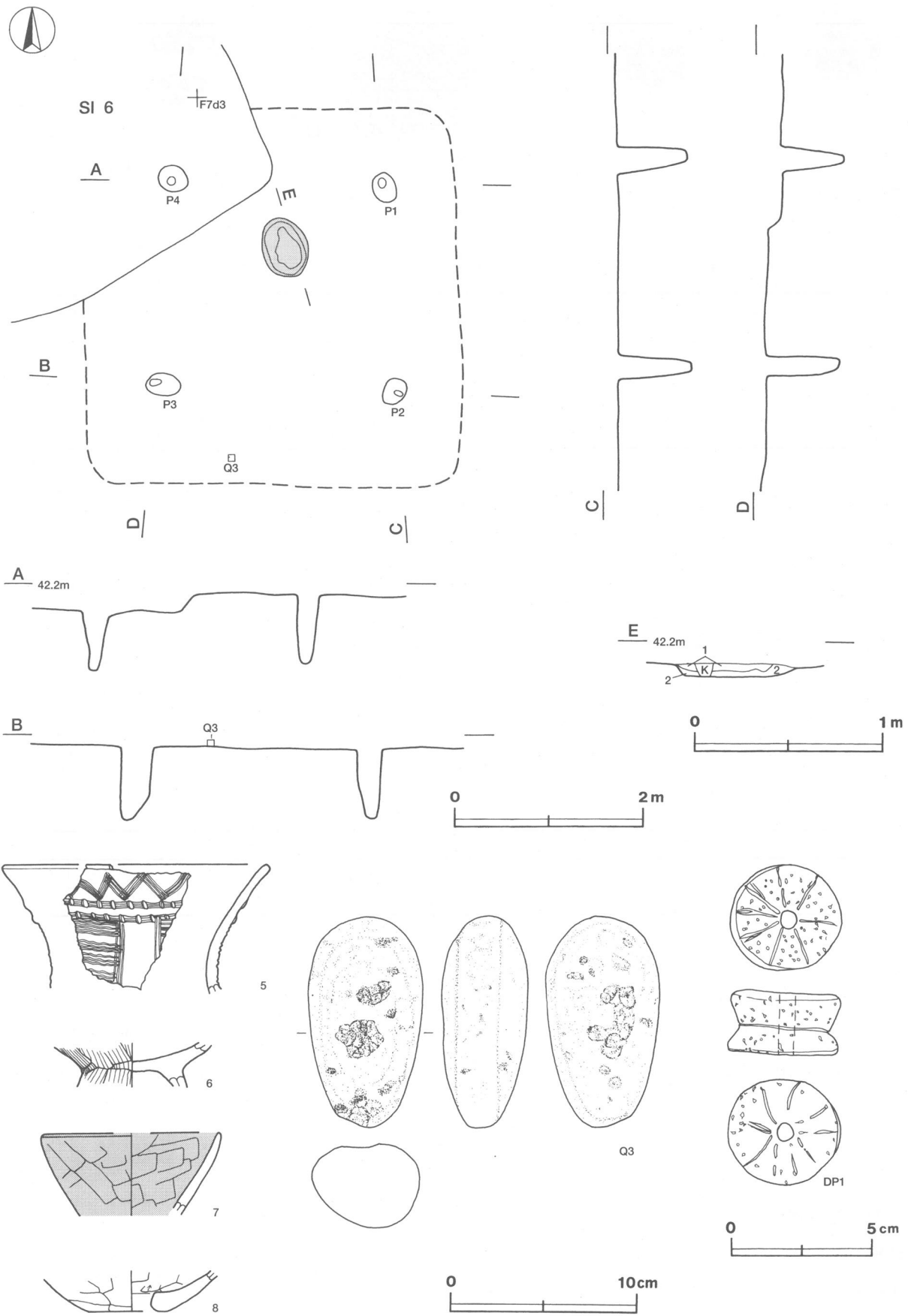
#### (1) 竪穴住居跡

##### 第5号住居跡（第10図）

**位置** 調査区の東部，F7d3区。標高42.1mの平坦部に位置している。

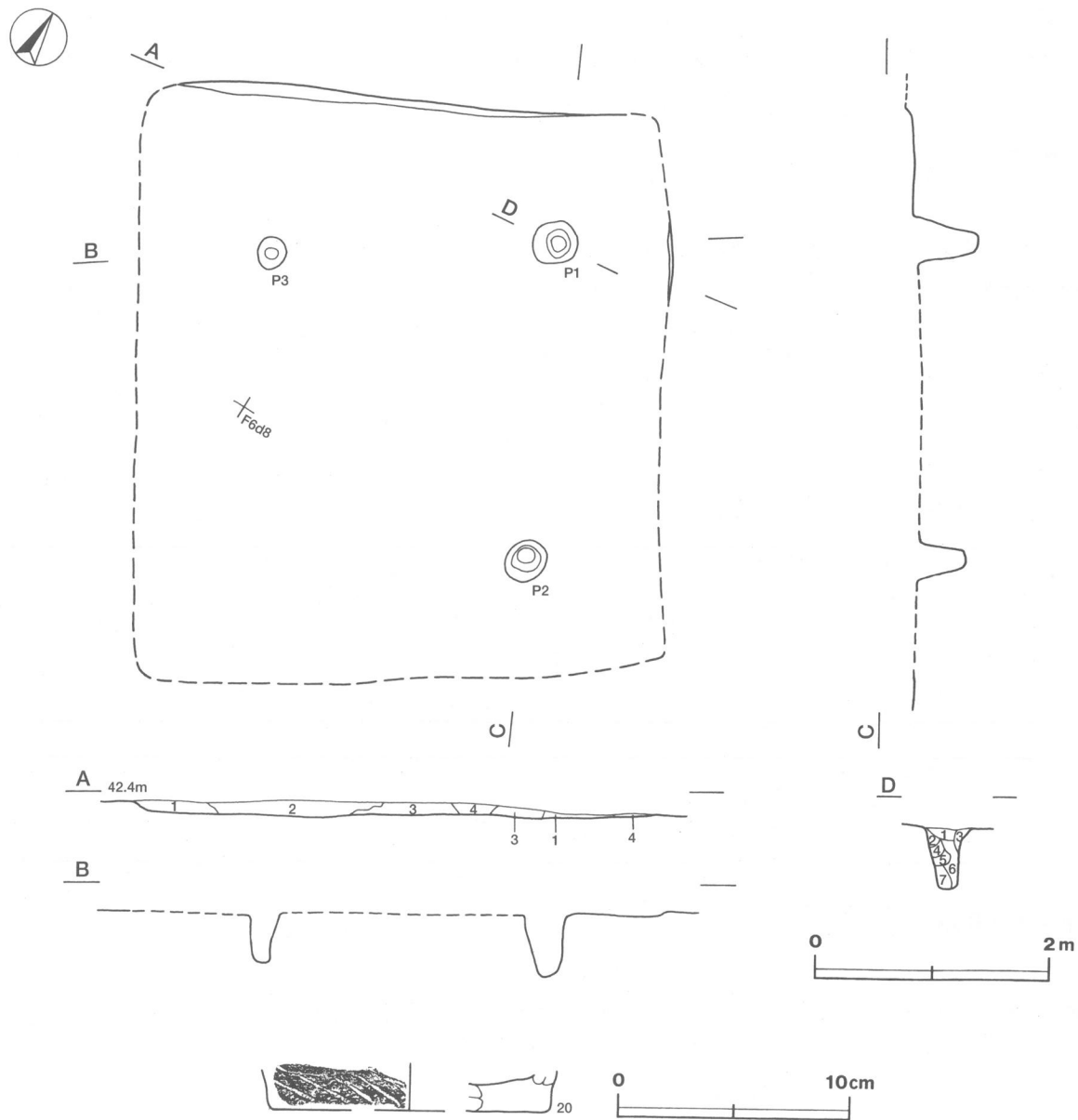
**重複関係** 北西コーナー部を第6号住居跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 壁は削平されているが，長軸4.05m，短軸3.99mの方形と推定される。主軸方向はN-16°-Wと推定される。



第10图 第5号住居跡・出土遺物実測図





第11図 第9号住居跡・出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	弥生土器	広口壺	-	(1.8)	[11.9]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種（附加1条）の縄文	覆土中	5%

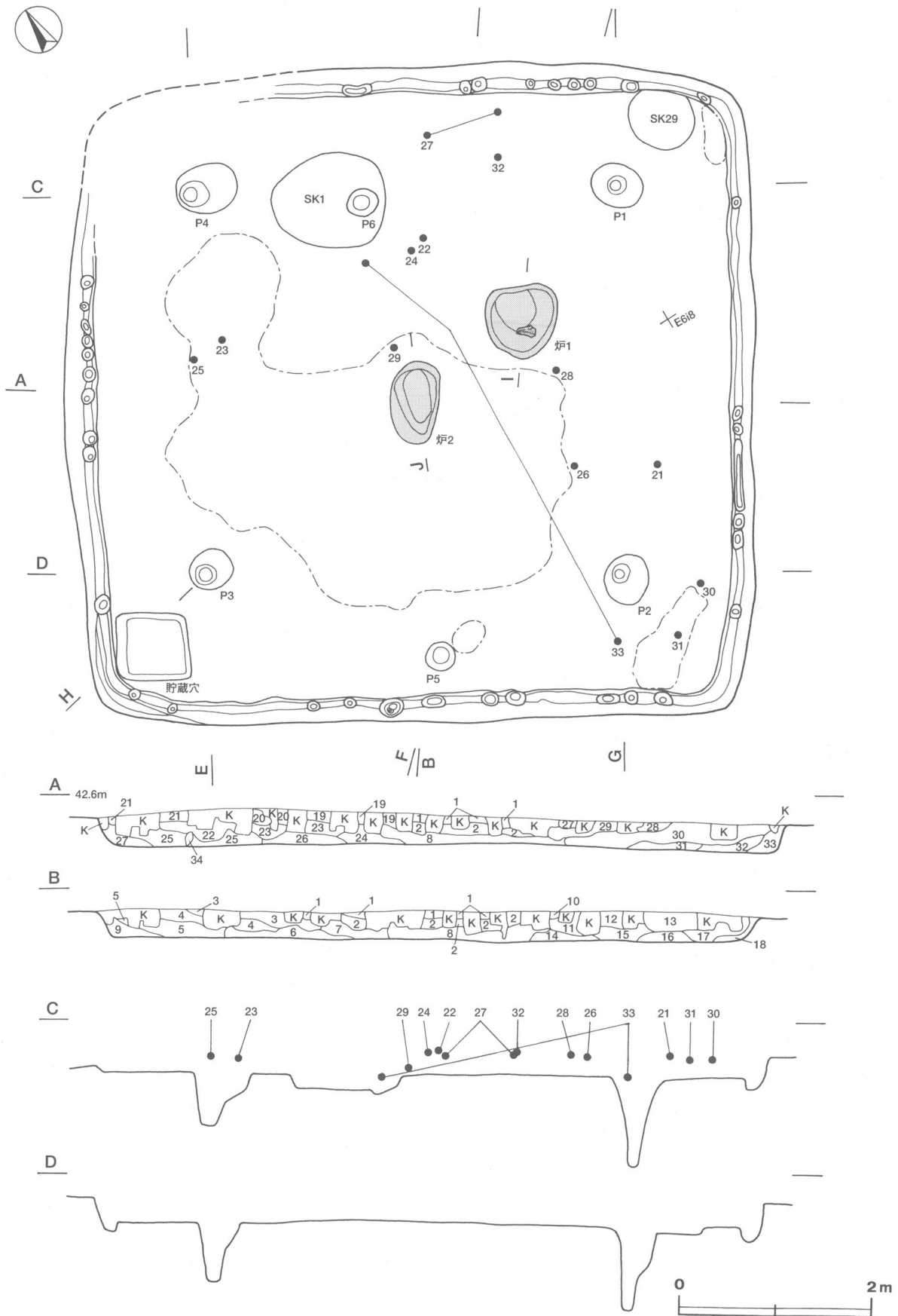
### 第10号住居跡（第12・13図）

**位置** 調査区の東部，F6i7区。標高42.4mの平坦部に位置している。

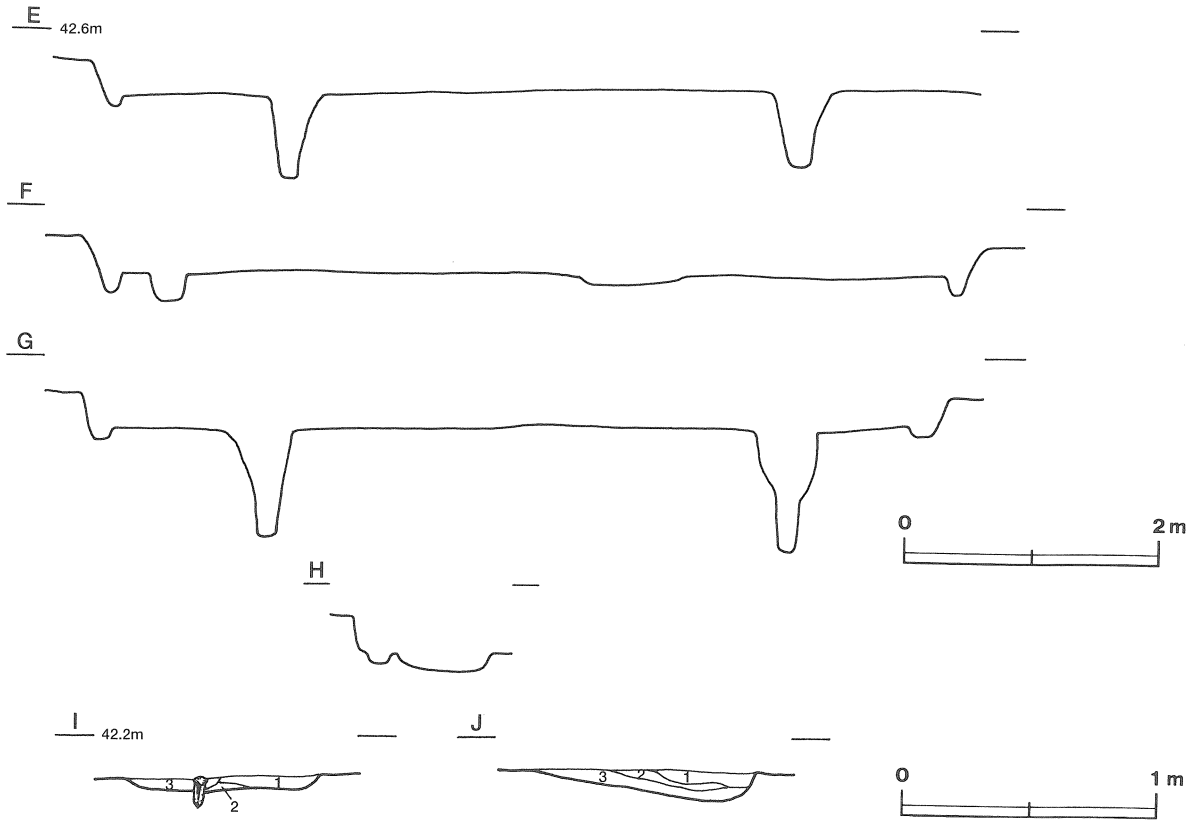
**重複関係** 北東壁際の中央部を第1号土坑に，東コーナー部を第29号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸7.22m，短軸6.92mの方形である。壁は高さ24～30cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-59°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡2を中心に囲むように硬化面が見られる。壁溝は全周する。上幅14～22cm，下幅8～14cm，深さ8～16cmで，断面形はU字形であり，溝の中に径が10～20cm，深さ5cmほどの小ピット群が見られ，壁柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。



第12図 第10号住居跡実測図(1)



第13図 第10号住居跡実測図（2）

炉 2か所。炉1は中央部やや東寄りに設けられ、長径82cm、短径76cmの不整円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉床の中央部に長さ20cmほどの炉石を持っている。炉2は炉1の南東側に設けられ、長径88cm、短径52cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉1と炉2は同時に使用されていたと考えられる。

**炉1土層解説**

- |       |                  |       |        |
|-------|------------------|-------|--------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |       |        |

**炉2土層解説**

- |       |           |          |          |
|-------|-----------|----------|----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック少量  |          |          |

ピット 6か所。配置と規模からP1～4は支柱穴、P6は補助柱穴と考えられる。P5は南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が60～97cm、P5・6が24～29cmである。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長軸76cm、短軸72cmの方形で、深さは16cmである。

覆土 34層からなる。各層に焼土粒子やロームブロック、ローム粒子が混入していることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

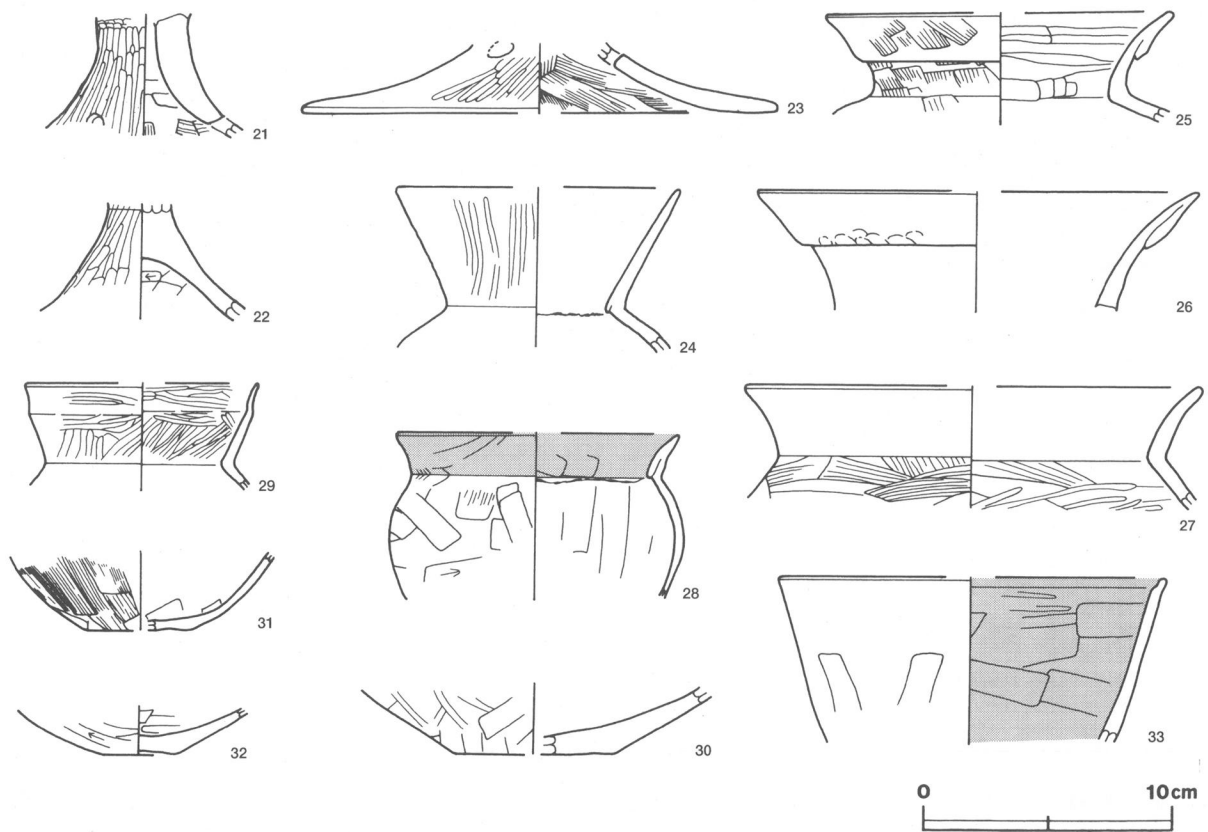
- |       |                |        |                     |
|-------|----------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量        | 9 褐色   | ロームブロック少量           |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 10 黒褐色 | ローム粒子微量             |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 12 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 13 黒褐色 | ローム粒子微量             |
| 6 褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 14 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 16 灰褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微     |

- 17 黒褐色 ローム粒子少量
- 18 褐色 ロームブロック少量
- 19 黒褐色 ローム粒子微量
- 20 黒褐色 ローム粒子微量
- 21 黒褐色 ローム粒子微量
- 22 黒褐色 ローム粒子微量
- 23 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 24 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 25 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

- 26 黒褐色 ロームブロック少量
- 27 黒褐色 ローム粒子微量
- 28 黒褐色 ローム粒子微量
- 29 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 30 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 31 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 32 褐色 ローム粒子中量
- 33 褐色 ロームブロック少量
- 34 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片1003点, 炉石1点, 礫19点, 鉄滓1点のほか, 攪乱等により混入したとみられる縄文土器片1点, 弥生土器片89点, 須恵器片7点が出土している。これらの遺物は, 遺構の全体の床面や覆土下層から極めて多量に出土している。

**所見** 時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第14図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
21	土師器	器台	-	(4.9)	-	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ・ハケ目調整 脚部側面3孔	南東部覆土上層	20%
22	土師器	器台	-	(4.7)	-	石英・長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き, 内面ヘラ削り	北東部覆土上層	20%
23	土師器	器台	-	(2.8)	[19.3]	石英・長石・小礫	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き, 内面ハケ目調整, 脚部側面3孔	北西部覆土中層	10%
24	土師器	埴	[11.4]	(6.5)	-	石英・長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	北東部覆土上層	10%
25	土師器	壺	[14.0]	(4.4)	-	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部及び頸部外面ハケ目調整 口縁部内面ヘラ磨き 頸部内面ヘラナデ	北西部覆土上層	10% PL22
26	土師器	壺	[17.9]	(7.0)	-	石英・長石・雲母	黒褐	普通	口縁部外面下端指頭による押圧 頸部外面ヘラナデ	南東部覆土上層	10%
27	土師器	甕	[18.4]	(4.9)	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内面ヘラ磨き 体部外面ハケ目調整, 内面ハケ目調整後ヘラ磨き	北東部覆土上層	10%
28	土師器	小形甕	[11.4]	(6.7)	-	長石・雲母	浅黄橙	普通	口縁部内面ヘラナデ 頸部外面ハケ目調整 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ 口縁部内・外面赤彩	中央部覆土下層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	土師器	小形甕	[9.4]	(4.3)	—	石英・長石	赤褐	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き	中央部覆土下層	10%
30	土師器	甕	—	(2.9)	[6.5]	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	南コーナー部覆土上層	10%
31	土師器	小形甕	—	(3.2)	[4.2]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ	南コーナー部床面	30%
32	土師器	小形甕	—	(2.0)	3.0	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラ削り	北東部覆土上層	10%
33	土師器	甕	[15.7]	(6.7)	—	石英・長石・雲母・礫	にぶい黄橙	普通	口・体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ後ヘラ磨き 内面赤彩	中央部床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	炉石	21.3	8.7	12.8	3099.5	砂岩	全面被熱	炉跡底面	未掲載

### 第11号住居跡 (第15図)

**位置** 調査区の東部, F6b4区。標高42.4mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.17m, 短軸6.08mの方形である。壁は高さ5~15cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-24°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径120cm, 短径78cmの楕円形で, 床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は中央部を中心に, 火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- |        |                         |       |                      |
|--------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 4 暗褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 黒色  | 炭化粒子中量, ローム粒子微量      |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量    |       |                      |

**ピット** 4か所。P1~4は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは50~78cmである。

#### P1土層解説

- |         |           |         |         |
|---------|-----------|---------|---------|
| 1 褐色    | ロームブロック微量 | 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色    | ローム粒子少量   | 7 にぶい褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 明褐色   | ローム粒子中量   | 8 明褐色   | ローム粒子中量 |
| 4 にぶい橙色 | ロームブロック少量 | 9 橙色    | ローム粒子多量 |
| 5 橙色    | ロームブロック少量 |         |         |

#### P4土層解説

- |       |           |         |           |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量   | 5 明褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量 | 6 橙色    | ローム粒子多量   |
| 3 褐色  | ローム粒子少量   | 7 明褐色   | ロームブロック少量 |
| 4 褐色  | ロームブロック少量 | 8 にぶい褐色 | 焼土粒子微量    |

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径90cm, 短径60cmの楕円形で, 深さは24cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |           |         |           |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 にぶい褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック微量 | 4 明褐色   | ロームブロック少量 |

**覆土** 14層からなる。層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

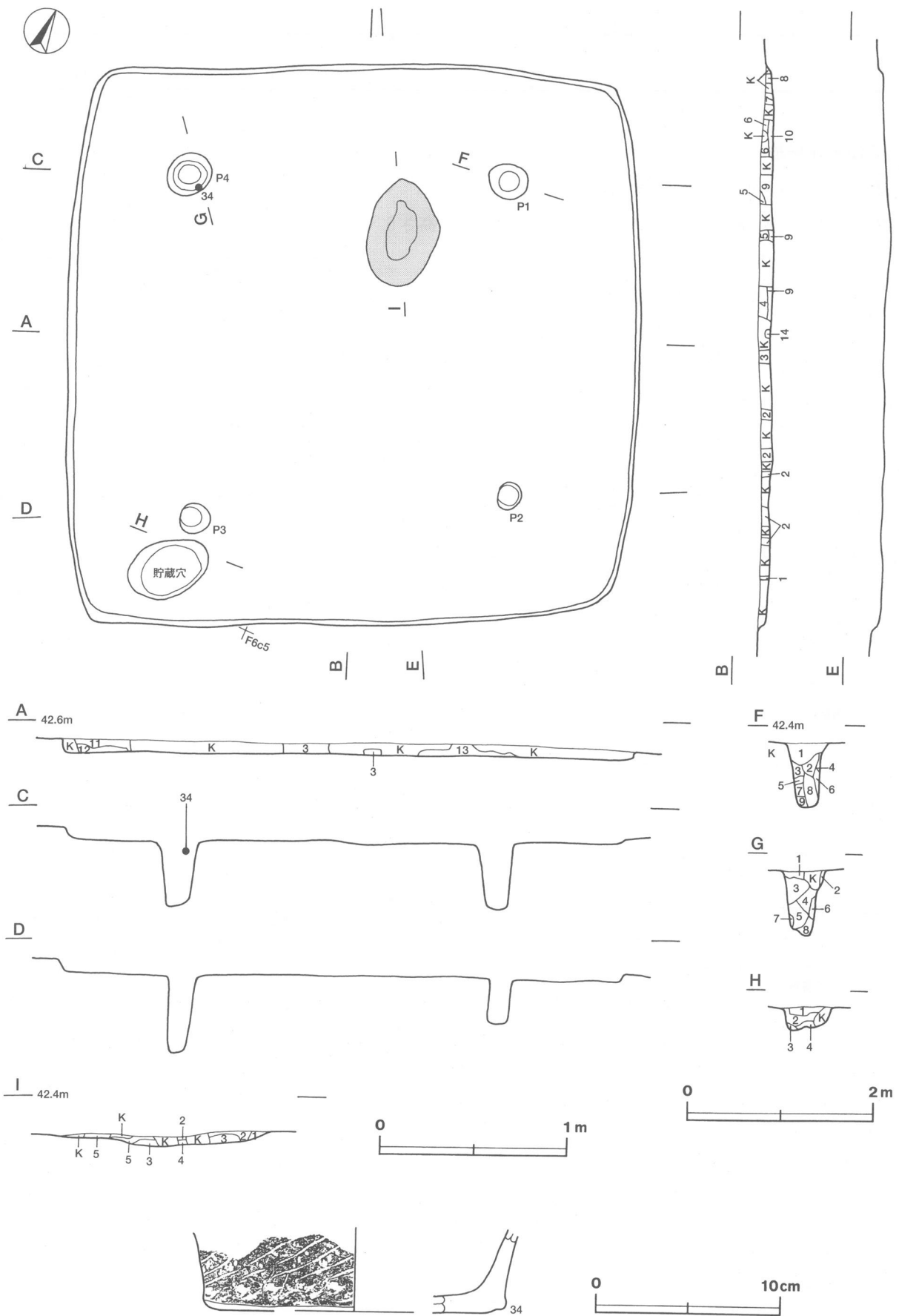
#### 土層解説

- |       |                 |          |                 |
|-------|-----------------|----------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    | 8 にぶい褐色  | ローム粒子少量         |
| 2 褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 にぶい褐色  | ローム粒子少量         |
| 3 褐色  | ローム粒子少量         | 10 褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量         | 11 黒褐色   | ローム粒子微量         |
| 5 褐色  | ローム粒子微量         | 12 褐色    | ロームブロック微量       |
| 6 褐色  | ローム粒子微量         | 13 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 7 暗褐色 | ローム粒子微量         | 14 にぶい褐色 | ローム粒子中量         |

**遺物出土状況** 土師器片228点, 礫5点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片12点, 須恵器片1点が出土している。遺物は覆土中からの出土が多い。わずかの量が南部の床面から出土しているが, 細片である。

**所見** 時期は, 出土土器等から4世紀代と考えられる。





第15図 第11号住居跡・出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
34	弥生土器	広口壺	-	(4.6)	[16.0]	石英・長石	浅黄橙	普通	胴部外面附加条二種（附加1条）の縄文	P 4 覆土中	10% PL22

第12号住居跡（第16図）

**位置** 調査区の東部，E6j2区。標高42.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.82m，短軸5.34mの方形である。壁は高さ5～20cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-49°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径102cm，短径64cmの楕円形で，床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

**炉土層解説**

- |          |                  |         |                  |
|----------|------------------|---------|------------------|
| 1 極暗赤褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 赤褐色   | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色   | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 6 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土ブロック中量   |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量           | 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子微量           |
| 4 暗赤褐色   | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 |         |                  |

**ピット** 4か所。P 1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは57～70cmである。

**P 1 土層解説**

- |       |              |       |           |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 褐色  | ローム粒子少量      | 4 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |       |           |

**P 2 土層解説**

- |       |           |         |           |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量 | 5 褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量   | 6 褐色    | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色    | ローム粒子少量   |
| 4 灰褐色 | ロームブロック少量 | 8 にぶい褐色 | ローム粒子多量   |

**P 3 土層解説**

- |       |           |       |         |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子少量   | 5 褐色  | ローム粒子少量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量 |       |         |

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に，貯蔵穴2は西コーナーの壁面に接して付設されている。貯蔵穴1は長径90cm，短径82cmの円形，深さ46cmで，断面形は2段掘り込み状である。貯蔵穴2は長径90cm，短径78cmの円形で，深さは60cmである。

**貯蔵穴1 土層解説**

- |       |         |        |              |
|-------|---------|--------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 灰褐色  | ローム粒子少量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |        |              |

**貯蔵穴2 土層解説**

- |       |                |         |           |
|-------|----------------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色   | ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量      | 7 褐色    | ローム粒子中量   |
| 3 褐色  | ロームブロック少量      | 8 極暗褐色  | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量        | 9 にぶい褐色 | ローム粒子多量   |
| 5 褐色  | ローム粒子中量        | 10 褐色   | ロームブロック少量 |

**覆土** 24層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。

**土層解説**

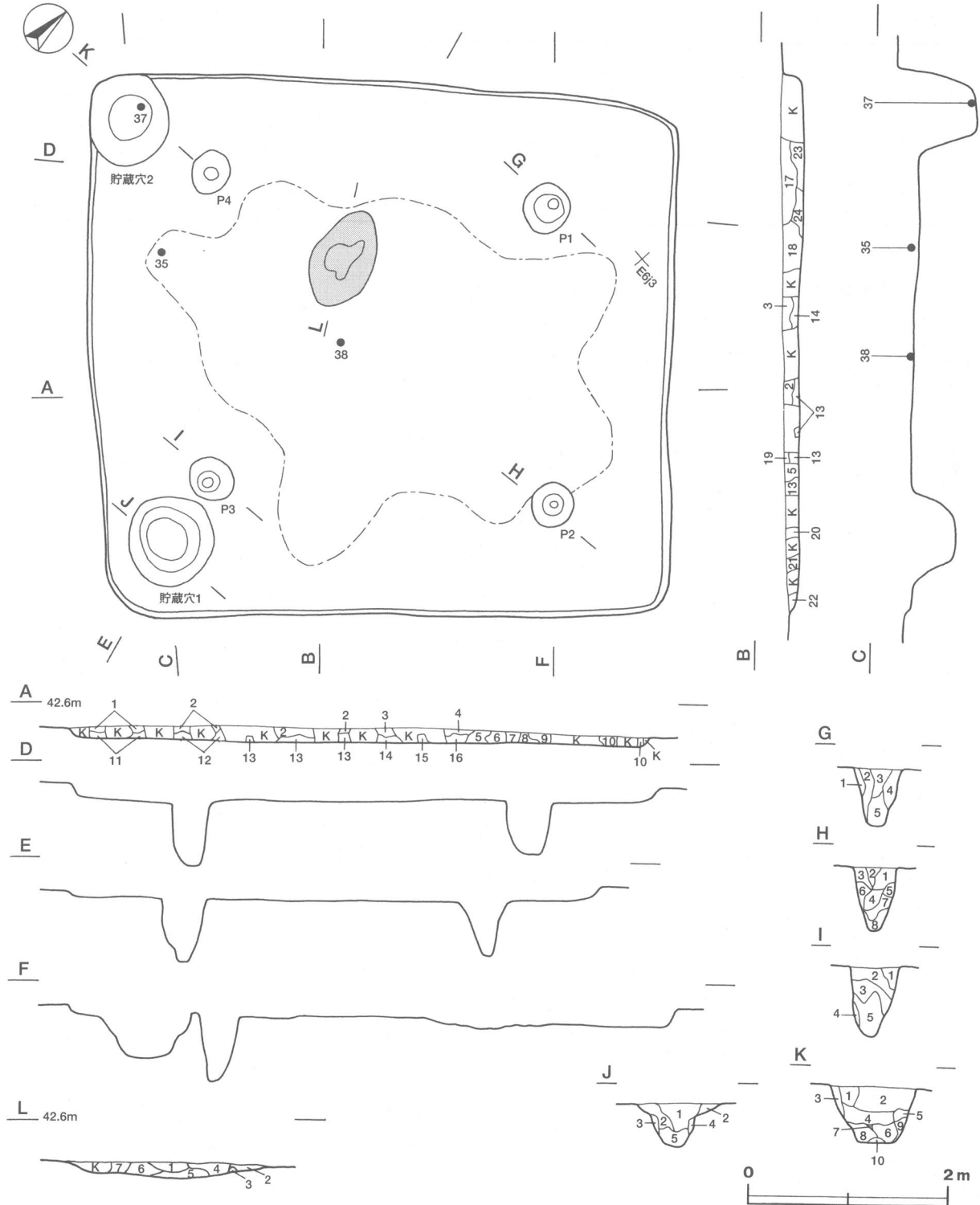
- |       |                |          |         |
|-------|----------------|----------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量        | 9 黒褐色    | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量        | 10 黒褐色   | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量        | 11 褐色    | ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量        | 12 灰褐色   | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 13 にぶい褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子微量        | 14 灰褐色   | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子微量        | 15 黒褐色   | ローム粒子微量 |
| 8 灰褐色 | ローム粒子微量        | 16 灰褐色   | ローム粒子少量 |

- 17 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 18 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 19 黒褐色 ローム粒子微量
- 20 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

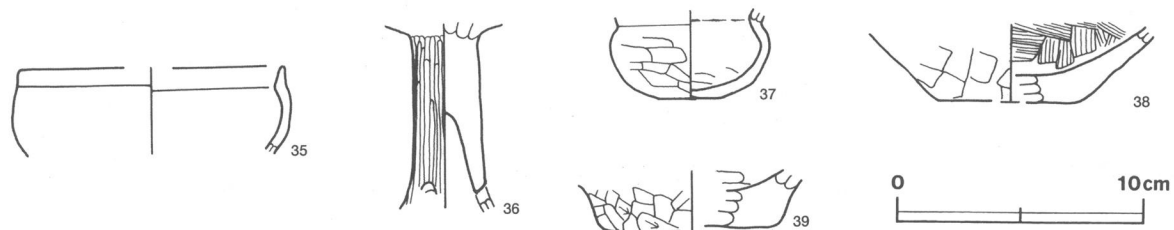
- 21 灰褐色 ローム粒子微量
- 22 褐色 ローム粒子少量
- 23 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 24 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片315点, 礫5点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片21点, 須恵器片2点が出土している。遺物は中央部から西コーナーにかけて出土しているが, 細片が多い。

**所見** 時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第16図 第12号住居跡実測図



第17図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

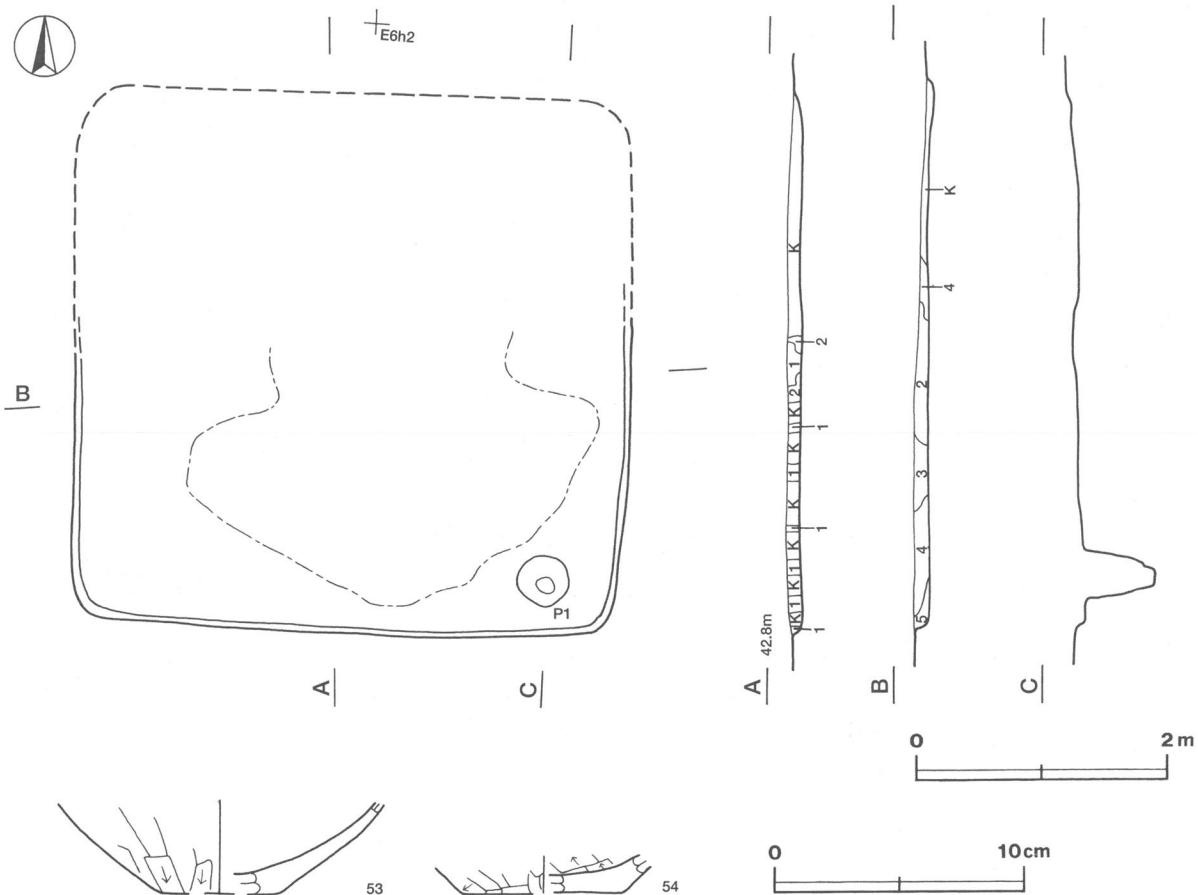
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	椀	[10.6]	(3.5)	—	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	西部覆土下層	20%
36	土師器	高坏	—	(7.9)	—	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き脚部3孔	覆土中	20%
37	土師器	小形罎	—	(3.6)	2.2	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土下層	40%
38	土師器	甕	—	(3.2)	[6.0]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラナデ, 内面ハケ目調整	中央部床面	5%
39	土師器	甕	—	(2.4)	[7.0]	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	南東部覆土中	10%

第14号住居跡 (第18図)

位置 調査区の東部, E6h1区。標高42.6mの平坦部に位置している。

規模と形状 南壁及び東壁と西壁の南側のみの遺存であるが, 長軸4.45m, 短軸4.35mの方形と推定される。

壁は高さ11cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-2°-Wである。



第18図 第14号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦である。

炉 確認できなかった。

ピット 1か所。P 1は南東コーナー寄りに位置しているが、規模から支柱穴の可能性が考えられる。深さは58cmである。

覆土 5層からなる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量   | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量   |       |           |

遺物出土状況 土師器片70点、礫1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点、陶器片1点が出土している。遺物はほとんど細片である。

所見 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
53	土師器	甕	-	(3.8)	[4.6]	石英・長石・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	南西部覆土中	5%
54	土師器	甕	-	(1.5)	[6.6]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラ削り	南東部覆土中	5%

第17号住居跡（第19・20図）

位置 調査区の東部，F7g4区。標高42.0mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.50m，短軸5.47mの方形である。壁は高さ8～13cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-9°-Wである。

床 平坦である。炉跡の南東側を中心に硬化面が見られる。全面に貼り付くように炭化材が確認されている。

炉 中央部やや北寄りに設けられている。長径90cm，短径60cmの楕円形で，床面を11cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の中央部に長さ14cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

- |         |   |                     |          |                   |
|---------|---|---------------------|----------|-------------------|
| 1 橙     | 色 | ローム粒子少量，焼土ブロック微量    | 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色  |   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量      |
| 3 極暗赤褐色 |   | ローム粒子中量，焼土ブロック少量    |          |                   |

ピット 5か所。P 1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5は南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1～4が65～72cm，P 5が24cmである。

P 1土層解説

- |         |   |                |         |                   |
|---------|---|----------------|---------|-------------------|
| 1 黒褐色   | 色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 にぶい橙色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色   |   | ローム粒子微量        | 8 にぶい褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量    |
| 3 暗褐色   |   | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 9 にぶい褐色 | ローム粒子少量           |
| 4 灰褐色   |   | ローム粒子・焼土粒子微量   | 10 褐色   | ローム粒子少量           |
| 5 褐色    |   | ローム粒子少量，炭化物微量  | 11 明褐色  | ローム粒子中量           |
| 6 にぶい橙色 |   | ロームブロック少量      | 12 明褐色  | ローム粒子中量           |

P 2土層解説

- |       |   |         |       |         |
|-------|---|---------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | 色 | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色  |   | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径68cm，短径60cmの楕円形で，深さは48cmである。

貯蔵穴土層解説

- |        |         |       |         |
|--------|---------|-------|---------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 黒褐色  | ローム粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色  | ローム粒子中量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

覆土 11層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

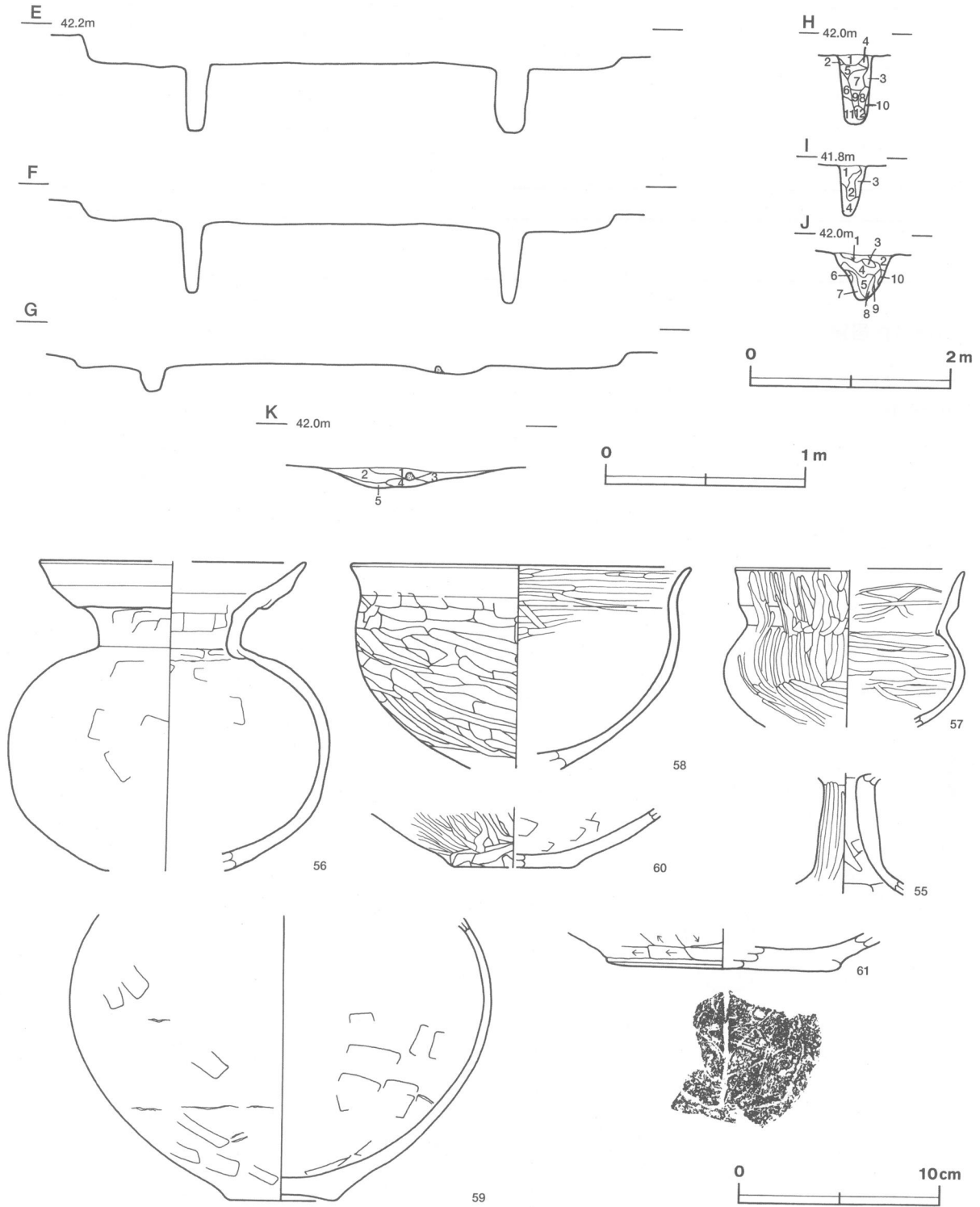
- |       |                      |         |                        |
|-------|----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量       | 7 黒色    | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 黒色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量       | 9 黒色    | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色  | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    | 11 極暗褐色 | ローム粒子・炭化材少量, 焼土粒子微量    |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |         |                        |

遺物出土状況 土師器片438点, 炉石1点, 礫16点のほか, 攪乱等により混入したとみられる縄文土器片8点, 弥生土器片65点, 須恵器片6点, 灰釉陶器細片1点が出土している。遺物は中央部から北西コーナーにかけてと貯蔵穴からまともって出土している。58の台付甕は北西コーナーから逆位の状態で出土している。

所見 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第19図 第17号住居跡実測図



第20図 第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
55	土師器	器台	-	(6.0)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ・ハケ目調整 裾部内面ハケ目調整	中央部覆土層	30%
56	土師器	壺	[13.2]	(15.6)	-	長石・雲母	橙	普通	口縁部内面ヘラ磨き 頸部内・外面ヘラナデ 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	南西コーナ部覆土中層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
57	土師器	壺	[11.4]	(8.0)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土中層	40% PL22
58	土師器	台付鉢	17.1	(10.1)	—	石英・長石	浅黄橙	普通	口縁部内面及び体部外面ヘラ磨き	北西部床面	80% PL23
59	土師器	甕	—	(14.3)	5.5	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土下層	50% PL23
60	土師器	甕	—	(3.0)	[6.2]	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	中央部床面	10%
61	土師器	甕	—	(2.0)	5.8	長石・白色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 底部木葉痕	北西部壁際覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	炉石	17.1	4.4	6.4	426.3	半花崗岩	全面被熱 煤附着	炉跡覆土中	未掲載

### 第18号住居跡 (第21図)

**位置** 調査区の南部G4e7区。標高42.2mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 壁は削平されているが、長軸4.55m、短軸3.74mの長方形と推定される。主軸方向はN-14°-Wと推定される。

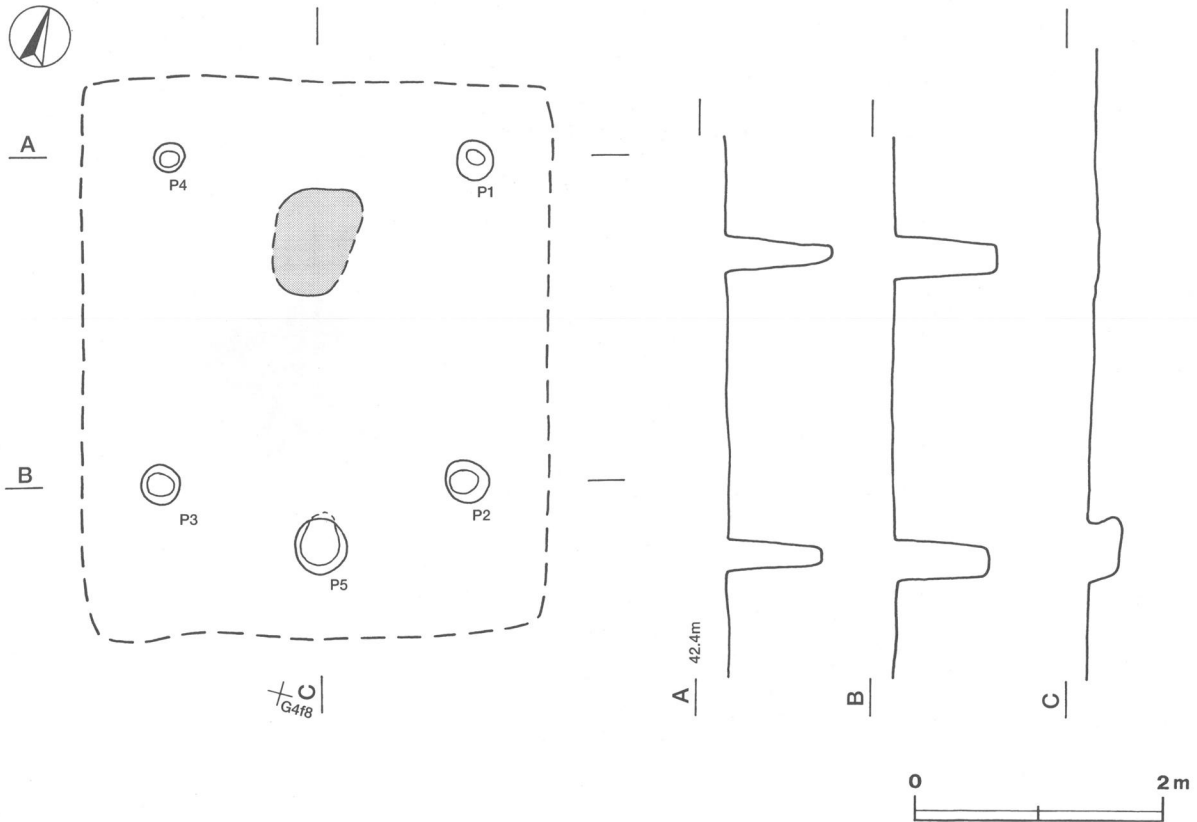
**床** ほぼ平坦である。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径88cm、短径65cmの不整楕円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

**ピット** 5か所。P1～4は、配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は推定プランの南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が78～86cm、P5が29cmである。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 出土遺物がないため、時期を決定することは難しいが、遺構の形態から古墳時代と考えられる。



第21図 第18号住居跡実測図



第19号住居跡 (第22図)

**位置** 調査区の東部, F7f2区。標高42.1mの平坦部に位置している。東側に主軸方向がほぼ一致する第17号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長軸3.45m, 短軸3.18mの方形である。壁は高さ8~14cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-16°-Wである。

**床** 平坦である。中心部に硬化面が見られる。

**炉** 確認できなかった。

**ピット** 21か所。P11のみ西壁際に位置しているが, あとは北壁際に10か所, 東壁際に10か所位置している。すべてのピットの形態は, 径が10cm前後, 深さが6cm前後であり, 壁柱穴の可能性が考えられるが, 性格は不明である。

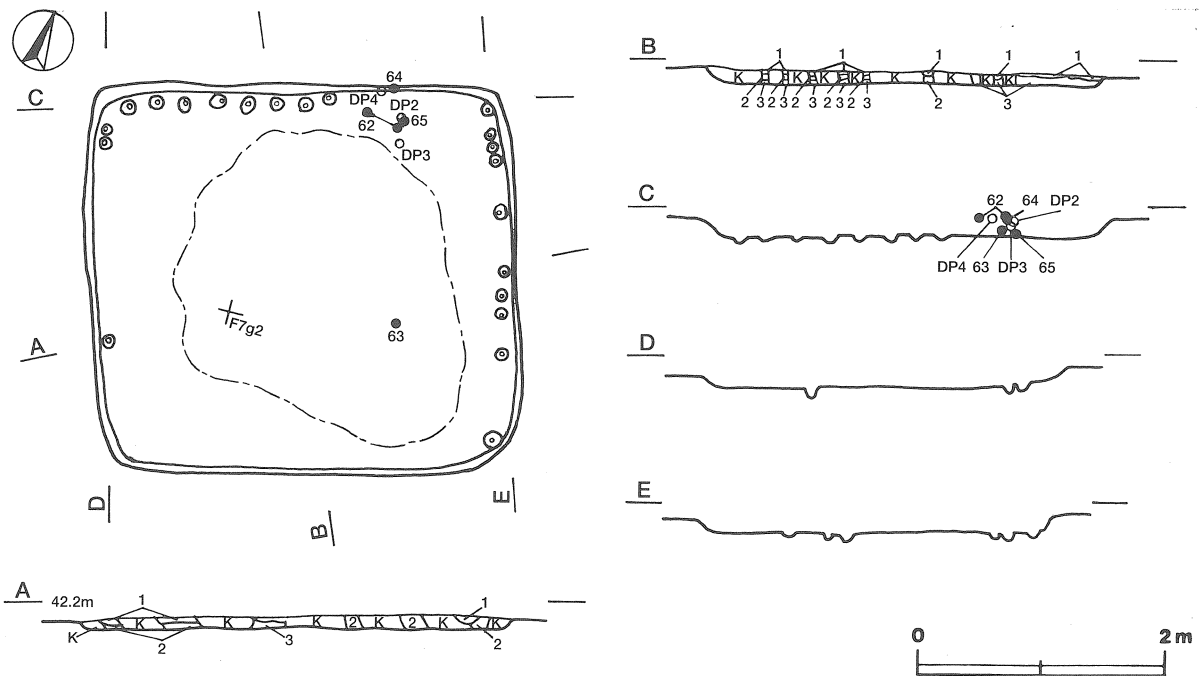
**覆土** 3層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

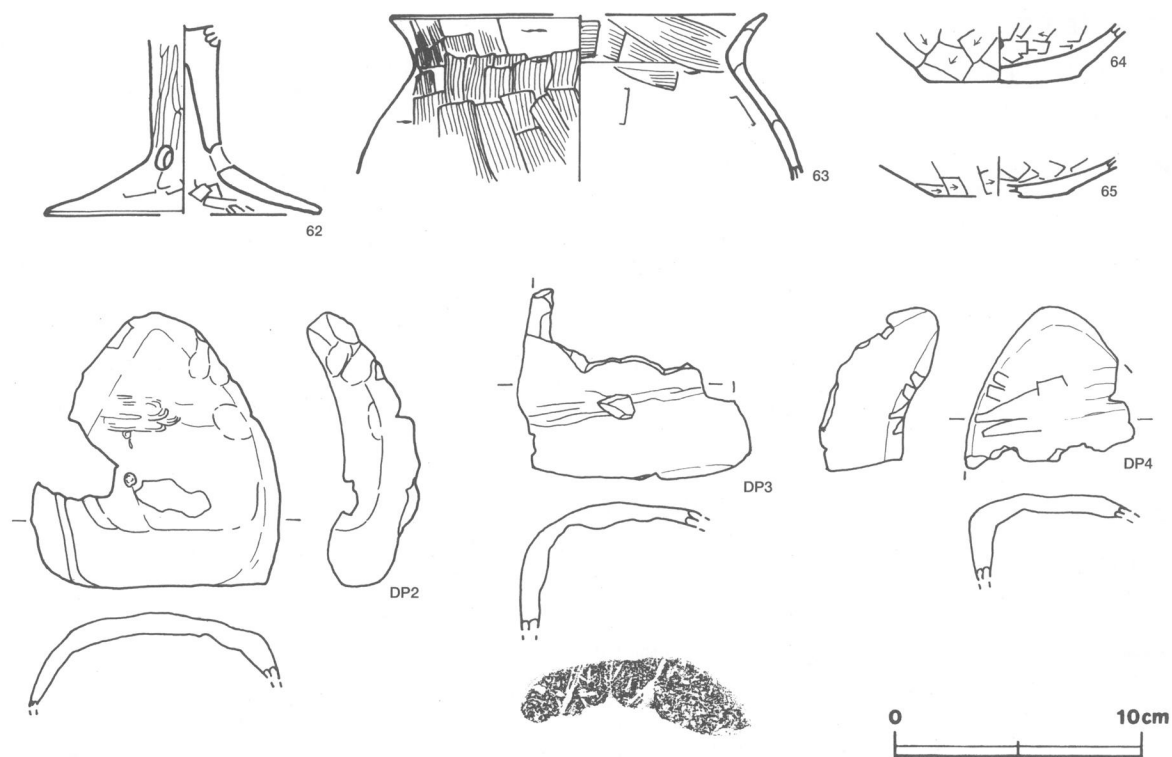
- |       |         |       |         |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 |       |         |

**遺物出土状況** 土師器片119点, 礫4点, 土製支脚3点のほか, 攪乱等により混入したとみられる縄文土器片2点, 弥生土器片11点, 須恵器片6点が出土している。遺物は北西コーナーから集中して出土している。被熱を受けた礫(炉石として使用されたような形状)と被熱を受けた土製支脚3点もこのコーナーから投棄されたような状況で出土している。

**所見** 炉跡も支柱穴も確認できず, この時期の住居跡としては規模も小さく, 形態が異質である。時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第22図 第19号住居跡実測図



第23図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
62	土師器	高環	—	(7.7)	[11.2]	石英・長石	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き 裾部内・外面ヘラナデ・ハケ目調整	北東部覆土上層	30% PL23
63	土師器	甕	[15.2]	(6.7)	—	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整 体部外面ハケ目調整, 内面ハケ目調整・ヘラナデ	南東部床面	10% PL23
64	土師器	甕	—	(2.3)	6.0	長石・白色粒子・礫	褐	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	北東部覆土上層	50%
65	土師器	甕	—	(1.5)	[5.2]	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	北東部床面	5%

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	(10.0)	(11.1)	(4.6)	(135.9)	土	全面被熱 外面ナデ, 内面及び側面指ナデ	北東部覆土上層	PL30
DP3	支脚	(7.7)	(9.4)	(3.4)	(91.8)	土	全面被熱 外面ナデ, 内面指ナデ 底面小枝痕	北東部覆土中層	PL30
DP4	支脚	(6.5)	(6.9)	(3.5)	(49.1)	土	全面被熱 外面ナデ, 内面指ナデ	北東部覆土上層	PL30
Q 7	炉石	14.5	6.3	4.1	504.5	石英斑岩	全面被熱 煤付着	北東部覆土上層	未掲載

### 第20号住居跡 (第24図)

**位置** 調査区の東部, E6j7区。標高42.2mの平坦部に位置している。南部が調査区域外となっているため, 全体を調査することはできなかった。

**規模と形状** 壁は削平されていて, 西壁しか遺存していないが, 長軸6.47m, 確認できた短軸6.25mの方形あるいは長方形と推定される。主軸方向はN-105°-Wと推定される。

**床** ほぼ平坦である。

**炉** 西壁寄りに設けられている。長径56cm, 短径32cmの不整楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。

#### 炉土層解説

- 1 明赤褐色 焼土粒子多量

**ピット** 4か所。P1～P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは30～57cmである。

**覆土** 2層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

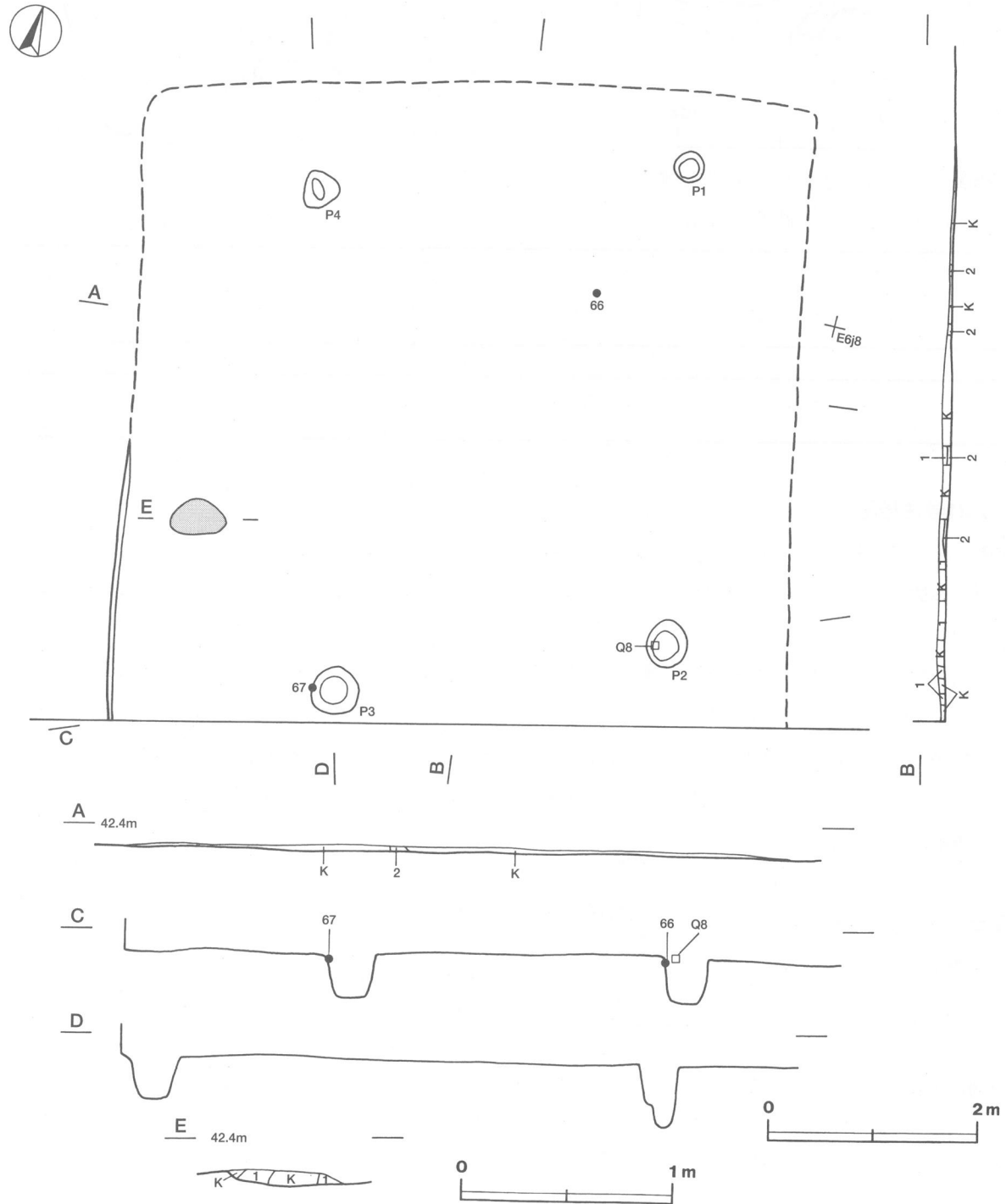
**土層解説**

1 黒色 ローム粒子微量

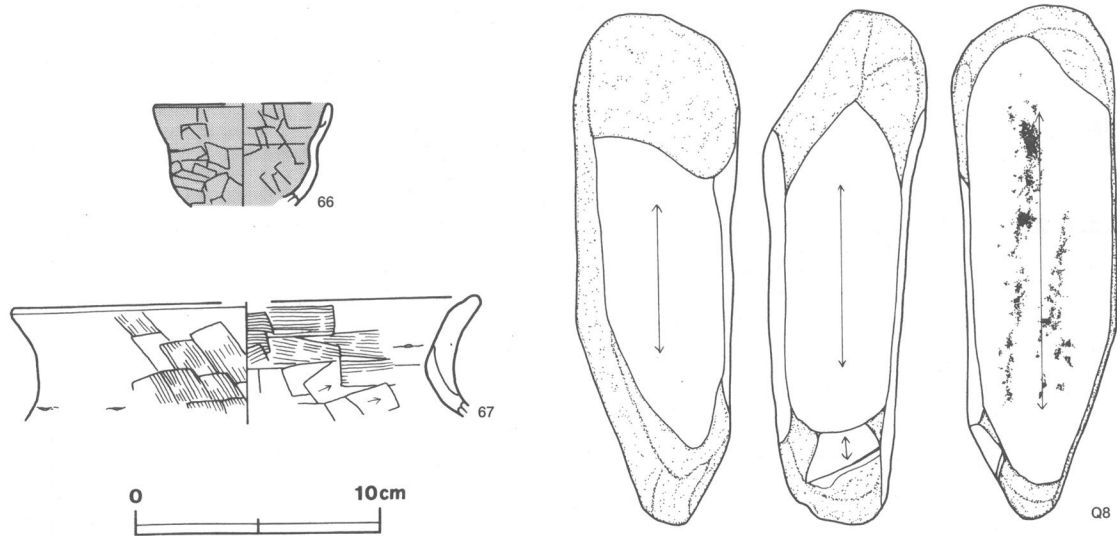
2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片192点、砥石1点、礫4点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片8点、須恵器片3点が出土している。遺物は南部から少量出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第24図 第20号住居跡実測図



第25図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
66	土師器	埴	[7.0]	(4.2)	—	長石・雲母	橙	普通	口縁部及び体部内・外面ヘラナデ 内・外面赤彩	北東部床面	20%
67	土師器	甕	[19.0]	(5.0)	—	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整 頸部内面ヘラナデ	P 3内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	20.9	6.7	6.7	1352.5	砂岩	砥面3面 表面に鉄分付着	P 2内	PL30

### 第21号住居跡（第26図）

**位置** 調査区の東部，F5g0区。標高42.4mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.25m，短軸5.60mの長方形である。壁は高さ3～15cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-18°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡の南側を中心に硬化面が見られる。火熱を受け，焼土化したところが，東部から北部にかけて7か所見られる。北部や東部にわずかに炭化材が貼り付くように確認されている。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径82cm，短径41cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の南部に長さ24cmほどの炉石を持っている。

#### 炉土層解説

- |        |                  |      |           |
|--------|------------------|------|-----------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 赤褐色  | 焼土粒子多量           |      |           |

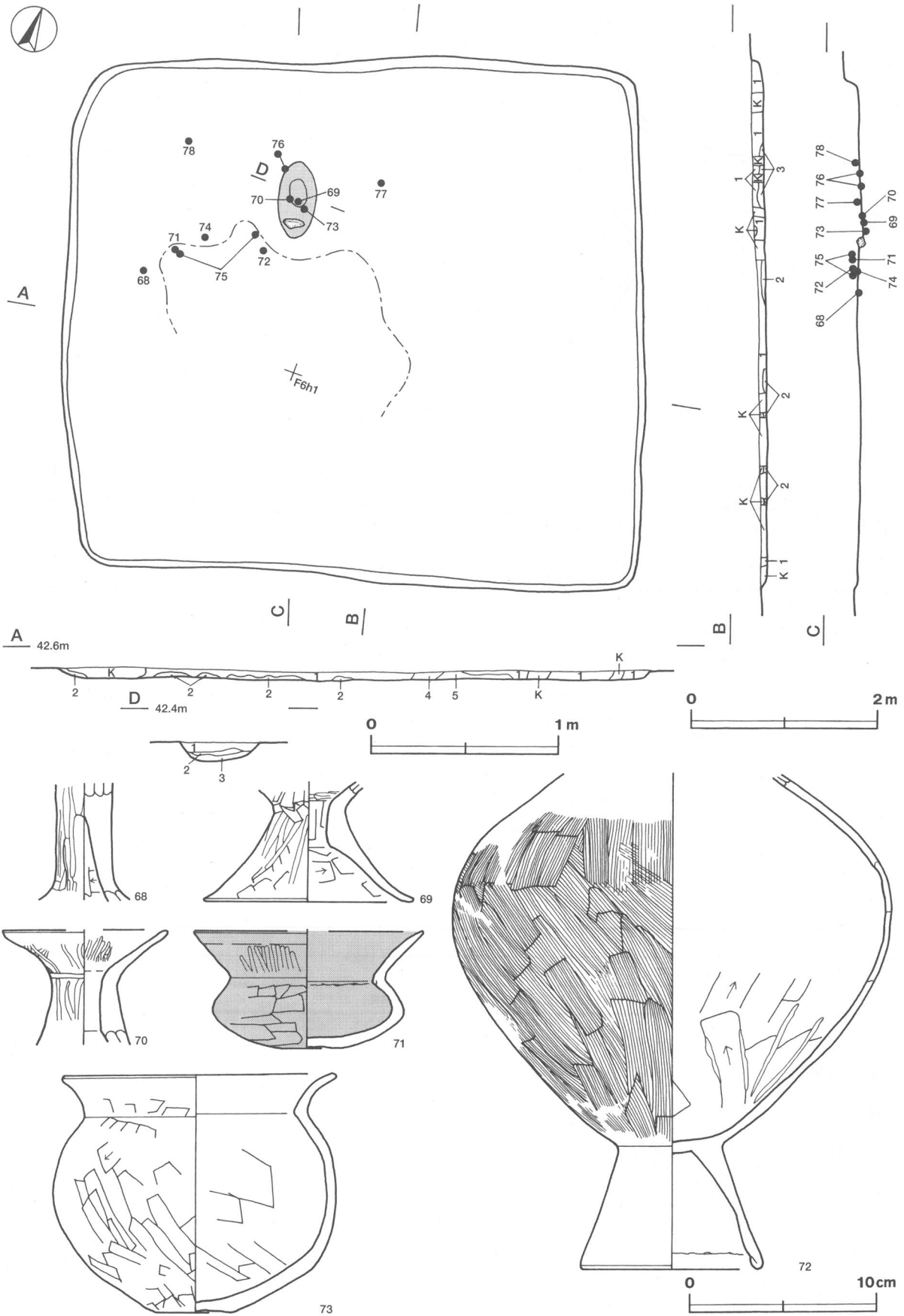
**覆土** 5層からなる。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

#### 土層解説

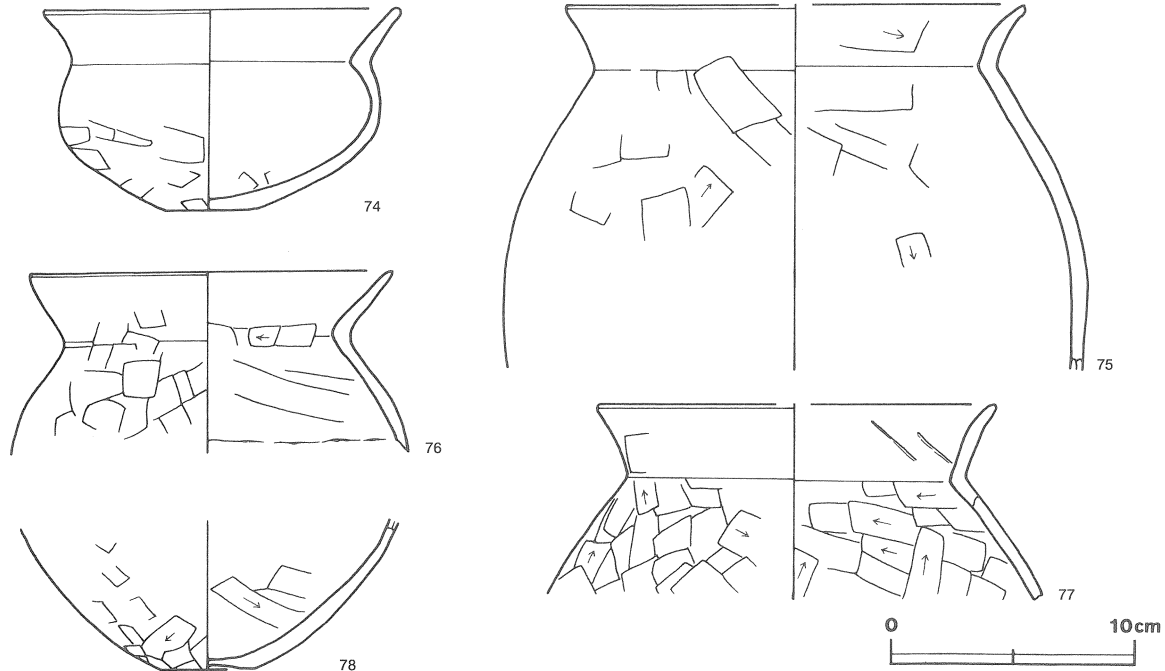
- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒色  | ロームブロック微量        | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量        | 5 黒褐色 | 焼土ブロック微量  |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |       |           |

**遺物出土状況** 土師器片115点，炉石1点，礫1点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片5点が出土している。遺物は炉跡の周辺を中心に北西部から出土している。

**所見** 焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第26図 第21号住居跡・出土遺物実測図



第27図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第26・27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	土師器	高坏	—	(6.4)	—	石英・長石	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ・ヘラ削り	北西部床面	20%
69	土師器	器台	—	(6.5)	11.2	石英・長石	橙	普通	器受部内面及び脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラ削り	炉跡内	70% PL23
70	土師器	器台	[8.8]	(6.2)	—	石英・長石	赤褐	普通	器受部内・外面及び脚部外面ヘラ磨き	炉跡内	30% PL23
71	土師器	埴	[12.2]	6.9	2.6	石英・長石・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内・外面赤彩	北西部覆土下層	50% PL23
72	土師器	台付甕	—	(26.9)	9.6	石英・長石	にぶい褐	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラ削り・棒状工具による削り S字状口縁	北西部床面	60% PL23
73	土師器	甕	14.6	12.9	4.1	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	炉跡内	60% PL23
74	土師器	甕	14.5	8.2	3.6	石英・長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	北西部覆土下層	80% PL23
75	土師器	甕	[18.8]	(15.0)	—	長石・礫	暗赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	北西部覆土下層	10%
76	土師器	甕	14.9	(7.4)	—	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	北西部床面	20% PL23
77	土師器	甕	[16.2]	(8.1)	—	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削り	中央部床面	20%
78	土師器	甕	—	(6.1)	[3.8]	石英・長石	暗赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	北西部床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	炉石	23.6	(11.6)	10.5	(3341.3)	石英斑岩	全面被熱	炉跡底面	未掲載

### 第22号住居跡（第28図）

**位置** 調査区の東部、F5e0区。標高42.4mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.91m、短軸6.15mの長方形である。壁は高さ5～15cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-22°-Wと推定される。

**床** ほぼ平坦である。炉跡の南部に硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径64cm、短径41cmの楕円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が50～69cm, P5が24cmである。

P2土層解説

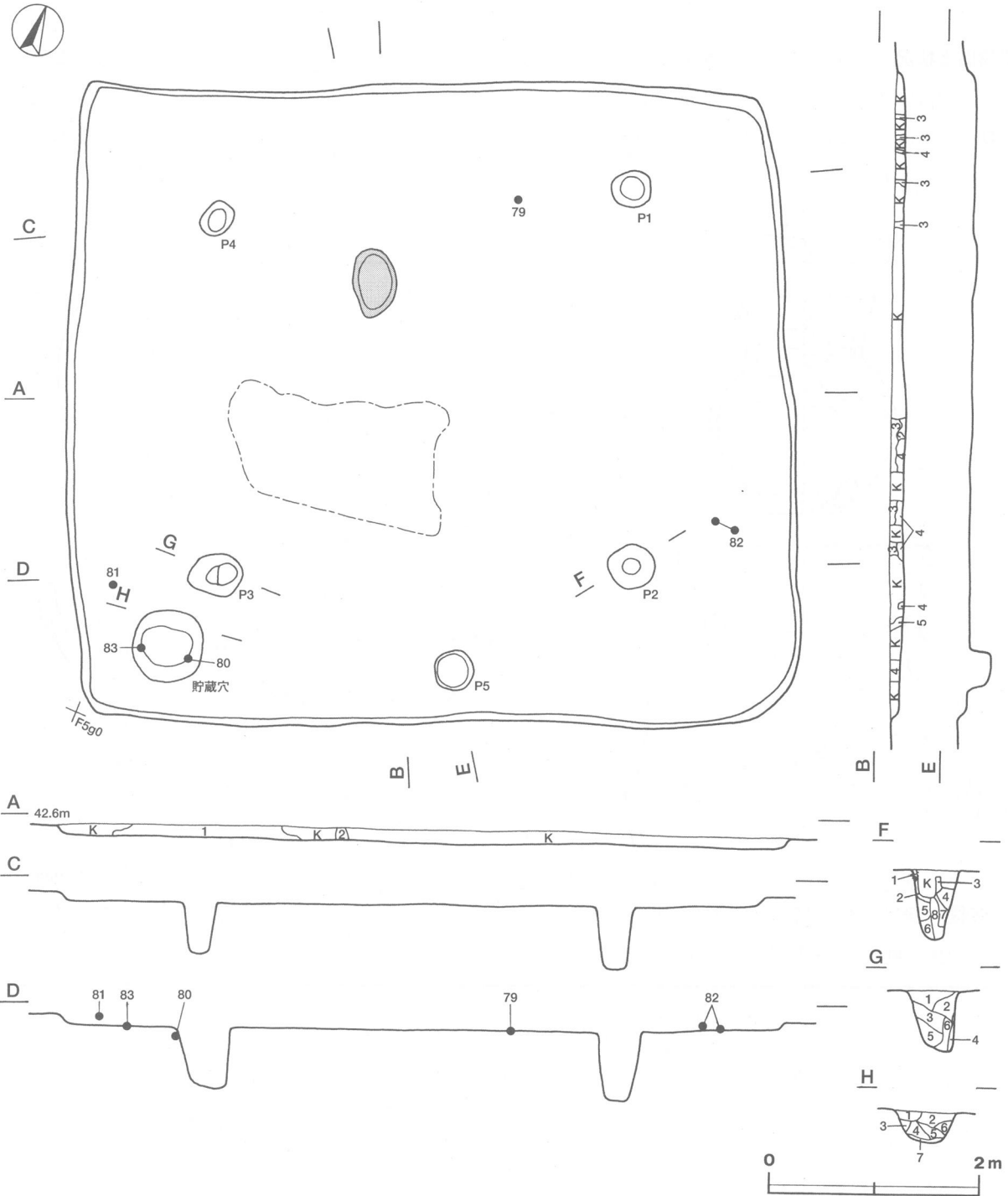
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

P3土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

- 5 明褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子中量

- 4 明褐色 ロームブロック中量
- 5 灰褐色 ローム粒子中量
- 6 にぶい褐色 ロームブロック中量



第28図 第22号住居跡実測図

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径70cmほどの不整円形で、深さは35cmである。

貯蔵穴土層解説

- |         |                   |         |                 |
|---------|-------------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子微量           | 5 褐色    | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量      | 6 褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量    |
| 3 灰褐色   | ロームブロック微量         | 7 にぶい褐色 | ロームブロック少量       |
| 4 にぶい褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |         |                 |

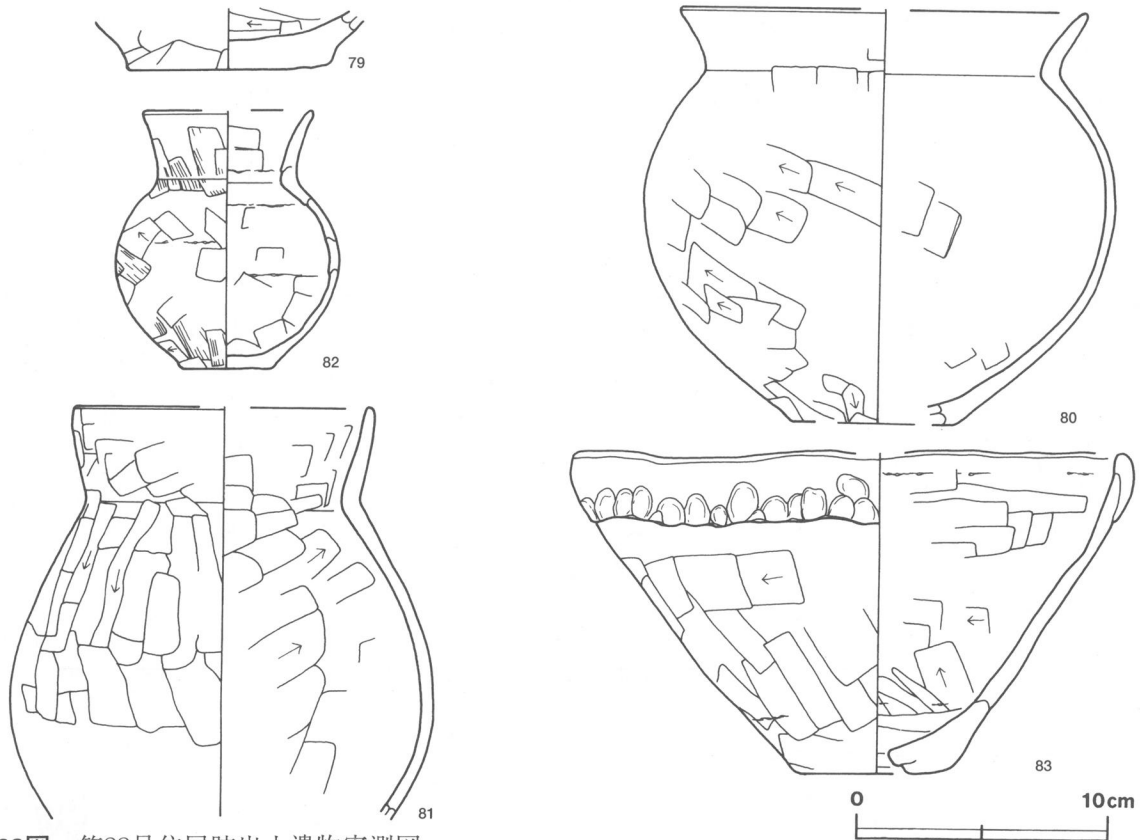
覆土 5層からなる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |                           |       |                         |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量    |
| 2 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量      | 5 暗褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒色  | 炭化粒子極めて多量, ローム粒子・焼土粒子微量   |       |                         |

遺物出土状況 土師器片285点、礫7点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片12点、須恵器片13点、陶器片2点が出土している。遺物は南コーナーからまとまって出土している。

所見 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第29図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

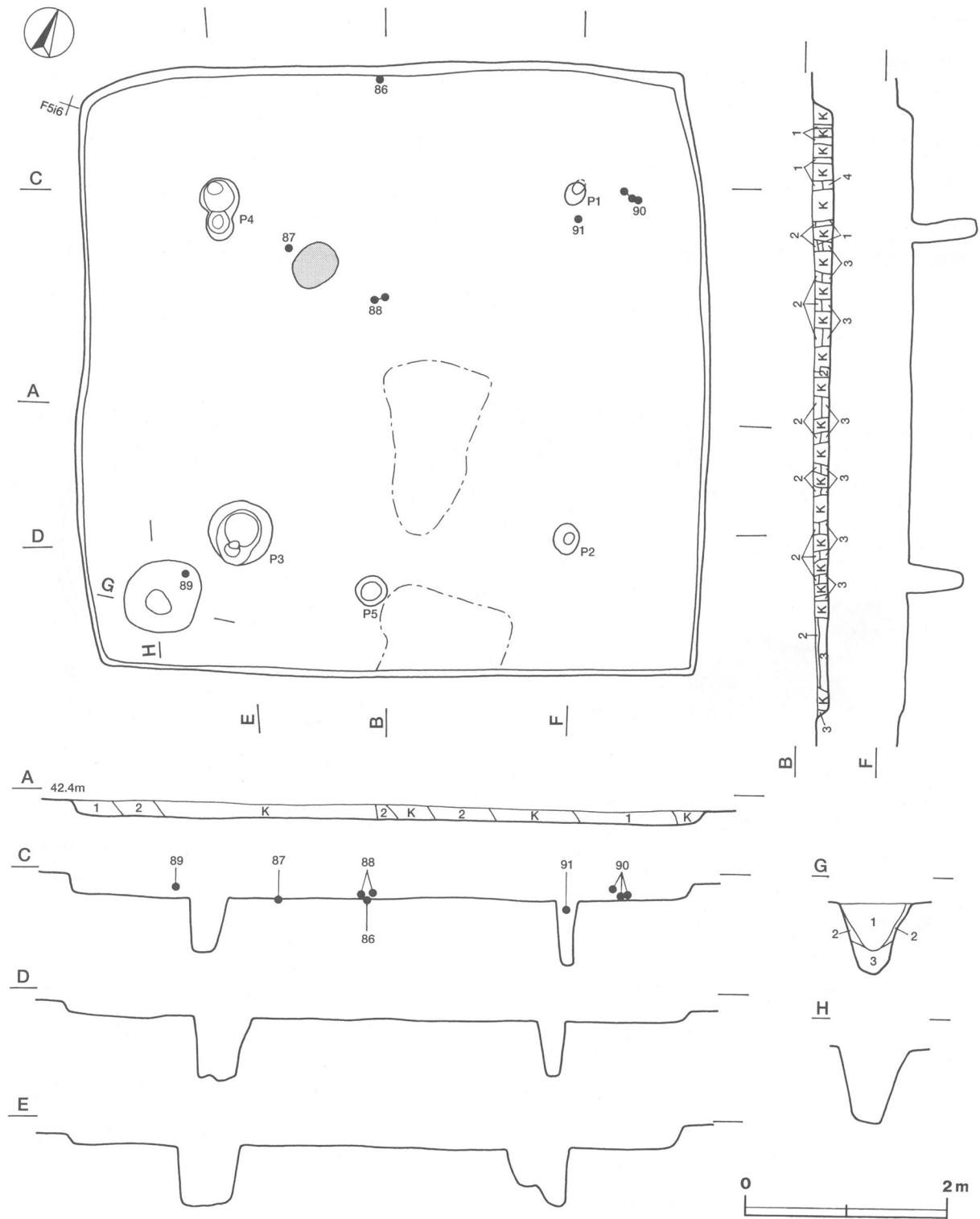
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	壺	-	(2.4)	7.8	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面へら削り, 内面へらナデ	北コーナー部 覆土中層	5%
80	土師器	甕	[16.0]	16.4	[6.7]	石英・長石	橙	普通	体部外面へら削り, 内面へらナデ	貯蔵穴覆土中層	60% PL23
81	土師器	甕	[11.8]	(16.2)	-	石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面へらナデ 体部内・外面へら削り	南コーナー部 覆土上層	20% PL24
82	土師器	小形甕	[6.6]	10.3	3.6	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部内・外面へらナデ 体部外面へら削り, ハケ目調整, 内面へらナデ 底部ハケ目調整	東部覆土上層	40% PL24
83	土師器	甕	[21.5]	12.8	6.0	石英・長石	赤橙	普通	口縁部下端指頭による押圧 体部外面へら削り, 内面へらナデ	貯蔵穴覆土上層	40% PL24



第24号住居跡 (第30図)

位置 調査区の東部, F5i7区。標高42.3mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.28m, 短軸6.13mの方形である。壁は高さ5~24cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-21°-Wである。



第30図 第24号住居跡実測図

床 平坦である。炉跡の南東側を中心に硬化面が見られる。

炉 中央部やや北寄りに設けられている。長径50cm、短径40cmの楕円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が57～68cm、P5が23cmである。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。一辺75cmほどの不整形で、深さは78cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

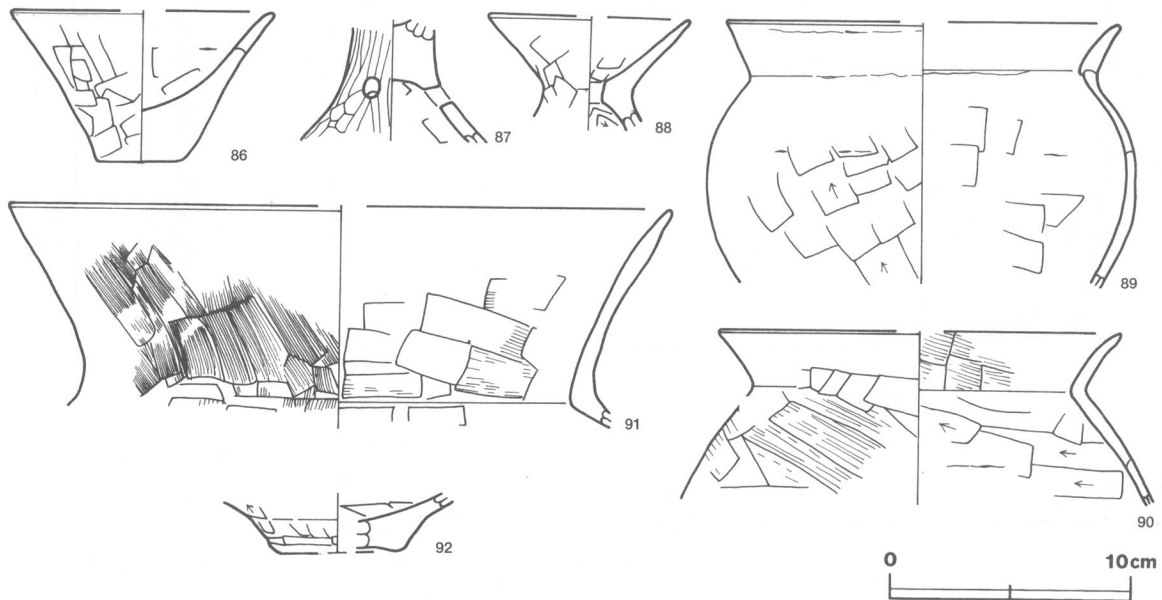
覆土 4層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片319点、礫9点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片14点、須恵器片7点が出土している。遺物は北コーナーからまとまって出土している。

所見 時期は、出土土器等から4世紀代と考えられる。



第31図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表 (第31図)

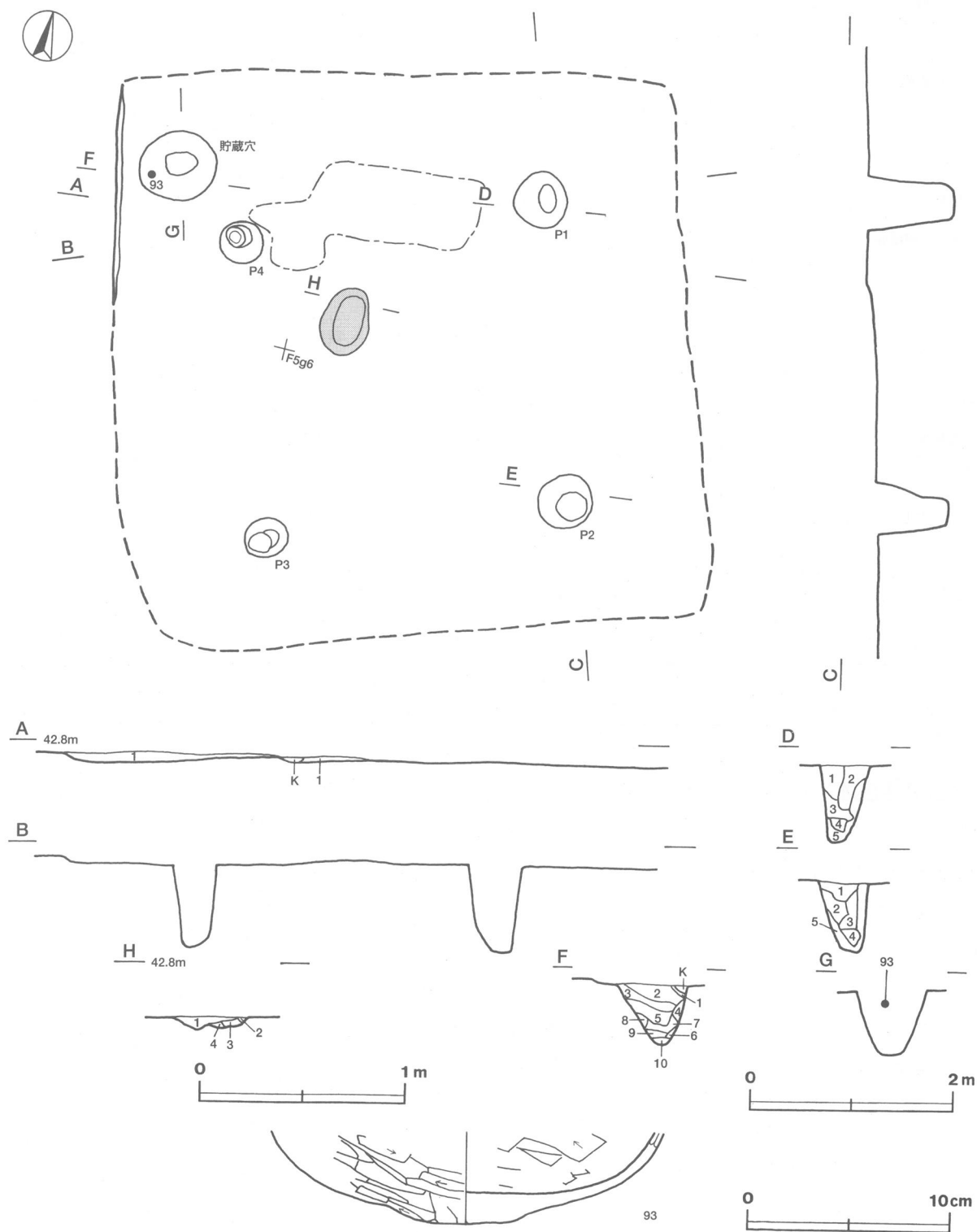
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
86	土師器	鉢	[10.7]	6.3	3.6	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き、内面ヘラナデ	北壁際中央部床面	60% PL23
87	土師器	高坏	-	(5.1)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ 脚部3孔	北西部覆土下層	20%
88	土師器	器台	[8.2]	(4.7)	-	石英・長石	橙	普通	器受部内・外面及び脚部外面ヘラナデ 脚部内面指ナデ	中央部覆土下層	50%
89	土師器	甕	[16.4]	(10.9)	-	石英・長石	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	南西部覆土上層	20% PL24
90	土師器	甕	[16.6]	(7.1)	-	石英・長石・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内面及び体部外面ハケ目調整 頸部外面及び体部内面ヘラナデ	北西部覆土中層	10%
91	土師器	甕	[27.4]	(9.1)	-	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整	北西部床面	10%
92	土師器	甕	-	(2.4)	[5.2]	長石	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	南西部覆土中	5%

第26号住居跡（第32図）

位置 調査区の東部，F5f6区。標高42.7mの平坦部に位置している。

規模と形状 壁は削平されていて，北西壁の一部しか遺存していないが，長軸5.62m，短軸5.52mの方形と推定される。北西壁は高さ5cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-19°-Wと推定される。

床 ほぼ平坦である。炉跡の北側に硬化面が見られる。



第32図 第26号住居跡・出土遺物実測図

炉 中央部やや西寄りに設けられている。長径70cm，短径48cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子微量  | 3 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤灰色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 4 明赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量 |

ピット 4か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは70～86cmである。

P1土層解説

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子多量   |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 |                |

P2土層解説

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ローム粒子多量   |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 |                |

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。径70cmほどの円形で，深さは63cmである。

貯蔵穴土層解説

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 明褐色 ローム粒子多量   | 6 にぶい褐色 ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子少量  | 7 褐色 ロームブロック少量    |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 明褐色 ローム粒子多量     |
| 4 褐色 ロームブロック少量  | 9 橙褐色 ローム粒子多量     |
| 5 灰褐色 ローム粒子中量   | 10 にぶい橙褐色 ローム粒子多量 |

覆土 単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説

- |                        |
|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
|------------------------|

遺物出土状況 土師器片60点，礫18点のほか，混入したとみられる弥生土器片2点が出土している。遺物は貯蔵穴から出土しているが，量は少ない。

所見 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
93	土師器	甕	—	(4.6)	5.1	石英・長石	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナデ，内面ヘラ削り・ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	10%

第27号住居跡（第33図）

位置 調査区の東部，F5e6区。標高42.7mの平坦部に位置している。

規模と形状 南壁は削平されているが，長軸6.39m，短軸5.68mの長方形である。壁は高さ2～11cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-26°-Wである。

床 平坦である。硬化面は見られない。北部を中心に炭化材が貼り付くように確認されている。

炉 確認できなかった。

ピット 4か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは73～82cmである。

P4土層解説

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  | 4 にぶい褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 明褐色 ロームブロック中量   |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量          | 6 明褐色 ローム粒子多量     |

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径70cmほどの円形で，深さは64cmである。

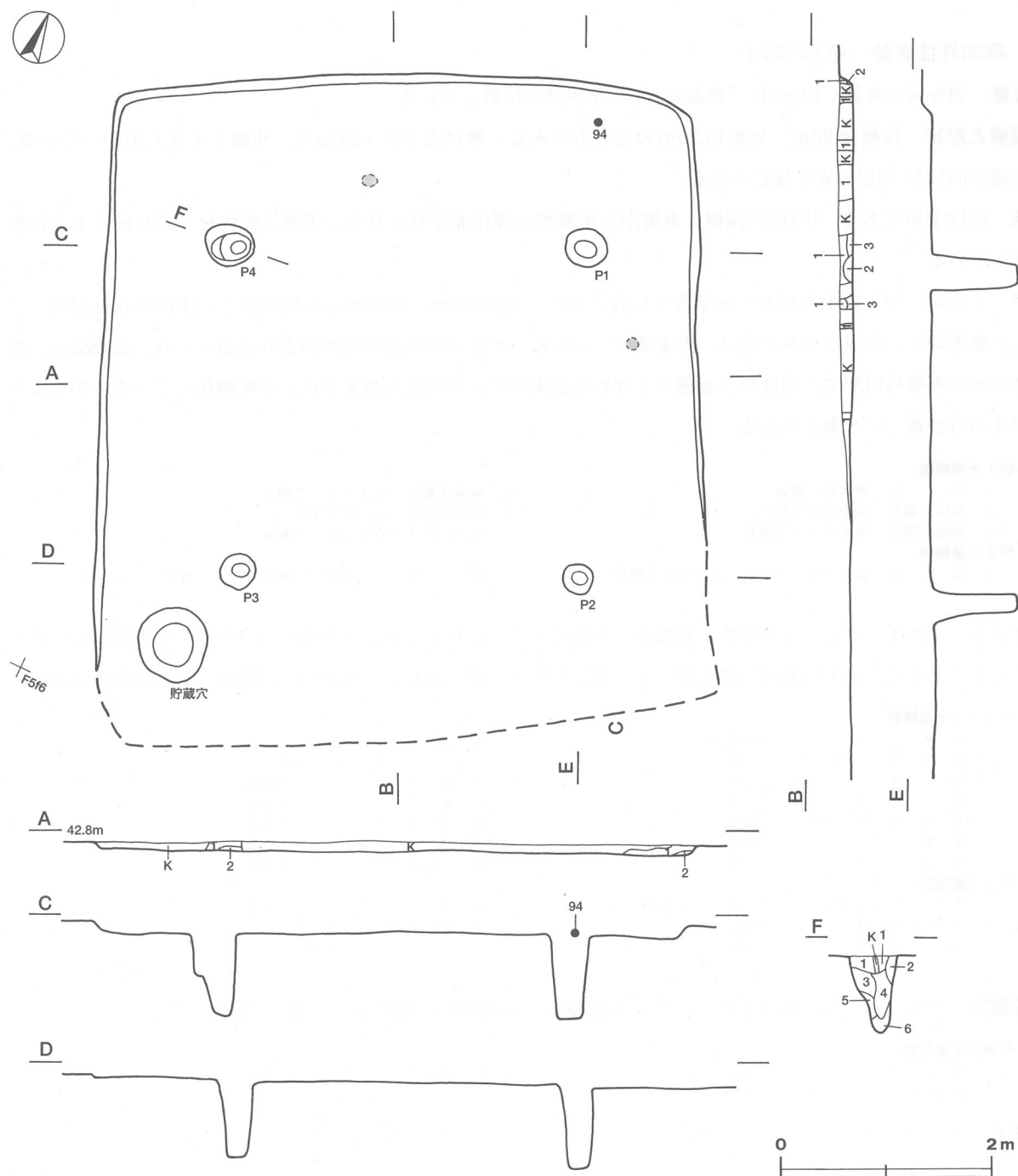
**覆土** 3層からなる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

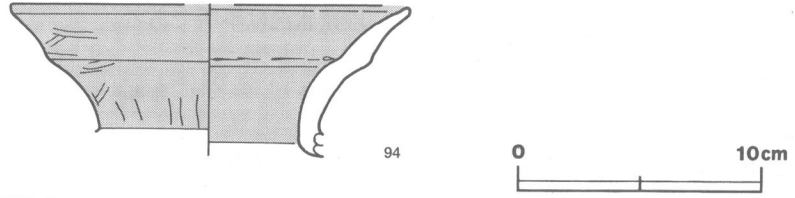
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片86点、礫4点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片12点、須恵器片4点、陶器片2点出土している。遺物は北部から出土しているが、量は少ない。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第33図 第27号住居跡実測図



第34図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
94	土師器	壺	[16.2]	(6.2)	—	雲母・黒色粒子	橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き・ヘラナデ 内・外面赤彩	北コーナー部覆土下層	10% PL23

第28号住居跡 (第35・36図)

位置 調査区の東部, F5g3区。標高42.6mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸16.20m, 短軸13.20mの長方形である。壁は高さ5~21cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-19°-Wと推定される。

床 ほぼ平坦である。炉1跡の西側と東壁際と南壁際に硬化面が見られる。床面に炭化材が貼り付くように散在している。

炉 2か所。炉1は中央部やや北東寄りに設けられ, 長径148cm, 短径98cmの楕円形で, 床面を12cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉2は中央部やや南西寄りに設けられ, 長径82cm, 短径62cmの不整楕円形で, 床面を5cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉2より炉1の方が新しいと考えられる。

炉1土層解説

- 1 黒色 焼土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子少量
- 3 極暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 4 極暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子少量
- 6 明赤褐色 焼土ブロック微量

炉2土層解説

- 1 黒色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子・焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1~4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部やや東寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1~4が130~155cm, P5が58cmである。

P1~4土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ロームブロック微量
- 11 黒褐色 ロームブロック微量
- 12 暗褐色 ロームブロック中量
- 13 暗褐色 ロームブロック中量
- 14 極暗褐色 ロームブロック微量

P5土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 灰褐色 ローム粒子少量

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長軸106cm, 短軸86cmの長方形で, 深さは73cmである。

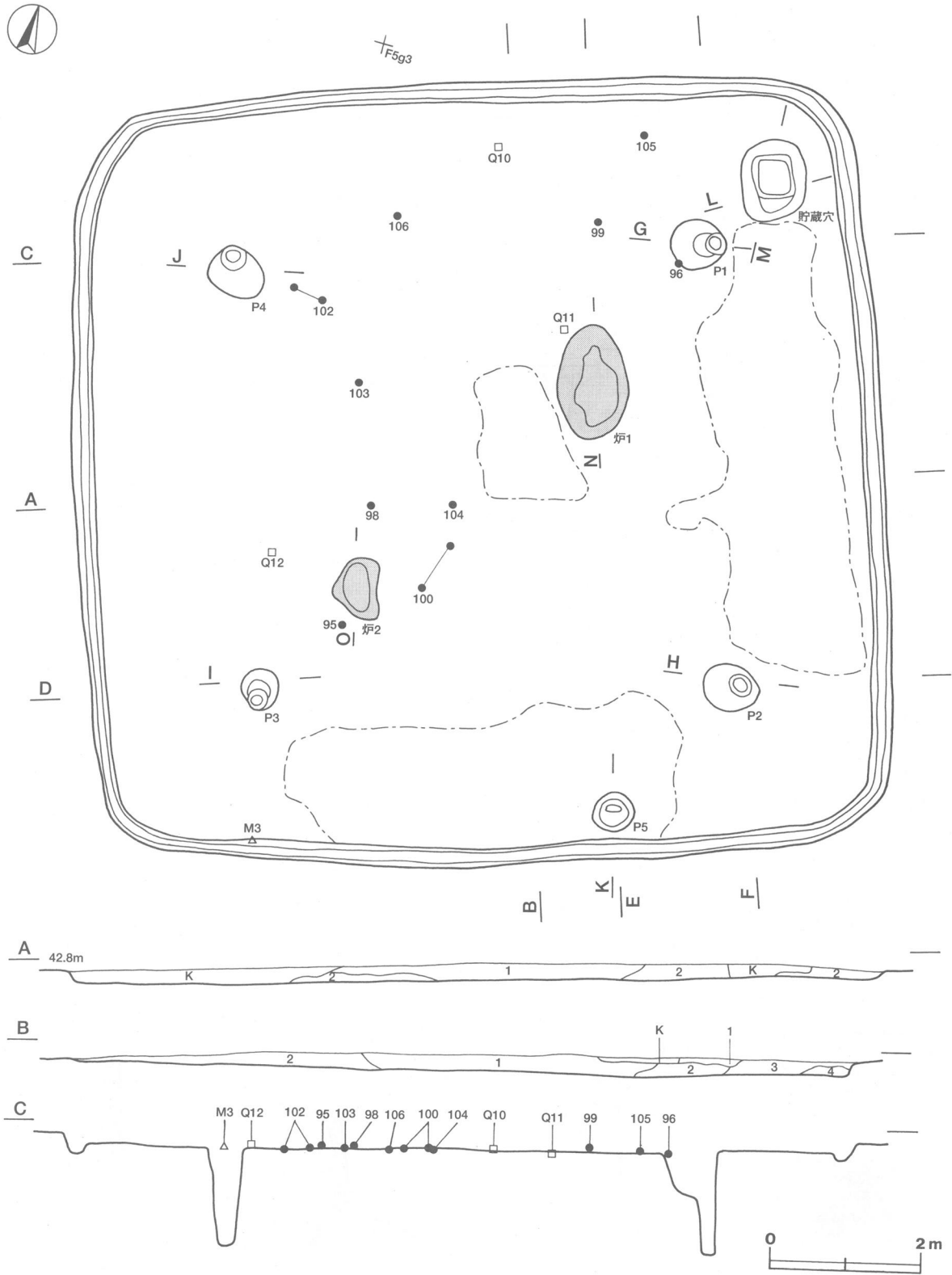
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

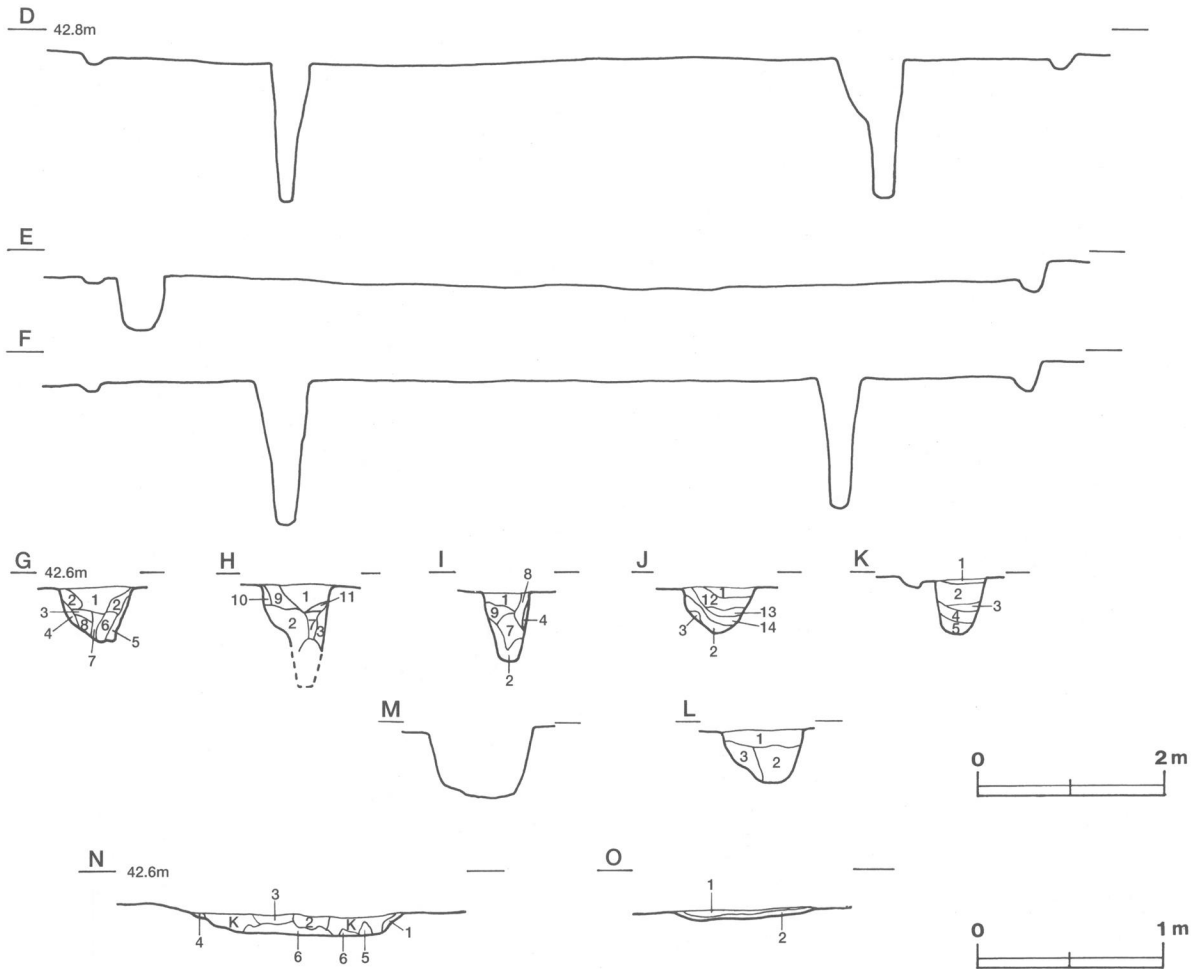
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック微量      | 3 黒色  | ロームブロック少量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |



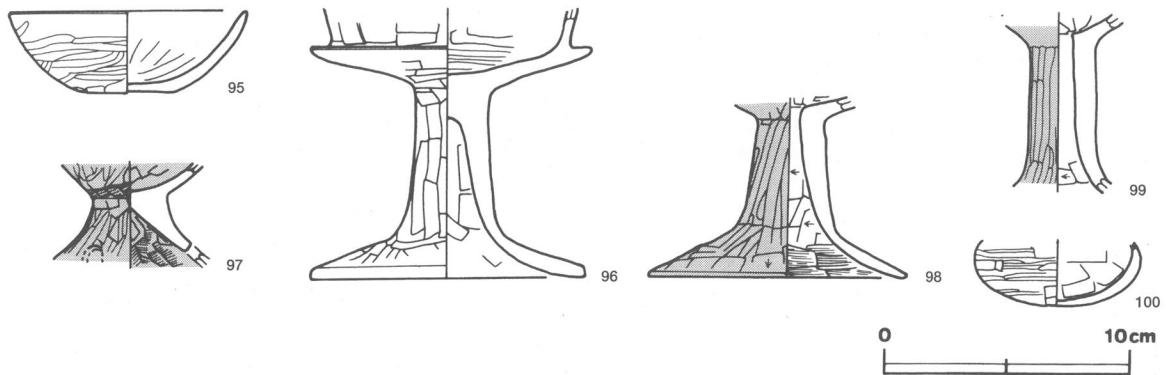
第35図 第28号住居跡実測図(1)



第36図 第28号住居跡実測図（2）

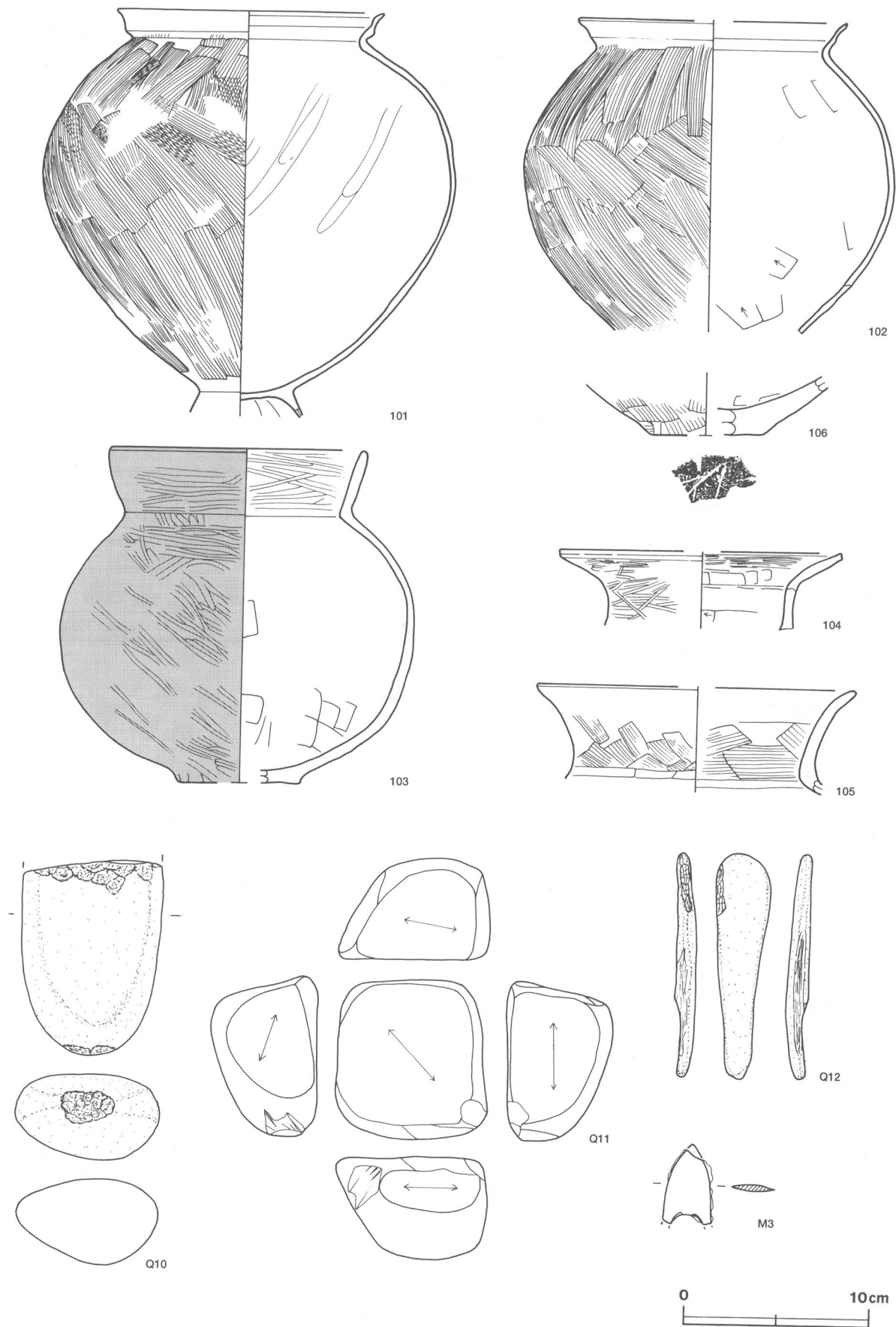
**遺物出土状況** 土師器片1019点，敲石1点，磨石2点，礫18点，粘土塊3点，鉄鏝1点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片50点，須恵器片12点が出土している。遺物は床面全体に広がるように出土している。

**所見** 炭化材が床面から貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。また，本跡は当遺跡において最大規模の住居跡である。時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



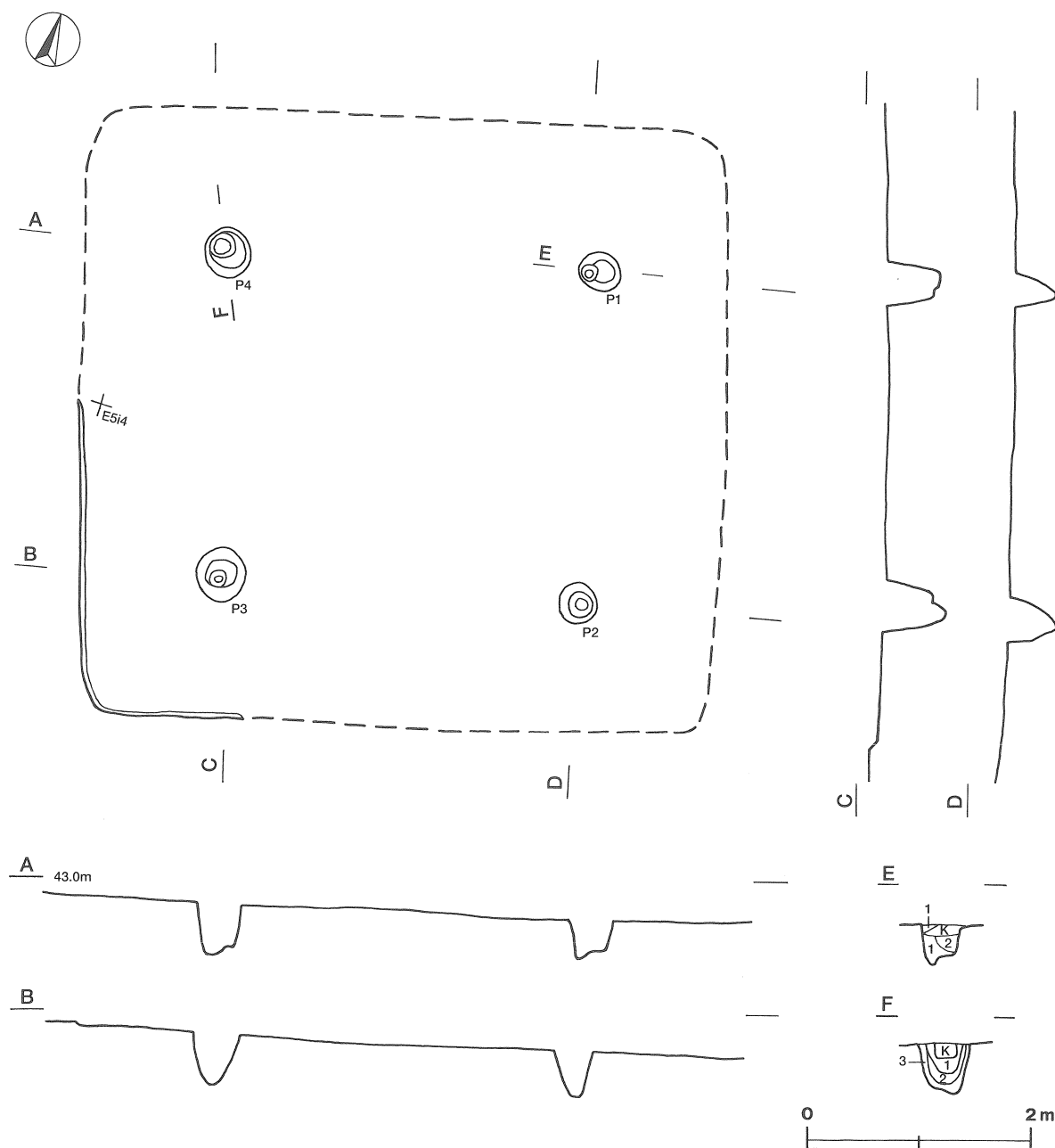
第37図 第28号住居跡出土遺物実測図（1）





第38図 第28号住居跡出土遺物実測図(2)





第39図 第29号住居跡実測図

第30号住居跡 (第40図)

位置 調査区の東部, E5f8区。標高42.6mの平坦部に位置している。

規模と形状 壁は削平されているが, 長軸5.13m, 短軸5.12mの方形と推定される。主軸方向はN-60°-Wと推定される。

床 ほぼ平坦である。炉跡の周辺に硬化面が見られる。

炉 中央部やや西寄りに設けられ, 長径68cm, 短径46cmの不整楕円形で, 床面を10cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉床の中央部に長さ22cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 4か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。ピットの形状から建て替えがあった可能性が考えられる。深さは65～77cmである。

**P2土層解説**

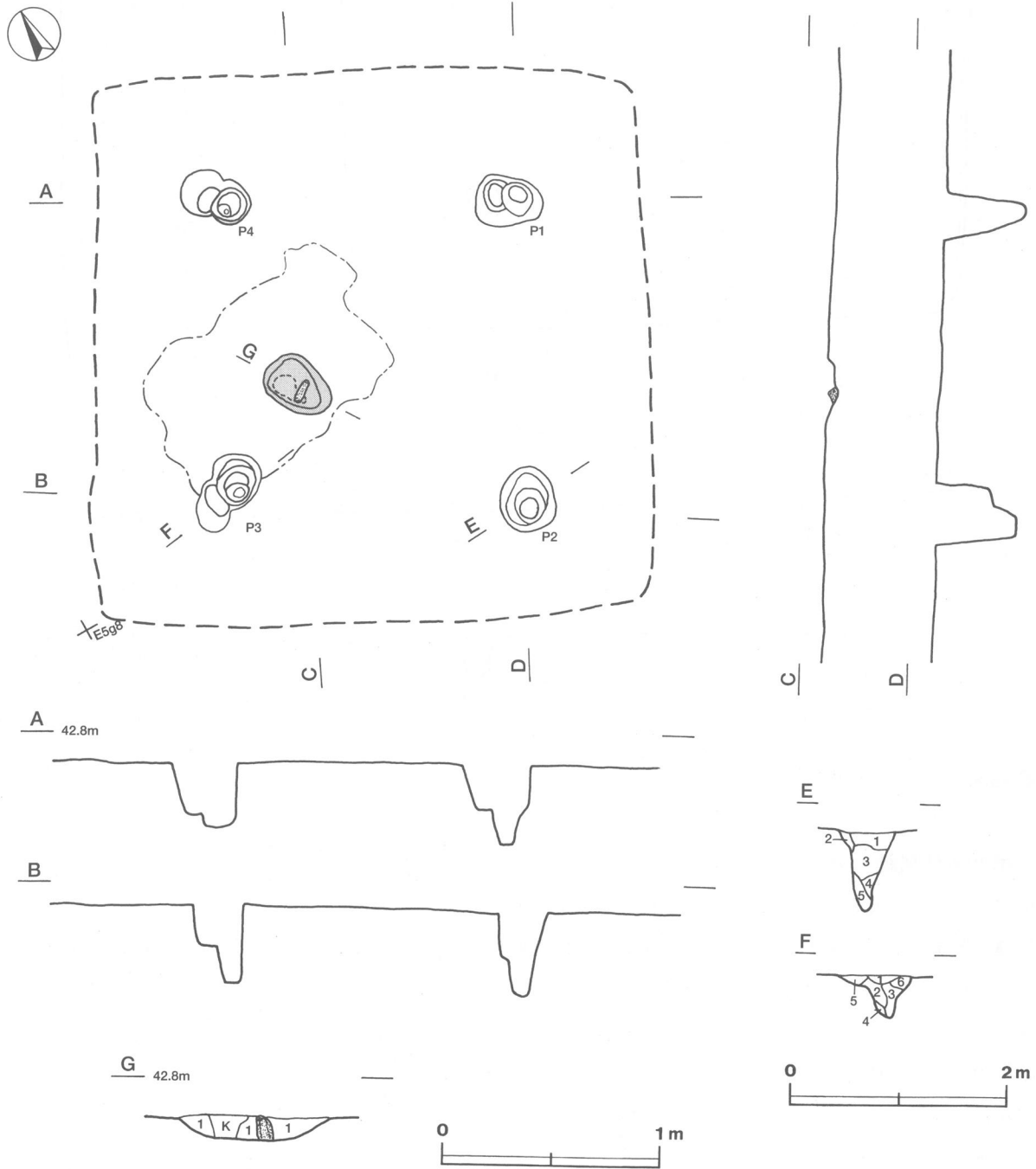
- |       |                           |       |                         |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量      | 5 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量    |       |                         |

**P3土層解説**

- |       |                          |       |                           |
|-------|--------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒色  | 焼土粒子・炭化粒子中量, 灰少量         | 4 黒色  | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量  |
| 2 黒色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量      |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |

**遺物出土状況** 土器器細片4点, 炉石1点が出土している。遺物は炉石跡の周辺からわずかに出土している。

**所見** 時期は, 出土土器等から4世紀代と考えられる。



第40図 第30号住居跡実測図

第31号住居跡 (第41図)

位置 調査区の東部, E6e3。標高42.2mの平坦部に位置している。

規模と形状 壁は削平されているが, 長軸5.17m, 短軸4.65mの長方形と推定される。主軸方向はN-29°-Eである。

床 平坦である。硬化面は見られない。

炉 3か所。三つ隣接する形で中央部に設けられている。炉1は長径101cm, 短径62cmの楕円形で, 炉床を8cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉2は長径82cm, 短径60cmの楕円形で, 炉床を8cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉床の西部に長さ12cmほどの炉石を持っている。炉3は長径88cm, 短径51cmの楕円形で, 炉床を13cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。炉床の南東部に長さ22cmほどの炉石を持っている。炉1が古く, 炉2と炉3が共に新しく, しかも同時に使用されていたと考えられる。

炉1土層解説

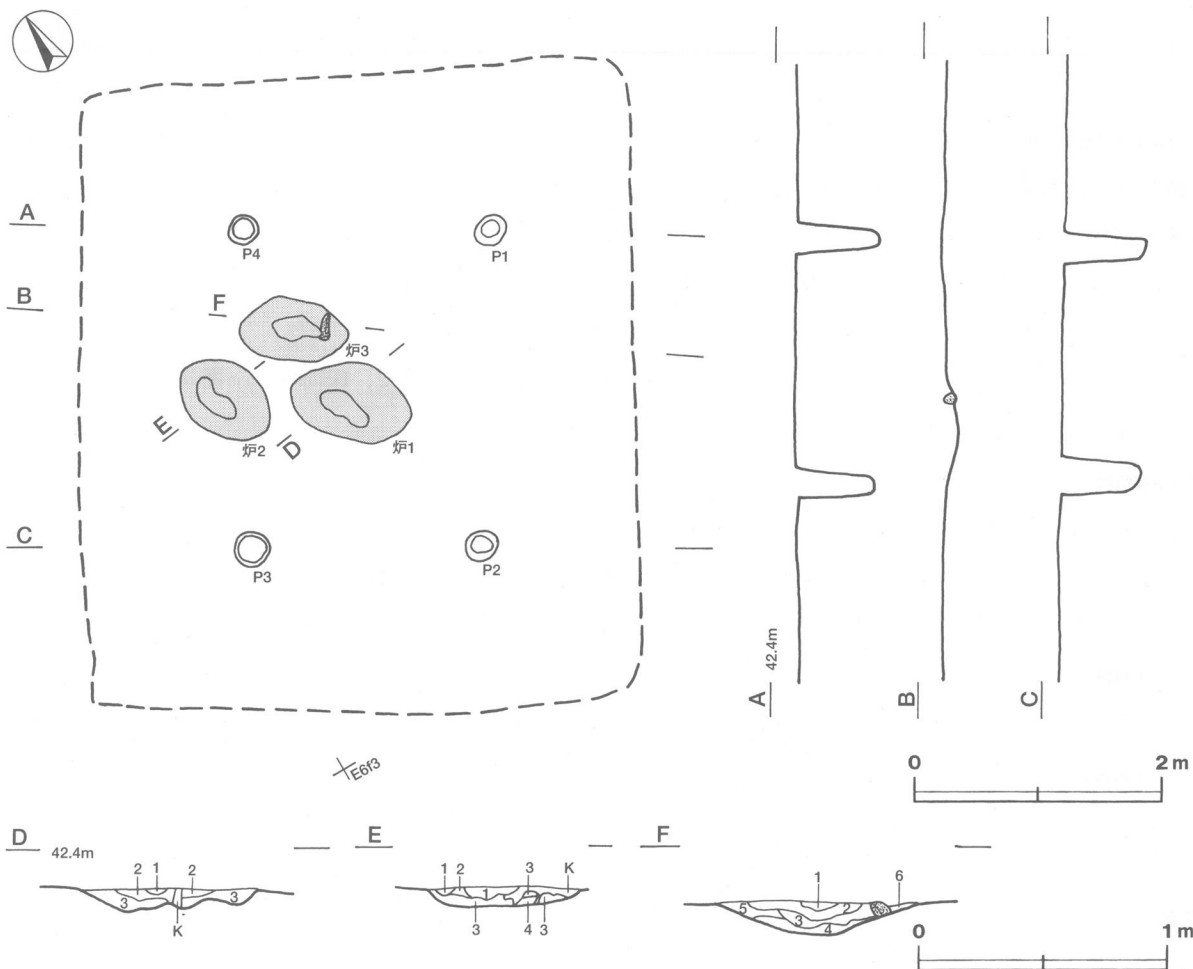
- |          |                        |          |                       |
|----------|------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量           | 3 にぶい赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |          |                       |

炉2土層解説

- |          |                         |       |                 |
|----------|-------------------------|-------|-----------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 3 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 橙色     | ローム粒子中量, 焼土粒子微量         | 4 橙色  | ローム粒子中量         |

炉3土層解説

- |          |                         |        |                       |
|----------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色    | 炭化粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 4 明赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化材微量 |
| 2 暗褐色    | 焼土粒子・炭化粒子中量, ロームブロック微量  | 5 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量  |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量  | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量  |

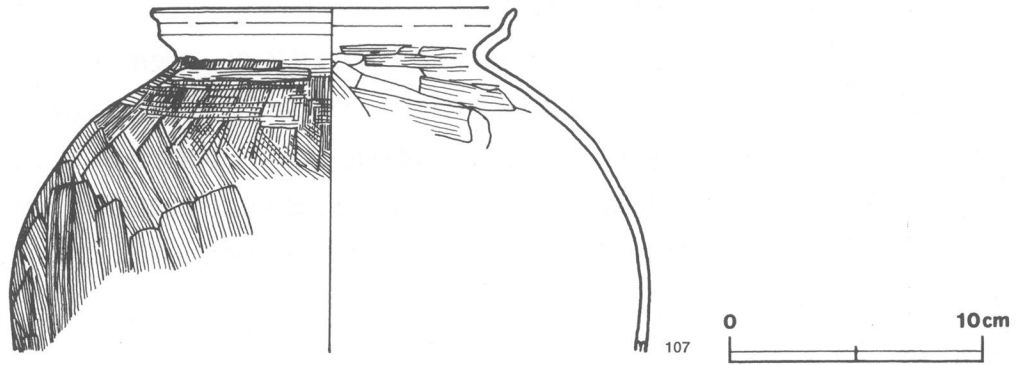


第41図 第31号住居跡実測図

ピット 4か所。P 1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは57～67cmである。

遺物出土状況 土師器片17点、炉石1点、礫3点が出土している。遺物は東コーナーと炉跡周辺からわずかに出土している。

所見 時期は、出土土器物等から4世紀前半と考えられる。



第42図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
107	土師器	台付甕	14.5	(13.5)	—	石英・長石	黒褐	普通	体部外面及び頸部内面ハケ目調整 S字状口縁	東コーナー部床面	20% PL24

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	炉石	15.4	6.3	6.7	825.7	石英斑岩	全面被熱 表面に磨りの痕跡あり	炉跡2底面	未掲載

### 第32号住居跡（第43図）

位置 調査区の東部、E6b5区。標高41.9mの平坦部に位置している。

規模と形状 削平されていて西壁と南壁の一部しか遺存していないが、長軸5.92m、短軸5.00mの長方形と推定される。壁は高さ10～20cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-18°-Wと推定される。

床 ほぼ平坦である。

炉 中央部やや北西寄りに設けられている。長径98cm、短径86cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 3 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量   | 4 極暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量    |

ピット 5か所。P 1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P 5は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1～4が66～80cm、P 5が16cmである。

#### P 2土層解説

- |                            |                       |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 にぶい褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化材微量 | 4 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量  |
| 2 明褐色 ロームブロック・炭化粒子微量       | 5 明褐色 ローム粒子極多量、炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量     | 6 にぶい橙色 ローム粒子多量、炭化材微量 |

#### P 5土層解説

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量        |
| 2 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量      | 5 灰褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量    |                             |

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸110cm、短軸90cmの不整楕円形で、深さ72cmである。

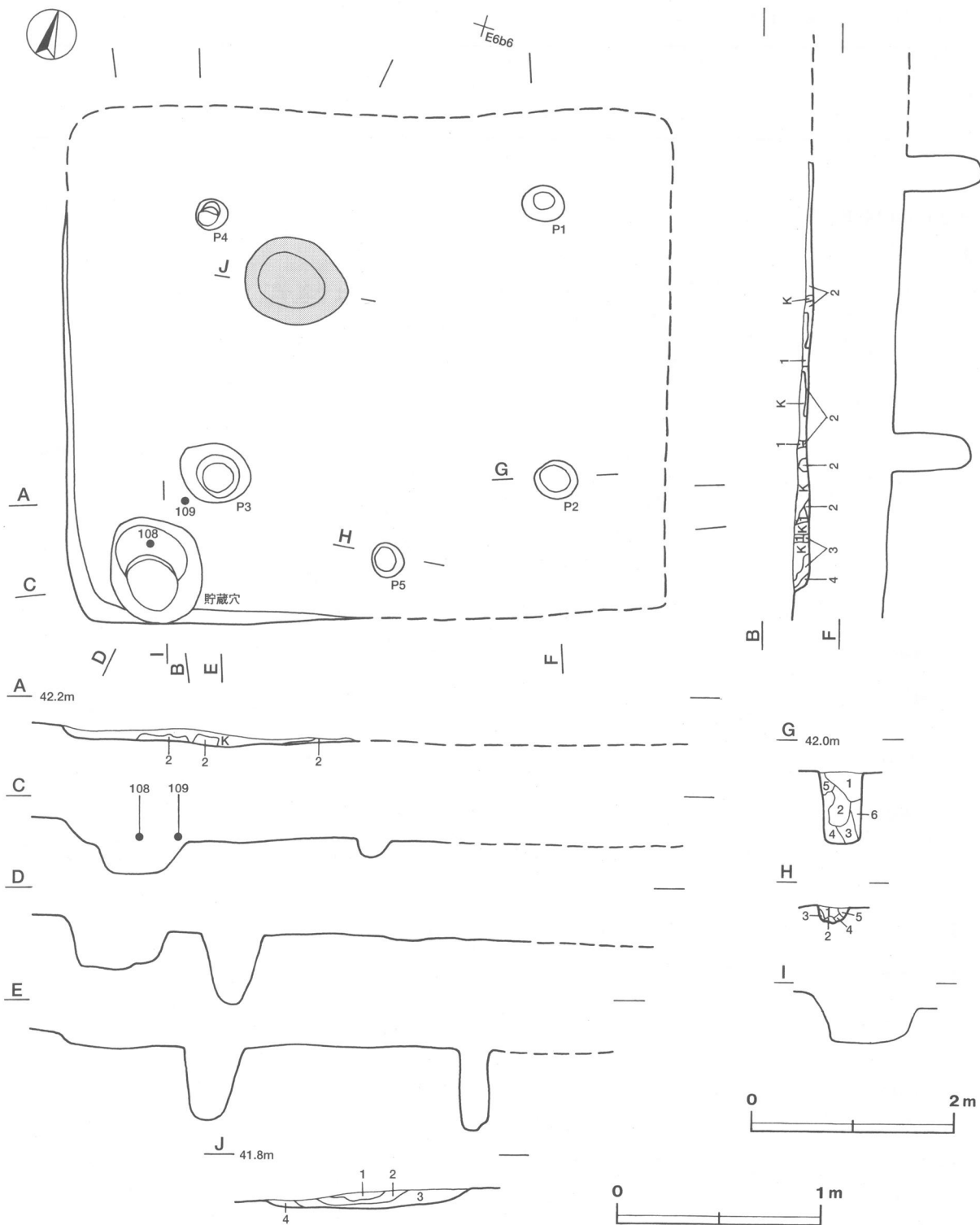
覆土 4層からなる。ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

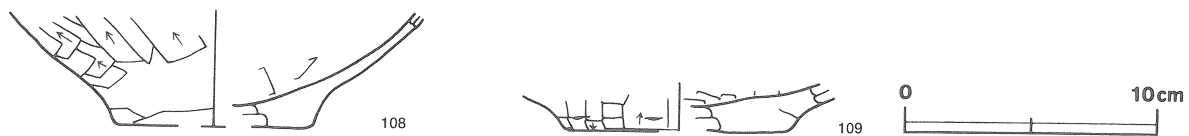
- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片86点, 礫1点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点, 須恵器片1点が出土している。遺物は貯蔵穴及び貯蔵穴周辺から少量出土している。

所見 時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第43図 第32号住居跡実測図



第44図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
108	土師器	甕	—	(4.6)	[7.8]	石英・長石・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	貯蔵穴確認面	10%
109	土師器	甕	—	(1.9)	[8.8]	石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	貯蔵穴北側床面	5%

### 第33号住居跡（第45図）

**位置** 調査区の東部、E5b7区。標高42.6mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 北部が調査区域外となっているため、全体を調査することはできず、また、南西壁しか遺存していないが、長軸4.75m、確認できた短軸4.45mの方形あるいは長方形と推定される。南西壁は高さ6cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-29°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡の東側と西側に硬化面が見られる。

**炉** 2か所。二つは隣接する形で中央部やや西寄りに設けられている。炉1は長径58cm、短径40cmの不整楕円形で、炉床を5cm掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが弱いので、短期間の使用と考えられる。炉2は長径58cm、短径36cmの楕円形で、炉床を7cm掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。その赤変した部分が厚いので、長期間の使用と考えられる。炉1が古く、炉2が新しいと考えられる。

#### 炉1土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック多量

2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

#### 炉2土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック多量

3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

**ピット** 2か所。P1～2は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さはP1が49cm、P2が53cmである。

#### P2土層解説

1 黒色 ロームブロック微量

4 暗褐色 ロームブロック少量

2 極暗褐色 ロームブロック少量

5 暗褐色 ロームブロック中量

3 褐色 ロームブロック中量

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸66cm、短軸48cmの隅丸長方形で、深さは47cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

4 極暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック微量

5 褐色 ロームブロック中量

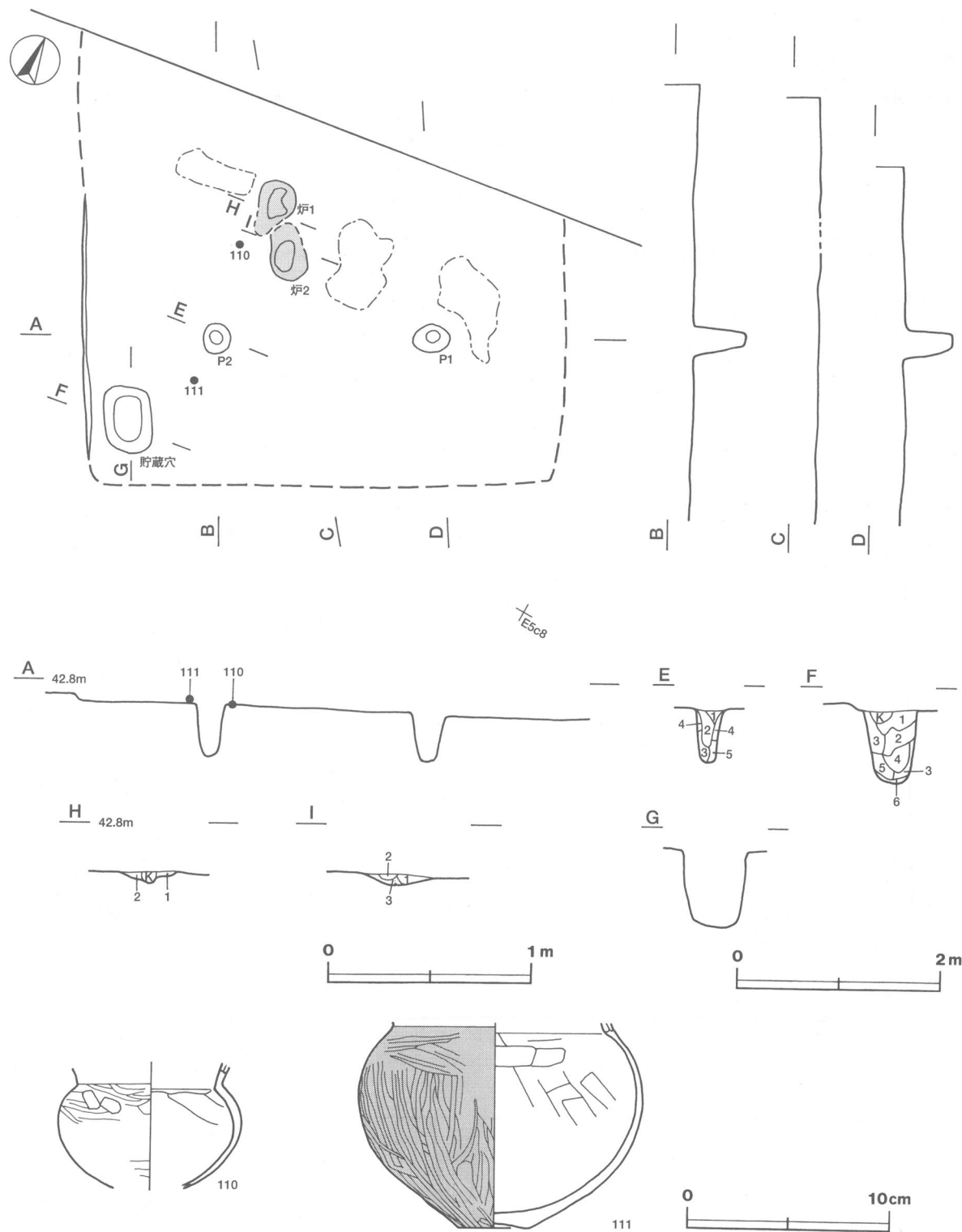
3 暗褐色 ロームブロック中量

6 極暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片35点が出土している。遺物は炉跡の周辺と貯蔵穴周辺から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。





第45図 第33号住居跡・出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
110	土師器	罎	-	(6.3)	-	長石	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	炉跡西側床面	25%
111	土師器	小形甕	-	(10.2)	3.4	石英・長石	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ 外面赤彩	貯藏穴北東側床面	60% PL24

第34号住居跡 (第46図)

位置 調査区の東部, E5g1区。標高43.2mの平坦部に位置している。

規模と形状 壁は南西コーナーの一部しか遺存していないが, 長軸5.76m, 短軸5.12mの長方形と推定される。

南西コーナー壁は高さ6cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-1°-Eである。

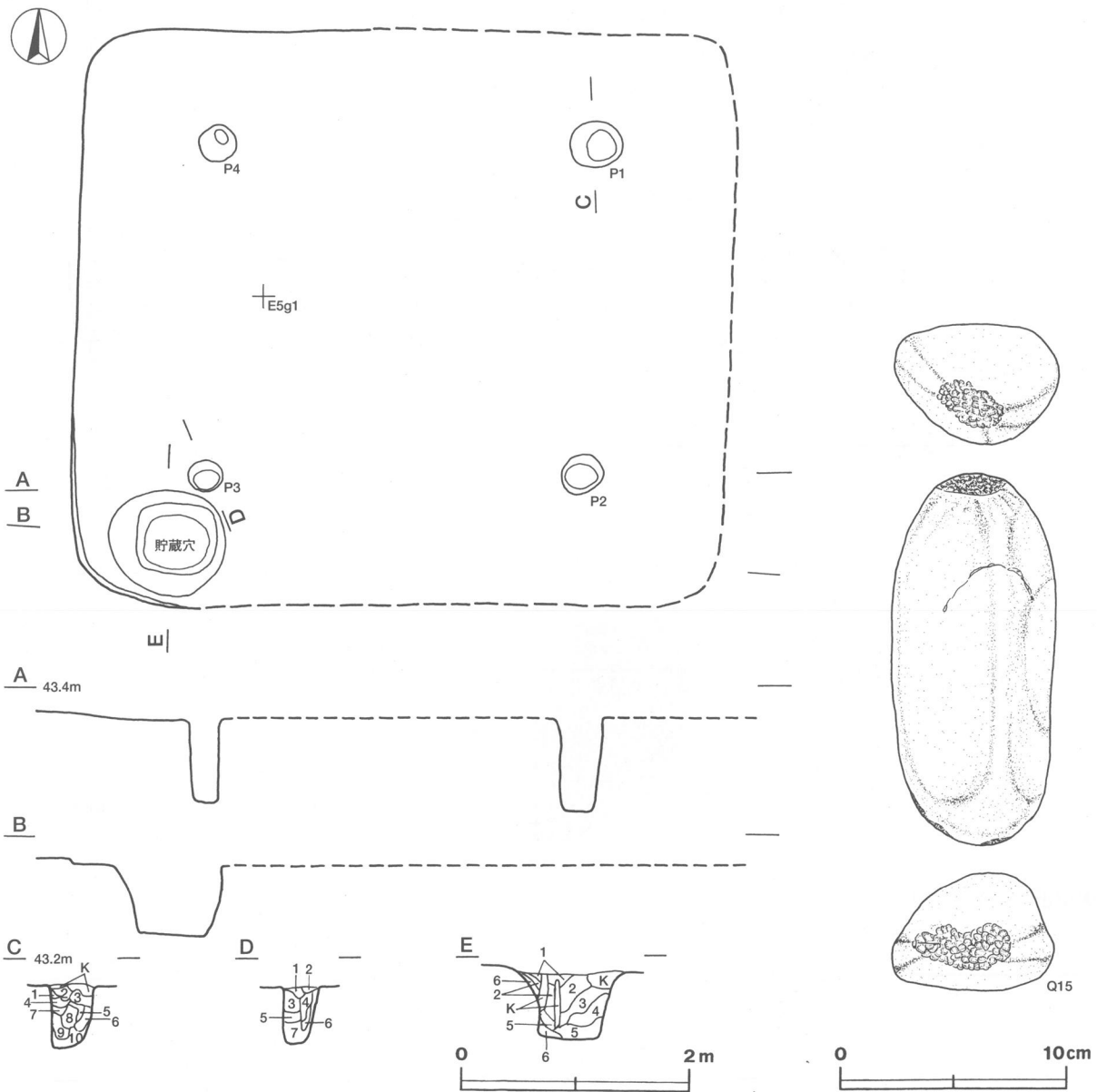
床 ほぼ平坦である。

炉 確認できなかった。

ピット 4か所。P1~4は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは54~88cmである。

P1土層解説

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック微量       | 6 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量        | 7 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック微量         |
| 3 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量       | 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量            |
| 4 にぶい赤褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量            |
| 5 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 10 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量        |



第46図 第34号住居跡・出土遺物実測図

**P 3 土層解説**

- |       |                        |       |                      |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック・炭化粒子中量       |
| 3 褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック少量      | 7 褐色  | ロームブロック・炭化粒子中量       |
| 4 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子少量        |       |                      |

**貯蔵穴** 南西コーナー部に付設されている。長軸100cm, 短軸94cmの隅丸方形で, 深さは59cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                        |       |                   |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 4 暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック少量 |
| 2 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色  | 炭化粒子中量, ロームブロック微量 |

**遺物出土状況** 土師器細片 7点, 敲石 1点, 礫 2点が出土している。遺物は, 貯蔵穴からわずかに出土しているだけである。

**所見** 時期は, 出土土器等から 4世紀代と考えられる。

第34号住居跡出土遺物観察表 (第46図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	敲石	16.5	7.1	5.3	905.5	砂岩	両端部に敲打痕あり	貯蔵穴覆土中	PL30

**第36号住居跡 (第47図)**

**位置** 調査区の中央部, F4a0区。標高43.2mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.43m, 短軸4.90mの長方形である。壁は高さ10~19cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-20°-Wである。

**床** 平坦である。中央部を中心に広い範囲で硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径64cm, 短径44cmの楕円形で, 炉床を6cm掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

**炉土層解説**

- |        |                      |         |                           |
|--------|----------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗赤褐色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量      |
| 2 暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 極暗赤褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |

**ピット** 5か所。P 1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P 5は南東壁際中央部やや西寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1~4が50~80cm, P 5が29cmである。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。径50cmの円形で, 深さは47cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                         |       |                      |
|-------|-------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 5 暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック微量    |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 6 暗褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 7 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子中量      |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |       |                      |

**覆土** 20層からなる。トレンチャーによる攪乱が多く見られるが, 各層に炭化粒子や焼土粒子などが見られることから人為堆積と考えられる。

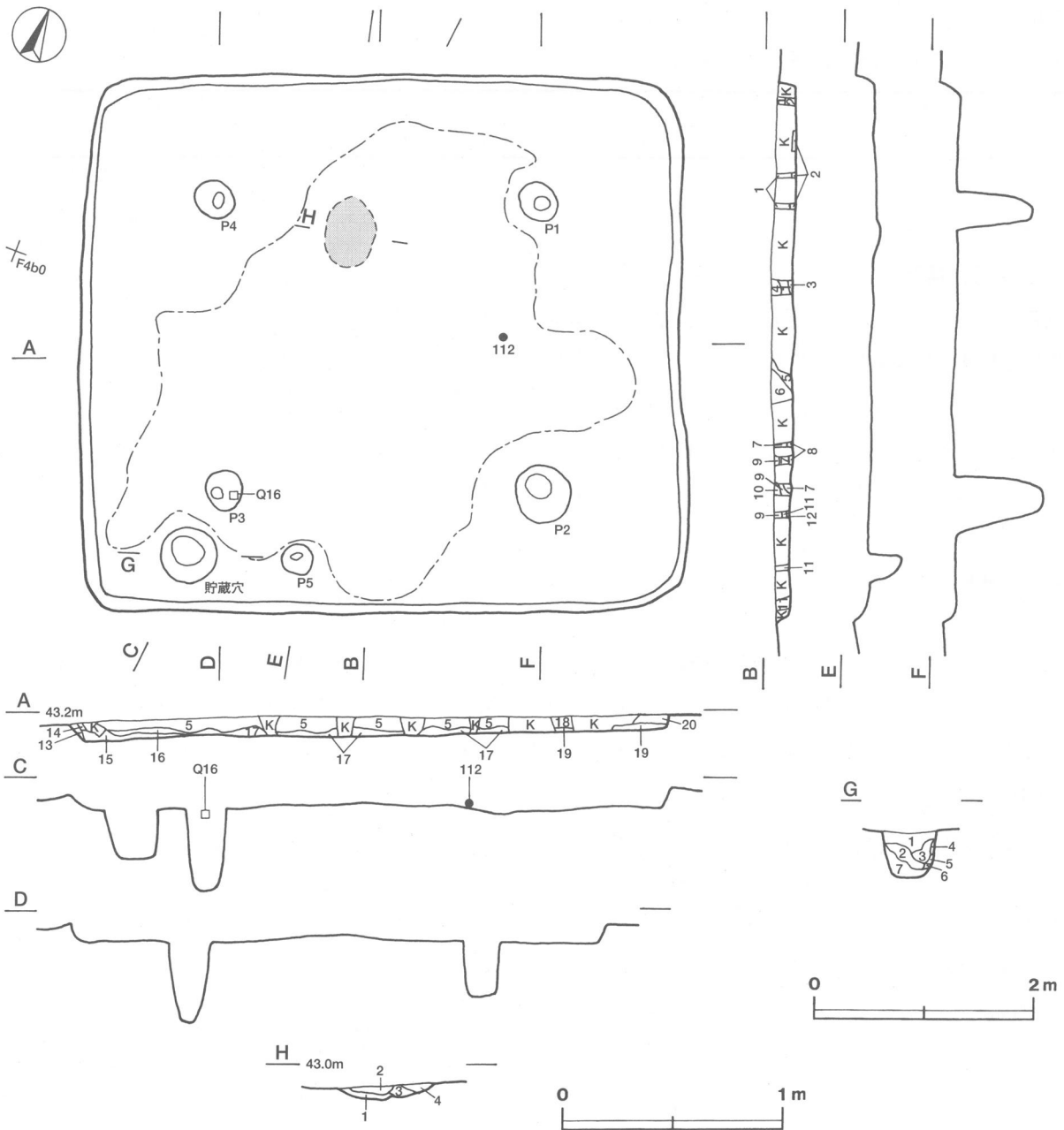
**土層解説**

- |       |                        |       |                         |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量  |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック微量      | 6 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    |
| 3 褐色  | 炭化粒子中量, ロームブロック微量      | 7 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

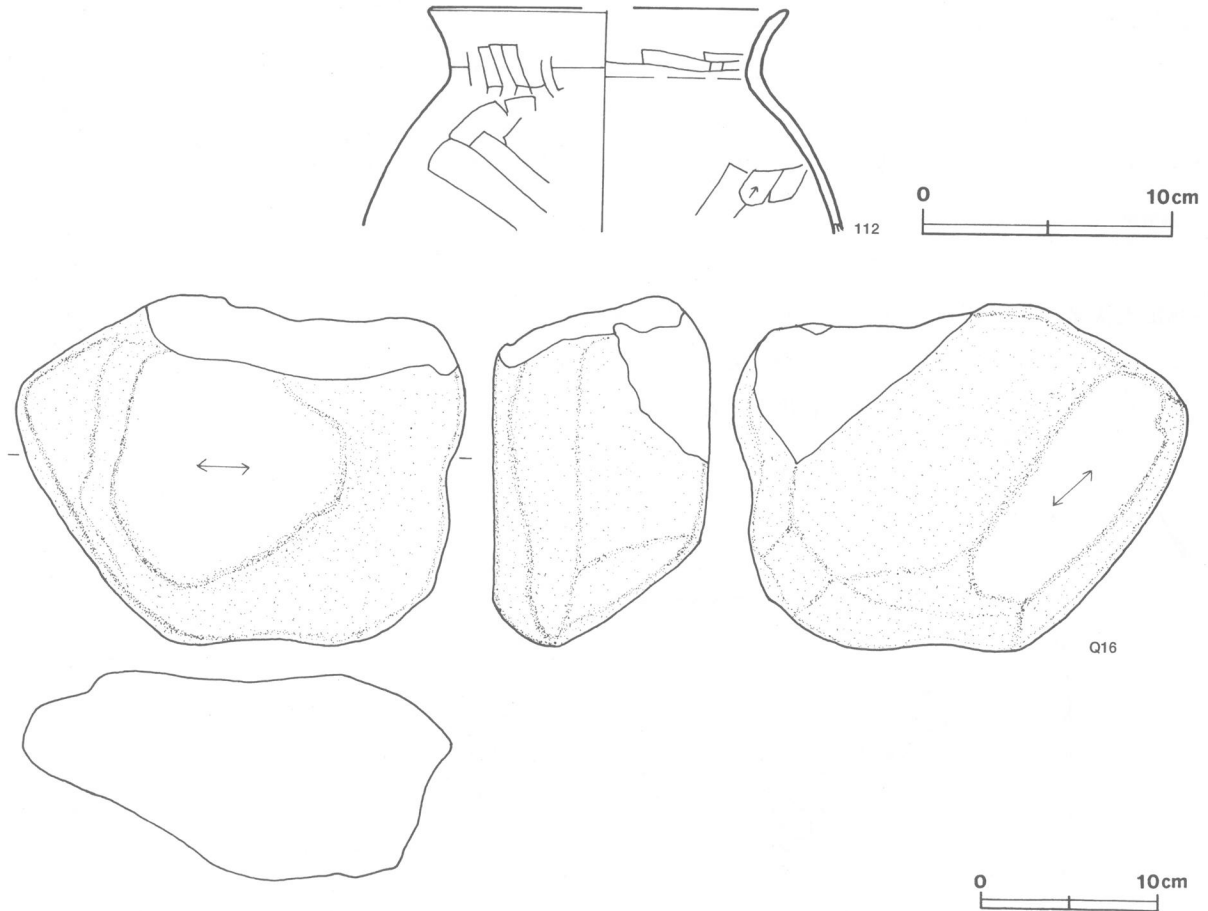
- |        |                        |         |                             |
|--------|------------------------|---------|-----------------------------|
| 9 黒褐色  | 炭化粒子多量, ローム粒子微量        | 15 暗褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 10 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 16 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量    |
| 11 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 17 極暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量    |
| 12 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量 | 18 黒色   | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 13 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子微量        | 19 黒褐色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 14 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 20 黒色   | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量        |

**遺物出土状況** 土師器片93点, 陶器片1点, 石皿1点, 礫7点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片10点, 須恵器片4点が出土している。遺物は床面中央部と貯蔵穴周辺から出土している。

**所見** 覆土中に多量の炭化粒子や焼土粒子等が含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第47図 第36号住居跡実測図



第48図 第36号住居跡出土遺物実測図  
第36号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
112	土師器	甕	[14.2]	(8.9)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	頸部内・外面ヘラナデ 体部内・外面ヘラ削り	中央部覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	石皿	19.7	25.4	12.2	7780.0	砂岩	周辺部被熱 皿状の凹面擦痕あり	P 3 覆土中	PL30

第37号住居跡（第49・50図）

位置 調査区の東部，G5b8区。標高42.3mの平坦部に位置している。

規模と形状 北コーナー付近の壁が一部削平されているが，長軸5.75m，短軸5.72mの方形である。壁は高さ4～6cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-28°-Wである。

床 ほぼ平坦である。貯蔵穴の周辺の南コーナー付近に硬化面が見られる。

炉 中央部やや西寄りに設けられている。長径64cm，短径44cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が58～72cm，P5が31cmである。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に、貯蔵穴2は東コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は径50cmの円形で、深さは65cmであるが、性格不明のピットの可能性も考えられる。貯蔵穴2は径50cmほどの不整形円形で、深さは36.5cmである。

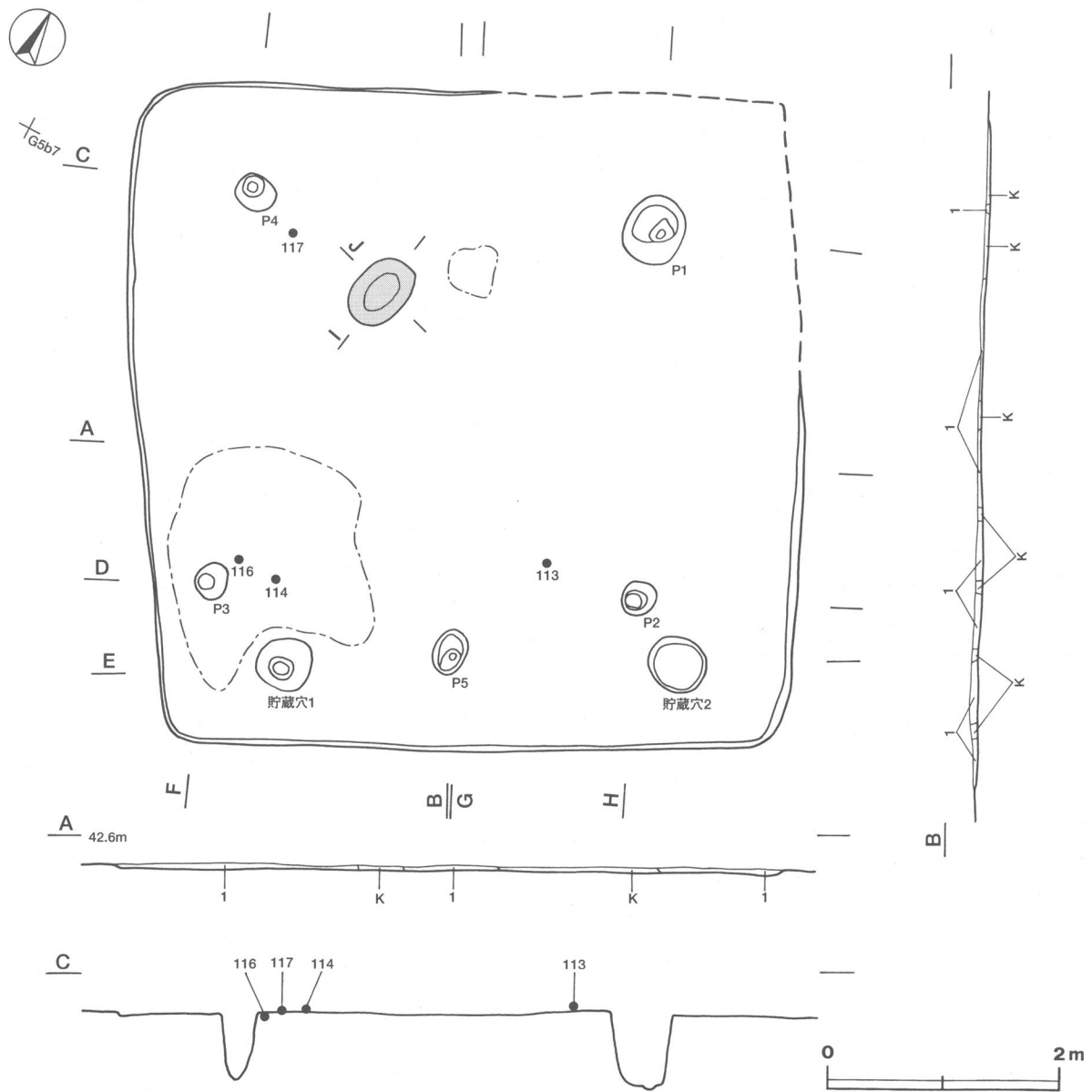
**覆土** 単一層である。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

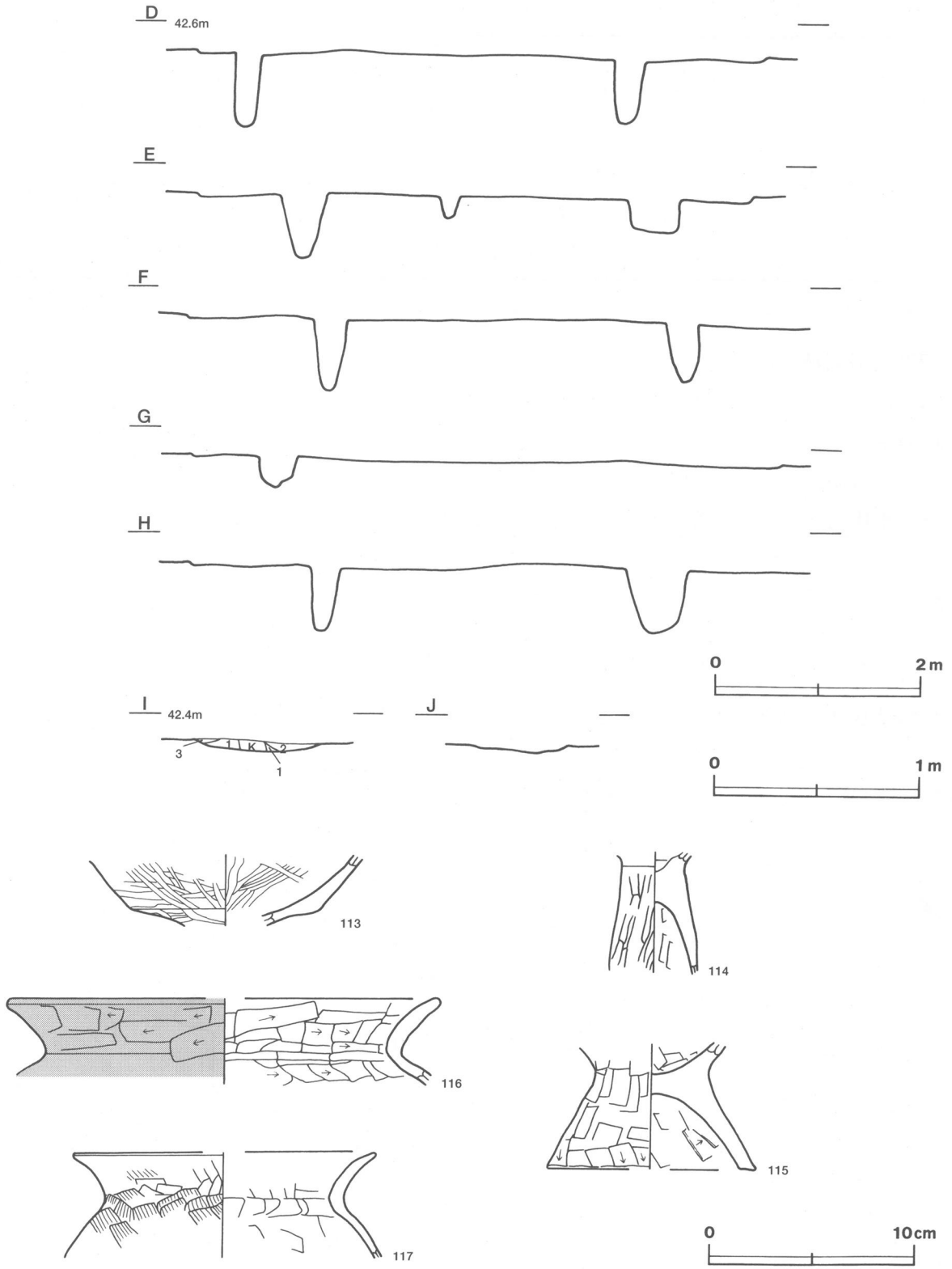
1 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量

**遺物出土状況** 土師器片312点、礫5点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片13点、陶器片2点が出土している。遺物は東コーナーから南コーナーにかけて出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第49図 第37号住居跡実測図



第50図 第37号住居跡・出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
113	土師器	高坏	-	(7.0)	-	石英・長石・白色粒子	橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	東コーナー部床面	10%
114	土師器	高坏	-	(6.0)	-	長石	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面指ナデ・ヘラナデ	南コーナー部床面	10%
115	土師器	台付甕	-	(6.2)	[10.3]	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部内面及び台部内・外面ヘラナデ 台部外面下端ヘラ削り	覆土中	15%
116	土師器	甕	[20.8]	(4.2)	-	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面ヘラ削り 外面赤彩	南コーナー部床面	10%
117	土師器	甕	[14.8]	(5.2)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後横ナデ、内面ヘラナデ 体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ	西コーナー部床面	5%

第38号住居跡（第51図）

**位置** 調査区の東部，G5b6区。標高42.3mの平坦部に位置している。

**重複関係** 南部が調査区域外となっているため，全体を調査することはできなかった。西側は第39号住居に，東壁際中央部は第3号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた長軸4.78m，短軸4.45mで方形または長方形と推定される。主軸方向はN-27°-Wである。

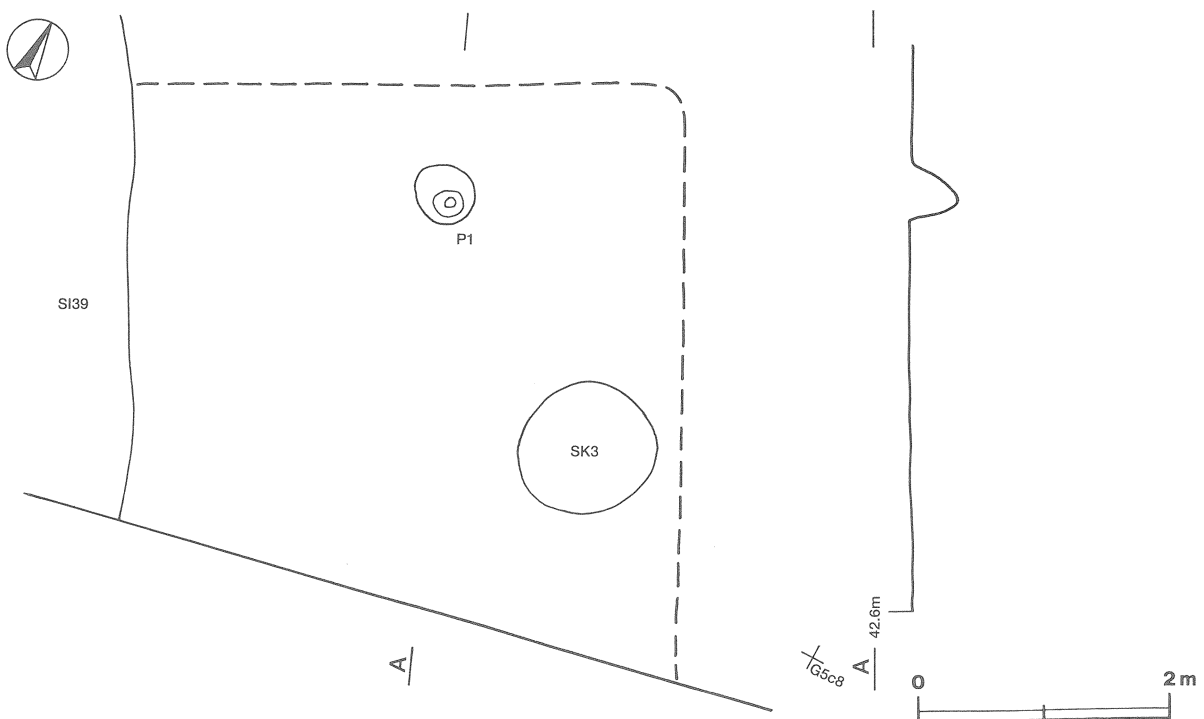
**床** 平坦である。

**炉** 確認されなかった。

**ピット** 1か所。P1は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは38cmである。

**遺物出土状況** 土師器細片6点のほか，攪乱等により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。遺物はP1の周辺からわずかに出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



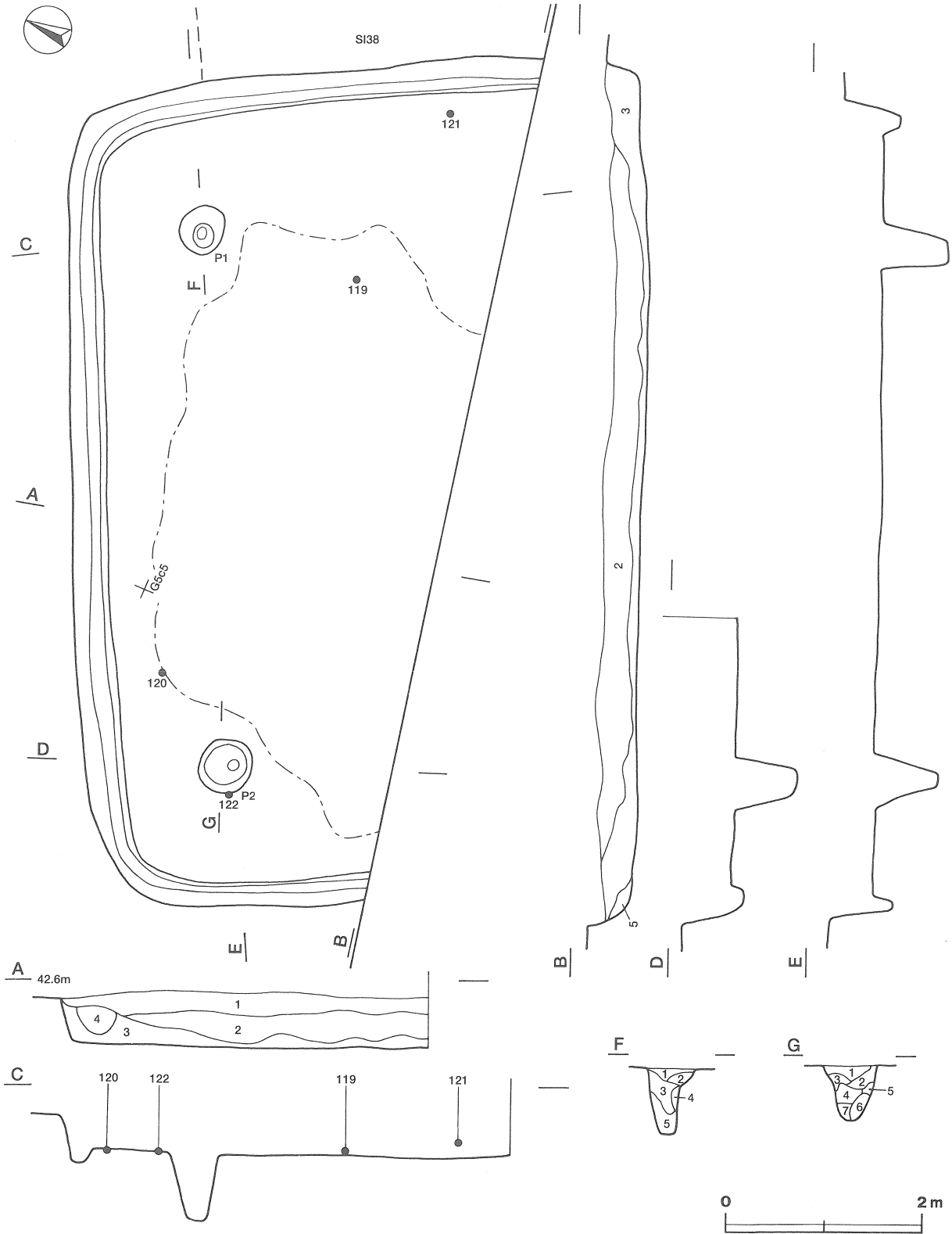
第51図 第38号住居跡実測図



第39号住居跡（第52図）

位置 調査区の東部，G5c5区。標高43.6mの平坦部に位置している。

重複関係 南部が調査区域外となっているため，全体を調査することはできなかった。東側で第38号住居跡を掘り込んでいる。



第52図 第39号住居跡実測図

**規模と形状** 長軸8.48m, 確認できた短軸4.62mで方形または長方形と推定される。壁は高さ37~46cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-25°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅18~30cm, 下幅10~14cm, 深さ14~20cmで, 断面形はU字形である。床面に貼り付くように炭化材が確認されている。

**炉** 確認できなかった。

**ピット** 2か所。P1・2は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは65~70cmである。

**P1土層解説**

- |       |                        |      |           |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量   |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量      |      |           |

**P2土層解説**

- |       |                 |       |           |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量  | 6 明褐色 | ローム粒子多量   |
| 3 褐色  | ロームブロック少量       | 7 明褐色 | ローム粒子中量   |
| 4 黒色  | ロームブロック少量       |       |           |

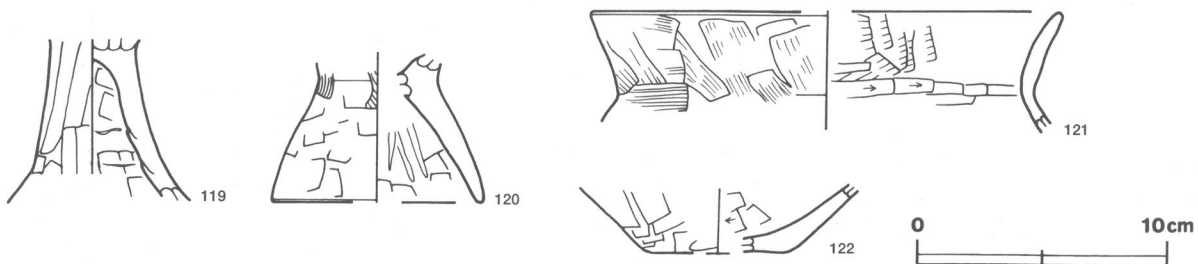
**覆土** 6層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                |      |           |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量      | 4 黒色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒色  | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量      |      |           |

**遺物出土状況** 土師器片604点, 礫8点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片50点, 須恵器片1点が出土している。遺物は床面に広がるように出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第53図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
119	土師器	高坏	-	(6.5)	-	石英・長石	橙	普通	脚部外面ヘラナデ, 内面指ナデ・ヘラナデ	北東壁際覆土上層	30%
120	土師器	台付甕	-	(6.0)	[8.4]	長石・雲母	橙	普通	台部外面ハケ目調整・ヘラナデ, 内面ヘラナデ・ヘラ磨き	北西部床面	10%
121	土師器	甕	[18.6]	(4.8)	-	石英・長石	浅黄橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整 頸部内面ヘラナデ	北東壁際覆土下層	5%
122	土師器	甕	-	(2.9)	[5.6]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	西コーナー部床面	5%

**第40号住居跡 (第54図)**

**位置** 調査区の南部, G4d9区。標高42.3mの平坦部に位置している。

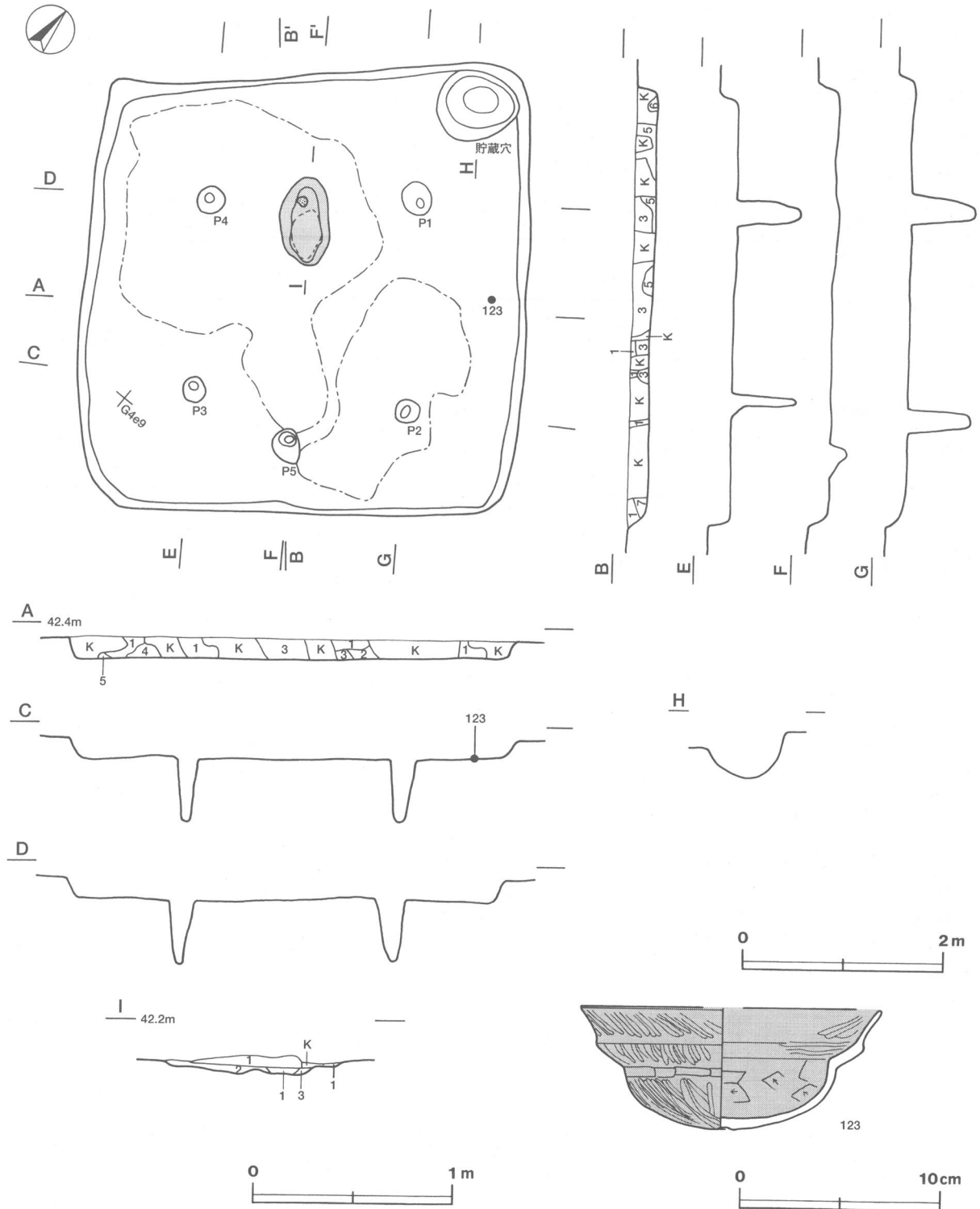
**規模と形状** 長軸4.42m, 短軸4.41mの方形である。壁は高さ16~24cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-41°-Wである。

床 平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

炉 中央部やや西寄りに設けられている。長径90cm，短径50cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の北西部に長さ12cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量



第54図 第40号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が64～75cm、P5が18cmである。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。径76cmほどの不整円形で、深さは30cmである。

覆土 7層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、各層にロームブロックが含まれブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                  |       |           |
|--------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量        | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック微量        | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |       |           |

遺物出土状況 土師器片97点、礫4点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点が出土している。遺物は東部から出土しているが、量は少ない。

所見 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。

**第40号住居跡出土遺物観察表（第54図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
123	土師器	坏	[15.0]	6.1	1.3	石英・長石	赤色	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き 内・外面赤彩	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	北東壁際覆土下層	50% PL24

**第42号住居跡（第55図）**

位置 調査区の南部、G5a1区。標高42.5mの平坦部に位置している。

重複関係 壁はすべて削平されているので、明確ではないが、北東壁に隣接して第41号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸5.44m、短軸5.38mの方形と推定される。主軸方向はN-40°-Wである。

床 ほぼ平坦である。

炉 確認できなかった。

ピット 4か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは58～84cmである。

**P1土層解説**

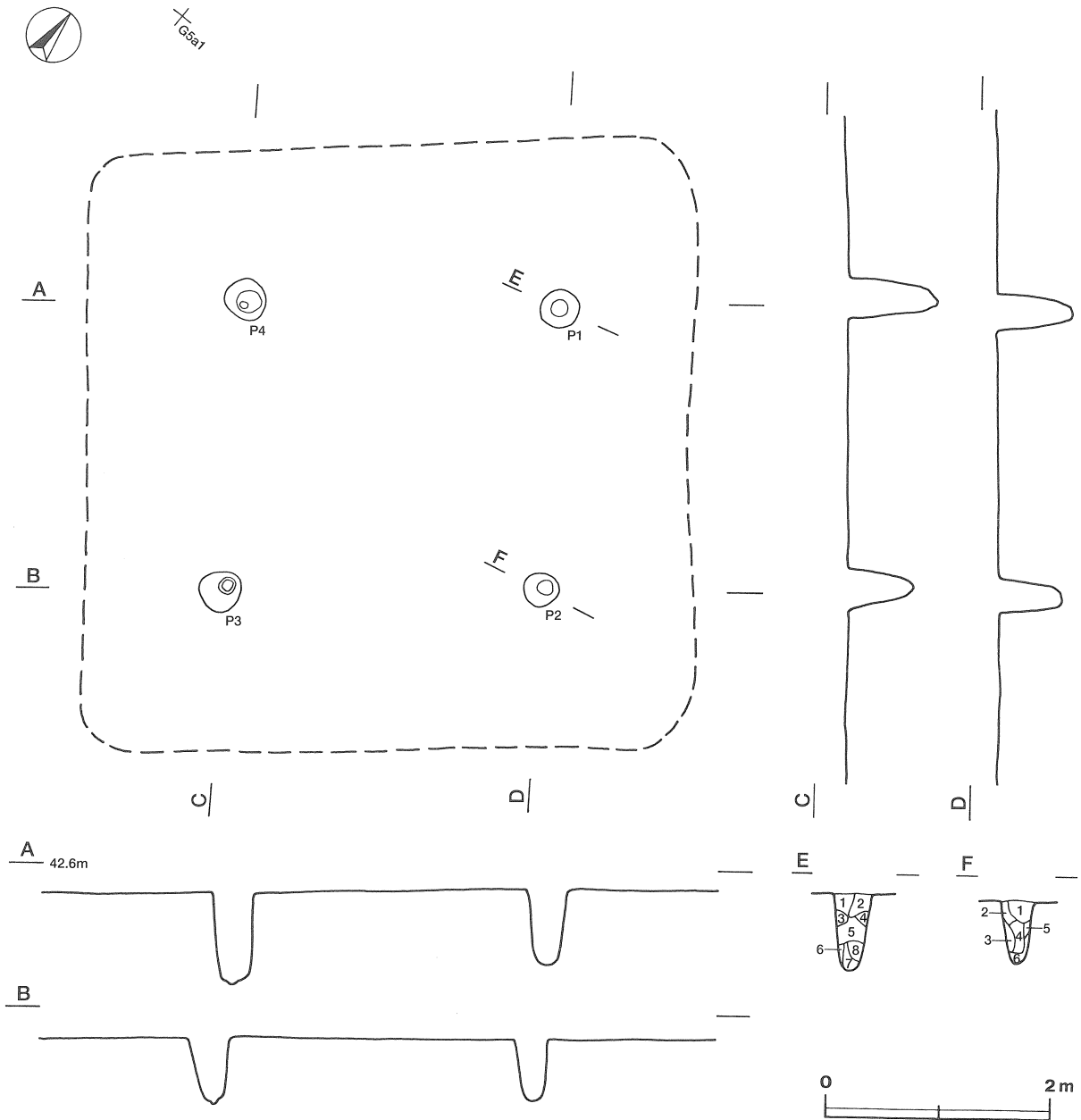
- |        |           |       |           |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子少量   | 5 褐色  | ロームブロック多量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量   | 6 褐色  | ローム粒子中量   |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量 | 7 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量   |

**P2土層解説**

- |       |           |       |         |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量   | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 灰褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量   | 6 明褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 出土遺物がないため、時期を決定することは難しいが、遺構の形態から古墳時代と考えられる。



第55図 第42号住居跡実測図

第43号住居跡（第56図）

**位置** 調査区の中央部，F4j7区。標高42.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.83m，短軸5.25mの長方形である。壁は高さ10～16cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-26°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅18～30cm，下幅10～14cm，深さ14～20cmで，断面形はU字状である。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径68cm，短径46cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが弱いので，短期間の使用と考えられる。

炉土層解説

- |      |                  |         |                |
|------|------------------|---------|----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量     | 3 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量，焼土ブロック少量 | 4 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量   |



**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が39～68cm、P5が18cmである。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸78cm、短軸58cmの不整長方形で、深さは42cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

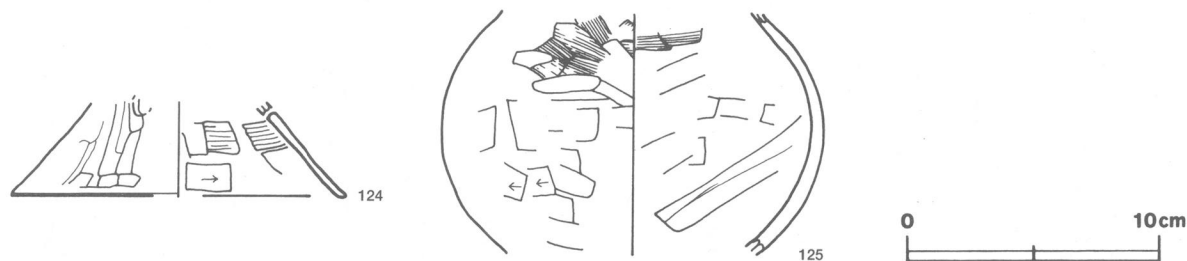
**覆土** 4層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片118点、礫2点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片7点、須恵器片2点、陶器片1点が出土している。遺物は炉跡と貯蔵穴周辺から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀と考えられる。



第57図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
124	土師器	器台	—	(3.8)	[13.2]	長石・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ・ハケ目調整	中央部床面	10%
125	土師器	台付甕	—	(9.6)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ハケ目調整・ヘラ削り、内面ハケ目調整・ヘラナデ	P3覆土中層	10%

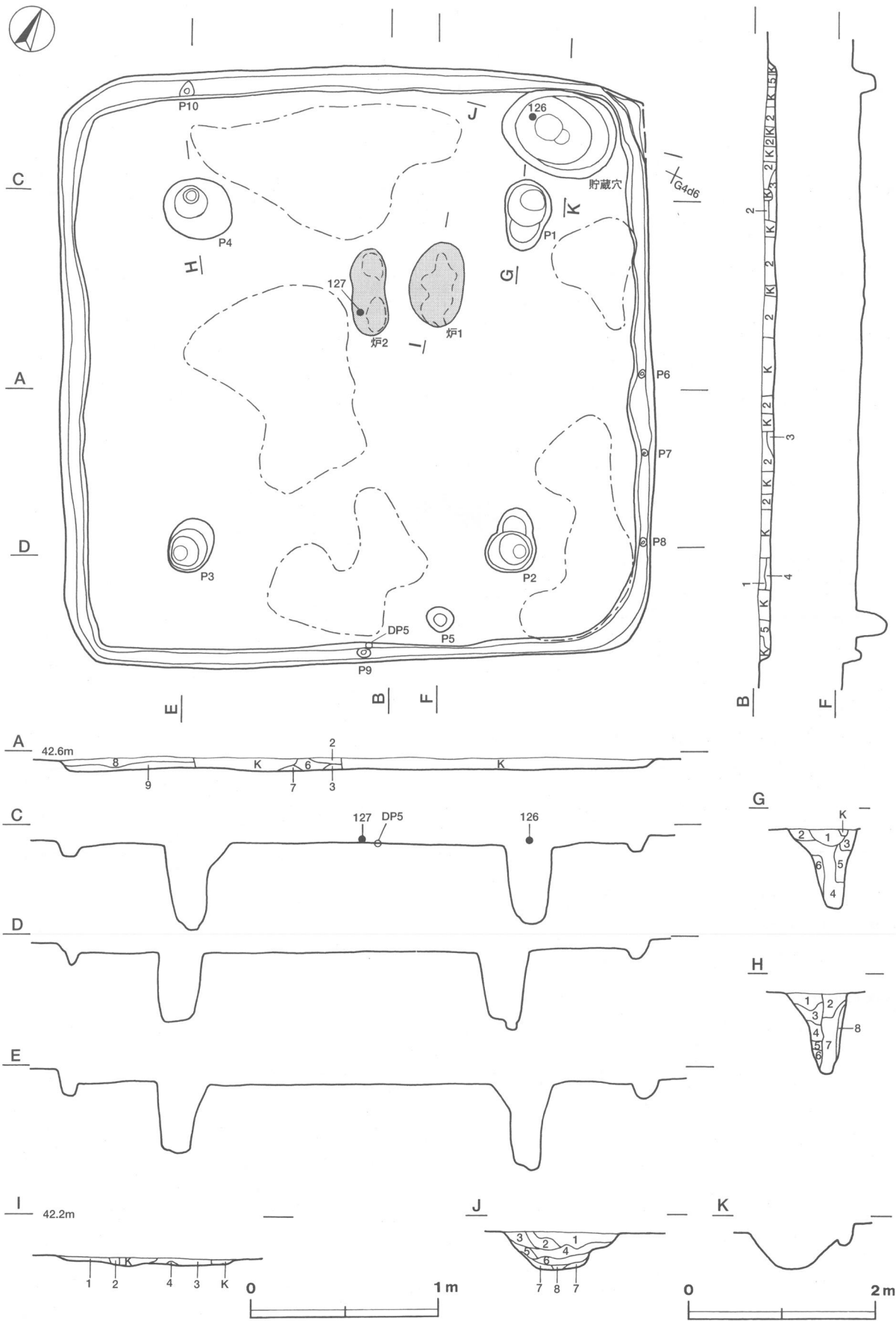
**第44号住居跡（第58図）**

**位置** 調査区の南部，G4d5区。標高42.1mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.48m，短軸6.32mの方形である。壁は高さ17～27cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-27°-Wである。

**床** ほほ平坦である。炉跡を取り囲むように硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅14～22cm，下幅6～14cm，深さ10～14cmで，断面形はU字形である。床面全面から炭化材が貼り付くように出土している。

**炉** 2か所。中央部に隣接する位置で設けられている。炉1は長径94cm，短径58cmの楕円形で，床面を3cm掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。その赤変した部分が厚いので，長期間の使用と考えられる。炉2は長径94cm，短径36cmの不整楕円形をした地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いも弱く，短期間の使用と考えられる。炉中央部に長さ26cm程の炉石を持っている。炉1と炉2は同時に使用されていたと考えられる。



第58图 第44号住居跡実测图



炉1 土層解説

- |        |                   |         |                        |
|--------|-------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量      | 3 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量   |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子・砂少量, ローム粒子微量 | 4 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック微量 |

ピット 10か所。P 1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5は南東壁際の中央部やや東寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1～4が58～84cmである。P 6～10は壁溝内に位置し、形態は径が10cm前後の円形で、深さが5cm前後であり、壁柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。

P 1 土層解説

- |       |           |         |           |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色    | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック少量 | 6 にぶい橙色 | ロームブロック中量 |

P 4 土層解説

- |       |              |         |           |
|-------|--------------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量    | 5 黒褐色   | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 明褐色   | ローム粒子多量   |
| 3 褐色  | ローム粒子中量      | 7 暗褐色   | ロームブロック微量 |
| 4 褐色  | ローム粒子中量      | 8 にぶい橙色 | ローム粒子多量   |

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長径124cm, 短径92cmの楕円形で、深さは44cmである。

貯蔵穴土層解説

- |        |                 |        |           |
|--------|-----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量  | 5 暗褐色  | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色  | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色   | ロームブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量  | 8 極暗褐色 | ローム粒子微量   |

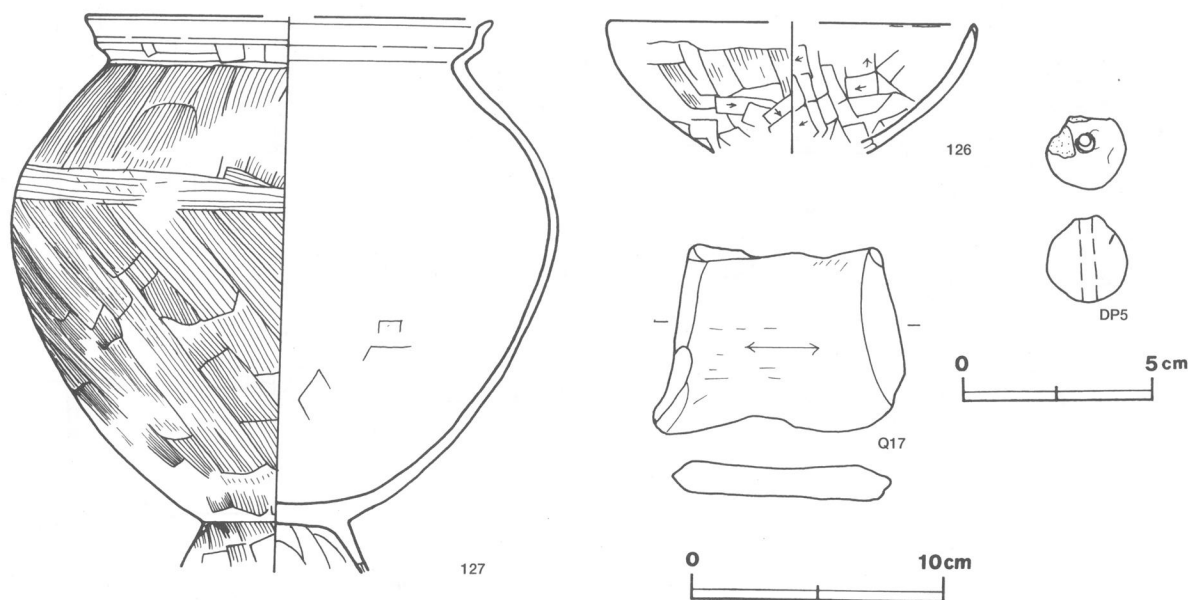
覆土 9層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- |        |                     |       |                |
|--------|---------------------|-------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量             | 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子微量             | 7 暗褐色 | ロームブロック少量      |
| 3 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量        | 8 黒色  | ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 4 暗褐色  | ロームブロック微量           | 9 黒褐色 | ロームブロック少量      |
| 5 黒褐色  | 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |       |                |

遺物出土状況 土師器片128点, 土玉1点, 砥石1点, 礫3点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点, 須恵器片7点が出土している。遺物は炉跡と貯蔵穴の周辺から出土している。

所見 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀と考えられる。



第59図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表 (第59図)

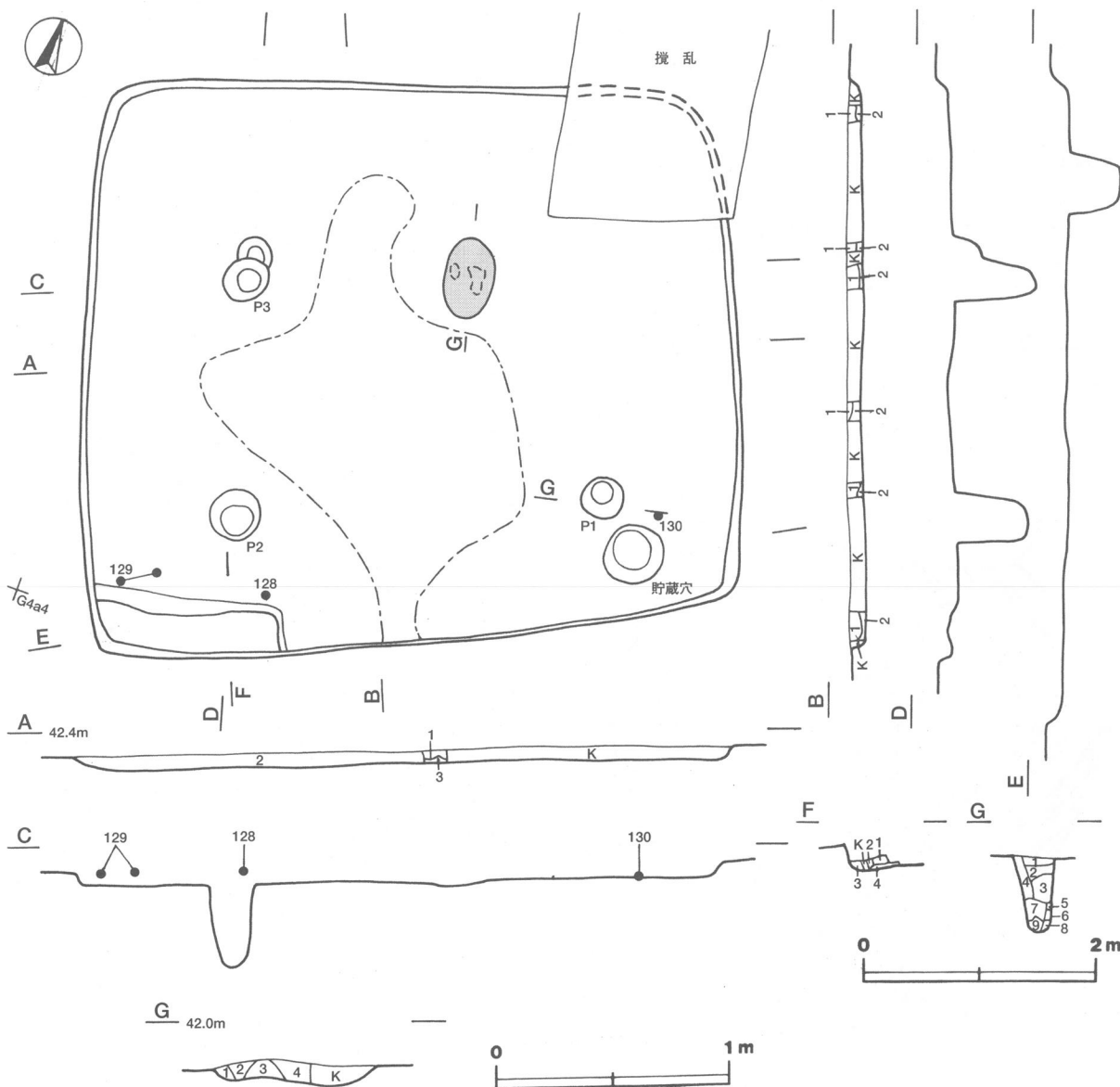
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
126	土師器	坏	[14.4]	(5.0)	-	長石	灰褐	普通	体部外面ハケ目調整・ヘラ削り, 内面ヘラ削り	貯藏穴覆土上層	10%
127	土師器	台付甕	[16.2]	(22.1)	-	石英・長石・白色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ 台部外面ハケ目調整, 内面指ナデ S字状口縁	炉跡2底面	40% PL25

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	土玉	2.3	0.4	2.2	(9.3)	土	外面ナデ	南東壁際覆土下層	PL30
Q17	砥石	(7.6)	(9.9)	(1.7)	(156.6)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

第45号住居跡 (第60図)

位置 調査区の中央部, F4j4区。標高42.2mの平坦部に位置している。

規模と形状 北東コーナー部に攪乱が見られるが, 長軸5.65m, 短軸4.85mの長方形である。壁は高さ10~14cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-15°-Wである。



第60図 第45号住居跡実測図

**床** 平坦である。炉跡の西側の中央部を中心に硬化面が見られる。南西コーナー部に長さ160cm，幅50cm，高さ10cmの土手状の高まりが見られる。

**土手状高まり土層解説**

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 褐色 焼土粒子・砂・粘土粒子微量   | 3 明褐色 ローム粒子少量，砂微量       |
| 2 暗褐色 ローム粒子・砂・粘土粒子微量 | 4 にぶい褐色 焼土粒子少量，砂・粘土粒子微量 |

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径70cm，短径42cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが弱いので，短期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子少量，砂微量     | 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・砂微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂微量 | 4 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂微量   |

**ピット** 3か所。P1～3は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは60～70cmである。

**P1土層解説**

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量   | 6 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 7 明褐色 ローム粒子多量   |
| 3 褐色 ロームブロック多量         | 8 橙褐色 ローム粒子多量   |
| 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量    | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 5 褐色 ローム粒子中量           |                 |

**貯蔵穴** 南東コーナー部に付設されている。径52cmの円形で，深さは45cmである。

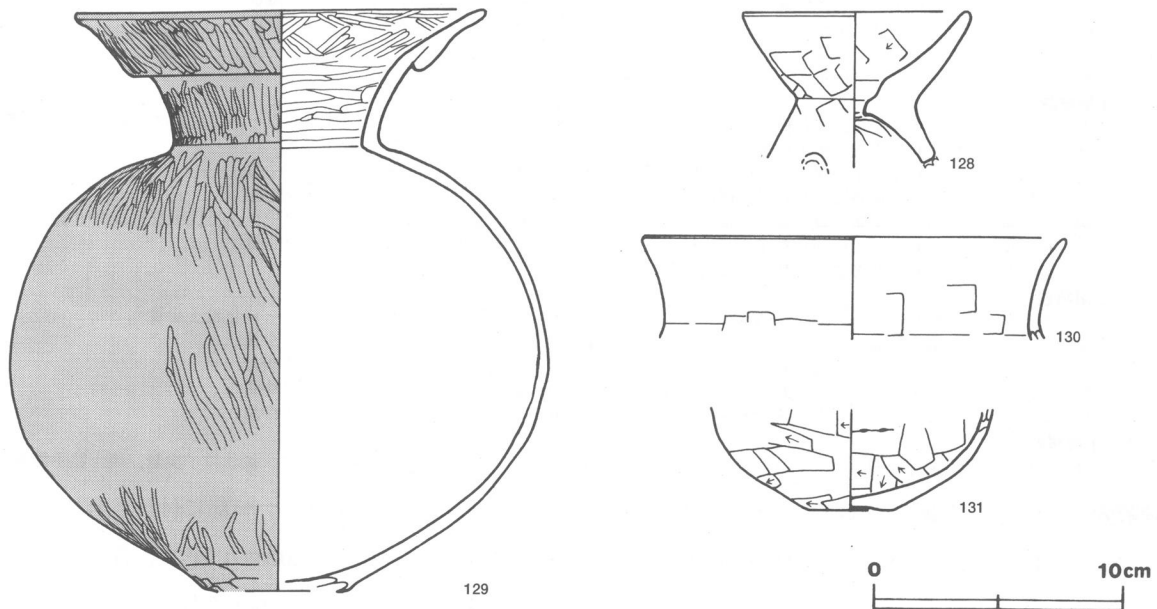
**覆土** 2層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 2 極暗褐色 ロームブロック微量 |
|-----------------|------------------|

**遺物出土状況** 土師器片150点，礫2点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点，須恵器片4点が出土している。遺物は貯蔵穴と土手状の高まりの周辺から出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第61図 第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	土師器	器台	8.9	(6.2)	-	石英・長石	明赤褐	普通	器受部内・外面及び脚部外面ヘラナデ 脚部内面指ナデ	南西部覆土中	50% PL26
129	土師器	壺	16.3	23.3	[5.6]	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部内・外面及び体部外面への磨き 外面及び口縁部内面赤彩	南西部覆土中	50% PL25
130	土師器	甕	[16.8]	(4.1)	-	石英・長石	赤褐	普通	頸部内・外面ヘラナデ	南東部覆土中	5%
131	土師器	小形甕	-	(4.1)	3.4	石英・長石・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	10%

第46号住居跡（第62・63図）

**位置** 調査区の中央部，F4g5区。標高42.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸7.90m，短軸5.64mの長方形である。壁は高さ23～33cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-35°-Wである。

**床** ほほ平坦である。炉跡の南東側と南東壁際中央部を中心に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅12～20cm，下幅5～12cm，深さ14～21cmで，断面形はU字形である。床面全面から貼り付くように炭化材が出土している。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径114cm，短径54cmの不整楕円形で，床面を4cm掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け赤変硬化している。その赤変した部分が厚いので，長期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量

**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部やや西寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が115～170cm，P5が50cmである。

**P1土層解説**

- |         |                   |       |           |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色  | 炭化材中量，ローム粒子・炭化物少量 | 7 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 褐色    | ローム粒子中量，炭化物少量     | 8 褐色  | ロームブロック少量 |
| 3 褐色    | ローム粒子・炭化物少量       | 9 褐色  | ロームブロック微量 |
| 4 褐色    | ロームブロック少量         | 10 橙色 | ロームブロック微量 |
| 5 にぶい褐色 | ロームブロック少量         | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 褐色    | ロームブロック中量         |       |           |

**P2土層解説**

- |         |                       |          |                         |
|---------|-----------------------|----------|-------------------------|
| 1 褐色    | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 8 黒褐色    | 炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色    | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量   | 9 明褐色    | ローム粒子多量                 |
| 3 灰褐色   | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 10 褐色    | ロームブロック中量               |
| 4 にぶい褐色 | ローム粒子極多量，炭化粒子微量       | 11 にぶい褐色 | ロームブロック中量               |
| 5 褐色    | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量   | 12 暗褐色   | ロームブロック中量，黒色土ブロック中量     |
| 6 灰褐色   | ローム粒子中量，炭化粒子少量        | 13 にぶい褐色 | ロームブロック中量               |
| 7 明褐色   | ローム粒子極多量，炭化粒子微量       |          |                         |

**P3土層解説**

- |         |                         |        |                |
|---------|-------------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色   | 炭化粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 6 褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 褐色    | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量   | 7 暗褐色  | ロームブロック少量      |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 極暗褐色 | ロームブロック少量      |
| 4 褐色    | ロームブロック・炭化粒子少量          | 9 暗褐色  | ロームブロック中量      |
| 5 明褐色   | ロームブロック中量，炭化粒子少量        | 10 黒色  | ロームブロック中量      |

**P5土層解説**

- |        |                       |       |                       |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は西コーナー部の壁に接する形で，貯蔵穴2は南コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長径120cm，短径94cmの不整楕円形で，深さは60cmである。底面に径が20cmの円形で，深さ18cmのピット状の落ち込みが見られる。貯蔵穴2は長径90cm，短径64cmの楕円形で，深さは86cmである。

**貯蔵穴1土層解説**

- |        |                |       |                     |
|--------|----------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子微量        | 3 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック少量           |

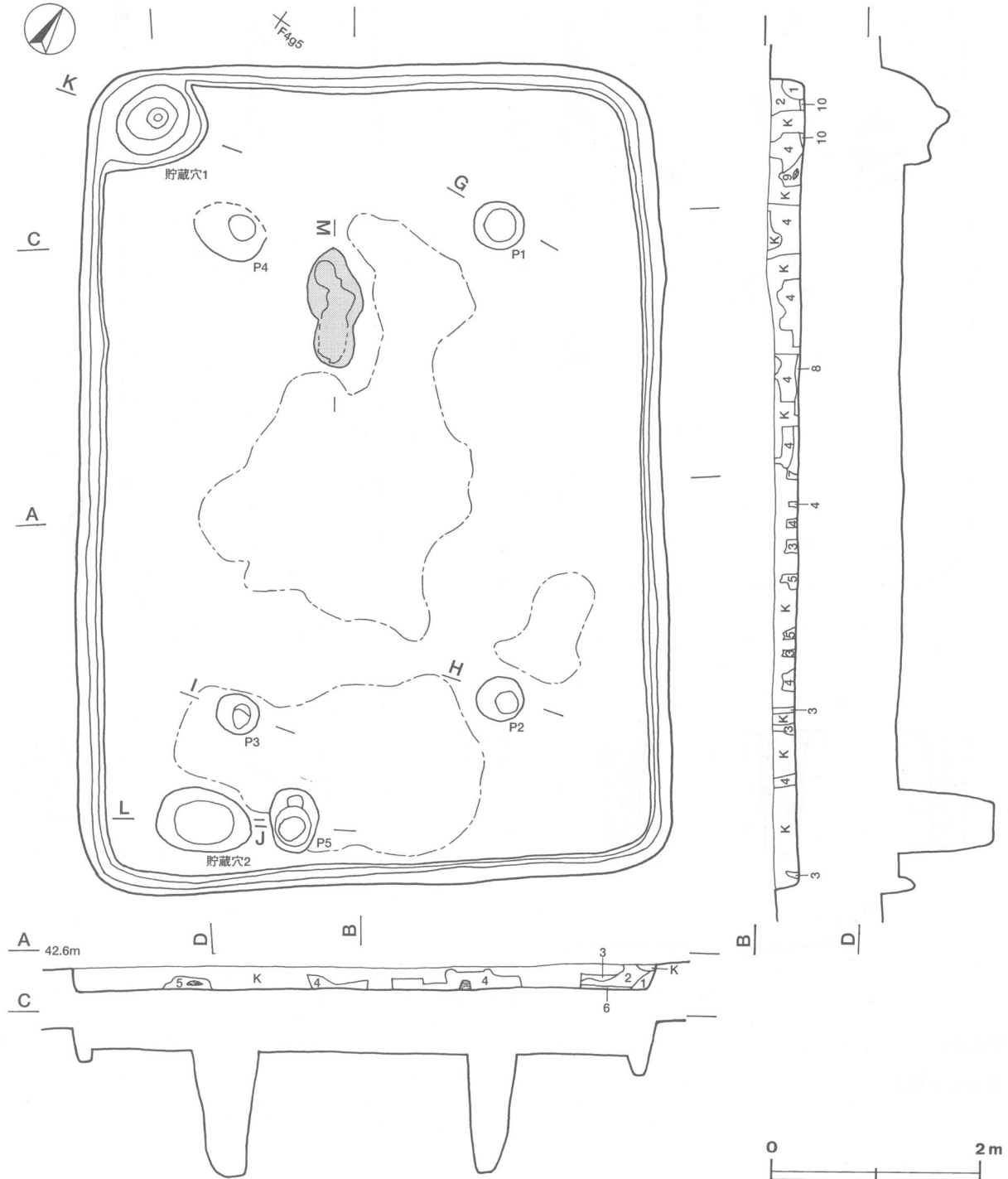
貯蔵穴2土層解説

- |        |          |       |           |
|--------|----------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量  | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子微量  | 7 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色  | ローム粒子少量  | 8 褐色  | ローム粒子中量   |

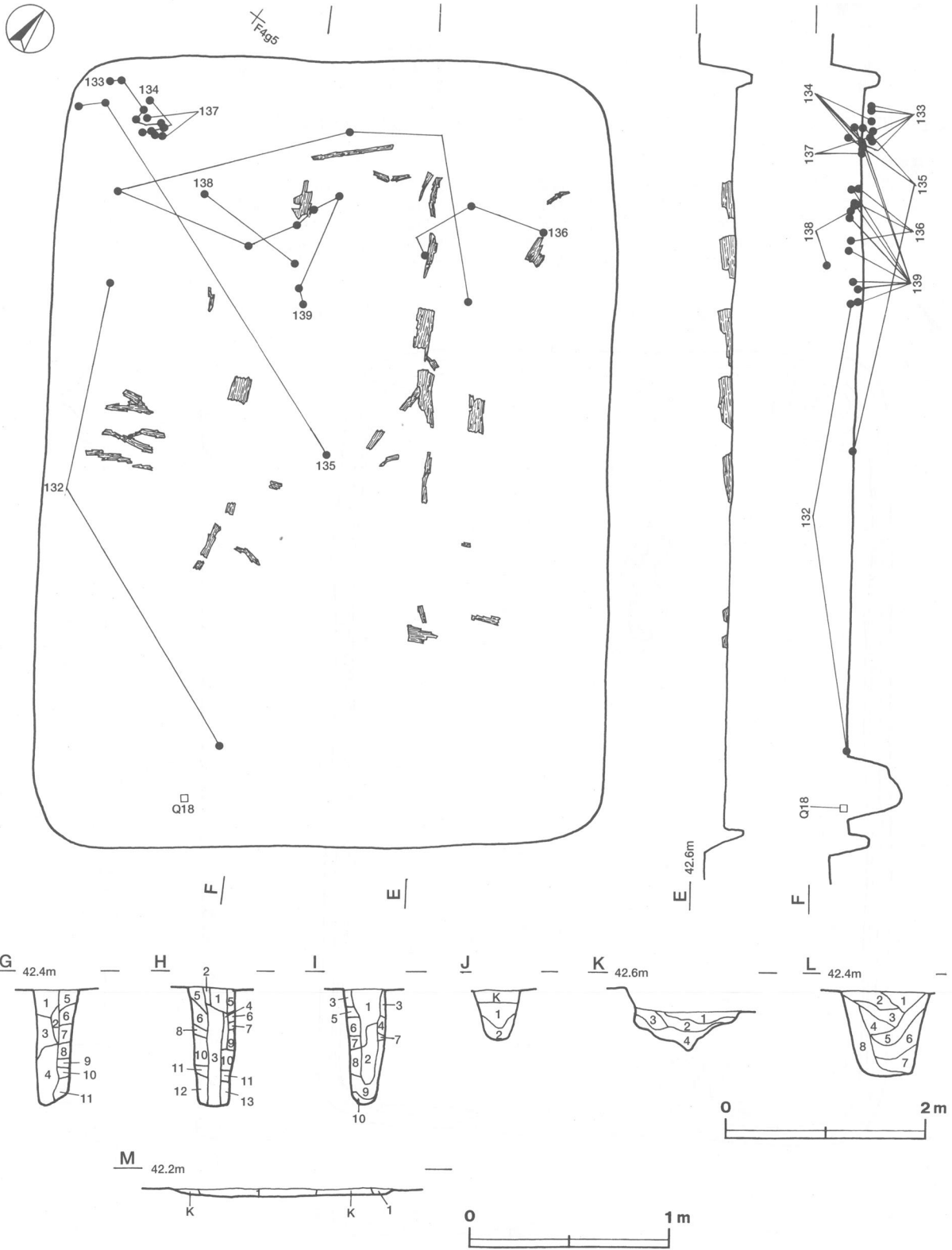
覆土 10層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |                         |        |                     |
|-------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量    | 6 褐色   | ローム粒子少量             |
| 2 黒色  | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック微量           |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量    | 8 黒褐色  | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 9 極暗褐色 | 炭化材中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒色  | ローム粒子・炭化材少量, 焼土粒子微量     | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        |



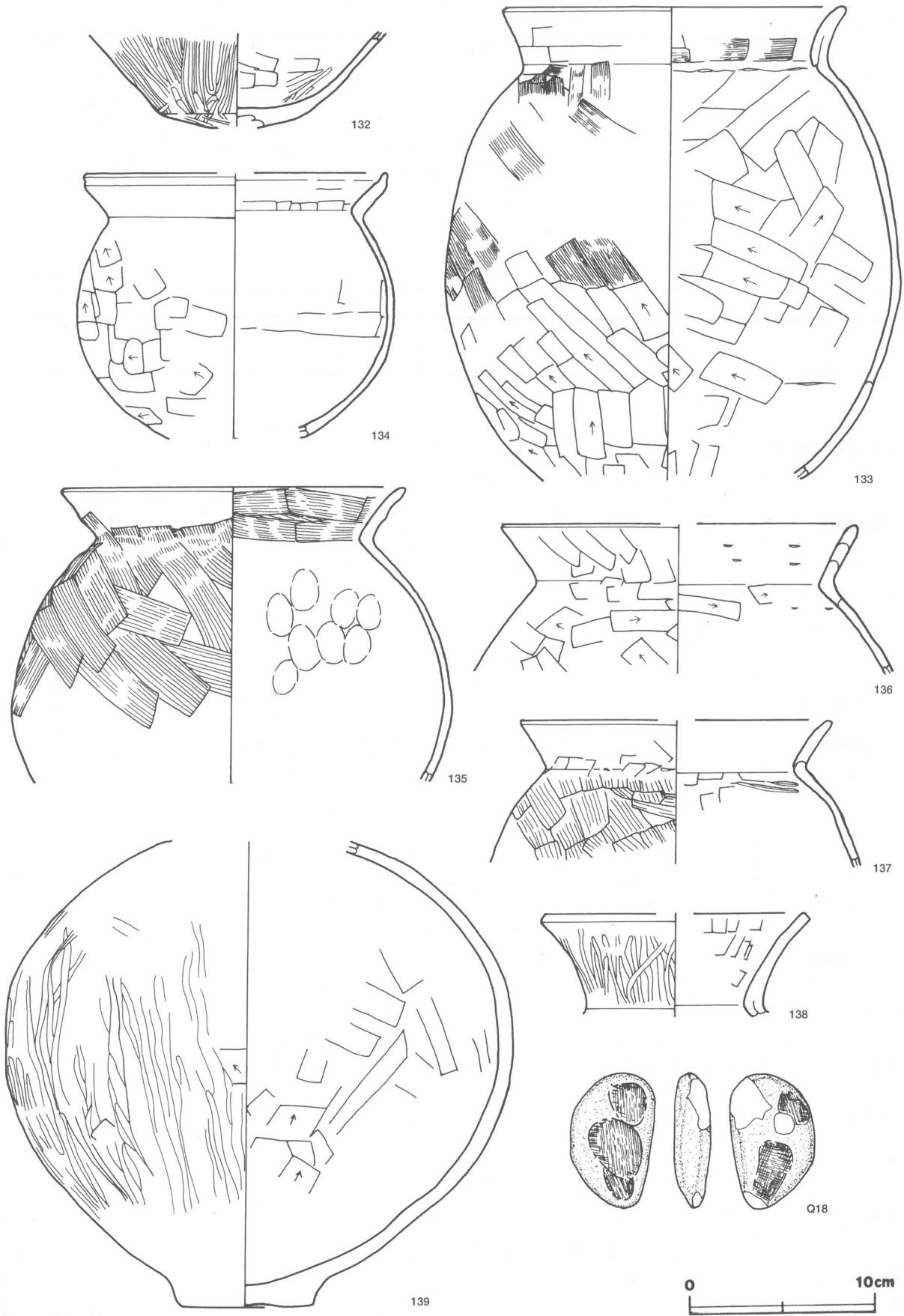
第62図 第46号住居跡実測図(1)



第63図 第46号住居跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片394点、磨石1点、礫6点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片19点、須恵器片4点が出土している。遺物は炉跡の周辺や貯蔵穴内及びその周辺から出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第64図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
132	土師器	高坏	—	(5.2)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ・ヘラ磨き	西と南コーナー部 床面	30%
133	土師器	甕	18.3	(25.7)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ヘラナデ 体部外面ハケ目調整, 下位 ヘラ削り, 内面ヘラ削り	貯蔵穴1覆土中	60% PL25
134	土師器	甕	[16.2]	(14.2)	—	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 頸部及び体部内面ヘラナデ	貯蔵穴1覆土中	30% PL25
135	土師器	甕	18.6	(15.9)	—	石英・長石	にぶい褐	普通	口縁部内面及び体部外面ハケ目調整 体部内面指頭による 押圧	貯蔵穴1覆土中	40% PL25
136	土師器	甕	[19.1]	(8.0)	—	長石	にぶい橙	普通	口縁部外面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナ デ	北東部床面	15% PL24
137	土師器	甕	[16.8]	(7.8)	—	石英・長石	橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ・強いヘラ削り痕	貯蔵穴1覆土中	15% PL24
138	土師器	甕	[14.0]	(5.6)	—	石英・長石	橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	北西部床面	10%
139	土師器	壺	—	(25.2)	7.5	石英・長石	橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ	炉跡底面	50% PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	磨石	7.3	4.6	2.1	77.0	砂岩	全面に細かい擦痕あり	南コーナー部床面	

第47号住居跡（第65図）

**位置** 調査区の南部, H3b9区。標高42.6mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.11m, 短軸5.99mの方形である。壁は高さ10~20cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-38°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡の北西側に一部硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅14~24cm, 下幅7~14cm, 深さ6~14cmで, 断面形はU字形である。

**炉** 中央部やや南寄りに設けられている。長径108cm, 短径66cmの楕円形で, 床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。硬化の度合いが弱いので, 短期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- |       |              |       |         |
|-------|--------------|-------|---------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量      | 4 褐色  | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |       |         |

**ピット** 6か所。P1~4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は確認された位置からは出入口施設に伴うピットの可能性も考えられるが, 深さが深すぎる。P6の性格は不明である。深さはP1~4が85~89cm, P5が93cm, P6が16cmである。

**P4土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 褐色  | ローム粒子中量   | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量   | 5 褐色  | ローム粒子少量   |
| 3 褐色  | ロームブロック微量 | 6 明褐色 | ローム粒子中量   |

**覆土** 7層からなる。層厚が薄く, トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

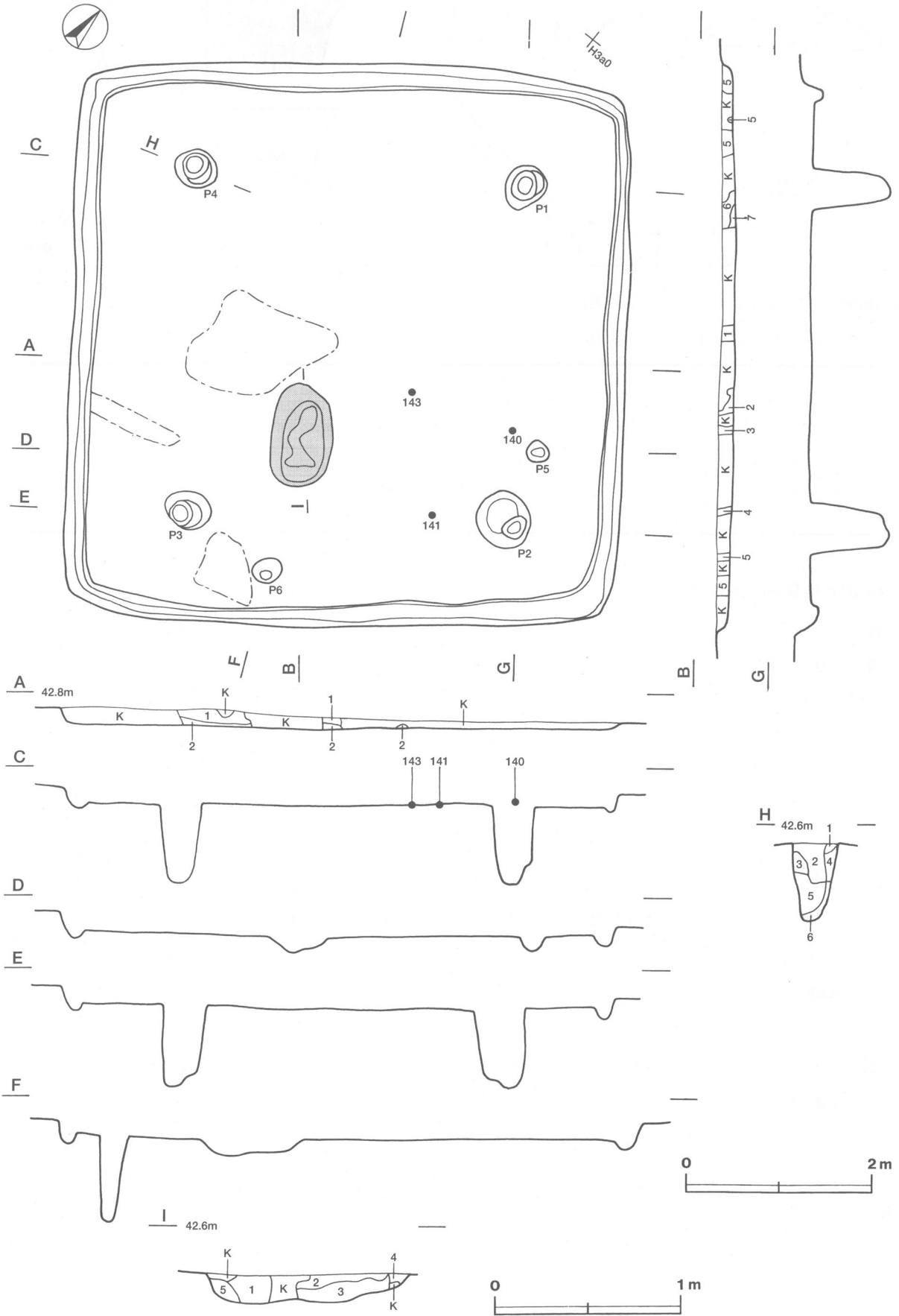
**土層解説**

- |        |         |       |         |
|--------|---------|-------|---------|
| 1 黒色   | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子微量 | 6 黒色  | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子微量 |       |         |

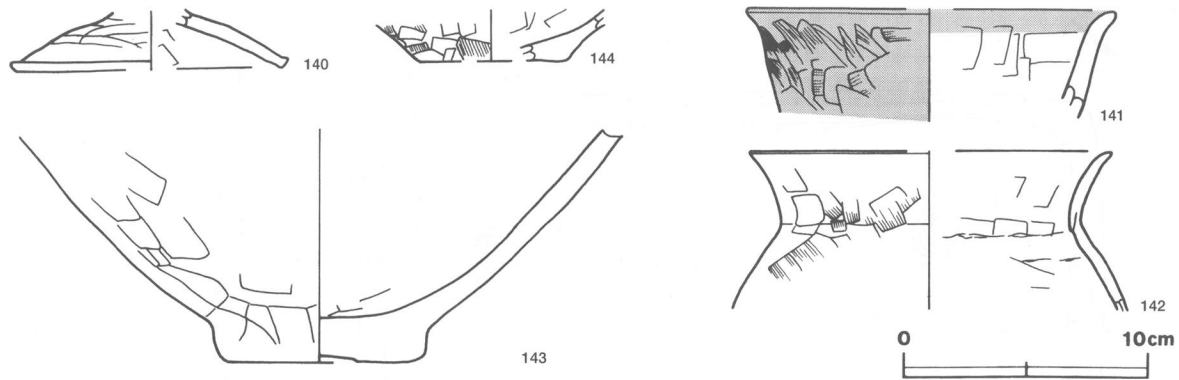
**遺物出土状況** 土師器片256点, 礫10点のほか, 攪乱により混入したとみられる弥生土器片7点, 須恵器片13点, 陶器片2点が出土している。遺物は東コーナー周辺から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。





第65図 第47号住居跡実測図



第66図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表 (第66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	器台	—	(2.5)	[10.8]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	器受部内・外面及び脚部外面ヘラナデ 脚部内指ナデ	東コーナー部床面	50%
141	土師器	甕	[14.8]	(4.3)	—	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面及び体部外面ヘラ磨き 外面及び口縁部内面赤彩	東コーナー部床面	5%
142	土師器	甕	[14.8]	(6.5)	—	石英・長石	灰黄褐	普通	頸部内・外面ヘラナデ	南西部覆土中	5%
143	土師器	甕	—	(9.4)	8.0	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	中央部床面	20%
144	土師器	甕	—	(2.1)	[6.2]	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	南西部覆土中	5%

### 第49号住居跡 (第67図)

**位置** 調査区の南部, G3h0区。標高42.4 mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.66m, 短軸4.35mの方形である。壁は高さ35~40cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-44°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。壁溝は全周している。上幅10~14cm, 下幅4~6cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字形である。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径58cm, 短径36cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。炉床の中央部やや南寄りに長さ20cmほどの炉石を持っている。

**ピット** 5か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1~4が54~66cm, P5が12cmである。

#### P3土層解説

- |        |              |       |           |
|--------|--------------|-------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色  | ローム粒子中量   |

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。径50cmの円形で, 深さは67cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |                 |       |           |
|-------|-----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量       | 4 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量         | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | ロームブロック微量 |

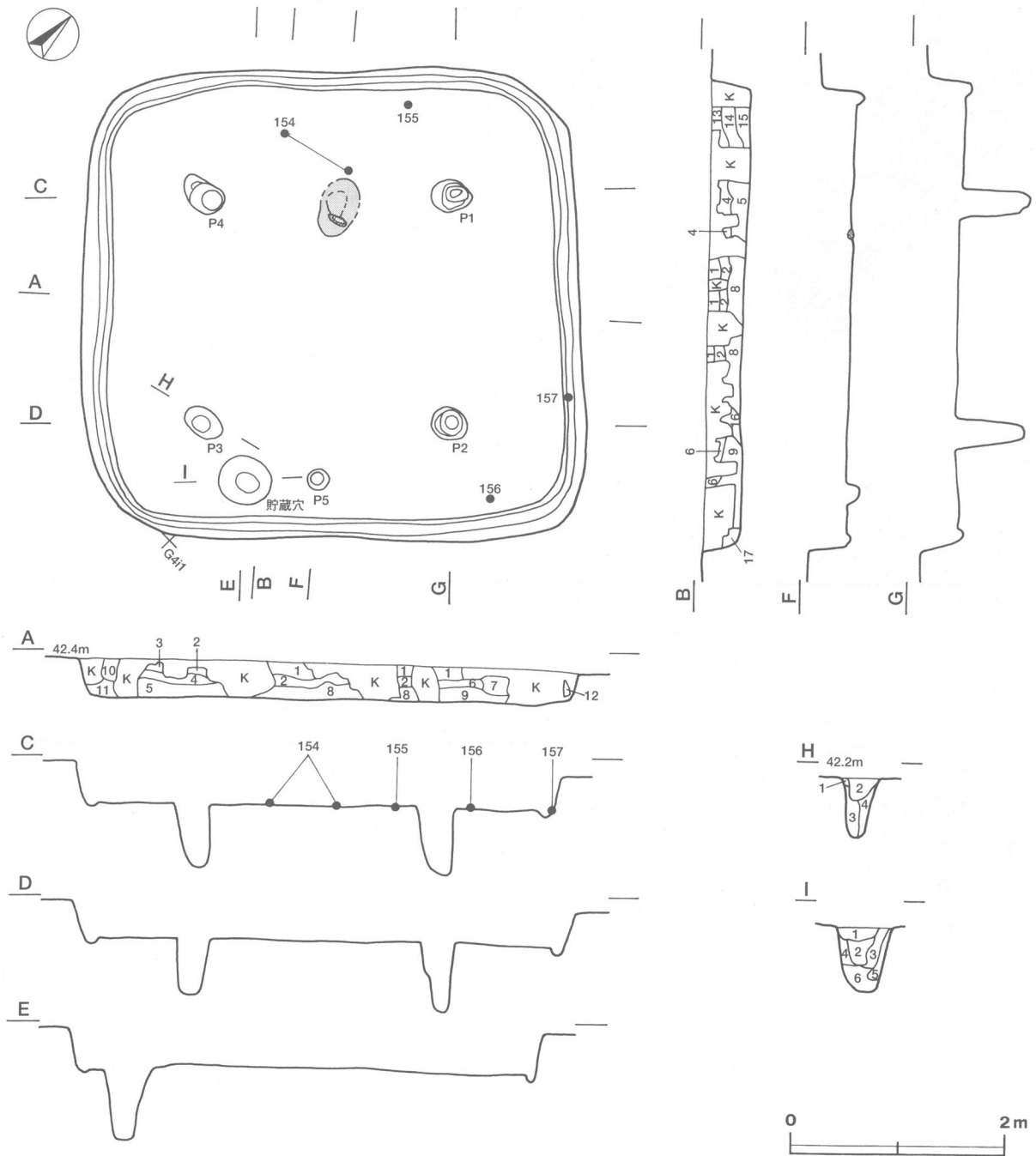
**覆土** 17層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

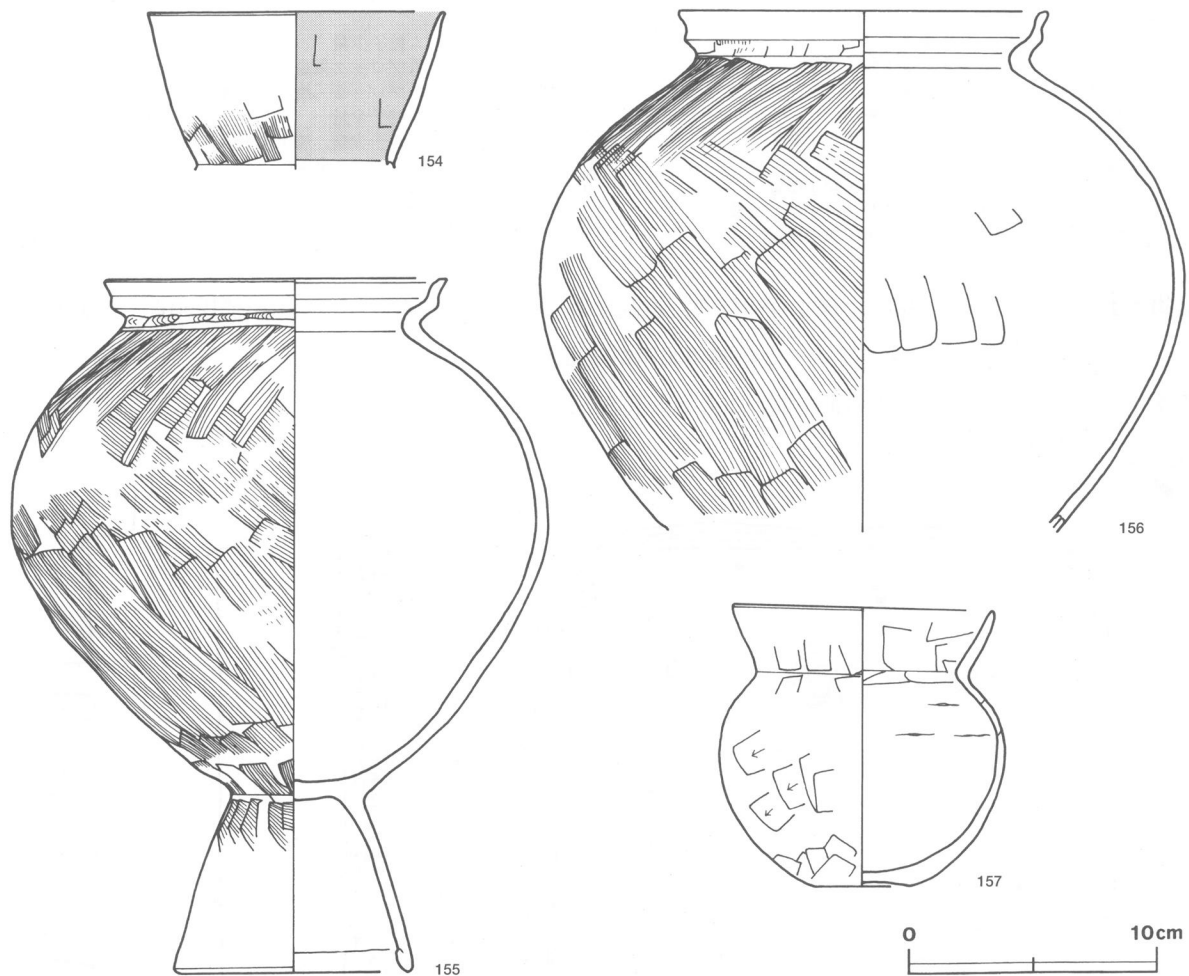
- |        |                   |        |                 |
|--------|-------------------|--------|-----------------|
| 1 黒色   | ローム粒子微量           | 10 黒褐色 | ローム粒子少量         |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量      | 11 黒褐色 | ロームブロック微量       |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量           | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック微量         | 13 暗褐色 | ローム粒子少量         |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量    | 14 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色  | ローム粒子微量           | 15 黒褐色 | ロームブロック微量       |
| 7 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子微量   | 16 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    |
| 8 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量       |
| 9 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量    |        |                 |

遺物出土状況 土師器片166点, 礫1点のほか, 攪乱により混入したとみられる弥生土器片20点, 須恵器片6点が出土している。遺物は東コーナーと炉跡の北側から出土している。

所見 時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第67図 第49号住居跡実測図



第68図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	土師器	埴	11.9	(6.3)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面弱いハケ目調整, 内面ヘラナデ 内面赤彩	北西部床面	40%
155	土師器	台付甕	13.7	28.3	9.5	石英・長石	橙	普通	体部及び台部外面ハケ目調整 台部内面指ナデ S字状口縁	北西壁際床面	90% PL25
156	土師器	台付甕	15.0	(21.1)	—	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ S字状口縁	東コーナー部床面	40% PL25
157	土師器	小形甕	10.5	11.5	3.9	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	北東壁際床面	70% PL25

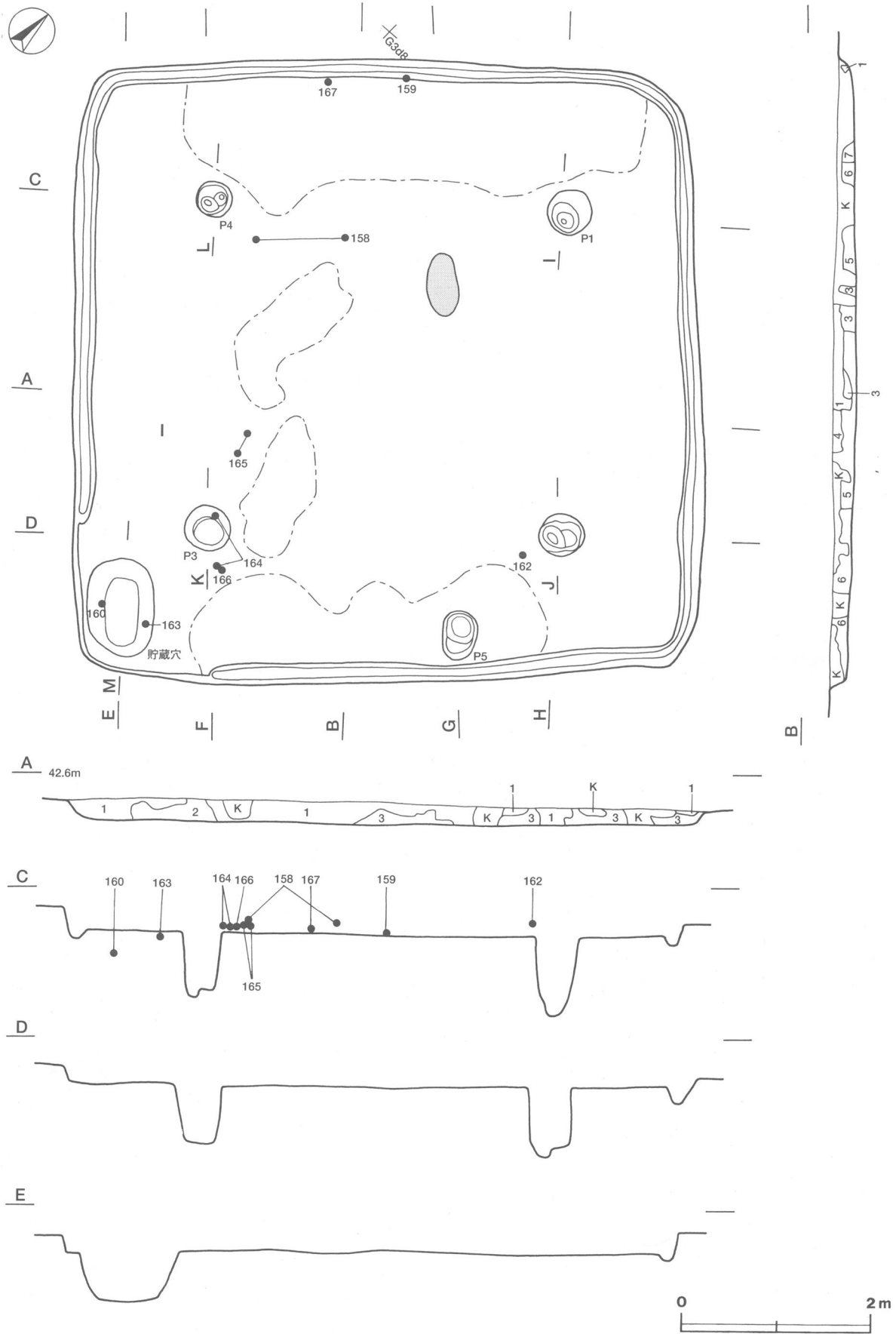
### 第50号住居跡 (第69・70図)

**位置** 調査区の南部, G3d8区。標高42.4mの平坦部に位置している。

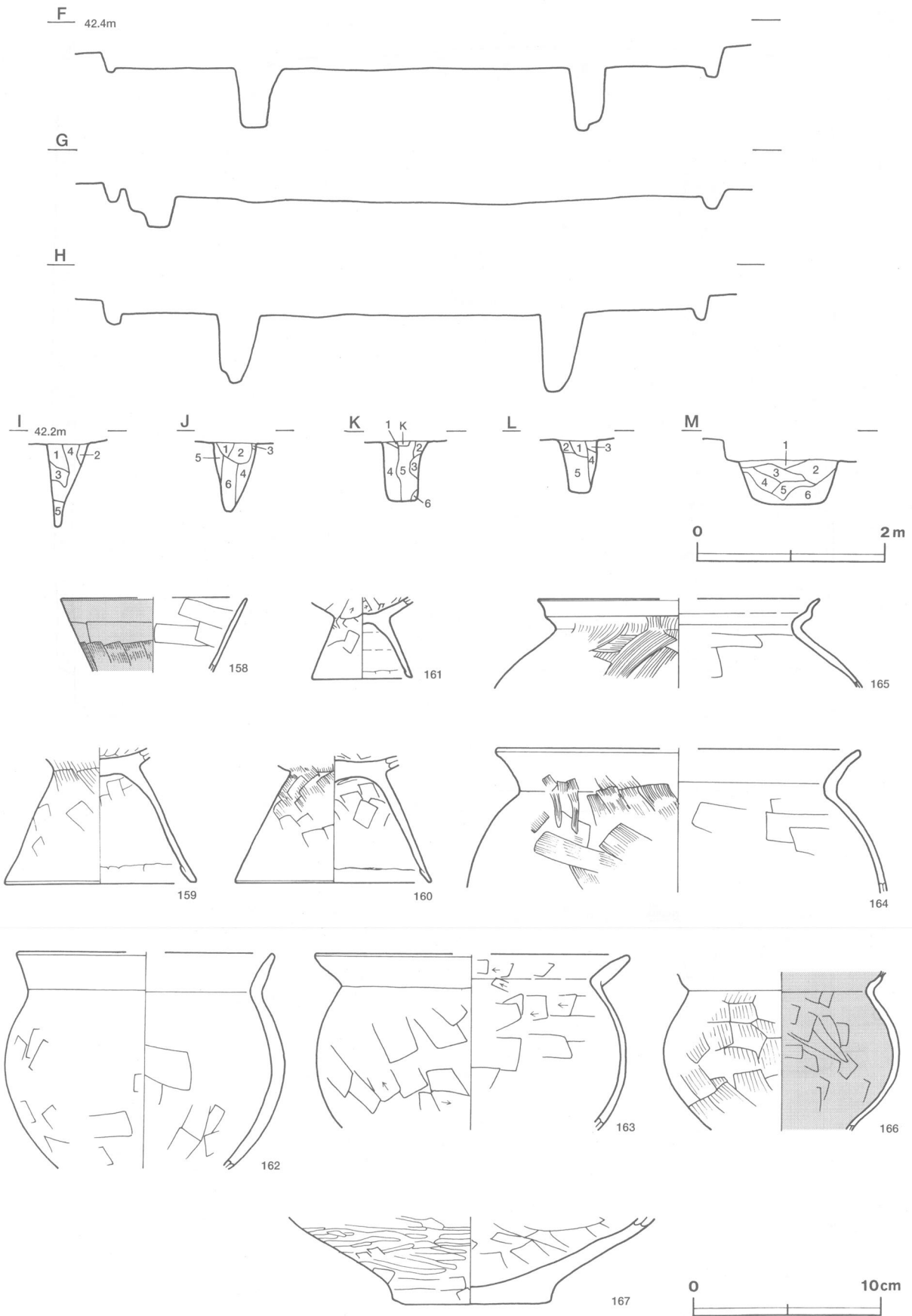
**規模と形状** 長軸6.63m, 短軸6.60mの方形である。壁は高さ10~19cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-45°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡の南側と北西壁際と南東壁際に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅10~24cm, 下幅6~10cm, 深さ6~20cmで, 断面形はU字形である。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径68cm, 短径36cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので, 短期間の使用と考えられる。



第69図 第50号住居跡実測図



第70图 第50号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P 1～4 は配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5 は南東壁際の中央部やや東寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1～4 が64～85cm、P 5 が36cmである。

**P 1 土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量 | 5 明褐色 | ローム粒子中量   |
| 3 褐色  | ローム粒子少量   |       |           |

**P 2 土層解説**

- |       |           |         |           |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量   | 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色  | ロームブロック微量 | 5 褐色    | ロームブロック少量 |
| 3 褐色  | ローム粒子少量   | 6 明褐色   | ロームブロック微量 |

**P 3 土層解説**

- |       |                  |         |           |
|-------|------------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量          | 4 褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色   | ロームブロック中量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子中量          | 6 にぶい褐色 | ロームブロック微量 |

**P 4 土層解説**

- |       |              |         |           |
|-------|--------------|---------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色    | ロームブロック中量 |
| 2 褐色  | ロームブロック微量    | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック微量    |         |           |

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸106cm、短軸70cmの隅丸長方形で、深さは48cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |      |         |       |           |
|------|---------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 4 黒色  | ローム粒子微量   |
| 2 黒色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量   |
| 3 黒色 | ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |

**覆土** 7層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多く見られるが、各層にロームブロックが含まれることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |           |       |           |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色   | ロームブロック微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 4 黒色   | ローム粒子微量   |       |           |

**遺物出土状況** 土師器片246点、炉石1点、礫3点のほか、攪乱により混入したとみられる弥生土器片16点、須恵器片4点が出土している。遺物は貯蔵穴周辺と北西部から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。

第50号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
158	土師器	埴	[10.0]	(4.0)	—	石英・長石	明赤褐	普通	口縁部外面ハケ目後調整横ナデ、内面ヘラナデ 内・外面赤彩	中央部覆土下層	20%
159	土師器	台付甕	—	(7.3)	10.4	石英・長石	橙	普通	体部内面ヘラナデ 台部外面ハケ目調整、内面指ナデ	北西壁際覆土下層	30% PL26
160	土師器	台付甕	—	(6.8)	11.5	石英・長石・雲母	橙	普通	体部内面ヘラナデ 台部外面ハケ目調整・ヘラナデ、内面指ナデ・ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	30%
161	土師器	小形台付甕	—	(4.4)	5.4	石英・長石	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ 台部外面ヘラナデ、内面ナデ	貯蔵穴覆土中	30%
162	土師器	小形甕	[13.8]	(11.6)	—	長石	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	南東部覆土下層	40% PL26
163	土師器	小形甕	[17.0]	(9.5)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部内面及び体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	20%
164	土師器	甕	[19.4]	(7.7)	—	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ	P3周辺覆土下層	15% PL26
165	土師器	台付甕	[15.2]	(4.8)	—	石英・長石・礫	明赤褐	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ S字状口縁	南西部覆土下層	10% PL26
166	土師器	小形甕	—	(8.4)	—	石英・長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ 内面赤彩	南コーナー部覆土下層	15%
167	土師器	甕	—	(4.7)	8.5	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き、内面及び体部外面下端ヘラナデ	北西壁際覆土下層	10%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	炉石	21.6	13.3	7.8	3316.7	砂岩	全面被熱 表面に煤付着	西コーナー部覆土下層	未掲載

## 第51号住居跡（第71図）

**位置** 調査区の南部，G4c1区。標高42.2mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.30m，短軸5.72mの方形である。壁は高さ18～32cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-25°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡の南側から南東壁際にかけて硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅14～20cm，下幅5～8cm，深さ7～16cmで，断面形はU字形である。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径86cm，短径48cmの楕円形で，炉床を5cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の中央部やや南東寄りに長さ16cmと12cmほどの炉石を持っている。

### 炉土層解説

- |          |                |          |              |
|----------|----------------|----------|--------------|
| 1 褐 灰 色  | ローム粒子微量        | 3 暗 赤 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 明 赤 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 4 赤 褐 色  | ローム粒子・焼土粒子微量 |

**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は東コーナー部の壁際に位置していることから，壁柱穴と考えられる。深さはP1～4が93～124cm，P5が25cmである。

### P1土層解説

- |         |           |          |           |
|---------|-----------|----------|-----------|
| 1 灰 褐 色 | ローム粒子少量   | 8 褐 色    | ロームブロック中量 |
| 2 褐 色   | ローム粒子少量   | 9 黒 褐 色  | ロームブロック微量 |
| 3 褐 色   | ロームブロック微量 | 10 褐 色   | ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子微量   | 11 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 12 褐 色   | ロームブロック少量 |
| 6 灰 褐 色 | ロームブロック中量 | 13 にぶい褐色 | ローム粒子少量   |
| 7 暗 褐 色 | ローム粒子少量   |          |           |

### P2土層解説

- |          |           |          |           |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 褐 色    | ローム粒子中量   | 5 褐 色    | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色  | ロームブロック微量 | 6 黒 褐 色  | ロームブロック微量 |
| 3 暗 褐 色  | ロームブロック微量 | 7 黒 褐 色  | ロームブロック少量 |
| 4 極 暗 褐色 | ロームブロック微量 | 8 極 暗 褐色 | ロームブロック微量 |

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。径70cmの円形で，深さは58cmである。

### 貯蔵穴土層解説

- |        |           |        |           |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒 色  | ロームブロック微量 | 4 黒 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒 色  | ロームブロック微量 | 5 黒 色  | ローム粒子少量   |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック微量 |        |           |

**覆土** 27層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが，ロームブロックや焼土粒子が混入し，各層がブロック状にまとまって堆積していることから，人為堆積と考えられる。

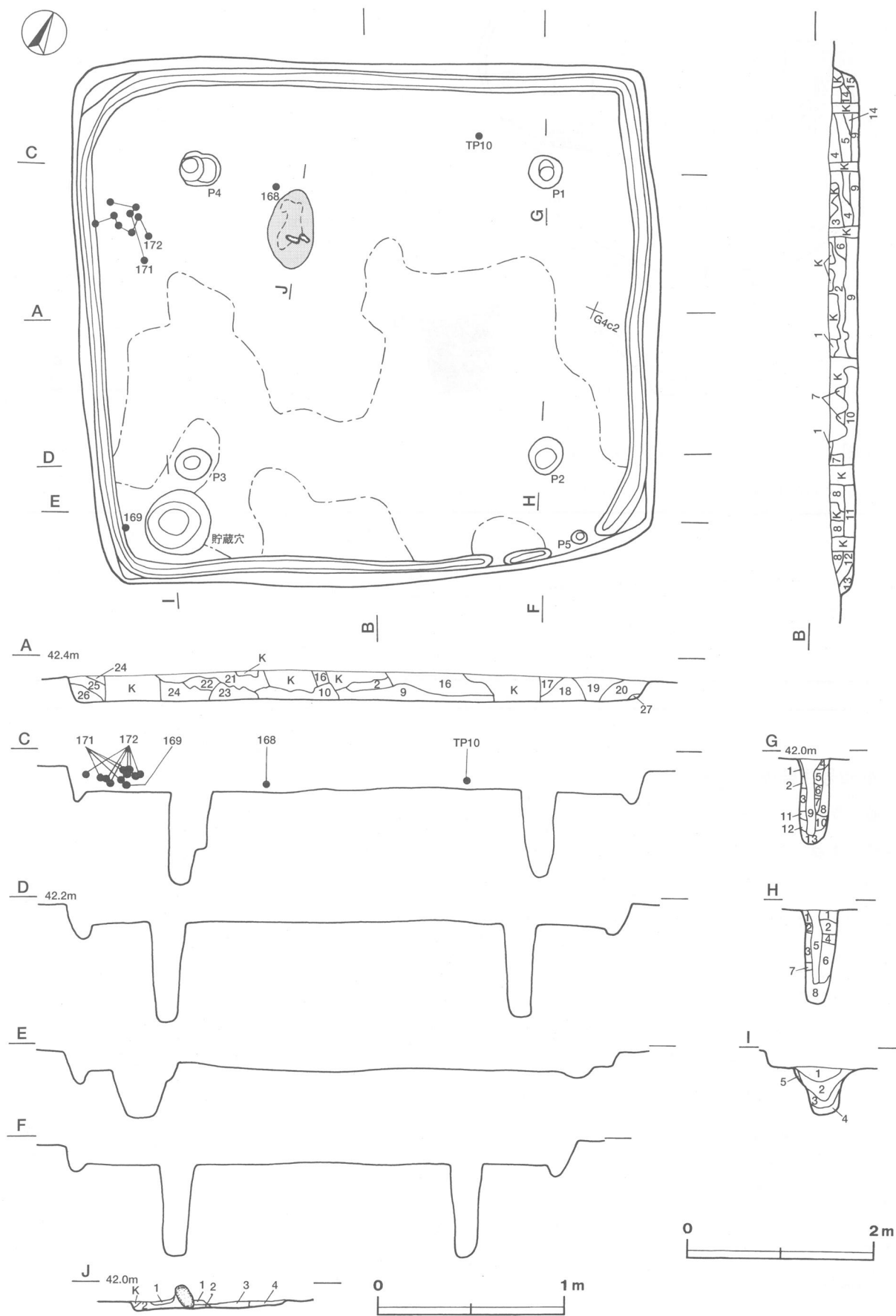
### 土層解説

- |           |                |           |                |
|-----------|----------------|-----------|----------------|
| 1 黒 色     | ローム粒子微量        | 15 黒 褐色   | ローム粒子少量        |
| 2 黒 色     | ローム粒子微量        | 16 黒 色    | ローム粒子微量        |
| 3 黒 色     | ローム粒子微量        | 17 黒 褐色   | ローム粒子微量        |
| 4 黒 褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量   | 18 極 暗 褐色 | ロームブロック微量      |
| 5 黒 褐色    | ローム粒子微量        | 19 黒 褐色   | ローム粒子微量        |
| 6 黒 褐色    | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 20 黒 褐色   | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 7 黒 褐色    | ローム粒子微量        | 21 黒 色    | ローム粒子微量        |
| 8 黒 色     | ローム粒子微量        | 22 黒 褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 9 極 暗 褐色  | ローム粒子少量        | 23 極 暗 褐色 | ローム粒子少量        |
| 10 極 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 24 黒 褐色   | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 11 黒 褐色   | ローム粒子少量        | 25 黒 褐色   | ローム粒子微量        |
| 12 黒 褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量   | 26 黒 褐色   | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 13 極 暗 褐色 | ロームブロック微量      | 27 暗 褐色   | ローム粒子中量        |
| 14 黒 褐色   | ローム粒子微量        |           |                |

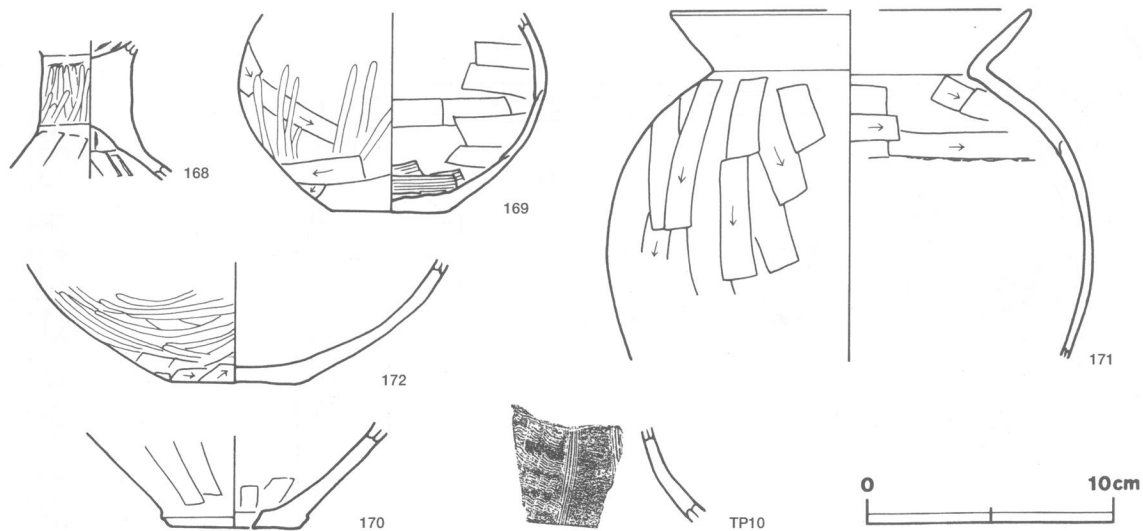
**遺物出土状況** 土師器片273点，礫5点のほか，攪乱により混入したとみられる弥生土器片13点，須恵器片2点が出土している。炉跡周辺から西コーナーにかけて集中的に出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。





第71図 第51号住居跡実測図



第72図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表 (第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
168	土師器	高坏	-	(5.6)	-	長石・雲母	橙	普通	脚部中実, 外面ヘラ磨き 裾部内・外面ヘラナデ	炉跡北西側覆土下層	10%
169	土師器	埴	-	(8.0)	4.8	石英・長石・雲母 礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面上位ヘラナデ, 下位ハケ目調整	南コーナー部覆土下層	30%
170	土師器	甌	-	(4.3)	[5.2]	石英・長石	明褐	普通	内・外面ヘラナデ 上から下に穿孔	南東部覆土中	5%
171	土師器	甕	[14.6]	(14.1)	-	石英・長石	明赤褐	普通	内・外面ヘラ削り	西コーナー部覆土中層	25%
172	土師器	甕	-	(4.9)	5.4	長石・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ削り後ヘラ磨き	西コーナー部覆土中層	20%
TP10	弥生土器	壺	-	(4.1)	-	長石・雲母	橙	普通	6本櫛歯による縦区画の中に6本櫛歯による波状文	北コーナー部覆土中層	PL29

### 第52号住居跡 (第73図)

**位置** 調査区の中央部, F4f2区。標高42.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.80m, 短軸3.65mの方形である。壁は高さ14~19cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-15°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡の南側を中心に硬化面が見られる。壁際に並んで, 径12~22cmの円形や楕円形をし, 深さ12~16cmほどの小ピット群が48か所見られ, 壁柱穴の可能性が考えられるが, 性格は不明である。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径74cm, 短径30cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので, 短期間の使用と考えられる。

**ピット** 50か所(その中の48か所は床の項で述べたピット群)。P1の配置は不自然であるが規模から柱穴と考えられる。P2は南壁際の中央部やや東寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1が40cm, P2が28cmである。

#### P1土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

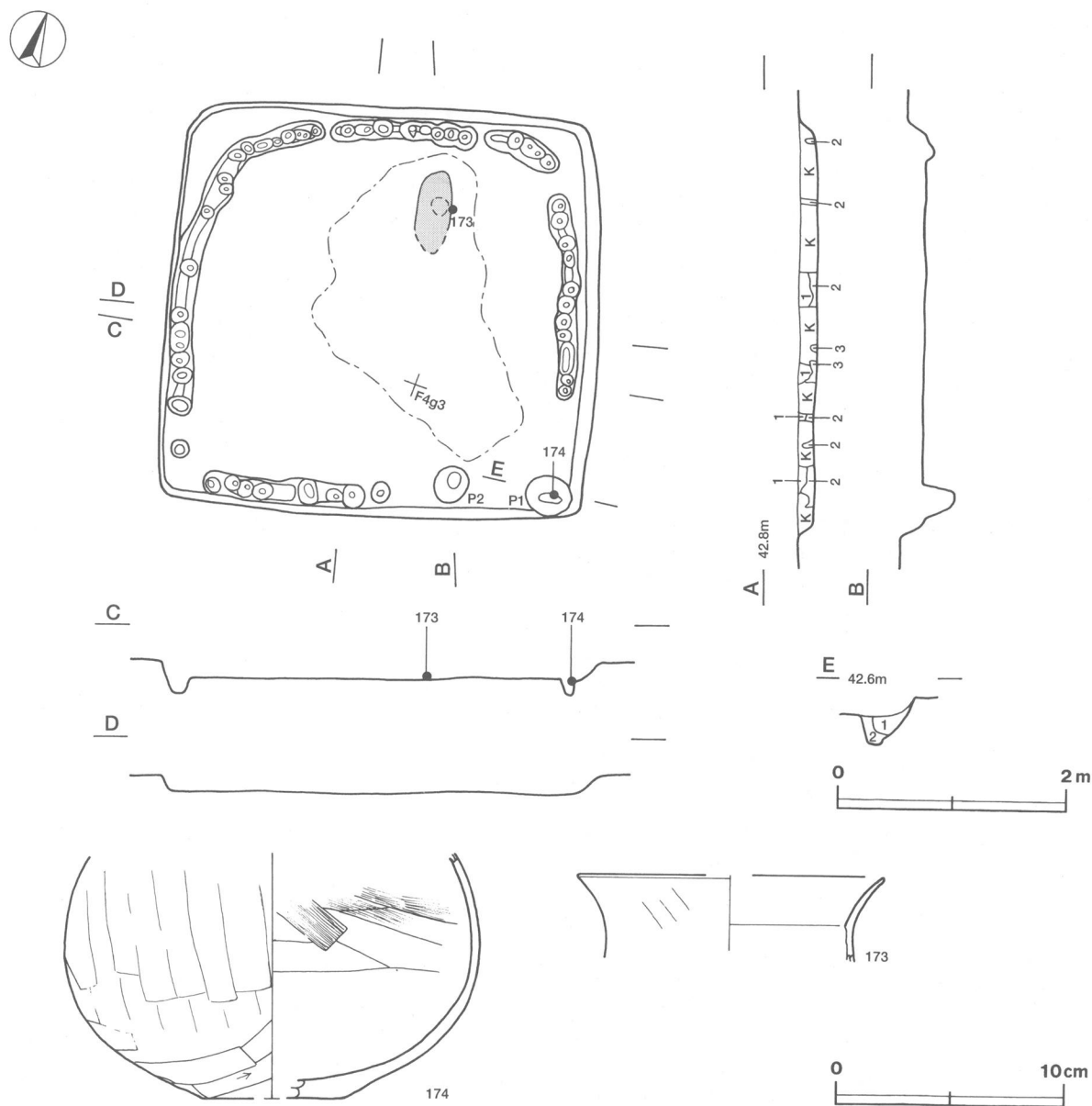
**覆土** 3層からなる。層厚が薄く, トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

#### 土層解説

1 黒色 ロームブロック微量 3 黒褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片104点が出土している。遺物は北西部と南東コーナーから出土している。

**所見** 本跡は当該期の住居跡としては小規模である。時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第73図 第52号住居跡・出土遺物実測図

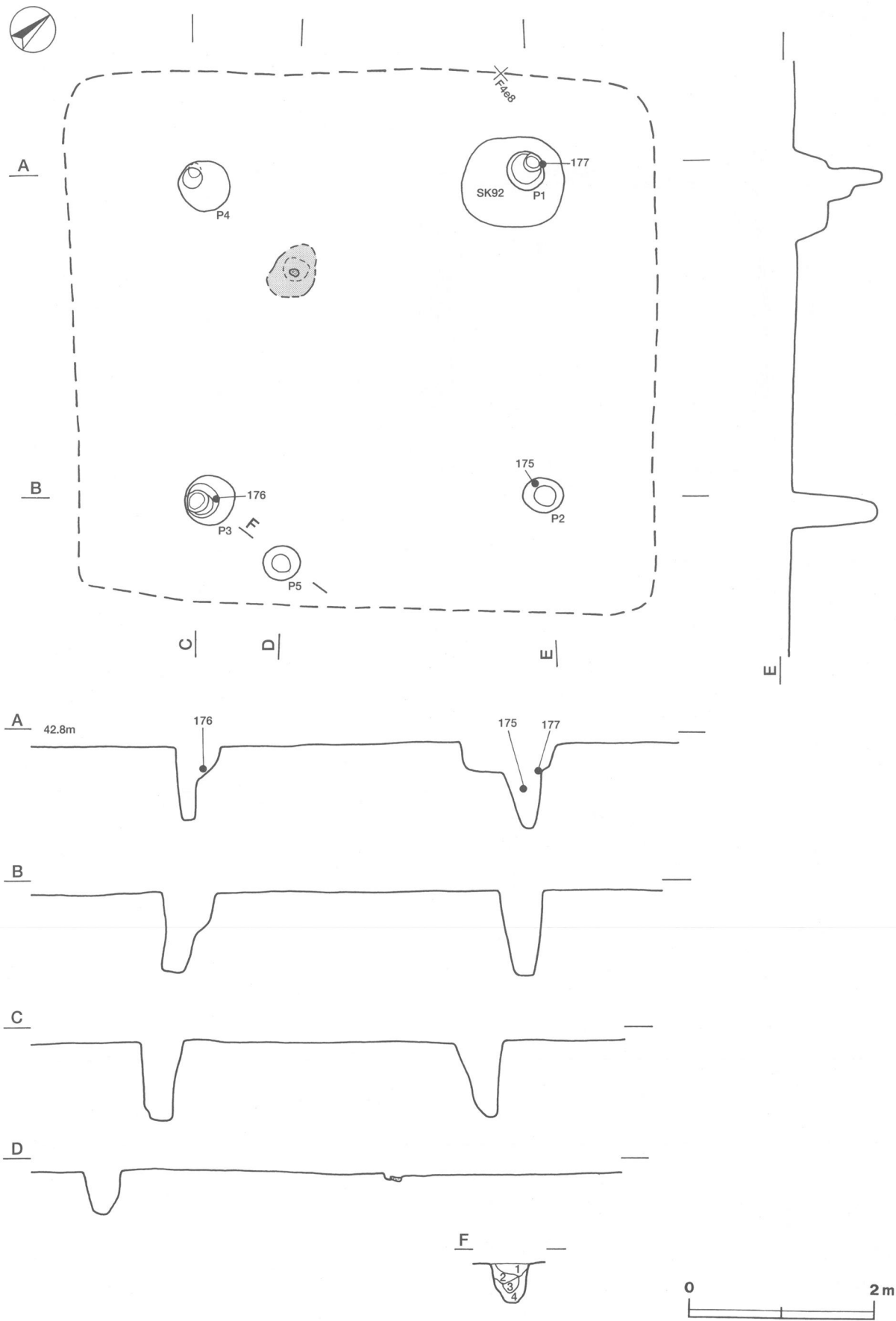
第52号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
173	土師器	甕	[13.6]	(3.7)	—	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面ヘラナデ、内面横ナデ	北東部床面	5%
174	土師器	甕	—	(10.8)	[6.4]	石英・長石	にぶい褐	普通	外面上位ヘラナデ、下位ヘラ削り、内面ハケ目調整	貯蔵穴覆土中	30%

**第53号住居跡（第74図）**

**位置** 調査区の中央部、F4e8区。標高42.6 mの平坦部に位置している。

**重複関係** 北コーナー部を第92号土坑に掘り込まれている。壁は削平されていて、炉跡とピットのみが遺存している。



第74图 第53号住居跡実測図

**規模と形状** 長軸6.32m，短軸5.80mの方形と推定される。壁は削平されている。主軸方向はN-55°-Wと推定される。

**床** ほぼ平坦である。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径64cm，短径46cmの楕円形で，炉床を8cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床中央部に長さ11cmほどの炉石を持っている。

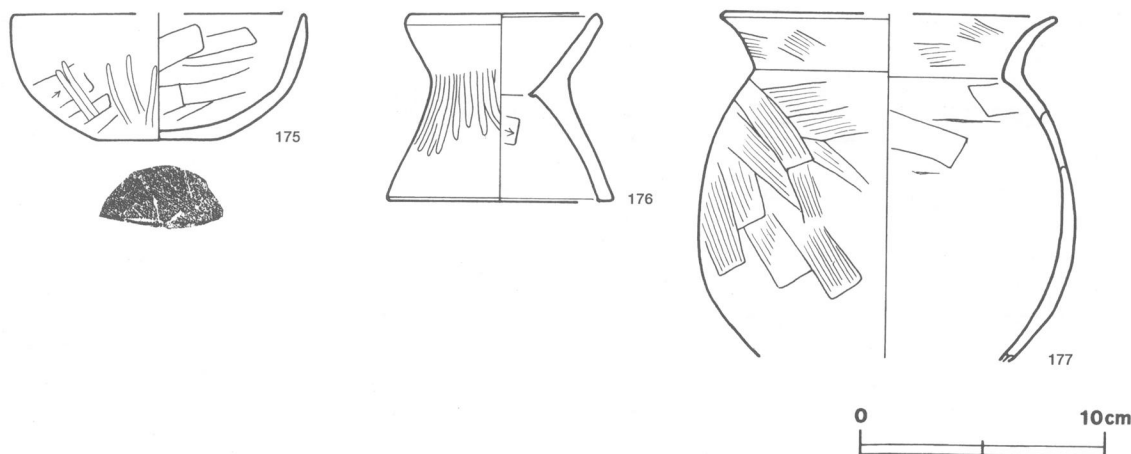
**ピット** 5か所。P 1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5は南東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1～4が82～92cm，P 5が49cmである。

**P 5土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 4 明褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片140点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点，須恵器片1点が出土している。遺物は支柱穴内と支柱穴周辺から出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第75図 第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表（第75図）

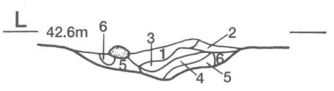
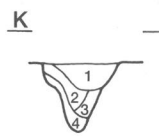
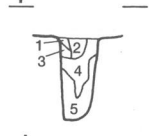
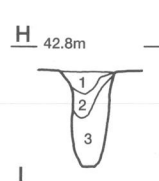
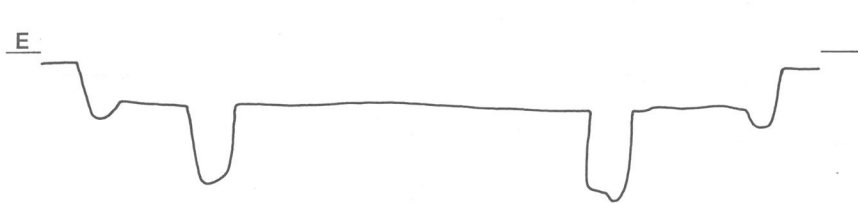
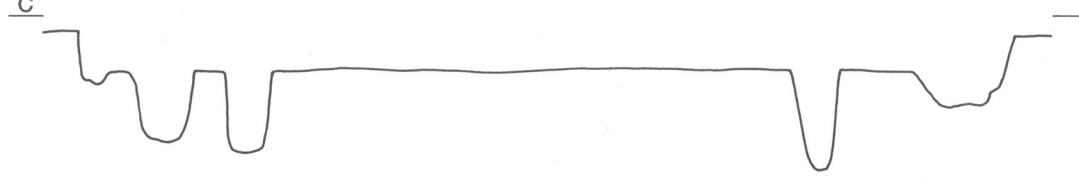
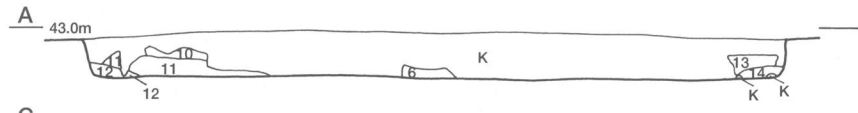
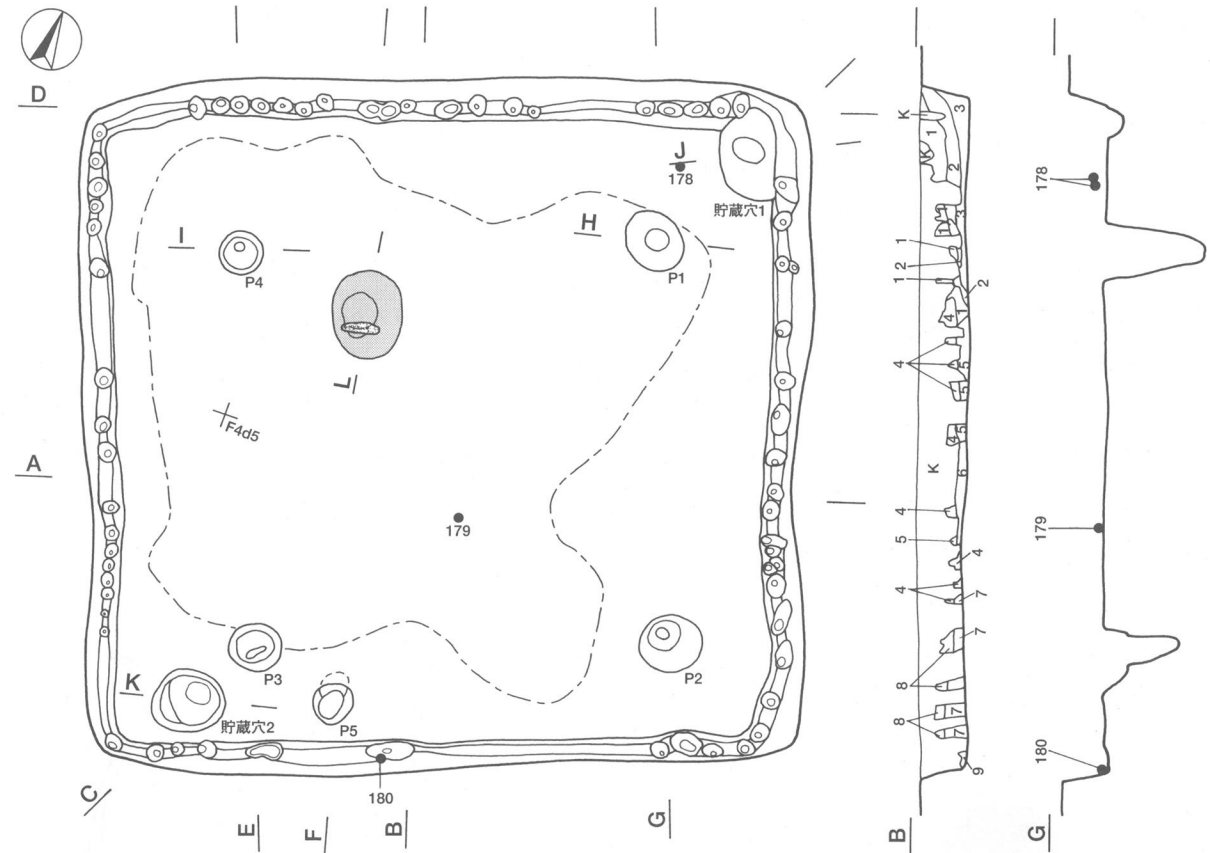
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
175	土師器	椀	[11.8]	5.0	5.0	長石・石英・雲母・スコリア	にぶい褐	普通	口・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ 底部外面ヘラ削り	P 2 覆土中	40%
176	土師器	器台	7.6	7.6	9.2	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	器受部内・外面横ナデ 脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り	P 3 覆土中	45% PL26
177	土師器	甕	[13.5]	(14.3)	-	長石・雲母・礫	にぶい褐	普通	口縁部内・外面及び体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	P 1 覆土中	20%

**第54号住居跡（第76図）**

**位置** 調査区の中央部，F4c5区。標高42.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.84m，短軸5.60mの方形である。壁は高さ30～40cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-20°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅20cm～24cm，下幅8～14cm，深さ4～16cmで，断面形はU字状であり，溝の中に径が10～34cmの円形や楕円形をし，深さ4～8cmほどの小ピット群が65か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられるが，その性格は不明である。



第76图 第54号住居跡実测图

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径72cm，短径58cmの楕円形で，床面を18cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いため，長期間の使用と考えられる。炉床の中央部南寄りに長さ31cmほどの炉石を持っている。

**炉土層解説**

- |        |                         |          |                         |
|--------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   | 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子中量，焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量     | 5 赤褐色    | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量   |
| 3 暗赤褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 6 暗赤褐色   | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量     |

**ピット** 71か所（その中の65か所は床の項で述べた壁際のピット群）。P1～4は配置と規模からから主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部やや西寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が63～81cm，P5が36cmである。

**P1土層解説**

- |        |                       |      |                |
|--------|-----------------------|------|----------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   | 3 褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色  | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 |      |                |

**P4土層解説**

- |        |                         |      |                |
|--------|-------------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色  | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量   | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量   | 5 褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | 炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |      |                |

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は北コーナー壁に接して，貯蔵穴2は南コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長径74cm，短径46cmの楕円形で，深さは29cmである。貯蔵穴2は長径58cm，短径50cmの楕円形で，深さは57cmである。

**貯蔵穴1土層解説**

- |        |                       |       |                  |
|--------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子多量，焼土粒子微量   | 3 暗褐色 | 炭化粒子中量，ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |       |                  |

**貯蔵穴2土層解説**

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   | 3 黒褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 褐色  | ローム粒子多量，炭化粒子少量   |

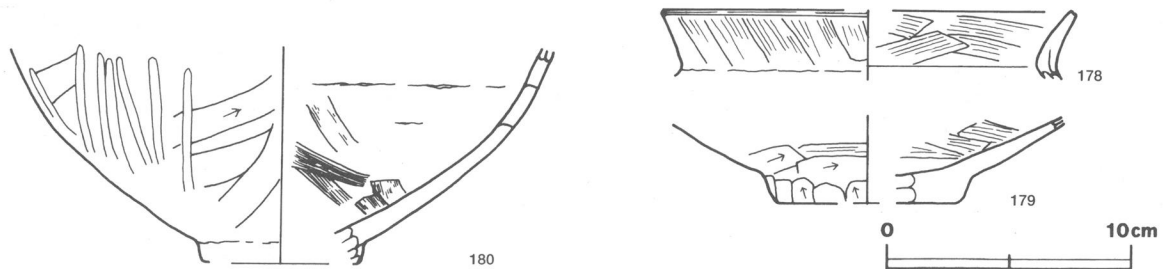
**覆土** 14層からなる。トレンチャーによる攪乱が多く，全体の堆積状況は不明であるが，北壁際はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                       |         |                       |
|--------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   | 8 黒褐色   | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 暗褐色   | 炭化粒子中量，ロームブロック微量      |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック微量      | 10 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 4 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   | 11 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 5 暗褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック微量      | 12 暗褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 13 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 7 黒褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 黒褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片189点，炉石1点，礫4点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片4点，須恵器片7点が出土している。遺物は床面全体に散在した状況で出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第77図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	土師器	甕	[16.6]	(2.8)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整	北コーナー部 覆土下層	10%
179	土師器	甕	—	(3.6)	[7.2]	長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	中央部床面	45%
180	土師器	甕	—	(8.9)	[6.2]	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ・弱いハケ目調整	南東壁際床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	炉石	32.0	8.5	6.7	1660.7	砂岩	全面被熱	炉跡覆土中	未掲載

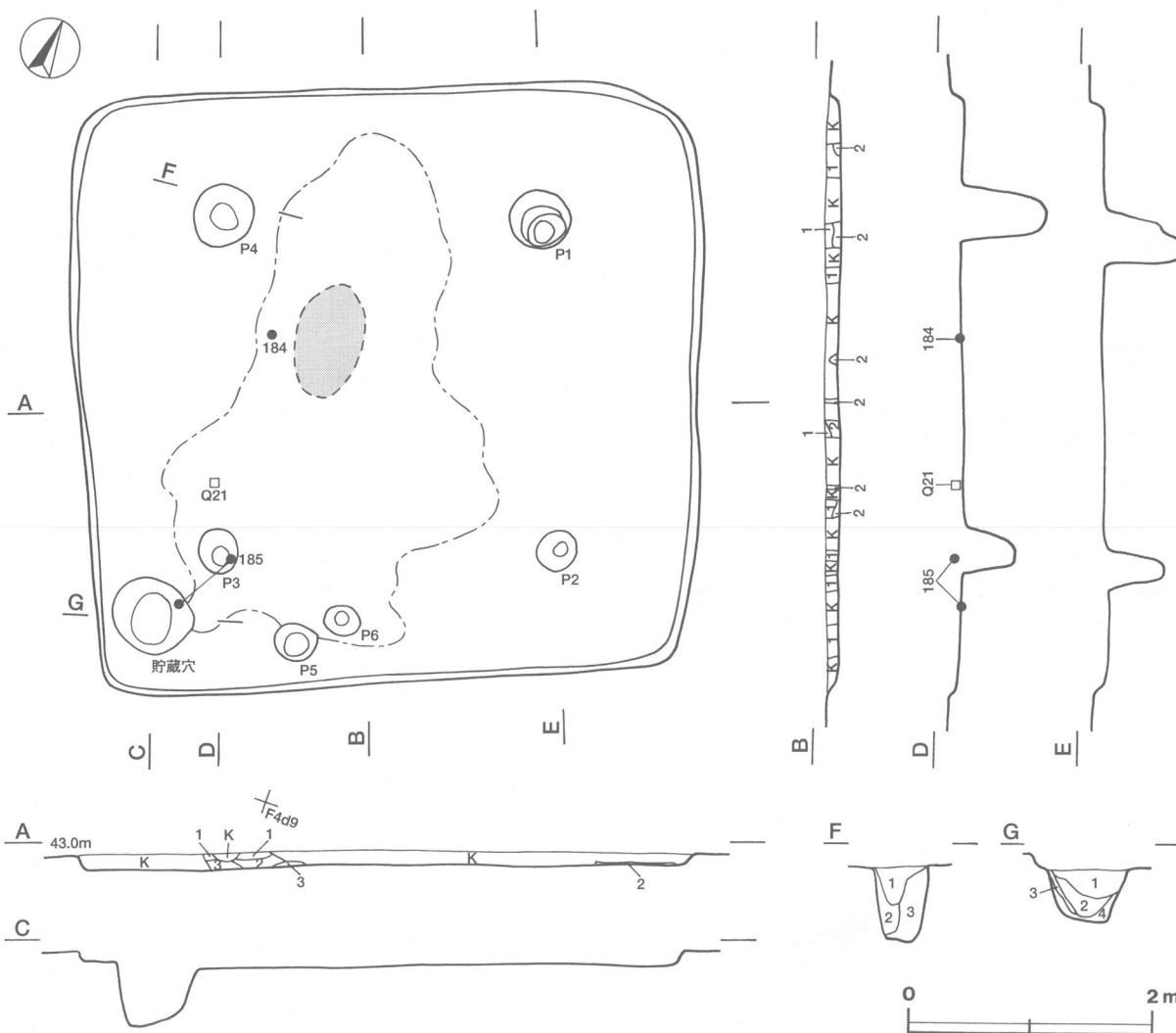
第56号住居跡 (第78図)

位置 調査区の中央部, F4c8区。標高42.9 mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.10m, 短軸4.90mの方形である。壁は高さ10~14cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-20°-Wである。

床 ほぼ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

炉 中央部に設けられている。トレンチャーによる攪乱が見られるが, 焼土の広がりから長径94cm, 短径56cmの楕円形をした地床炉と考えられる。炉床は床面の掘り込みは見られない。



第78図 第56号住居跡実測図



ピット 6か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5・6は南東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから、共に出入口施設に伴うピットとも考えられるが、どちらか一方だけが出入口施設に伴うピットの可能性もある。深さはP1～4が42～70cm、P5・6が20～23cmである。

**P4土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸68cm, 短軸57cmの隅丸長方形で、深さは50cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量

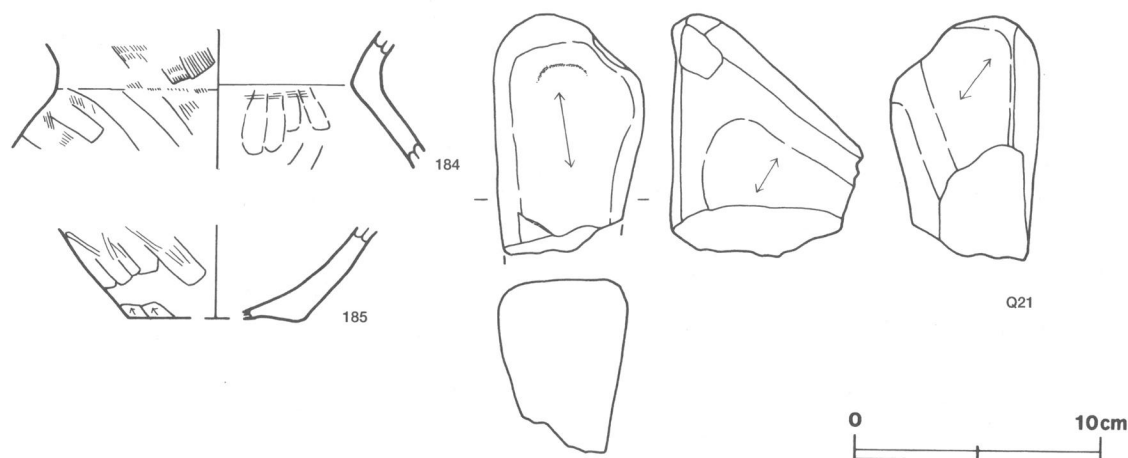
**覆土** 3層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**遺物出土状況** 土師器片57点, 炉石1点, 礫3点のほか、攪乱により混入したとみられる弥生土器片3点が出土している。遺物は貯蔵穴周辺から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第79図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
184	土師器	甕	-	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面ハケ目調整後ヘラナデ, 内面指頭によるナデ	炉跡西側床面	5%
185	土師器	甕	-	(3.7)	[6.8]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き	貯蔵穴とP3覆土	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	砥石	(9.8)	6.1	(7.8)	(511.5)	半花崗岩	砥面3面	P3北側覆土下層	

**第57号住居跡 (第80図)**

**位置** 調査区の中央部, E4i6区。標高43.1mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.56m, 短軸6.10mの方形である。壁は高さ10～18cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-7°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅10cm～24cm, 下幅8～10cm, 深さ8～11cmで, 断面形はU字状であり, 溝の中に径が10～30cmの円形や楕円形をし, 深さ5～10cmほど小ピット群が27か所見られ, 壁柱穴の可能性が考えられるが, 性格は不明である。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径92cm, 短径56cmの楕円形で, 床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。硬化の度合いが強いため, 長期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- |        |                  |       |                     |
|--------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |

**ピット** 33か所(その中の27か所は床の項で述べた壁際のピット群)。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は北西コーナー部に位置しているが, 性格は不明である。深さはP1～4が55～70cm, P5が47cm, P6は39cmである。

**P3土層解説**

- |       |                      |        |                         |
|-------|----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量             |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 褐色   | ローム粒子多量, 炭化粒子微量         |
| 3 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子微量      | 7 褐色   | ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量      |        |                         |

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に, 貯蔵穴2は北西コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長径80cm, 短径73cmの円形で, 深さは33cmである。貯蔵穴2は長径100cm, 短径86cmの楕円形で, 深さは53cmである。

**貯蔵穴1土層解説**

- |        |                        |       |                         |
|--------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック微量       |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック少量      | 6 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック微量       |
| 3 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック微量      | 7 暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック微量       |
| 4 極暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック微量      | 8 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 粘土粒子微量 |

**貯蔵穴2土層解説**

- |       |                           |       |                   |
|-------|---------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 6 暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量   | 8 暗褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量   |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量      | 9 褐色  | ローム粒子多量, 炭化粒子少量   |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    |       |                   |

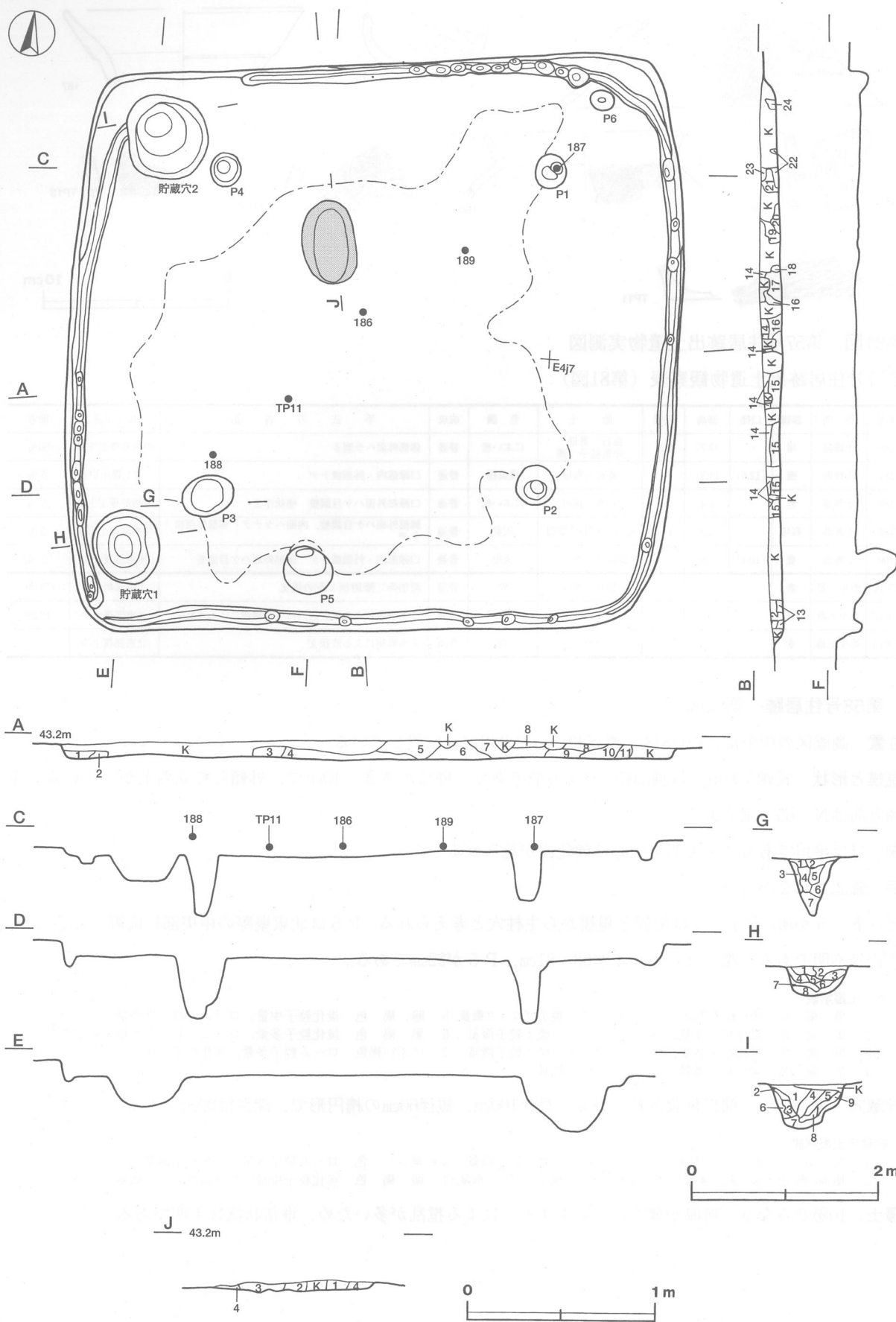
**覆土** 24層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

**土層解説**

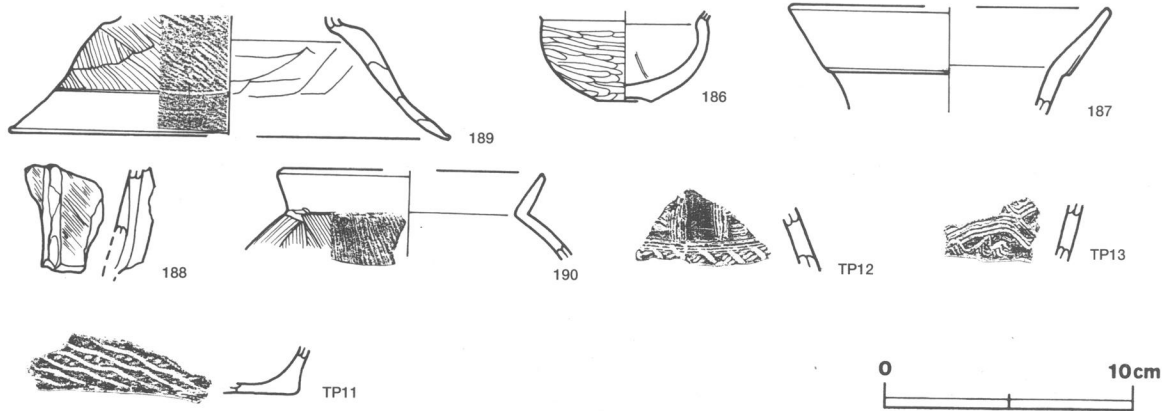
- |        |                           |        |                          |
|--------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色  | 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量        |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 14 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     |
| 3 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 15 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 16 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 5 暗褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 17 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化材微量        | 18 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     |
| 7 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量  | 19 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 8 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 20 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 9 黒褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 21 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 10 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 22 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 11 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量    | 23 黒色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 12 黒色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 24 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |

**遺物出土状況** 土師器片384点, 礫10点のほか, 混入したとみられる弥生土器片23点が出土している。遺物は床面全体に散在した状況で出土している。

**所見** 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が比較的多量に含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第80図 第57号住居跡実測図



第81図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
186	土師器	埴	—	(3.7)	2.2	長石・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き	中央部覆土下層	50%
187	土師器	壺 [12.6]	(4.3)	—	—	長石・雲母	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	P1 覆土中	5%
188	土師器	壺	—	(4.4)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整 棒状浮文	南西部覆土上層	5%
189	土師器	高坏	—	(4.9)	[17.8]	石英・長石・雲母	灰黄	普通	脚部外面ハケ目調整, 内面へラナデ 裾部外面横ナデ	中央部覆土下層	5%
190	土師器	甕 [10.4]	(3.6)	—	—	雲母・スコリア	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整	南東部覆土中	5%
TP11	弥生土器	壺	—	(1.8)	—	長石・雲母	橙	普通	附加条二種(附加1条)の縄文	中央部覆土中	PL29
TP12	弥生土器	壺	—	(2.7)	—	石英・長石	橙	普通	5本櫛歯による縦区画内に5本櫛歯による波状文	北東部覆土中	PL29
TP13	弥生土器	壺	—	(2.4)	—	長石	橙	普通	5本櫛歯による波状文	北東部覆土中	

第58号住居跡 (第82図)

位置 調査区の中央部, E4f8区。標高43.1mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.92m, 短軸5.07mの長方形である。壁は高さ6~10cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-65°-Eである。

床 ほぼ平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。

炉 確認されなかった。

ピット 5か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は北東壁際の中央部に位置しているが, 性格は不明である。深さはP1~4が68~81cm, P5が22cmである。

P1土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 6 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径100cm, 短径60cmの楕円形で, 深さは20cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量

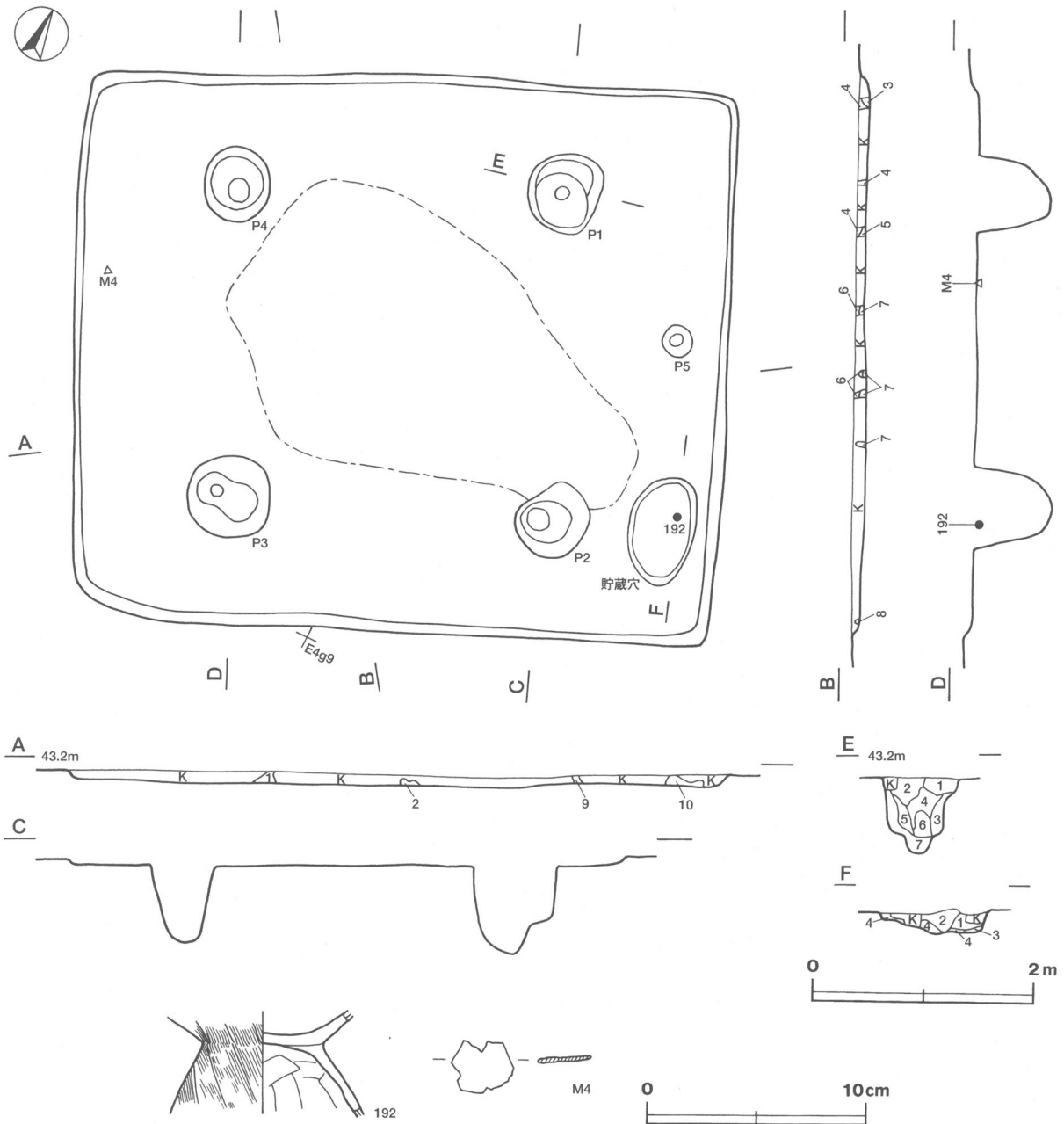
覆土 10層からなる。層厚が薄く, トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |                         |         |                         |
|-------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色   | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 7 黒褐色   | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 8 黒褐色   | 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 9 暗褐色   | 炭化粒子多量, ローム粒子少量         |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 10 極暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック微量       |

遺物出土状況 土師器片99点, 不明鉄製品1点, 礫1点のほか, 攪乱により混入したとみられる須恵器片5点, 陶器片1点が出土している。遺物量は少ないが, 貯蔵穴内から出土している。

所見 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が比較的多量に含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第82図 第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
192	土師器	台付甕	—	(4.8)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子・礫	にぶい黄橙	普通	体・台部外面ハケ目調整 台部内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	5%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	不明	(2.4)	(2.9)	0.2	(2.3)	鉄	断面板状	南西壁際床面	

第59号住居跡（第83図）

**位置** 調査区の中央部，F3b8区。標高43.1mの平坦部に位置している。

**重複関係** 南西コーナー部を第1号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.63m，短軸5.90mの長方形である。壁は高さ12～18cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-18°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。床面中央部に貼り付くように炭化材が出土している。

**炉** 2か所。二つは隣接する形で中央部やや北寄りに設けられている。炉1は長径118cm，短径74cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いため，長期間の使用と考えられる。炉2は長径37cm，短径28cmの楕円形をした地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。炉2が古く，炉1が新しいと考えられる。

**炉1土層解説**

- 1 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量 3 黒色 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量  
2 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量

**ピット** 5か所。P1～4は，配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部やや西寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が59～78cm，P5が62cmである。

**P4土層解説**

- 1 黒色 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量  
2 にぶい褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量 4 褐色 ローム粒子極多量

**貯蔵穴** 北西コーナー部に付設されている。長径70cm，短径60cmの不整楕円形で，深さは52cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 炭化材・焼土粒子少量，ローム粒子微量 5 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒褐色 焼土粒子中量，ロームブロック・炭化材微量 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
3 黒色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 7 灰褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化材微量  
4 黒色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

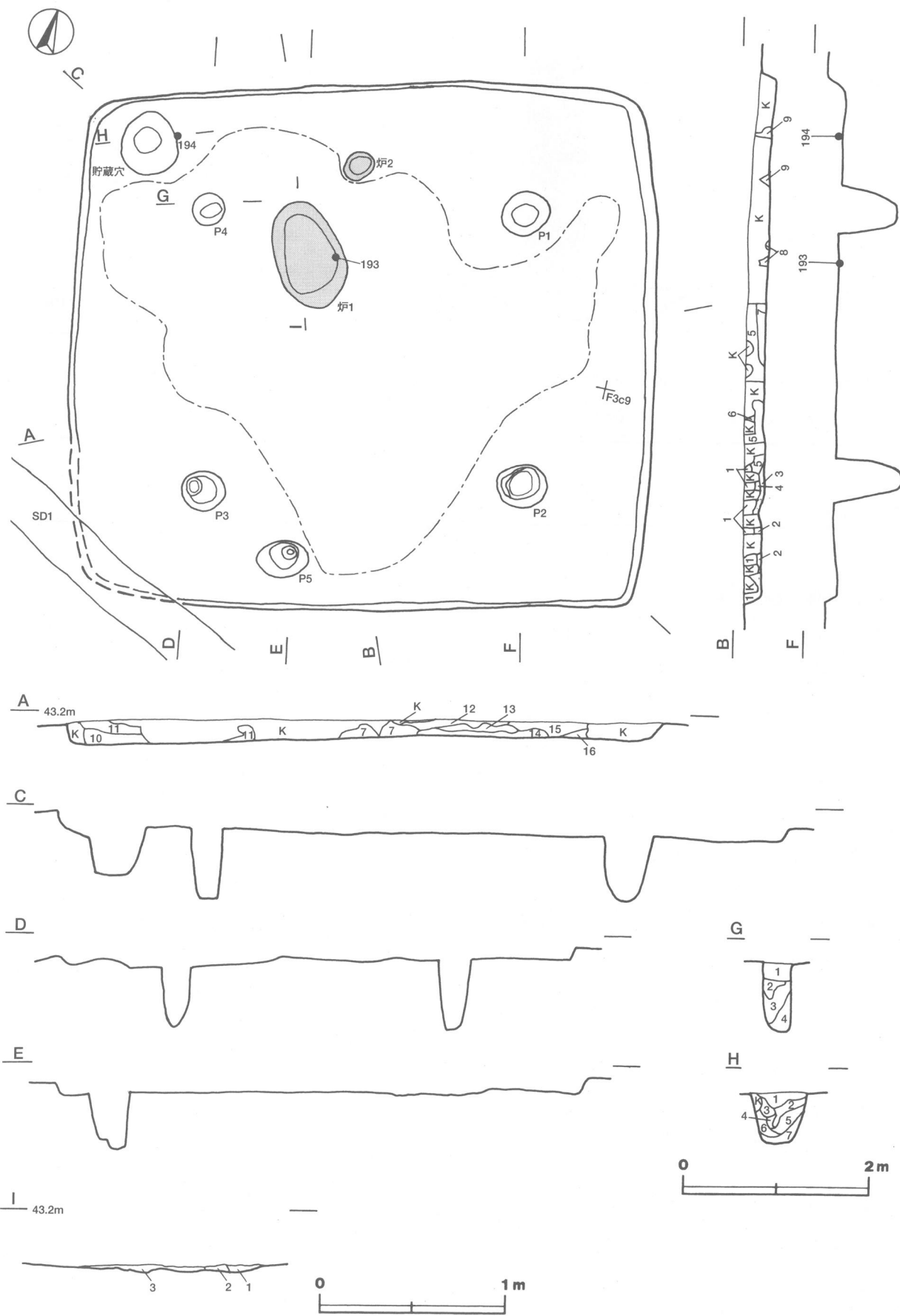
**覆土** 16層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。

**土層解説**

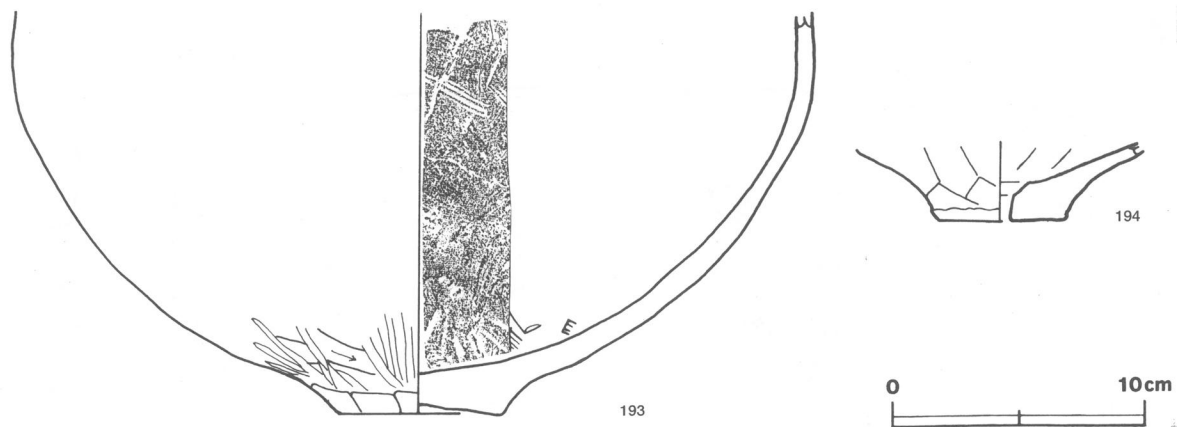
- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 9 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子多量，焼土ブロック微量 10 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量  
3 黒褐色 炭化粒子多量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量 11 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量  
4 黒褐色 炭化材中量，ローム粒子・焼土粒子微量 12 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量  
5 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 13 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量  
6 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 14 黒褐色 炭化材多量，ローム粒子・焼土粒子微量  
7 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 15 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量  
8 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 16 極暗褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片202点，礫4点のほか，攪乱により混入したとみられる弥生土器片2点，須恵器片8点が出土している。遺物は炉跡周辺から出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第83図 第59号住居跡実測図



第84図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
193	土師器	壺	—	(15.9)	6.4	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ・ハケ目調整	炉跡底面	30%
194	土師器	甌	—	(3.0)	[5.0]	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴東側覆土下層	5%

### 第61号住居跡（第85図）

**位置** 調査区の中央部，E3e2区。標高43.2 mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸7.45m，短軸5.84mの長方形である。壁は高さ14～26cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-13°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。P1とP4を結んだラインのやや内側にわずかに焼土粒子の広がりが見られた。

**炉** 確認されなかった。

**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が65～100cm，P5が38cmである。

**貯蔵穴** 南東コーナー部に付設されている。径56cmほどの円形で，深さは60cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量	4 暗赤褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量	5 暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量，炭化材少量

**覆土** 6層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。

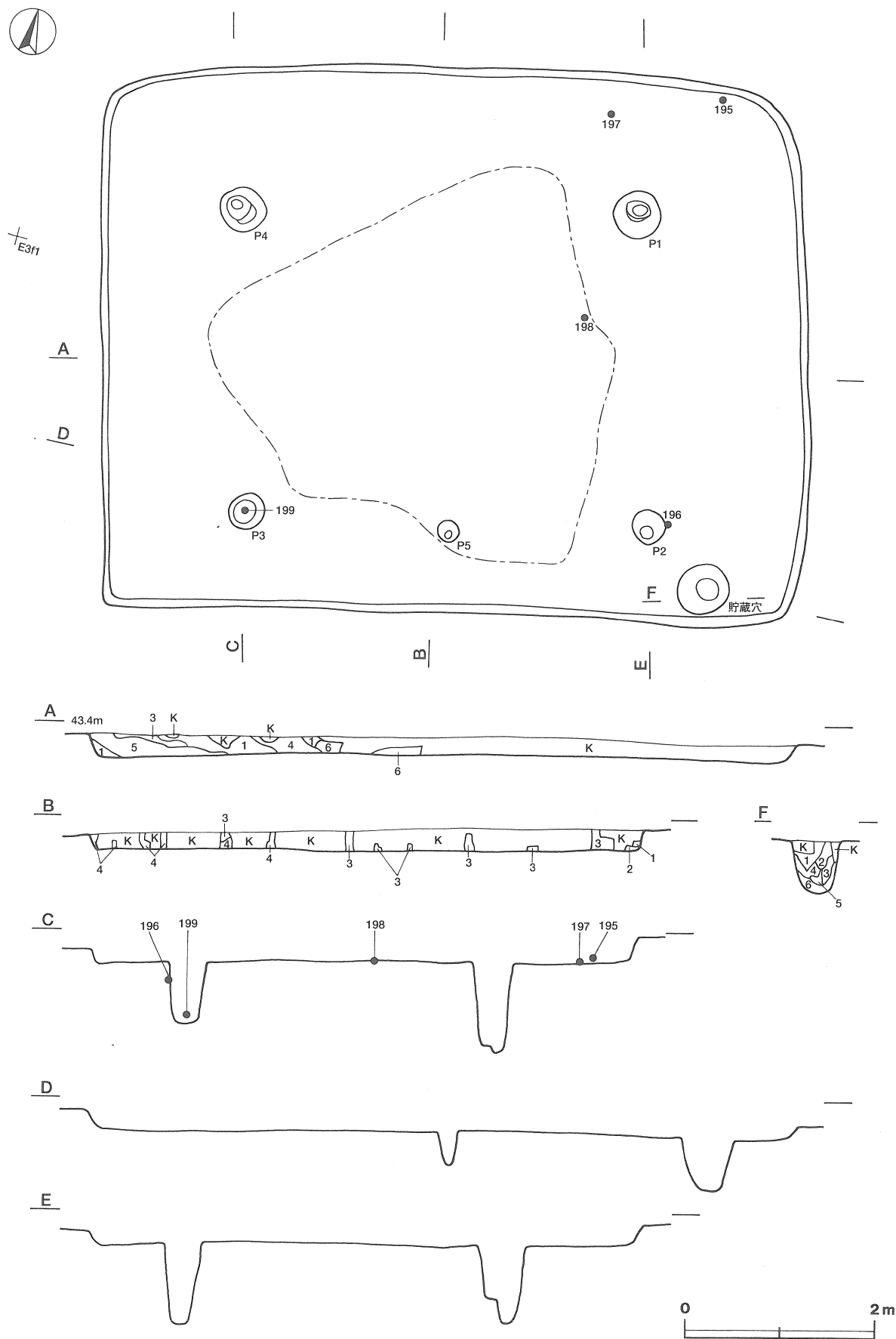
#### 土層解説

1 黒色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量	4 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	5 黒色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3 黒色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	6 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

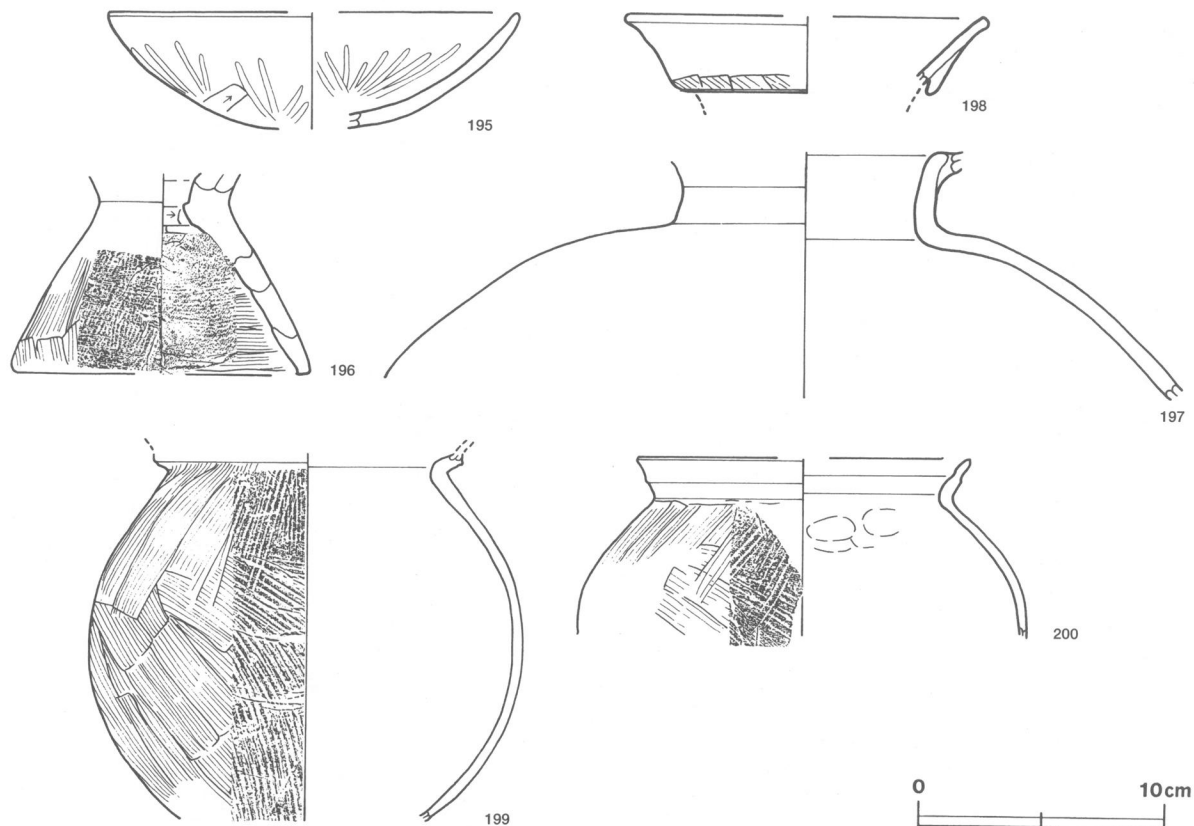
**遺物出土状況** 土師器片338点，粘土塊1点，礫12点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片9点，須恵器片6点が出土している。遺物は北東部と南東部から出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。





第85図 第61号住居跡実測図



第86図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
195	土師器	坏	[16.4]	(4.7)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ヘラ磨き	北東部壁際覆土下層	5%
196	土師器	器台	—	(8.1)	[4.8]	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	台部内・外面ハケ目調整 下から上へ穿孔	P2覆土中	15%
197	土師器	壺	—	(10.0)	—	石英・長石・礫	にぶい橙	普通	摩滅激しく手法不明	北東部床面	30% PL26
198	土師器	壺	[14.4]	(3.1)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ, 外面下端ハケ目調整	中央部床面	5%
199	土師器	台付甕	—	(18.8)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 S字状口縁	P3覆土中	20%
200	土師器	台付甕	[13.4]	(7.2)	—	石英・長石	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整, 内面指ナデ S字状口縁	南東部覆土中	5%

### 第62号住居跡 (第87図)

**位置** 調査区の西部, E2d9区。標高43.5mの平坦部に位置している。

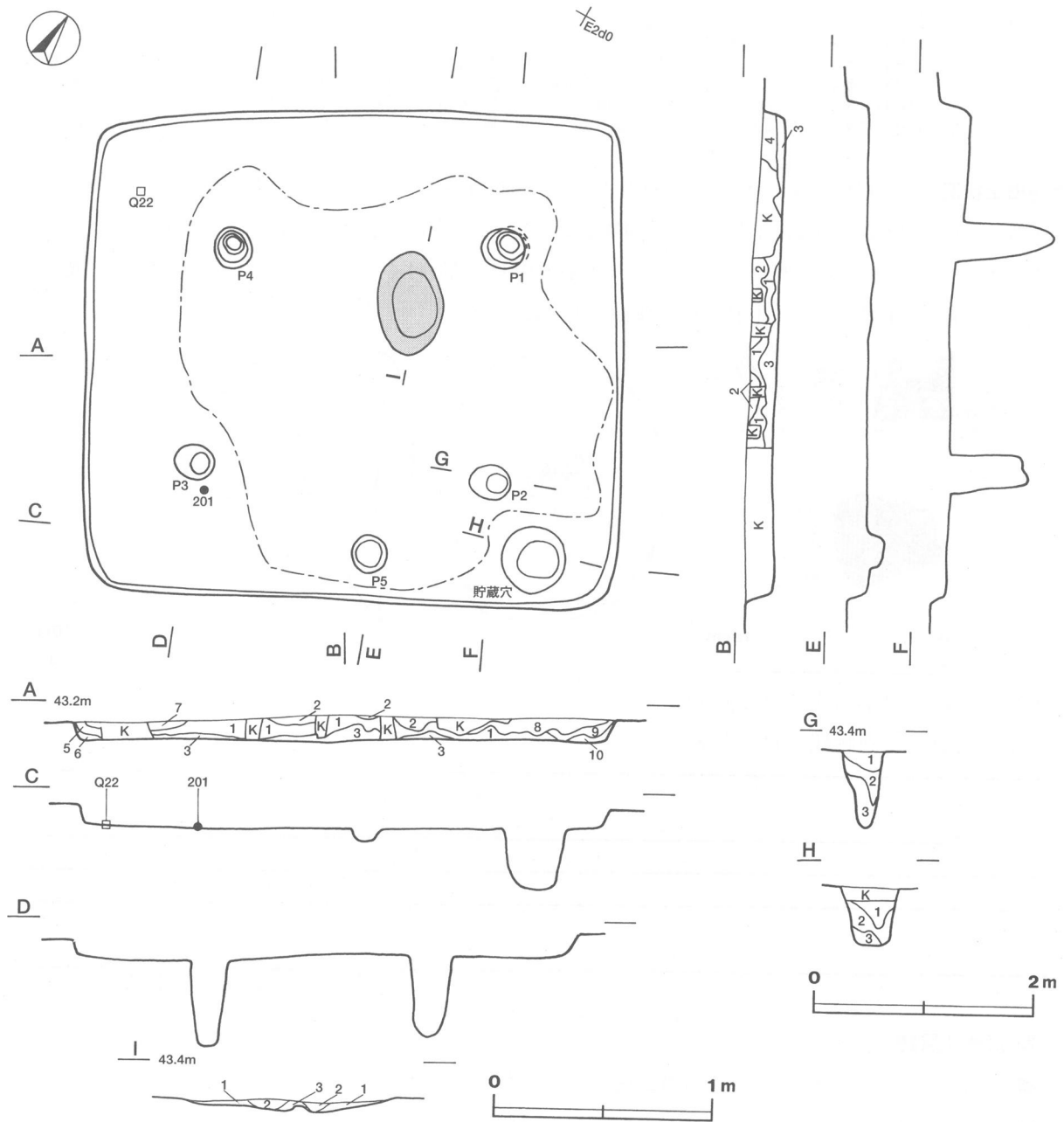
**規模と形状** 長軸4.90m, 短軸4.50mの方形である。壁は高さ16~36cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-27°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。床面中央部に貼り付くように炭化材が出土している。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられ, 長径96cm, 短径58cmの楕円形で, 床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。硬化の度合いが強いため, 長期間の使用と考えられる。

#### 炉土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土ブロック微量



第87図 第62号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際中央部の位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が74～93cm、P5が18cmである。

**P2土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 3 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径60cm，短径56cmの円形で，深さは57cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 3 暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック微量

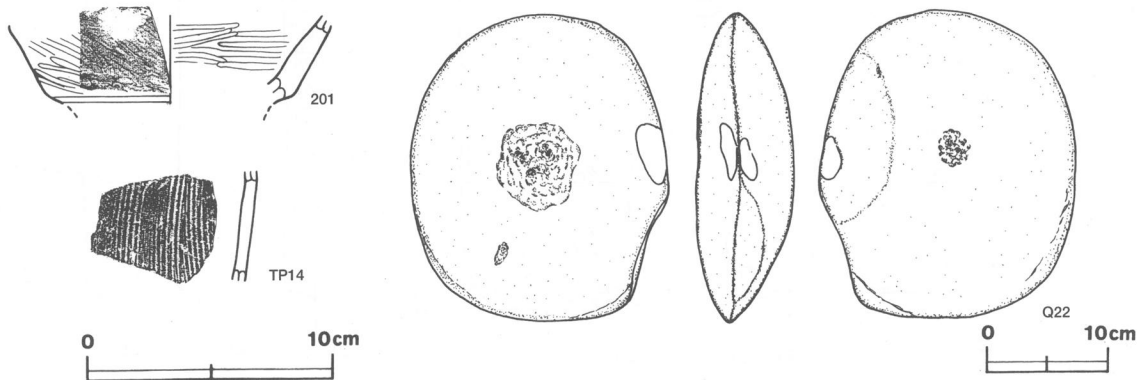
覆土 10層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |                           |         |                          |
|-------|---------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 6 極暗褐色  | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量  | 7 黒褐色   | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量  | 8 黒褐色   | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 9 黒褐色   | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     |
| 5 黒色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量      | 10 極暗褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |

**遺物出土状況** 土師器片93点, 台石1点, 礫3点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片6点, 須恵器片2点, 陶器片1点が出土している。遺物量は少ないが, 西部から出土している。

**所見** 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれ, 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第88図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表 (第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
201	土師器	壺	-	(3.6)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面へラ磨き	南コーナー部床面	5%
TP14	土師器	甕	-	(4.6)	-	長石・雲母	明褐	普通	体部外面ハケ目調整	南東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	台石	25.4	21.2	8.1	5794.4	半花崗岩	表面中央部に敲打痕あり	西コーナー部床面	

第63号住居跡 (第89図)

**位置** 調査区の中央部, F3c1区。標高43.2mの平坦部に位置している。

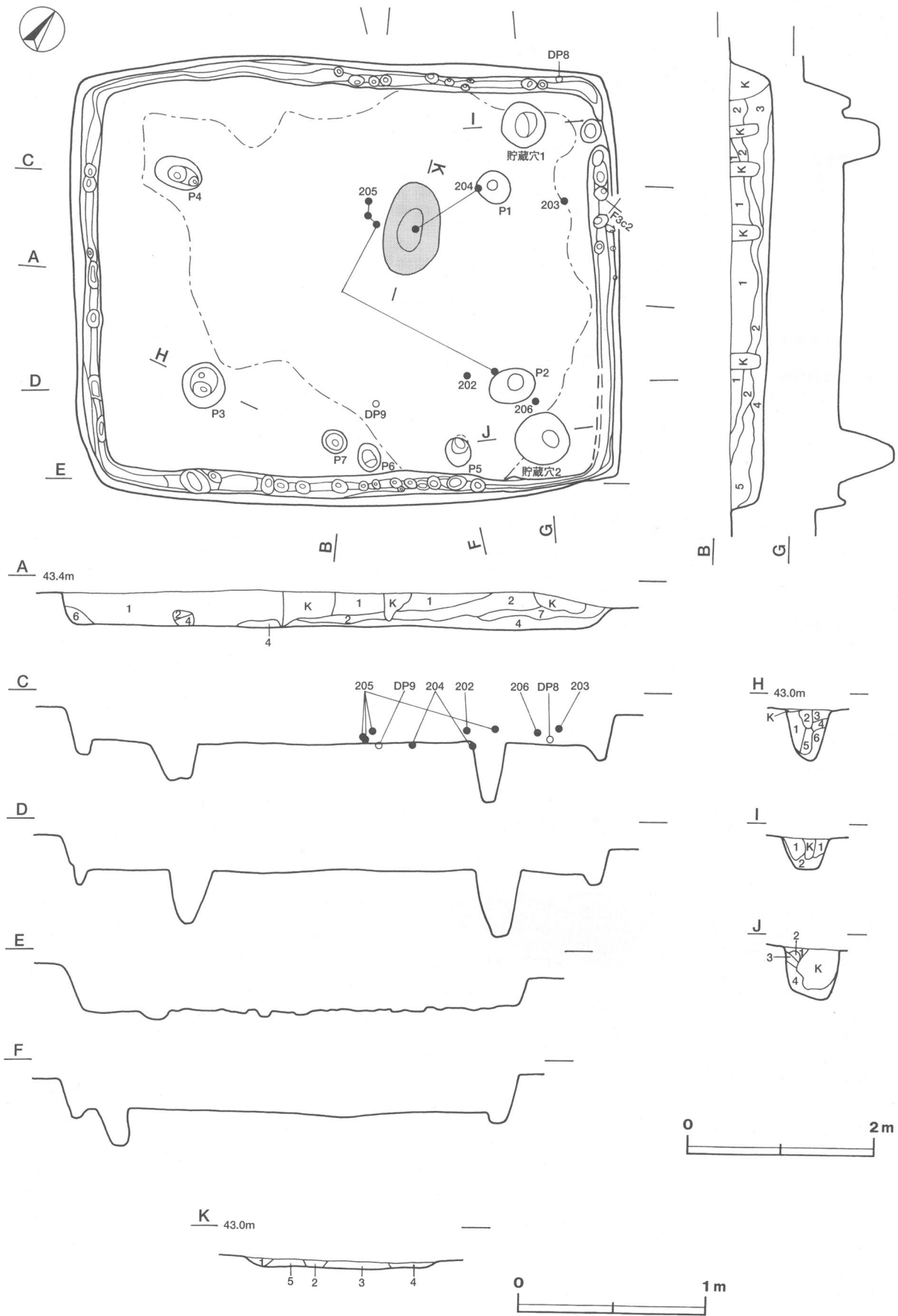
**規模と形状** 長軸5.81m, 短軸4.87mの長方形である。壁は高さ24~50cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-37°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅8~22cm, 下幅6~12cm, 深さ10~18cmで, 断面形はU字状であり, 溝の中に径が10~38cmの円形や楕円形をし, 深さ5~18cmほどの小ピット群が41か所見られ, 壁柱穴の可能性が考えられるが, 性格は不明である。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径102cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。硬化の度合いが強いため, 長期間の使用と考えられる。

炉土層解説

- |       |                         |        |                        |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 4 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量    | 5 黒褐色  | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |        |                        |



第89図 第63号住居跡実測図

ピット 48か所（その中の41か所は床の項で述べた壁際のピット群）。P 1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P 5～7は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられるが、どれか1か所だけが出入口施設に伴うピットとも考えられる。深さはP 1～4が45～76cm、P 5が42cm、P 6・7が26～28cmである。

**P 3 土層解説**

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量        | 4 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量      |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 |

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に、貯蔵穴2は南東コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は径60cmほどの円形で、深さは60cmである。貯蔵穴2は径50cmほどの円形で、深さは43cmである。

**貯蔵穴1 土層解説**

- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量 |
|----------------------------|-------------------------|

**貯蔵穴2 土層解説**

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量   |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量      | 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

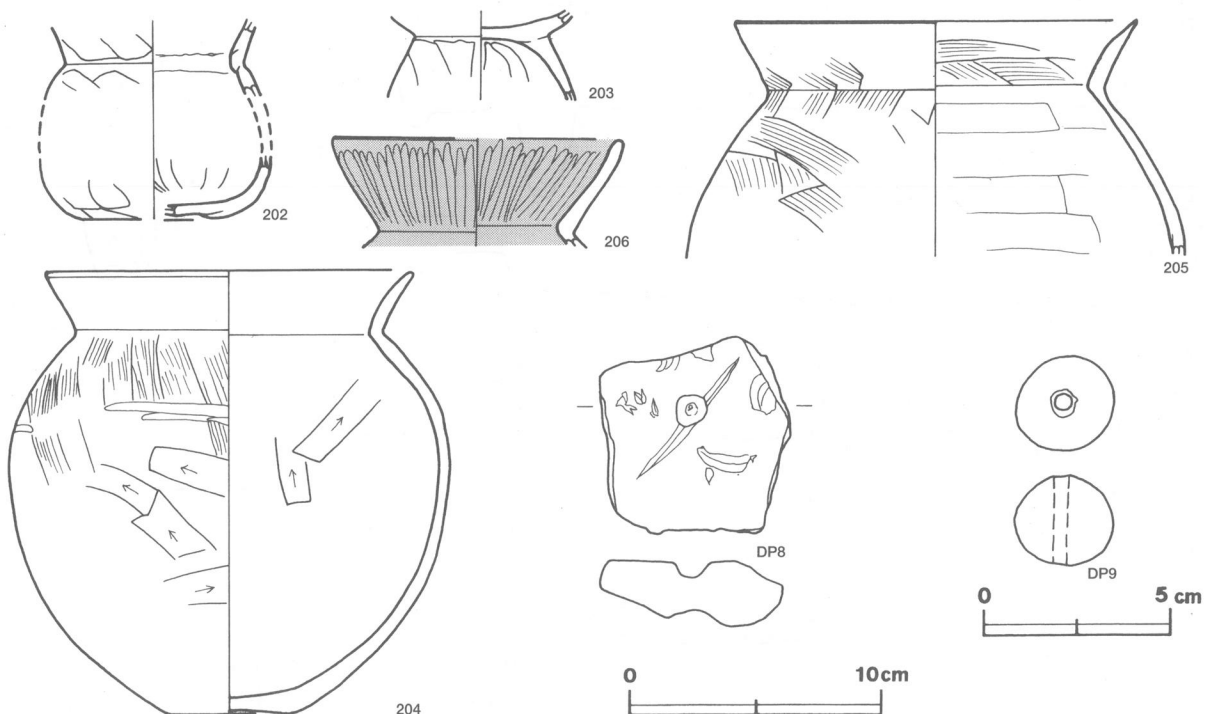
覆土 7層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                              |                                 |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 5 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 6 極暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量    |
| 4 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |                                 |

遺物出土状況 土師器片210点, 粘土塊4点, 土玉1点, 不明土製品1点, 礫4点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片12点, 須恵器片1点, 陶器片1点が出土している。遺物は炉跡の周辺部から出土している。

所見 覆土中に炭化粒子が多量に含んでいることから焼失住居の可能性が考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第90図 第63号住居跡出土遺物実測図

## 第63号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
202	土師器	埴	-	[7.9]	[5.6]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	東コーナー部 覆土下層	10%
203	土師器	台付甕	-	(3.7)	-	長石・雲母	橙	普通	台部内・外面ヘラナデ	北コーナー部 覆土中層	5%
204	土師器	甕	14.6	17.5	5.0	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面上位ハケ目調整後ヘラ磨き、下位ヘラ削り 体部内面ヘラ削り	炉跡底面	80% PL25
205	土師器	甕	16.0	(9.4)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面及び体部外面ハケ目調整 体部内面ヘラナデ	炉跡西側床面	20%
206	土師器	埴	[11.4]	(4.3)	-	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き 内・外面赤彩	東コーナー部 覆土下層	5%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	不明	7.9	7.4	2.6	90.2	土	外面ナデ	北コーナー部壁溝中	
DP9	土玉	2.4	0.4	2.6	16.3	土	外面ナデ	南東部覆土下層	PL30

## 第64号住居跡（第91・92図）

**位置** 調査区の西部，F2j7区。標高43.2mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.71m，短軸6.01mの長方形である。壁は高さ20～30cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-34°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。壁溝は，南東壁から北東壁，北西壁下に見られる。上幅11～16cm，下幅8cm，深さ6～7cmで，断面形はU字状である。この壁溝の中や壁際に径が10～25cmの円形や楕円形をし，深さ5～12cmほどのピット群が南西壁際を除いて41か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径120cm，短径66cmの楕円形で，床面を4cm程掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが弱いので，短期間の使用と考えられる。

## 炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 2 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量

**ピット** 46か所(その中の41か所は床の項で述べた壁際のピット群)。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が56～78cm，P5が40cmである。

## P2土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 4 暗褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量  
2 暗褐色 炭化粒子多量，ローム粒子微量 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子中量  
3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量

## P3土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 3 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径52cm，短径43cmの楕円形で，深さは45cmである。

## 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 3 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量  
2 極暗褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 4 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量

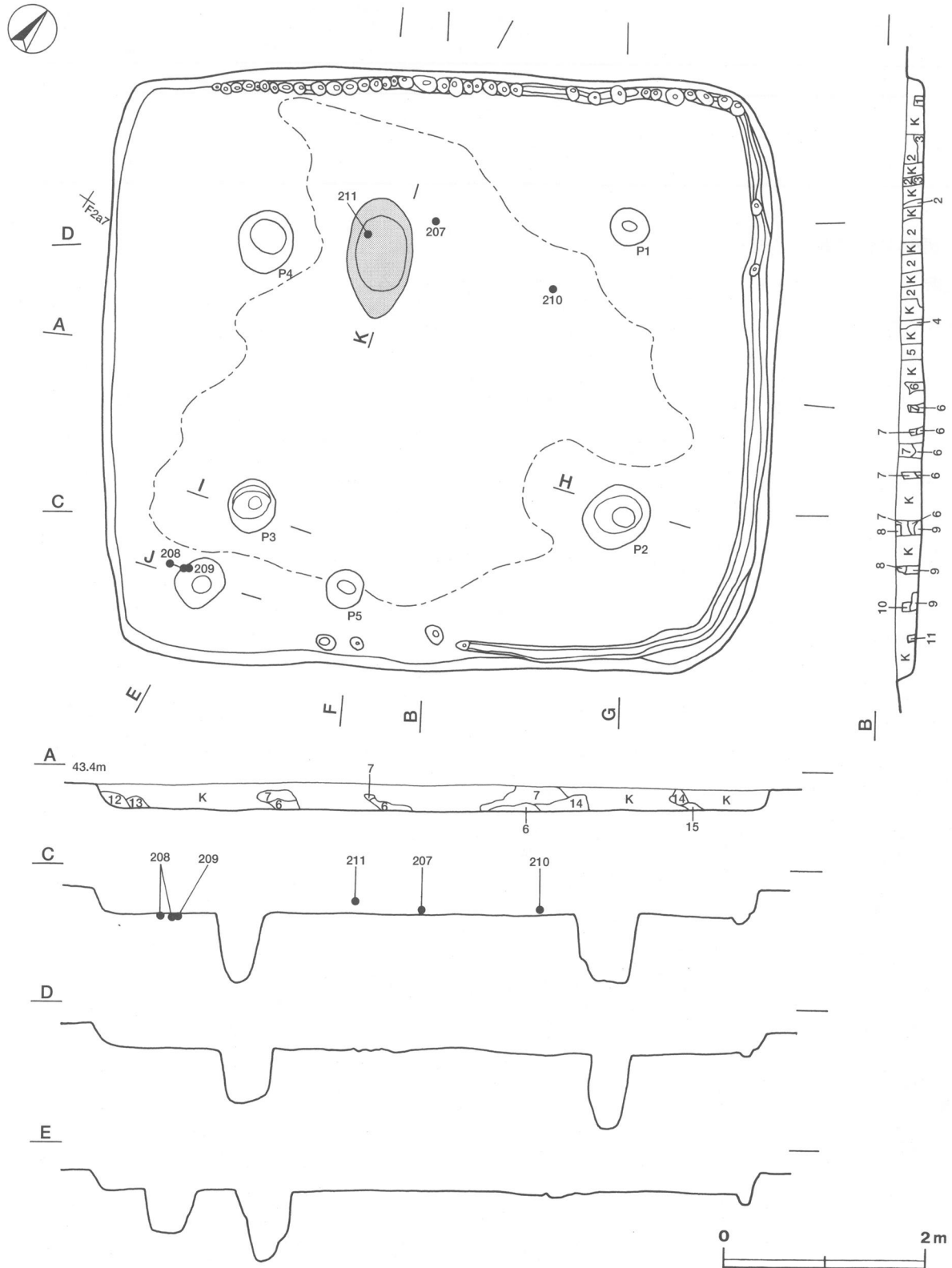
**覆土** 15層からなる。トレンチャーによる攪乱が多く，堆積状況は不明である。

## 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 9 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量  
2 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 10 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量  
3 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 11 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量  
4 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 12 褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量  
5 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 13 極暗褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量  
6 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 14 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量  
7 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 15 黒褐色 炭化粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量  
8 黒色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量

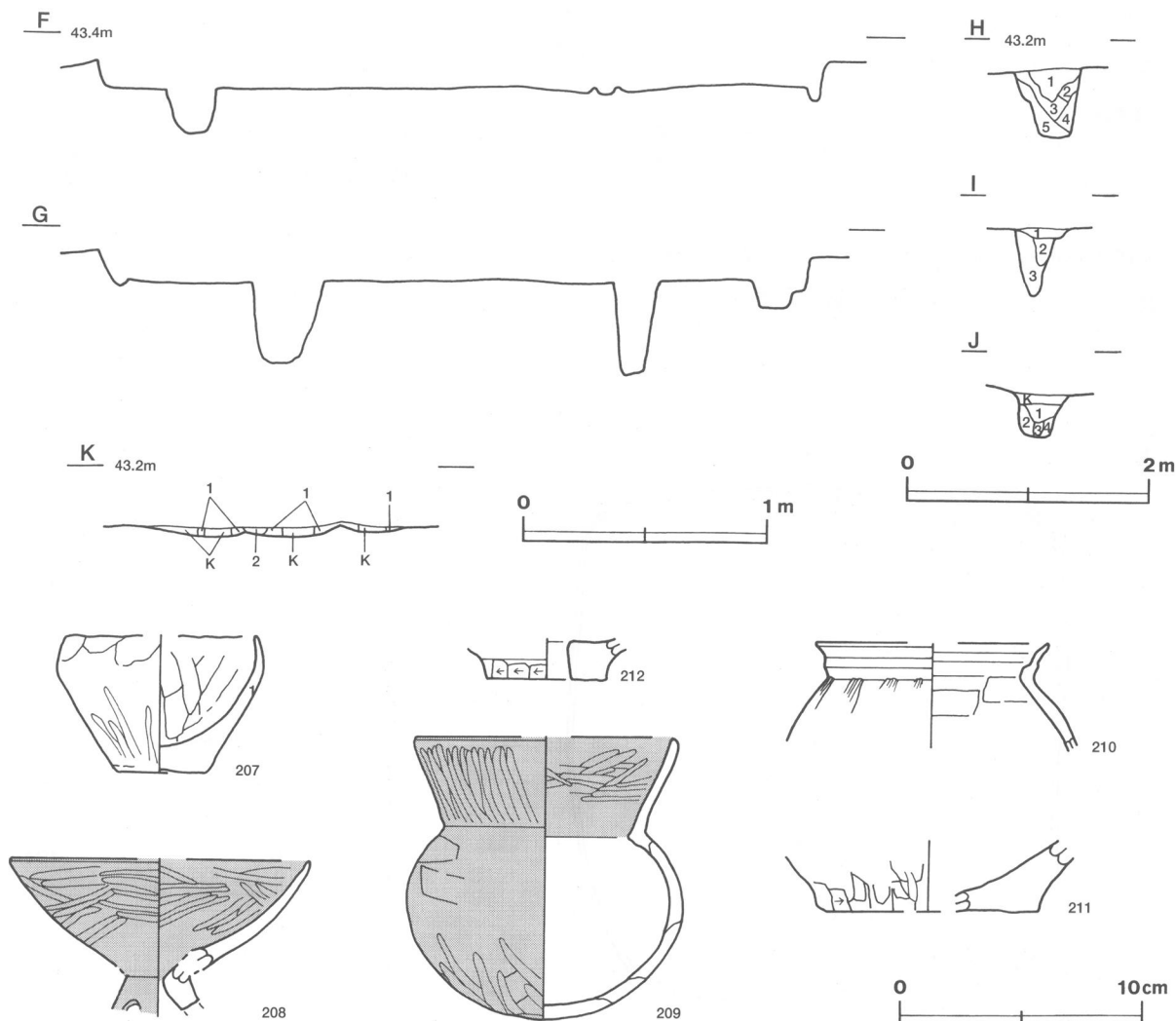
**遺物出土状況** 土師器片245点のほか、攪乱等により混入したとみられる須恵器片2点が出土している。遺物は炉跡と貯蔵穴周辺から出土している。

**所見** 覆土中に焼土粒子や多量の炭化粒子が含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第91図 第64号住居跡実測図





第92図 第64号住居跡・出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
207	土師器	小形鉢	[7.8]	5.2	3.6	長石・雲母	淡黄	普通	口縁部内・外面指頭による押圧 体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	炉跡北西側覆土下層	85% PL26
208	土師器	器台	[12.2]	[6.1]	—	長石・雲母	明赤褐	普通	器受部内・外面ヘラ磨き内・外面赤彩	南コーナー部床面	25%
209	土師器	罎	[10.6]	11.8	—	石英・長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内・外面赤彩	南コーナー部床面	50%
210	土師器	小形台付甕	[9.6]	(4.4)	—	石英・雲母	淡黄	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整 S字状口縁	中央部覆土下層	10%
211	土師器	甕	—	(3.0)	[9.0]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	中央部覆土下層	5%
212	土師器	甌	—	(1.7)	[5.0]	石英・長石	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	北西部覆土中	5%

第65号住居跡（第93図）

位置 調査区の西部，E2j3区。標高43.2mの平坦部に位置している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱は見られ、削平され、わずかに壁が遺存している状況であるが、長軸4.25m、短軸4.06mの長方形である。壁は高さ6cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-30°-Eである。

床 ほぼ平坦である。

炉 確認されなかった。

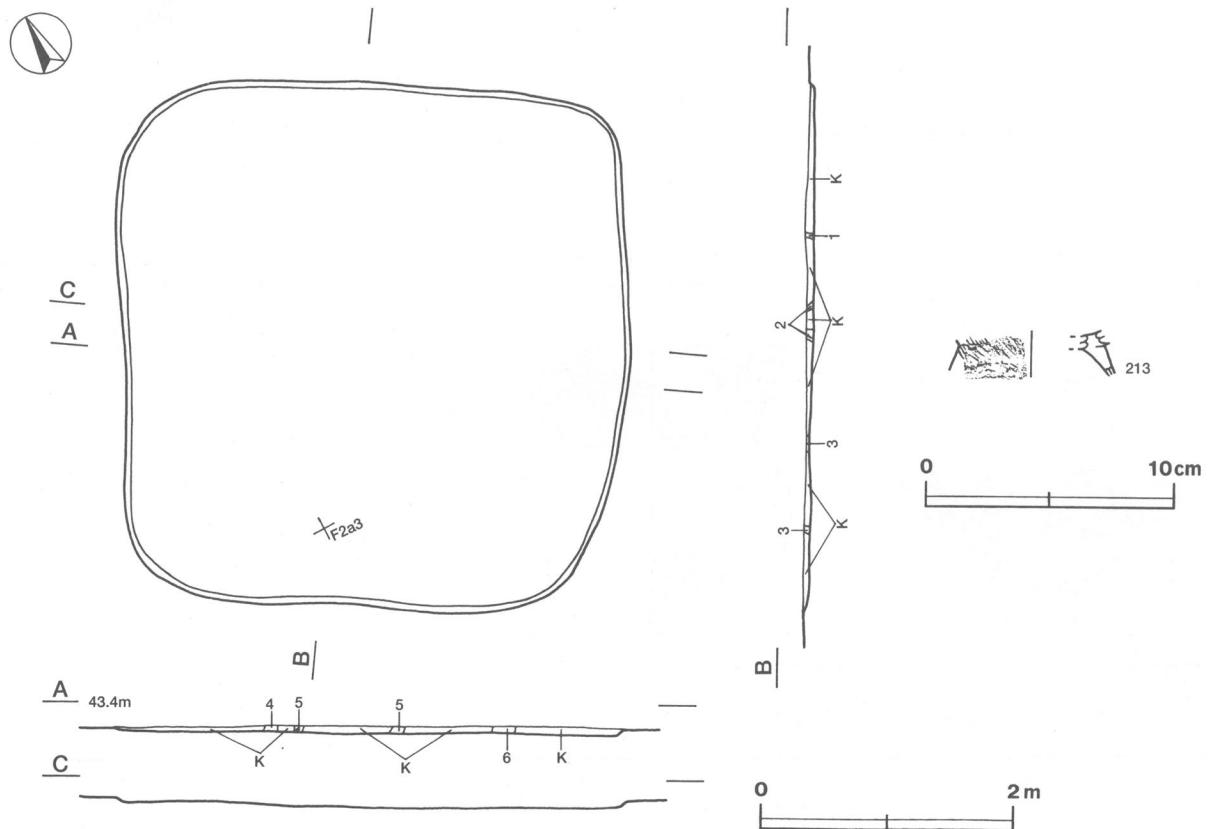
覆土 6層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

土層解説

- |                             |                                 |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量  | 4 極暗赤褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    |
| 3 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量    |

遺物出土状況 土師器片20点のほか、攪乱等により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。

所見 床の硬化面・柱穴・炉が確認されず、通常の住居跡とは異なっている。時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第93図 第65号住居跡・出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表 (第93図)

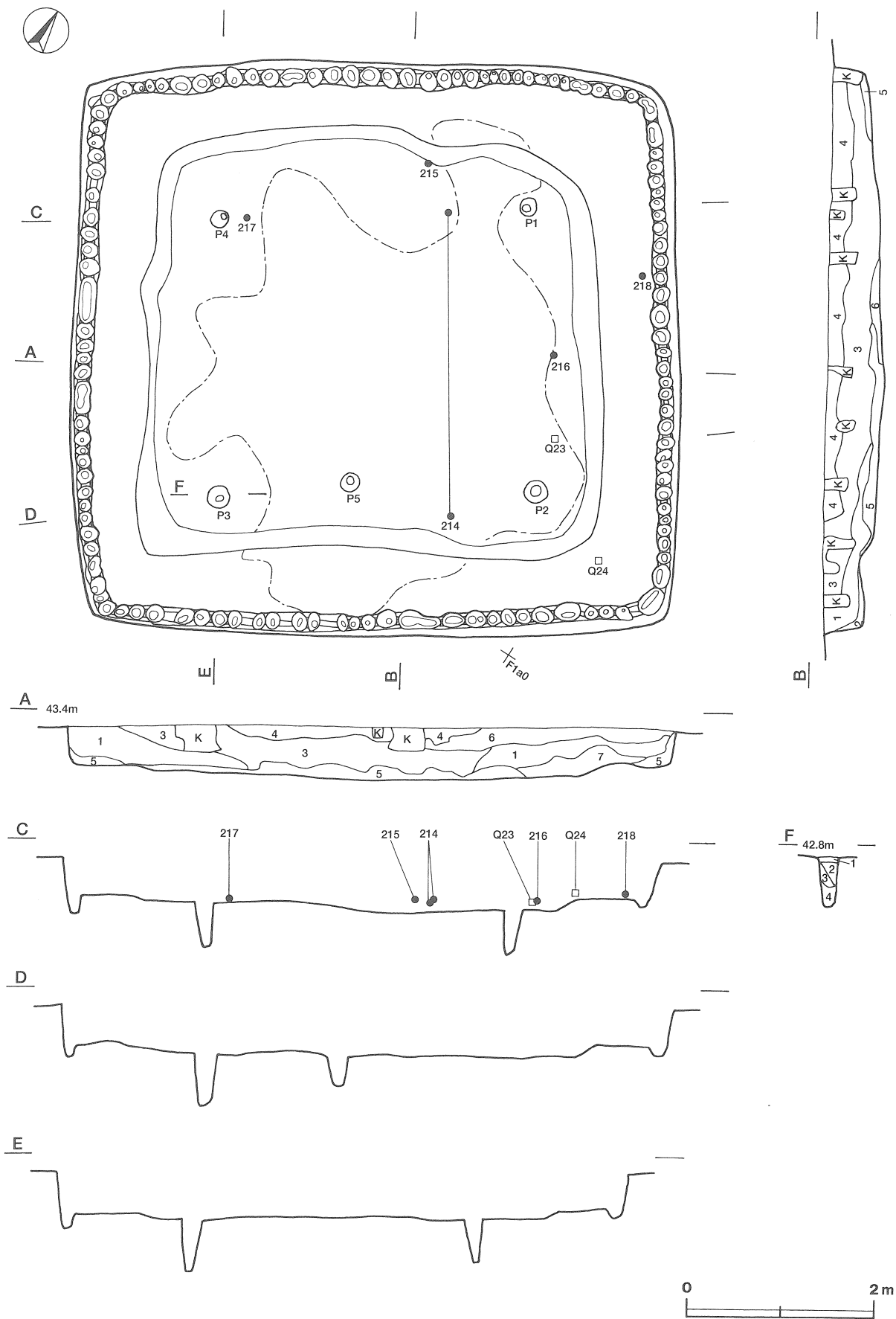
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
213	土師器	台付甕	-	(1.8)	-	石英・長石・パミス	褐	普通	台部外面ハケ目調整 体部内面ヘラナデ	覆土中	5%

第66号住居跡 (第94図)

位置 調査区の西部, E1j9区。標高43.1mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.59m, 短軸6.20mの方形である。壁は高さ40~50cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-30°-Wである。

床 平坦である。中央部に同じ主軸方向で深さ5~14cm, 長軸5.00m, 短軸4.60mの方形の平坦な落ち込みが、一か所見られ、この落ち込みを中心に広い範囲で硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅12~20cm, 下



第94図 第66号住居跡実測図

幅6~10cm, 深さ8~16cmで, 断面形はU字状である。この壁溝の中に径が10~24cmの円形や楕円形をし, 深さ4~16cmほどの小ピット群が130か所見られ, 壁柱穴の可能性が考えられるが, 性格は不明である。

炉 確認されなかった。

ピット 135か所 (その中の130か所は床の項で述べた壁際のピット群)。P 1~4 は配置と規模からから主柱穴と考えられる。P 5 は南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP 1~4 が48~56cm, P 5 が33cmである。

**P 3 土層解説**

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量    |
| 2 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量      | 4 にぶい褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

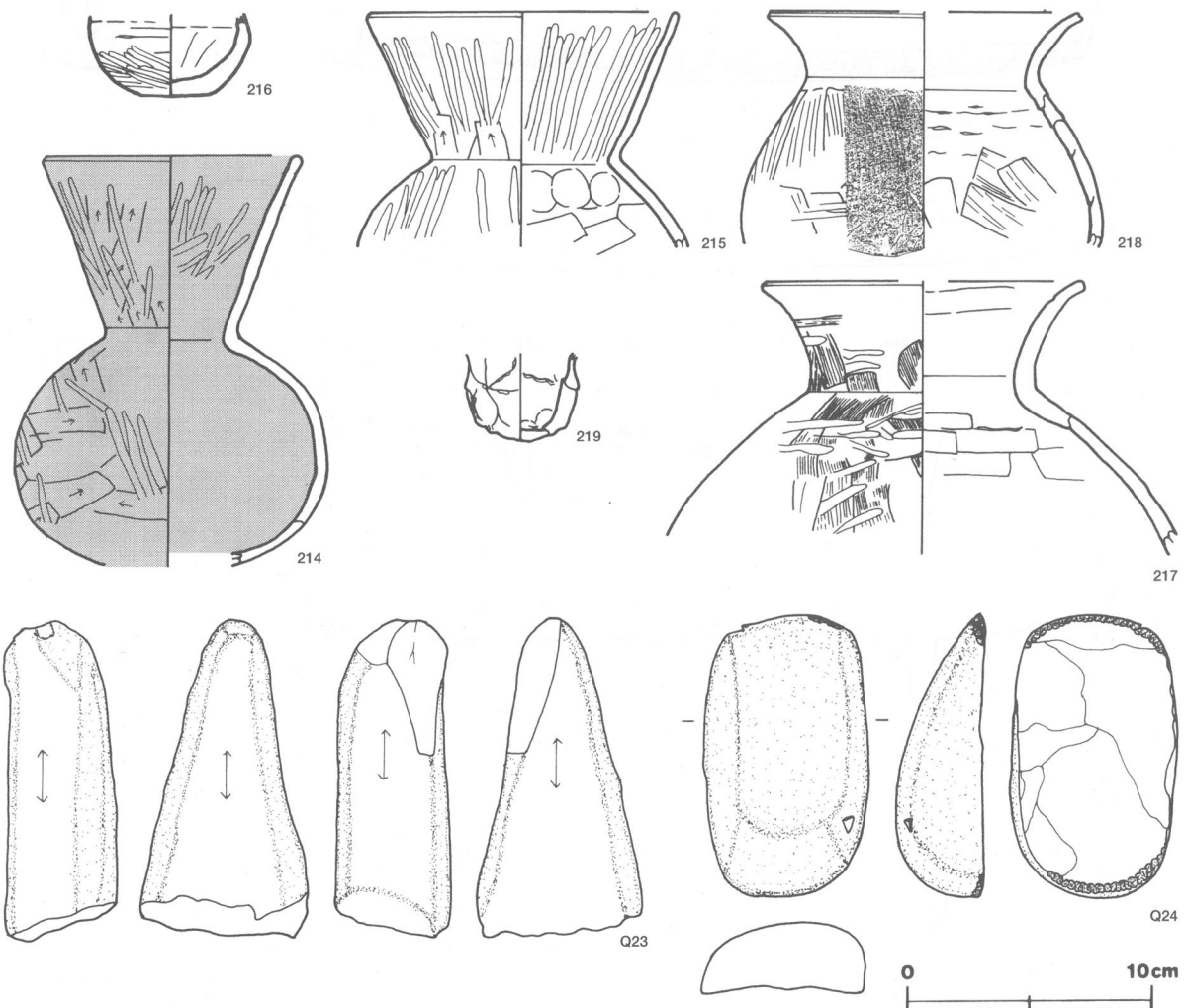
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 5 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量   |
| 2 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 6 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量    |
| 4 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  |                                 |

遺物出土状況 土師器片141点, 不明石製品2点, 礫3点のほか, 攪乱等により混入したとみられる須恵器片2点が出土している。遺物は床面全体に散在した状況で出土している。

所見 時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第95図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
214	土師器	埴	10.4	(16.8)	—	石英・長石	橙	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り内・外面赤彩	南東部床面	80% PL26
215	土師器	埴	12.4	(9.6)	—	長石・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ磨き、内面指ナデ・ヘラナデ	北西部床面	60%
216	土師器	埴	—	(3.2)	2.8	石英・長石	橙	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	北東部床面	40% PL27
217	土師器	甕	[12.8]	(11.1)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ	西部床面	10%
218	土師器	甕	[12.6]	(9.5)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面上位ハケ目調整、中位ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ	北東部床面	5%
219	土師器	手捏	—	(3.6)	3.5	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	内・外面指頭による押圧	南東部覆土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	磨石	(13.0)	(6.9)	4.7	(510.7)	半花崗岩	4面に擦痕あり	東部床面	
Q24	敲石	11.6	6.9	3.7	(372.0)	粘板岩	表面に擦痕あり 端部に敲打痕あり	東コーナー部床面	

## 第67号住居跡（第96・97図）

**位置** 調査区の西部，E1b8区。標高43.3 mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.70 m，短軸6.66 mの方形である。壁は高さ25～40cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-50°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉を囲むように硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅18～28cm，下幅7～16cm，深さ7～14cmで，断面形はU字状であり，径が8～28cmの円形や楕円形をし，深さ4～16cmほどの小ピット群が87か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。床面全体に貼り付くように炭化材が出土している。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径80cm，短径59cmの楕円形で，床面を4 cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いため，長期間の使用と考えられる。

## 炉土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 3 暗赤褐色 ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

**ピット** 93か所（その中の87ヶ所は床の項で述べた壁際のピット群）。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6はP2に隣接して確認されていることから補助柱穴の可能性が考えられる。深さはP1～4が68～86cm，P5が21cm，P6が23cmである。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸96cm，短軸82cmの隅丸長方形で，深さは60cmである。

## 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 5 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 6 暗褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量 7 褐色 焼土粒子中量，ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

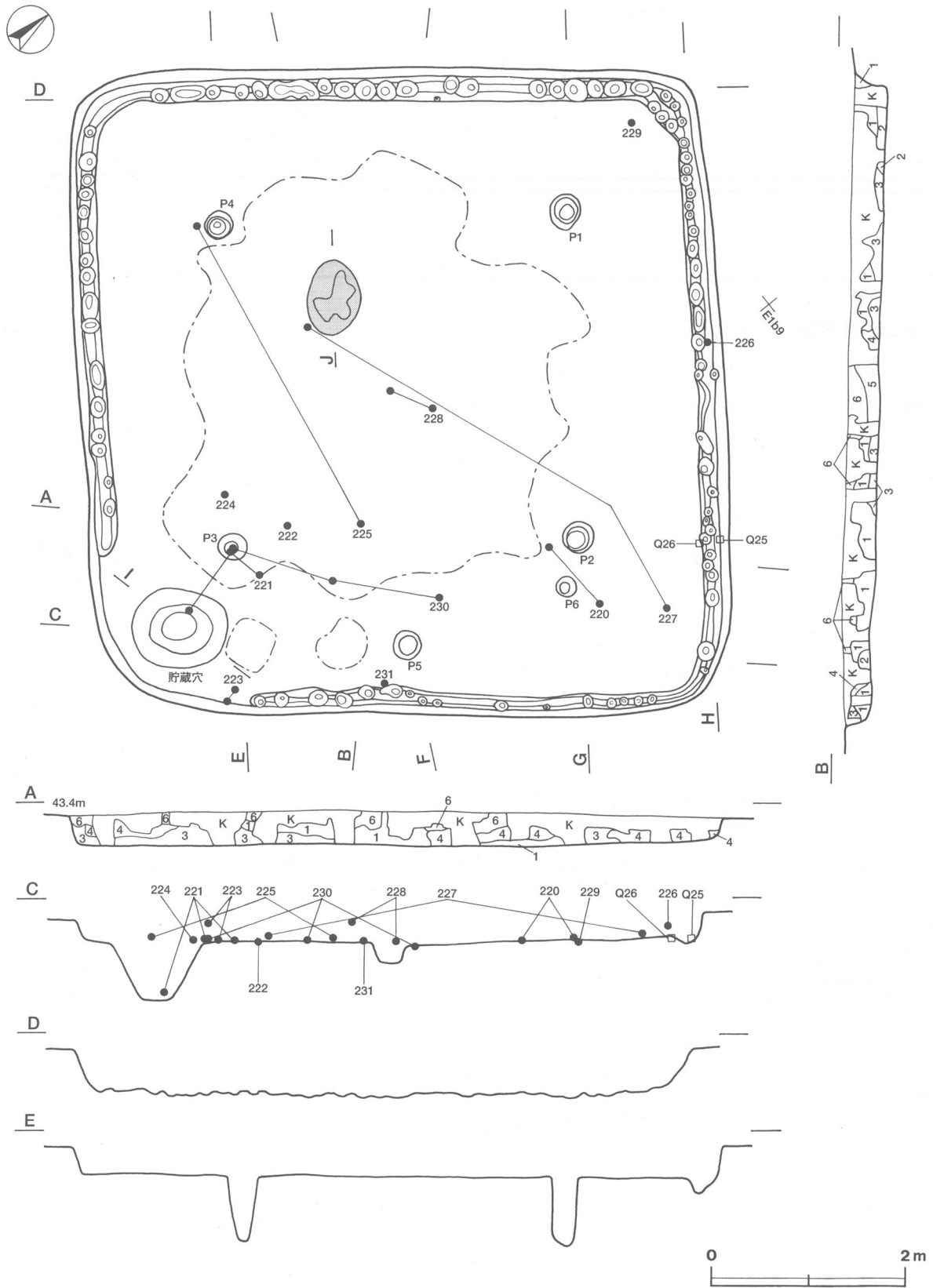
**覆土** 6層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いが，ブロック状の堆積状況を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

## 土層解説

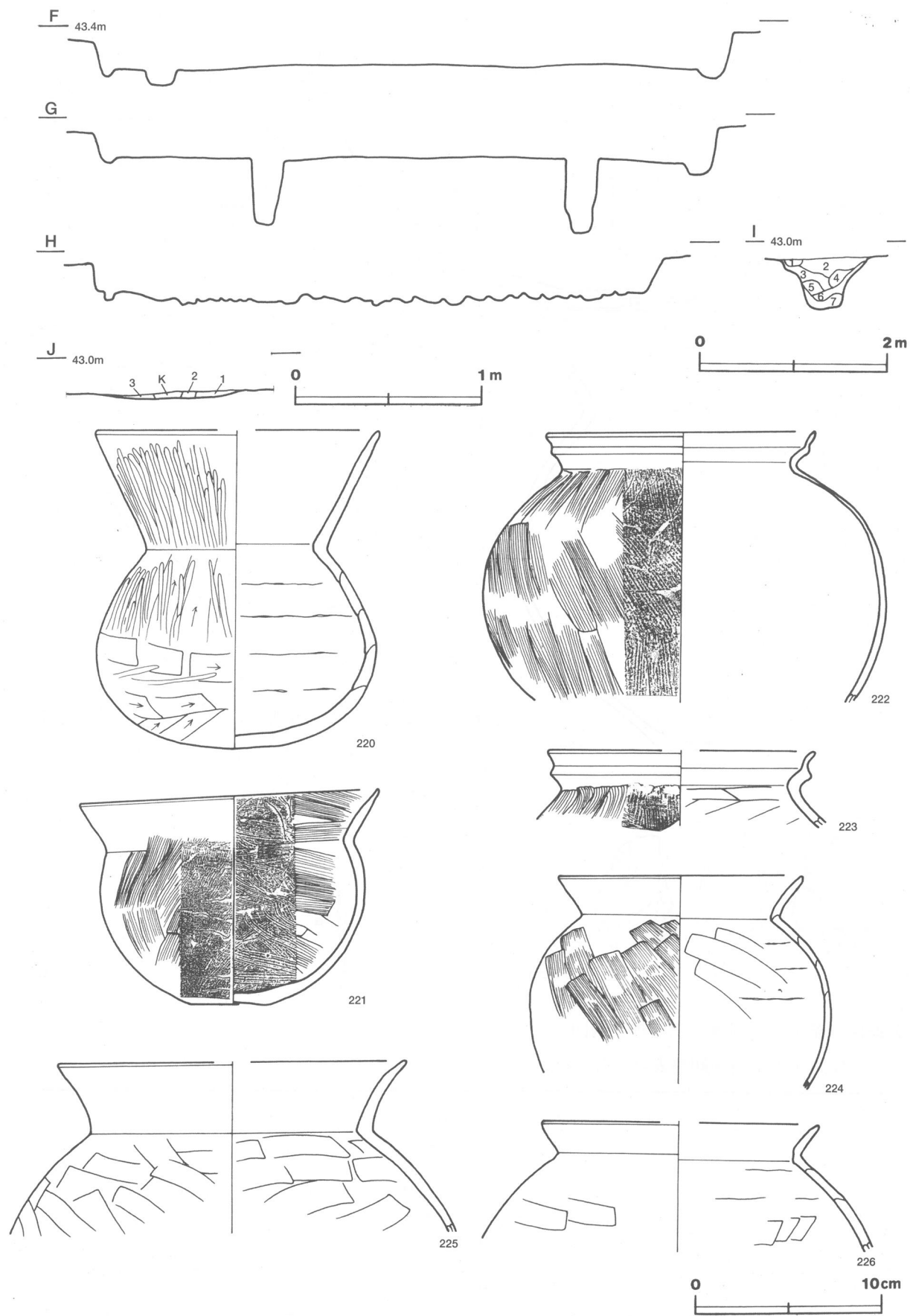
- 1 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 4 黒褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 5 黒色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 6 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片207点，瑪瑙製不明石製品2点，礫7点，鉄鏃1点のほか，攪乱等により混入したとみられる須恵器片3点が出土している。遺物は床面全体に散在した状況で出土している。

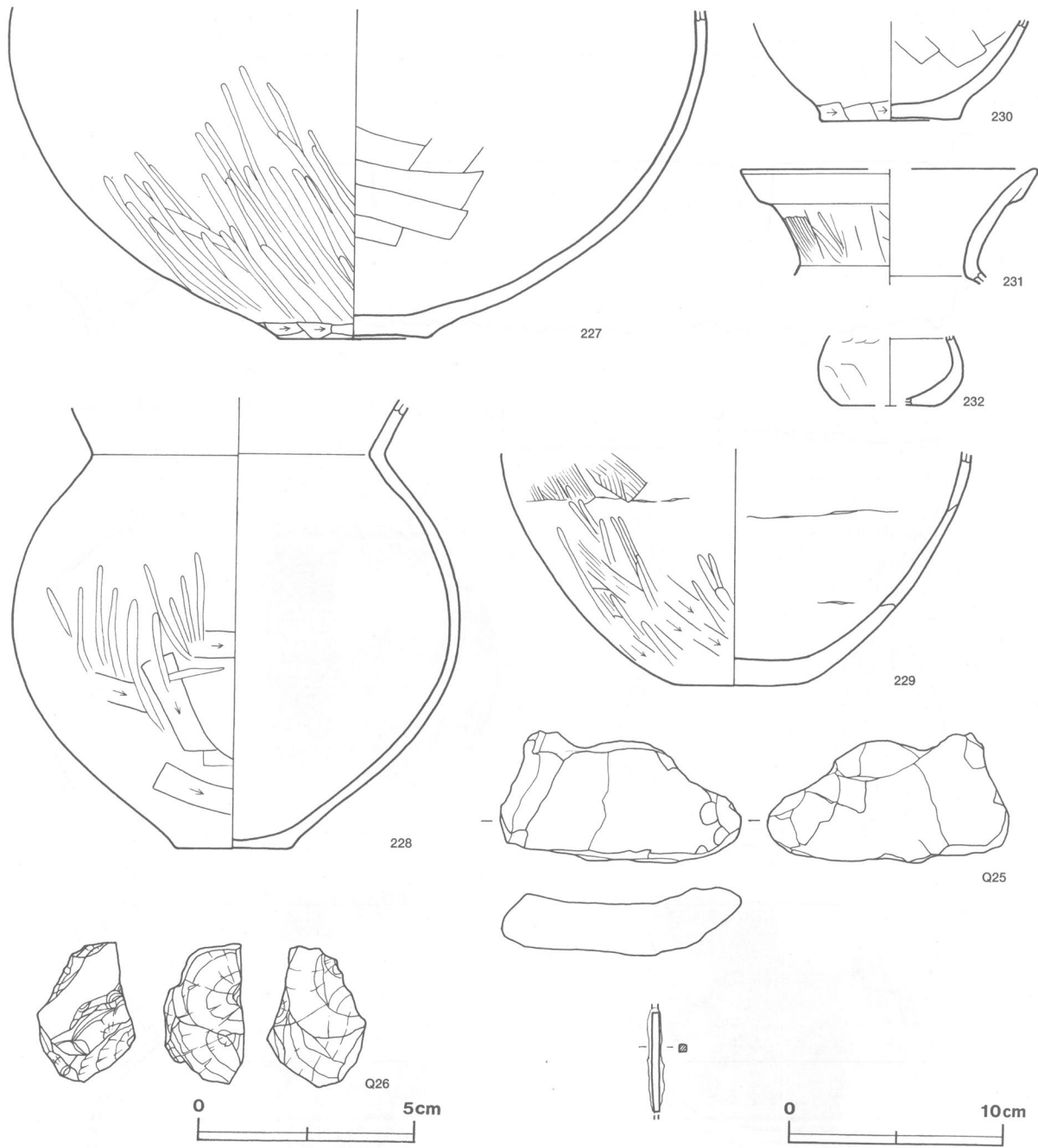
所見 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第96図 第67号住居跡実測図



第97図 第67号住居跡・出土遺物実測図



第98図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表 (第97・98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
220	土師器	埴	[15.2]	17.1	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面へラ磨き 体部外面へラ削り後へラ磨き	東部覆土下層	40%
221	土師器	鉢	16.1	11.7	3.9	石英・長石	橙	普通	口縁部及び体部内・外面丁寧なハケ目調整	南部床面	80% PL26
222	土師器	台付甕	14.3	(14.6)	—	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 S字状口縁	南部床面	40% PL26
223	土師器	台付甕	[14.4]	(4.0)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面へラナデ	南コーナー部 覆土下層	10%
224	土師器	甕	13.2	(11.5)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面丁寧なハケ目調整, 内面へラナデ	南部床面	20% PL25
225	土師器	甕	[18.8]	(9.2)	—	雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面へラナデ	西部覆土下層	10%
226	土師器	甕	[14.7]	(9.2)	—	石英・長石・雲母・ 礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面へラナデ	北東壁際覆土下層	5%



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	甕	—	(15.5)	7.0	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き、下端ヘラ削り、内面ヘラナデ	中央部覆土下層	20%
228	土師器	甕	—	(21.3)	5.4	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	中央部床面	20% PL26
229	土師器	甕	—	(11.0)	5.0	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面中位ハケ目調整後ヘラ磨き、下位ヘラ削り後ヘラ磨き	北コーナー部床面	5%
230	土師器	甕	—	(4.7)	6.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ	南東部床面	5%
231	土師器	壺	[13.8]	(5.4)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部外面弱いハケ目調整後磨き	南東部床面	5%
232	土師器	手捏	—	(3.3)	[4.6]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面指頭による押圧	南西部覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	原石	6.3	11.4	3.3	266.2	瑪瑙	比熱の痕跡あり	北東壁際覆土下層	
Q26	剥片	3.3	2.3	1.9	14.0	瑪瑙	多方面から打撃を加えられた剥片	北東壁際床面	
M5	鎌	(5.0)	0.8	0.4	(2.8)	鉄	柄部片（筥被部から茎部にかけての破片）	南東部覆土中	

### 第68号住居跡（第99図）

**位置** 調査区の西部，D2i6区。標高43.1mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 北部が調査区域外となっているため，全体を調査することができなかったが，長軸4.50m，確認できた短軸2.85mで方形あるいは長方形と推定される。壁は高さ5cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-19°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部に設けられている。長径78cm，短径43cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 黒褐色 炭化粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量 2 極暗褐色 炭化粒子・焼土ブロック中量，ローム粒子微量

**ピット** 3か所。P1は配置と規模から主柱穴と考えられる。P2は南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P3は南西コーナー部に位置しているが，性格は不明である。深さはP1が47cm，P2が17cm，P3が24cmである。

#### P1土層解説

1 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 4 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量  
2 暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量  
3 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量

**貯蔵穴** 南西コーナー部に付設されている。長径86cm，短径76cmの楕円形で，深さは56cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 4 暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量  
2 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子中量  
3 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 6 褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量

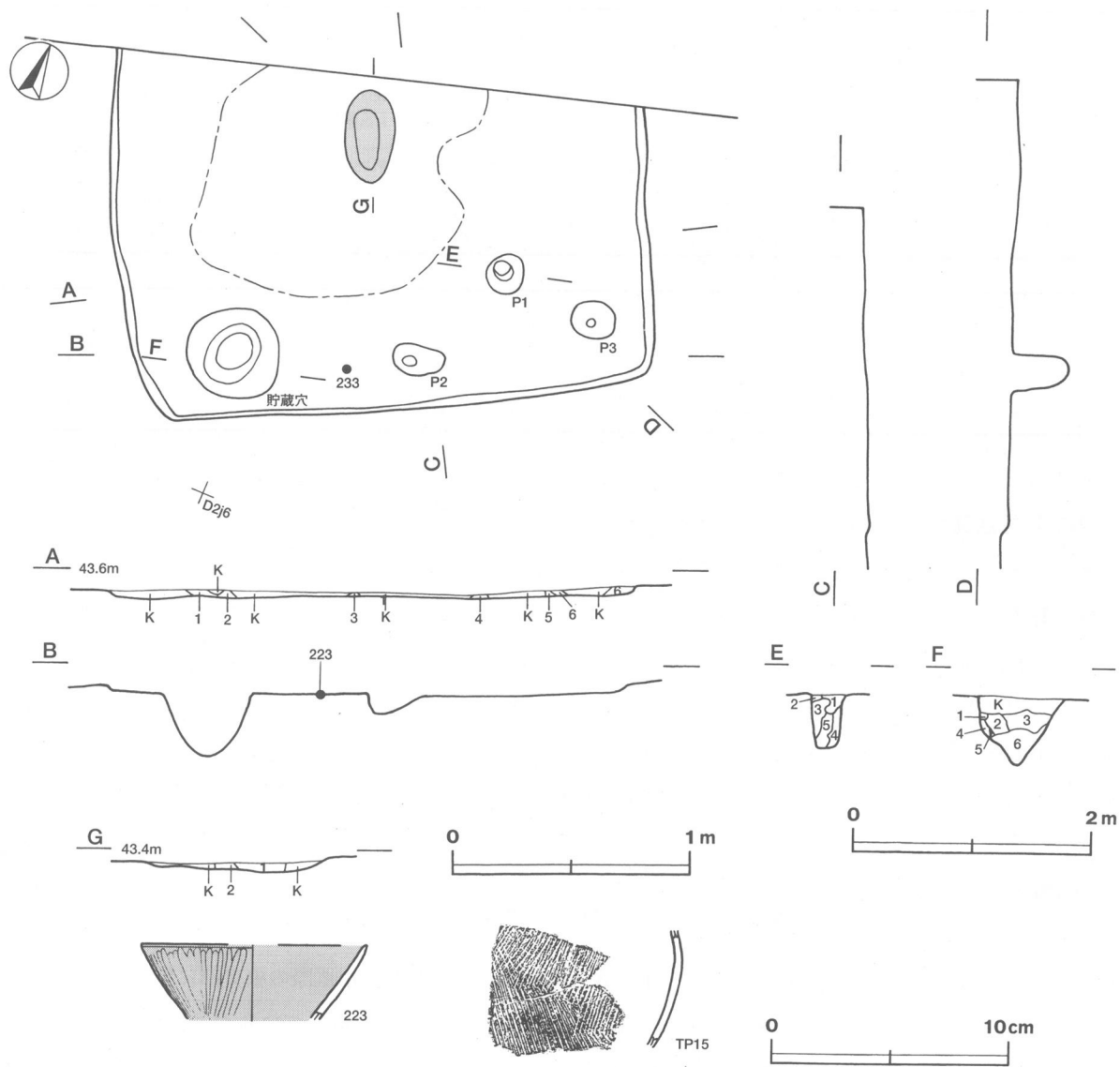
**覆土** 11層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。

#### 土層解説

1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 7 極暗褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量  
2 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 8 黒褐色 炭化材中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量  
3 極暗褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量 9 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量  
4 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 10 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量  
5 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 11 極暗褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量  
6 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片48点が出土している。遺物は貯蔵穴周辺から出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第99図 第68号住居跡・出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
223	土師器	埴	[9.6]	(3.2)	-	石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面ヘラ磨き 内・外面赤彩	南東部床面	10%
TP15	土師器	甕	-	(5.0)	-	長石	橙	普通	外面ハケ目調整	貯藏穴覆土中	PL29

### 第70号住居跡 (第100図)

**位置** 調査区の北部, C3f1区。標高43.1mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 掘りこみが浅く, 削平されていて, わずかに南東壁と南西壁しか遺存していないが, 長軸4.10m, 短軸3.45mの長方形と推定される。壁は高さ3cmほどで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-50°-Eである。

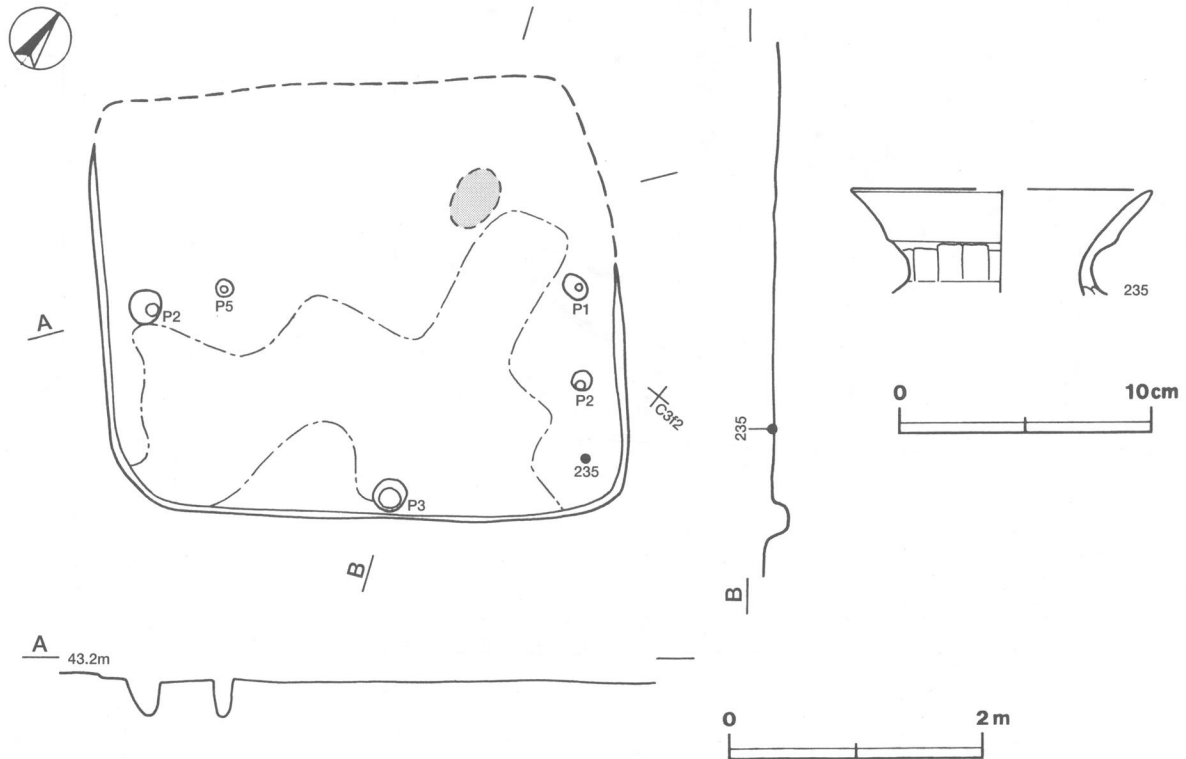
**床** ほぼ平坦である。炉跡の南側に硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径50cm, 短径34cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。

**ピット** 5か所。P1は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・3は北東壁際で、P4は南西壁際で、P5はP4に隣接する位置で確認されているが、それぞれのピットの性格は不明である。深さはP1～4が16～32cm、P5が31cmである。

**遺物出土状況** 土師器片27点のほか、攪乱等により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。遺物は東コーナー部から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第100図 第70号住居跡・出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
235	土師器	壺	[12.0]	(4.1)	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部外面ヘラナデ	東コーナー部床面	5%

**第71号住居跡**（第101図）

**位置** 調査区の北部，C2j0区。標高43.6mの平坦部に位置している。

**重複関係** 北西コーナー部が第72号住居跡を掘り込んでいる。

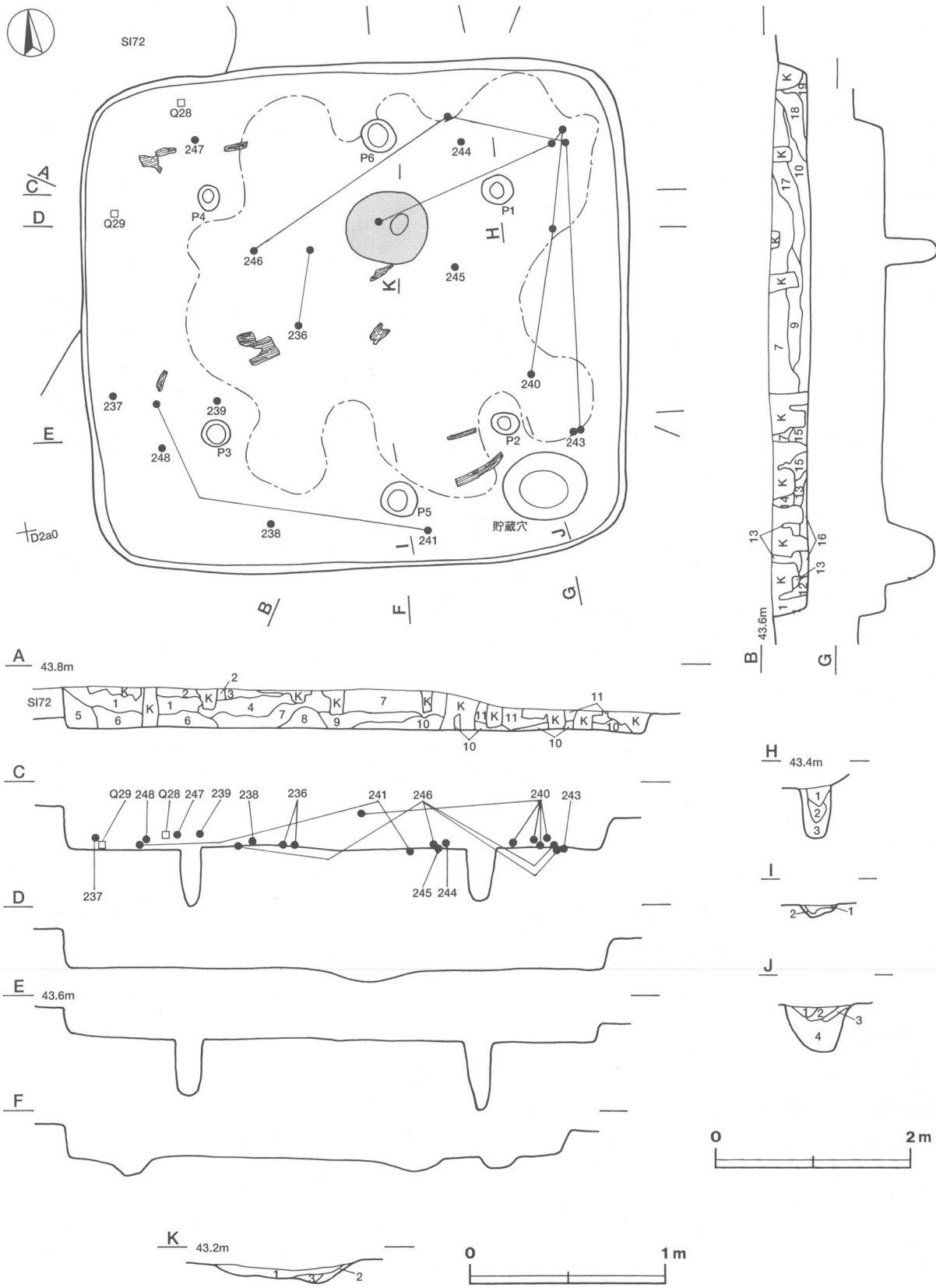
**規模と形状** 長軸5.63m，短軸5.18mの方形である。壁は高さ6～18cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-10°-Eである。

**床** 平坦である。炉跡を囲むように広い範囲で硬化面が見られる。床面に貼り付くように炭化材が見られる。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径86cm，短径76cmの楕円形で，床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いため，長期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 極暗赤褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量



第101図 第71号住居跡実測図

ピット 6か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部やや東寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は炉の北側に位置しているが、性格は不明である。深さはP1～4が55～61cm、P5が17cm、P6が14cmである。

**P1土層解説**

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 |                              |

**P5土層解説**

- |                           |                               |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 2 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
|---------------------------|-------------------------------|

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径85cm, 短径70cmの楕円形で、深さは53cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |                              |                                 |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

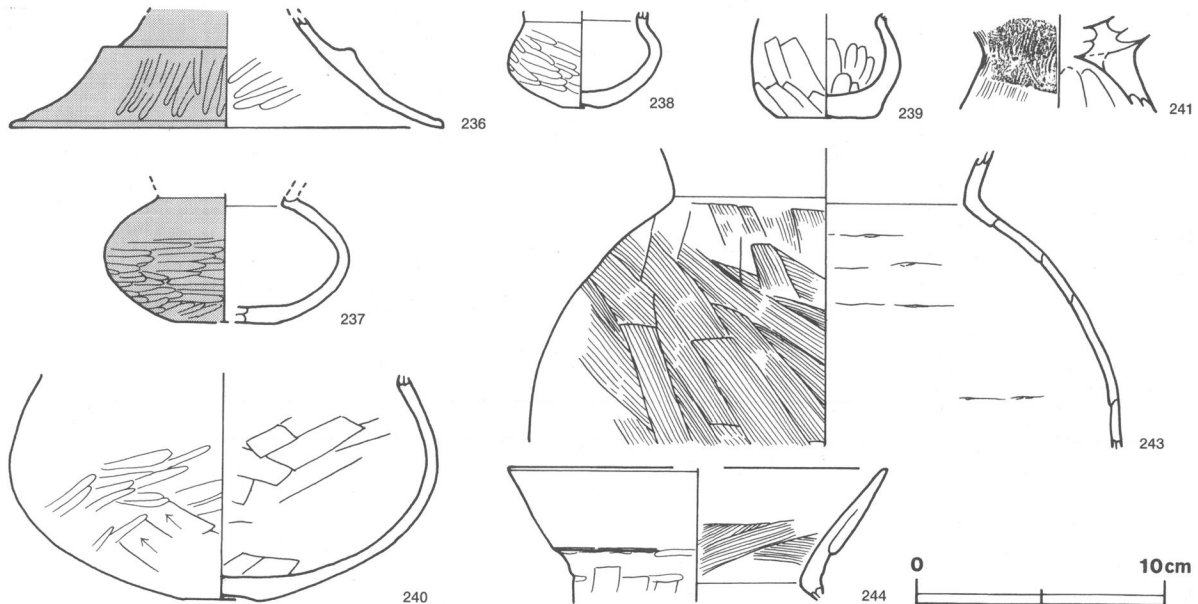
覆土 19層からなる。トレンチャーによる攪乱があるが、ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

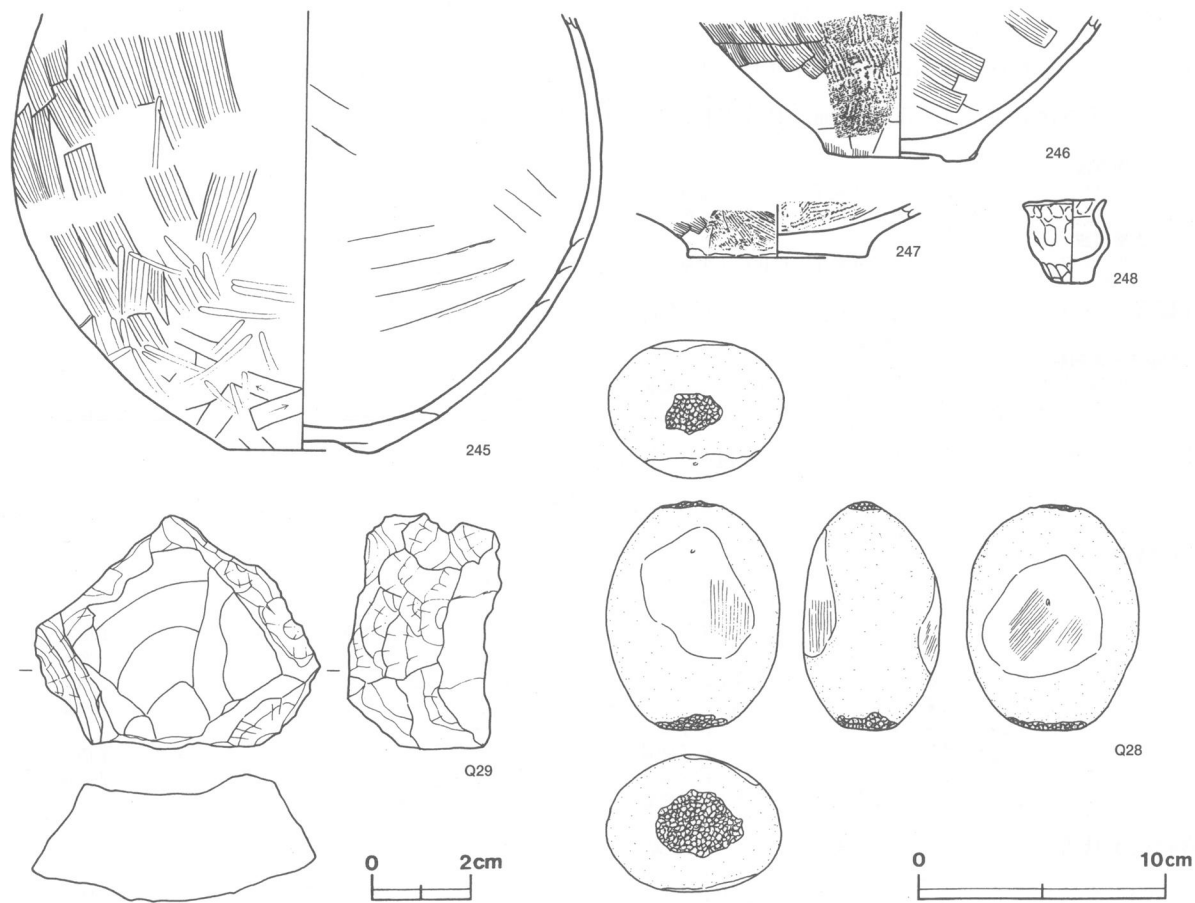
- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量    | 11 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 12 褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量         |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 13 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 4 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 15 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 6 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 16 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 7 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量  | 17 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     |
| 8 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 18 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 9 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 19 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 10 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  |                                 |

遺物出土状況 土師器片588点, 磨石1点, 瑪瑙製石製品1点, 礫4点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片7点, 縄文土器片4点, 須恵器片2点が出土している。遺物は床面全体から散在した状況で出土している。

所見 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれ、炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第102図 第71号住居跡出土遺物実測図(1)



第103図 第71号住居跡出土遺物実測図(2)

第71号住居跡出土遺物観察表(第102・103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
236	土師器	高坏	—	(4.6)	17.6	石英・長石・礫	橙	普通	裾部内・外面ヘラ磨き 外面赤彩	中央部床面	30%
237	土師器	埴	—	(5.2)	[3.8]	長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 外面赤彩	南西部覆土下層	50% PL27
238	土師器	埴	—	(3.9)	1.5	長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き	南西部覆土下層	50% PL27
239	土師器	埴	—	(4.2)	3.8	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ, 内面指ナデ	南西部覆土下層	60% PL27
240	土師器	大形埴	—	(9.2)	2.8	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	北東部覆土下層	30%
241	土師器	台付甕	—	(3.3)	—	石英・長石	明黄褐	普通	体部及び台部外面ハケ目調整 台部内面ヘラナデ	南西部覆土下層	5%
243	土師器	甕	—	(12.0)	—	石英・長石・パミス	橙	普通	体部外面ハケ目調整	南東部床面	20%
244	土師器	壺	[15.2]	(5.3)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	頸部外面ヘラナデ, 内面弱いハケ目調整	北東部床面	5%
245	土師器	甕	—	(17.8)	6.0	石英・雲母	灰褐色	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き, 下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ	中央部床面	10%
246	土師器	甕	—	(6.0)	5.8	石英・長石	明赤褐	普通	体部外面ハケ目調整, 内面弱いハケ目調整	北東部床面	10%
247	土師器	甕	—	(2.2)	7.2	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ハケ目調整	北西部覆土下層	5%
248	土師器	ミニチュア	3.2	3.5	1.7	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部及び体部内・外面指頭による押圧 体部外面下端ヘラナデ	南西部覆土下層	80% PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	磨石	9.3	7.0	5.5	497.7	安山岩	表面に擦痕あり 端部に敲打痕あり	北西部覆土下層	
Q29	剥片	4.7	5.9	2.2	80.5	瑪瑙	多方面から打撃の加えられた痕跡あり 一部原石のまま	北西部床面	

第72号住居跡(第104図)

位置 調査区の北部, C2i9区。標高43.6mの平坦部に位置している。

重複関係 南東部を第71号住居跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.24m，短軸5.20mの方形である。壁は高さ22～27cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-53°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲むように広い範囲で硬化面が見られる。北コーナー部に焼土が，西コーナー部に炭化材が貼り付くように確認されている。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径94cm，短径56cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の中央部やや南寄りに長さ16cmほどの炉石3個が，三角形に置かれたように確認されている。

**炉土層解説**

- |       |                           |       |                         |
|-------|---------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量   | 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック少量   |
| 2 褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 4 黒色  | 炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

**ピット** 8か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～8は北西壁際のやや西寄りに位置しているが，それぞれのピットの性格は不明である。深さはP1～4が59～71cm，P5が52cm，P6～8が17～22cmである。

**P1土層解説**

- |       |                       |       |                     |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      |
| 2 黒色  | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                     |

**P2土層解説**

- |       |                       |       |                         |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量        | 5 褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 黒色  | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量   | 6 褐色  | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量   |

**P3土層解説**

- |       |                       |         |                         |
|-------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 3 黒褐色   | 炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒色  | 炭化粒子中量，ロームブロック少量      | 4 にぶい褐色 | ローム粒子極多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量  |

**P6土層解説**

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 2 灰褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。径40cmほどの円形で，深さは59cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                         |         |                       |
|-------|-------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 3 暗褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量   | 4 にぶい褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

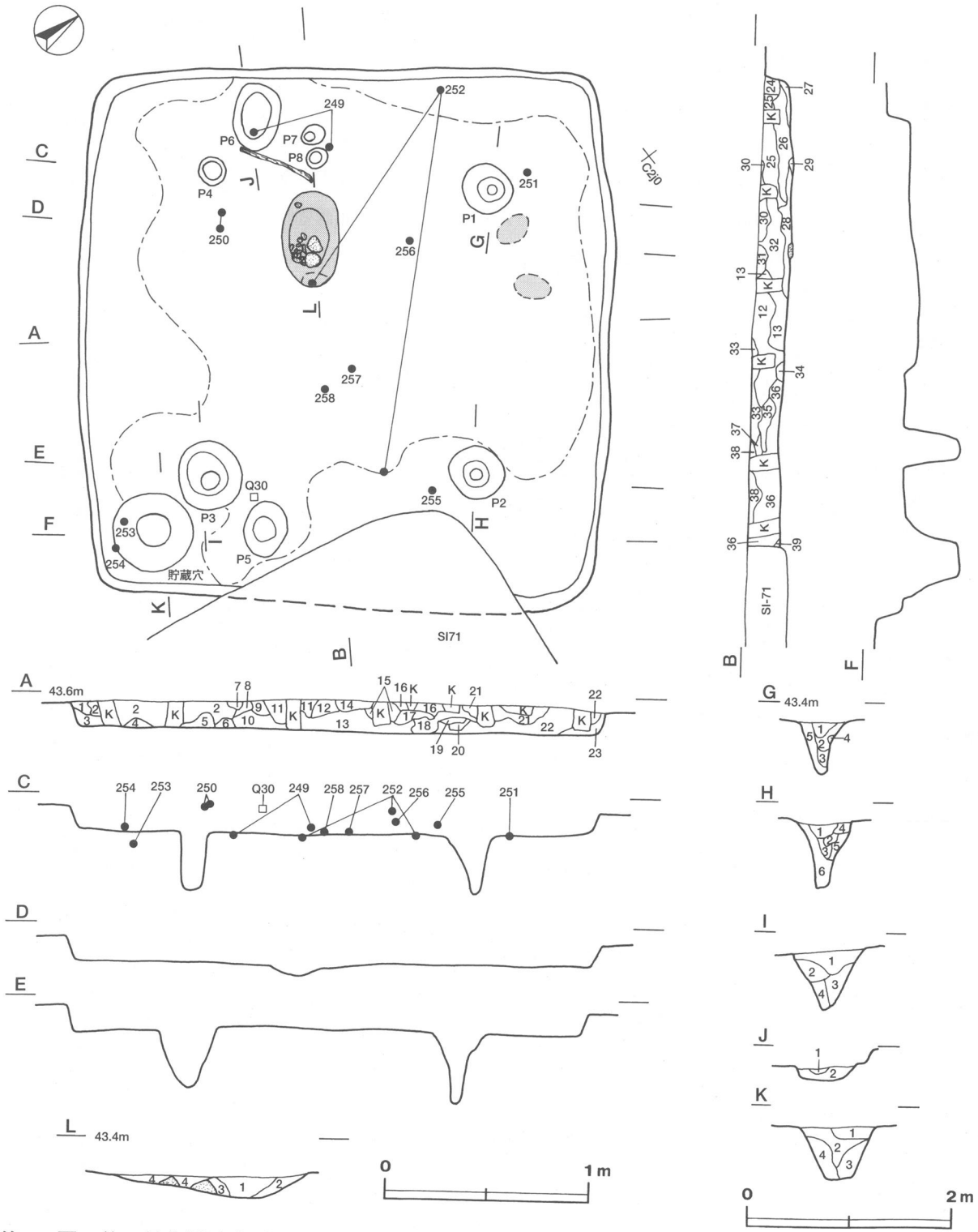
**覆土** 39層からなる。トレンチャーによる攪乱はあるが，ブロック状の堆積状況を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                       |           |                         |
|--------|-----------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 21 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 22 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 23 極暗褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 24 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 25 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 6 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 26 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量      | 27 極暗褐色   | 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 8 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 28 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 9 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 29 黒褐色    | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量     |
| 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 30 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 31 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・たんか粒子微量  | 32 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 33 黒褐色    | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量     |
| 14 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 34 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 15 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 35 極暗褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 36 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 17 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 37 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 18 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 38 黒褐色    | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量     |
| 19 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 39 黒褐色    | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 20 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量   |           |                         |

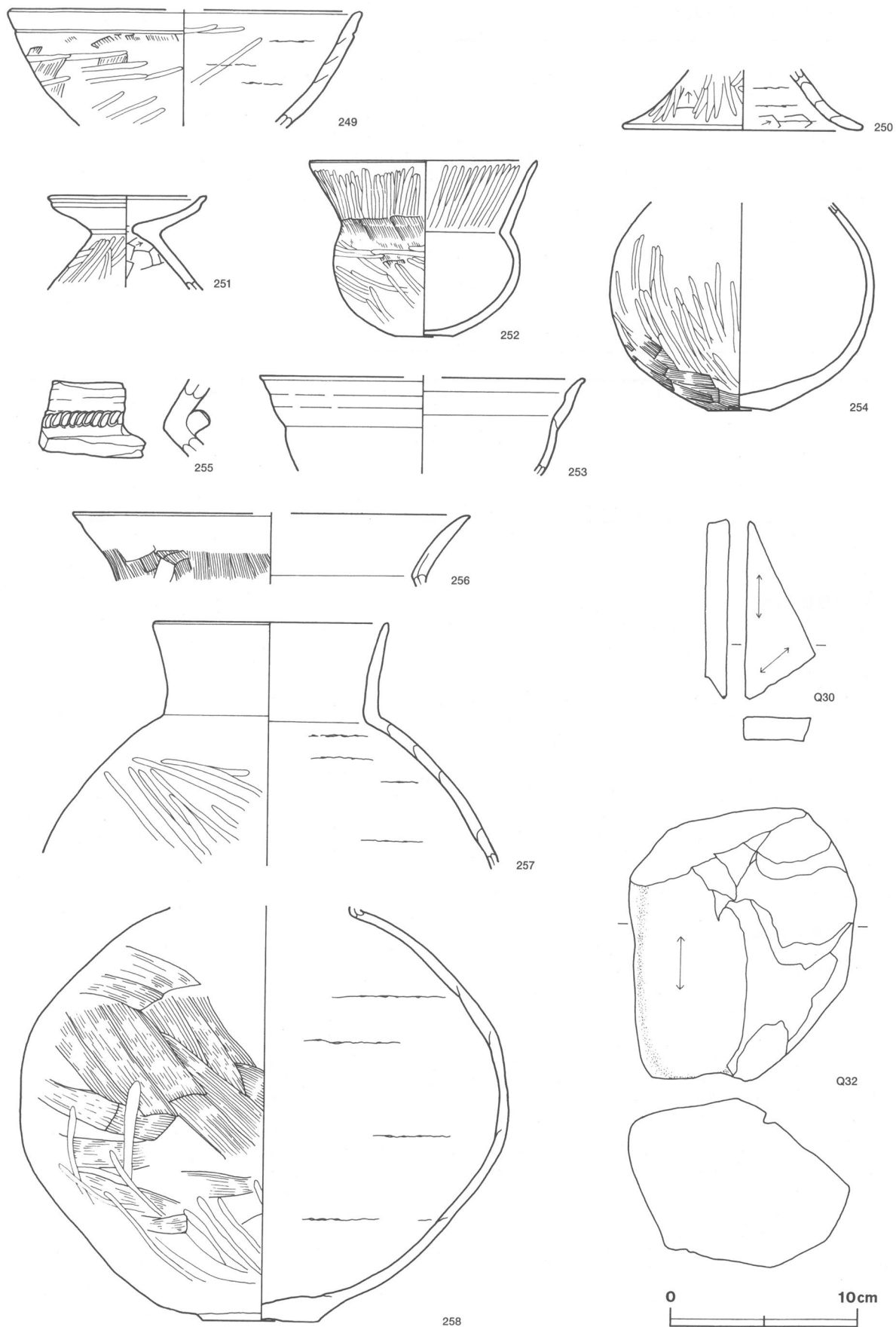
**遺物出土状況** 土師器片343点, 須恵器片1点, 礫2点のほか, 混入したとみられる弥生土器片9点が出土している。遺物は床面全体から散在した状況で出土している。

**所見** 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれ, 炭化材や焼土が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第104図 第72号住居跡実測図





第105図 第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
249	土師器	鉢	[18.8]	(6.3)	—	石英・長石・パミス	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き	北西部床面	5%
250	土師器	高坏	—	(3.2)	12.7	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ削り	西部覆土上層	10%
251	土師器	器台	8.4	(5.0)	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラ削り	北部床面	60%
252	土師器	埴	12.1	9.5	3.0	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部及び体部外面ヘラ磨き 頸部外面弱いハケ目調整 口縁部内面ヘラ磨き	中央部床面	80% PL26
253	土師器	鉢	[17.4]	(5.2)	—	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	貯蔵穴覆土中	5%
254	土師器	埴	—	(11.2)	3.3	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	南コーナー部 覆土下層	40%
255	土師器	壺	—	(4.2)	—	石英・長石	褐灰	普通	頸部キザミ目をもつ粘土紐	南東部覆土下層	5%
256	土師器	甕	[21.2]	(3.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面上位横ナデ 口縁部外面下位ハケ目調整	中央部覆土下層	10%
257	土師器	甕	12.6	(13.1)	—	石英・長石・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き	中央部覆土下層	30%
258	土師器	甕	—	(22.4)	6.2	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き	中央部覆土下層	70% PL26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	砥石	9.6	3.8	1.2	55.0	粘板岩	砥面1面 他方向に向かう擦痕あり	南部覆土下層	
Q31	炉石	14.6	20.1	9.3	3489.6	チャート	全面被熱	炉跡底面	未掲載
Q32	砥石	14.8	12.2	9.1	2192.2	砂岩	炉石に転用 全面被熱	炉跡底面	
Q33	炉石	(12.8)	(16.5)	(7.6)	(1832.4)	安山岩	全面被熱	炉跡底面	未掲載

第73号住居跡（第106図）

位置 調査区の北部，C2i7区。標高43.5mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.50m，短軸4.09mの方形である。壁は高さ5～23cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-25°-Wである。

床 平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。北西壁を除く3方の壁際に径10～30cmの円形や楕円形をし，深さ5～28cmほどの小ピット群が71か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。床面全体に貼り付くように炭化材が出土している。中央部やや北寄りに長軸2.08m，短軸1.56mの不整形長方形で，深さ20cmほどの落ち込みがみられる。強く固まっている焼土が面的に確認されている。この落ち込みの北西側の床面に長さが25cmほどと16cmほどの平坦面のある石が確認されている。

落ち込み部土層解説

- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量     | 14 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック，焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量     | 15 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量       | 16 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   |
| 4 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量     | 17 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | 18 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 6 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量     | 19 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   |
| 7 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量   | 20 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 8 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量   | 21 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 9 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量   | 22 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   |
| 10 黒褐色 炭化粒子多量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量  | 23 黒褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 11 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量      | 24 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 12 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量      | 25 黒褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   |
| 13 黒褐色 炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量  | 26 黒褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量        |

炉 確認されなかった。

ピット 82か所(その中の72か所は床の項で述べた壁際のピット群)。P1～3は配置と規模から主柱穴と考えられる。P4～6は主柱穴に隣接して確認されているので補助柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。P7～9は落ち込み部の中あるいはこれに隣接して確認されているが，性格は不明である。深さはP1～3が22～41cm，P4～6が27～30cm，P7～10が10～29cmである。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径86cm, 短径78cmの不整楕円形で、深さは33cmである。

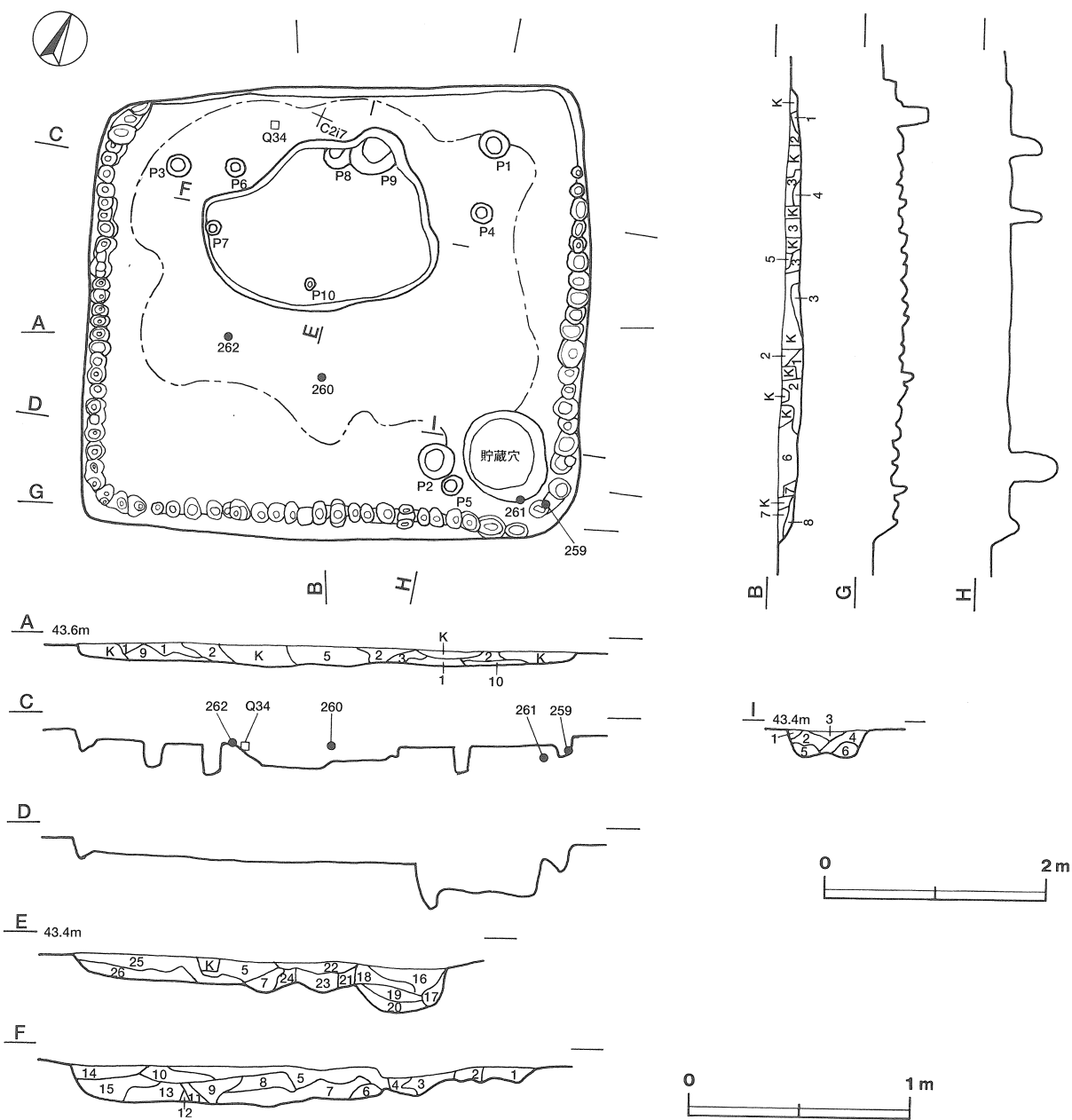
貯蔵穴土層解説

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 4 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子少量   | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |

覆土 10層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

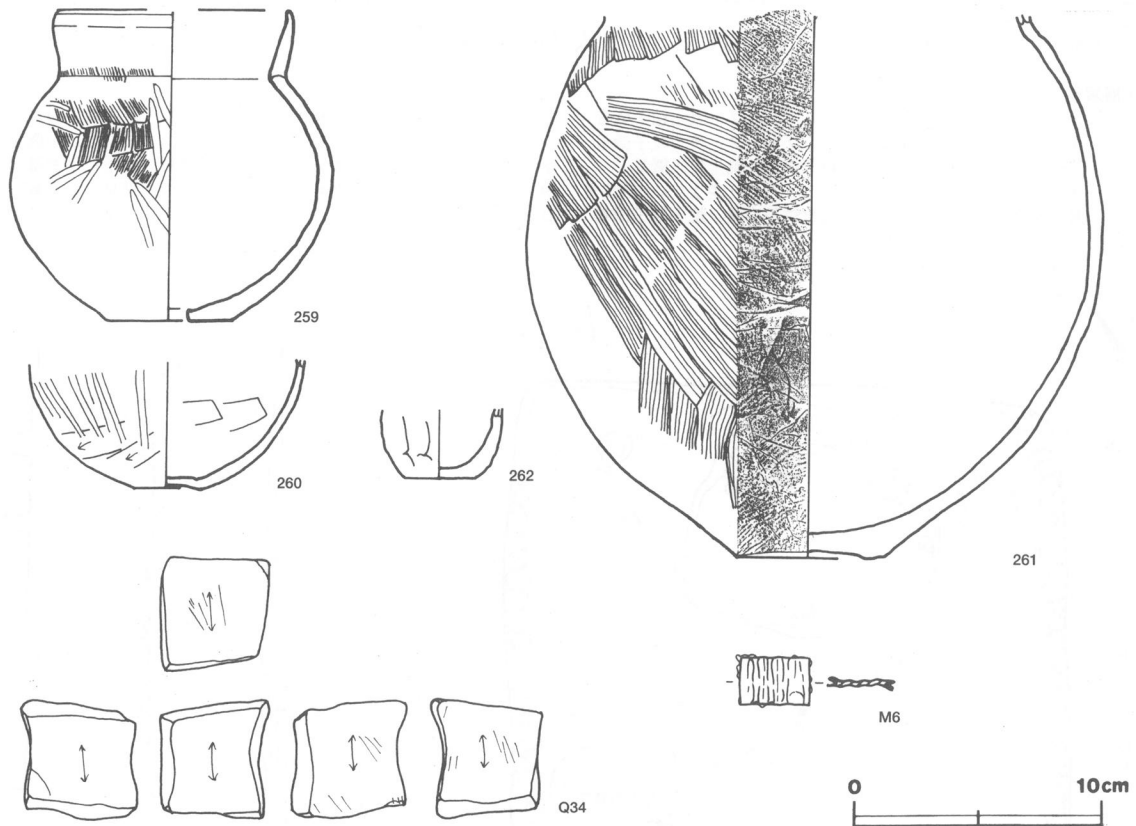
- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 6 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 7 黒色 炭化粒子極多量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量    | 8 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック少量   |
| 5 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化材微量     |



第106図 第73号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片140点、不明鉄製品1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点、須恵器片1点が出土している。遺物は床面全体に散在した状況で出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第107図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
259	土師器	小形甕	[9.4]	12.5	[4.8]	長石・雲母	橙	普通	頸部及び体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 底部穿孔（下から上へ）	北東コーナー部 床面	40%
260	土師器	埴	-	(5.1)	2.7	石英・長石・雲母・ 礫・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ	中央部床面	20%
261	土師器	甕	-	(21.9)	5.9	石英・長石・雲母	灰褐	普通	体部外面ハケ目調整	北東コーナー部 床面	70% PL27
262	土師器	手捏	-	(2.7)	2.8	長石・雲母	灰褐	普通	体部外面指頭による押圧	中央部床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	砥石	4.8	4.3	4.6	127.1	凝灰岩	砥面6面 表面の擦痕強い	北西部床面	PL30
Q35	炉石	12.4	6.2	(2.3)	(213.7)	半花崗岩	全面被熱	北西部床面	未掲載
M6	不明	2.0	3.0	0.5	3.4	鉄	断面波板状	南東部覆土中	

### 第74号住居跡（第108図）

**位置** 調査区の北部、D2b7区。標高43.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.87m、短軸4.84mの方形である。壁は高さ12~28cmで外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-79°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。床面東部から炭化材が確認されている。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径105cm，短径54cmの楕円形で，床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

**炉土層解説**

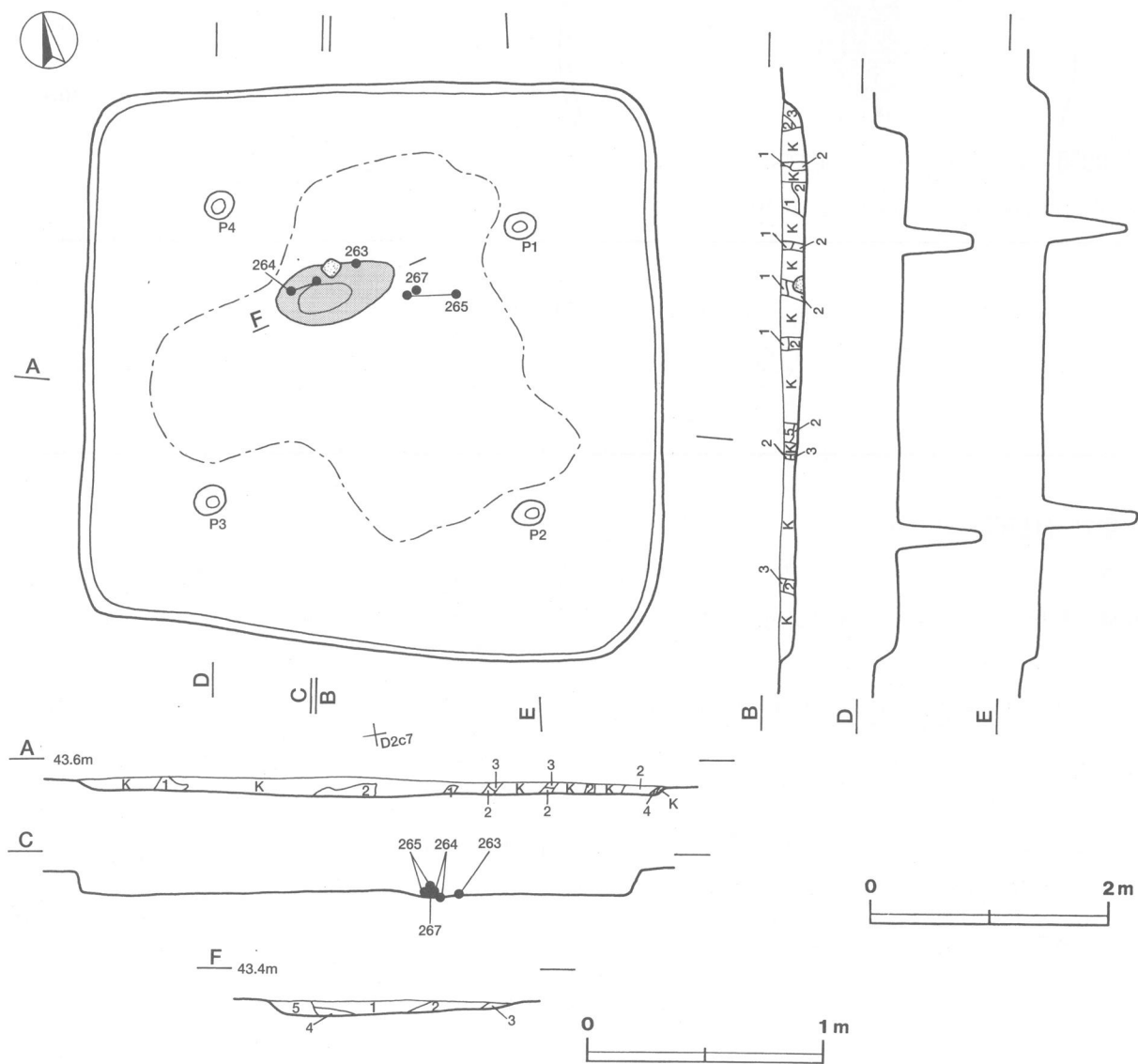
- |        |                |       |                  |
|--------|----------------|-------|------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子少量  | 4 褐色  | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 明褐色 | ローム粒子多量          |
| 3 褐色   | ローム粒子中量        |       |                  |

**ピット** 4か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは62～81cmである。

**覆土** 5層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが，ブロック状の堆積状況を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

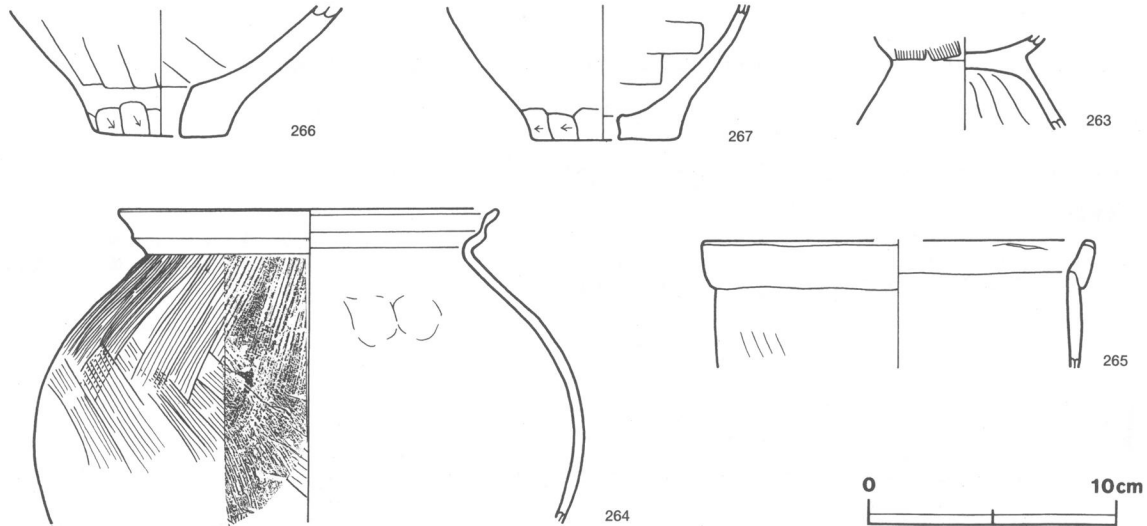
- |       |                       |         |                       |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 黒色  | 炭化材少量，ロームブロック・焼土粒子微量  | 5 黒色    | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |         |                       |



第108図 第74号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片156点、礫1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点、須恵器片5点が出土している。遺物は炉跡の中や炉跡の周辺から集中して出土している。

**所見** 覆土中に焼土粒子や炭化材等が含まれていることや、炭化材が床面から確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第109図 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
263	土師器	台付甕	—	(3.8)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整 台部内面ヘラナデ	炉跡覆土中	5%
264	土師器	台付甕	15.4	(12.6)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面指頭による押圧 S字状口縁	炉跡覆土中	15% PL27
265	土師器	鉢	[15.8]	(5.2)	—	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面叩き	炉跡東側床面	5%
266	土師器	甌	—	(5.2)	5.4	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラナデ, 外面下端ヘラ削り 上から下へ穿孔	南西部覆土中	15%
267	土師器	甌	—	(5.5)	5.9	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ 下から上へ穿孔	炉跡東側床面	15%

### 第75号住居跡（第110図）

**位置** 調査区の北部，D2d9区。標高43.4mの平坦部に位置している。

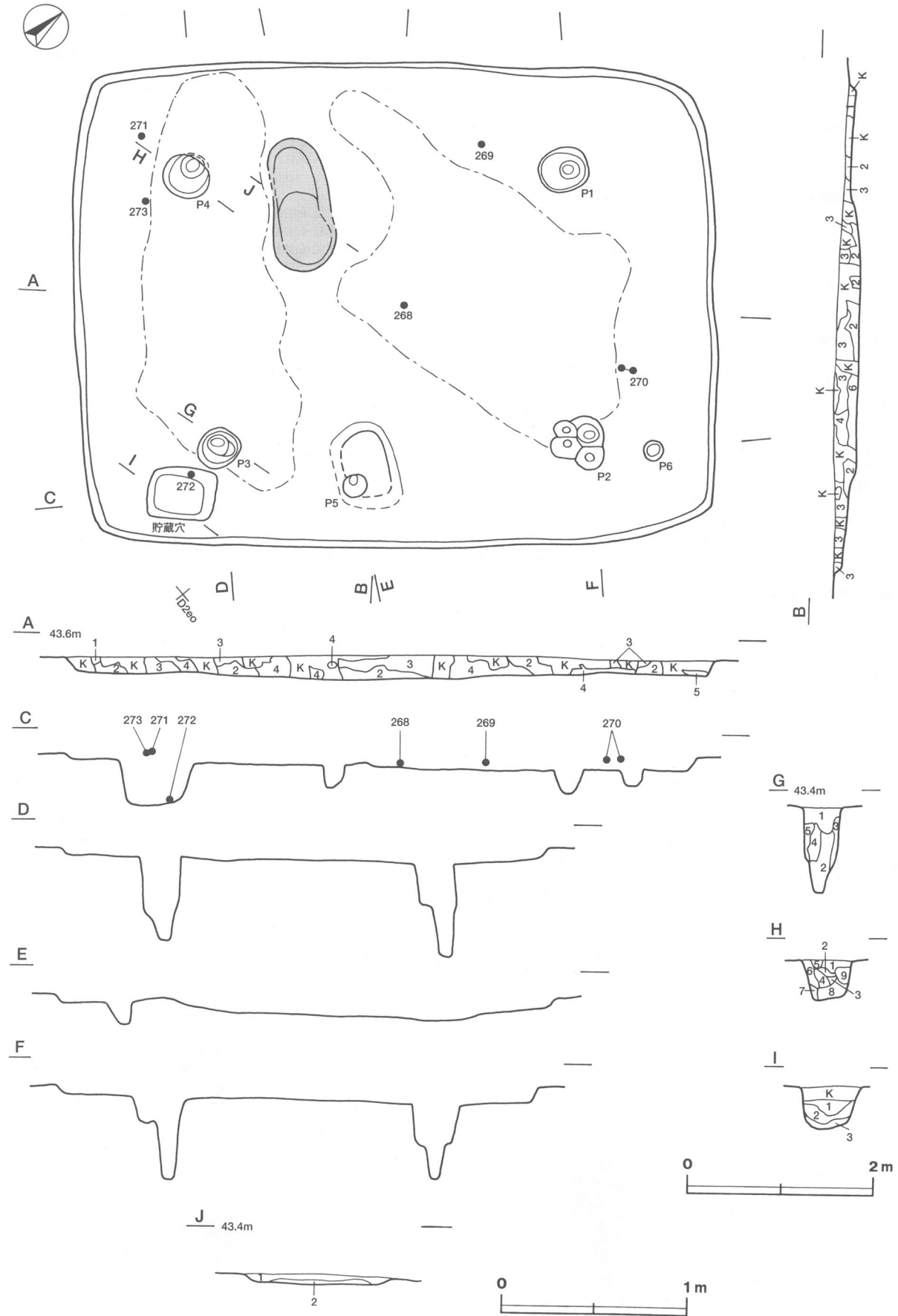
**規模と形状** 長軸6.89m，短軸5.27mの長方形である。壁は高さ6～16cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-47°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡の北東側と南西側に硬化面が見られる。P5の周囲に長軸92cm，短軸70cmの不整長方形をした，高さ7cmほどの土手状の高まりが見られ，出入口施設に伴う高まりと考えられる。南コーナー床面に貼り付くように炭化材が出土している。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径146cm，短径61cmの楕円形で，床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。中央部から南部にかけてその度合いが強い。

#### 炉土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック多量，ロームブロック少量・炭化粒子微量



第110図 第75号住居跡実測図

ピット 6か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6はP2に隣接する位置で確認されているので補助柱穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。深さはP1～4が83～102cm、P5が29cm、P6が20cmである。

**P3土層解説**

- |         |                       |         |                |
|---------|-----------------------|---------|----------------|
| 1 黒色    | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色   | ローム粒子・炭化粒子少量   |
| 2 黒色    | 炭化粒子中量，ロームブロック少量      | 5 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量        |         |                |

**P4土層解説**

- |      |                       |       |                       |
|------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒色 | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒色  | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 2 黒色 | 炭化粒子中量，ロームブロック少量      | 6 黒色  | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒色 | 炭化粒子中量，ローム粒子微量        | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量      |
| 4 黒色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量   | 8 黒色  | ロームブロック・炭化粒子中量        |

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長軸74cm，短軸58cmの長方形で，深さは46cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |      |                     |       |                       |
|------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 灰褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子中量，ローム粒子微量      |       |                       |

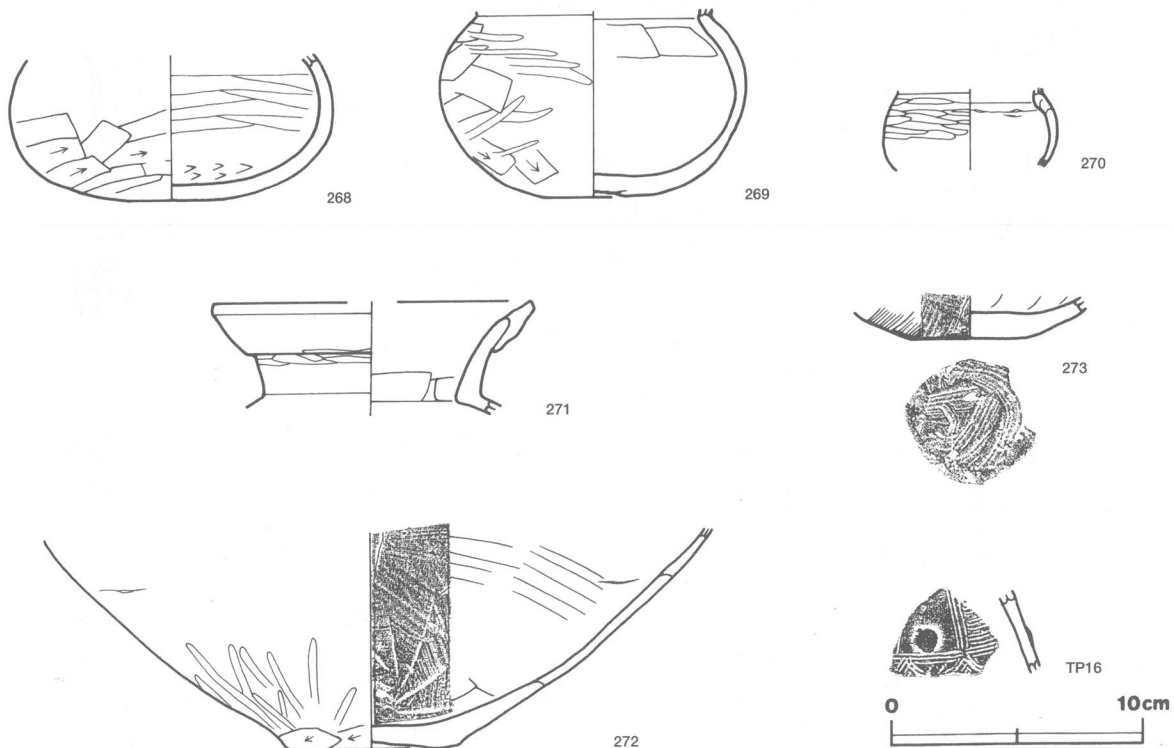
**覆土** 6層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが，ブロック状の堆積状況を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |      |                       |       |                       |
|------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒色 | 炭化粒子極多量，ローム粒子・焼土粒子微量  | 4 黒色  | ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量   |
| 2 黒色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒色  | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片355点，礫5点のほか，攪乱等により混入したとみられる縄文土器片1点，須恵器片4点が出土している。遺物は床面全体から散在した状況で出土している。

**所見** 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることや，炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第111図 第75号住居跡出土遺物実測図



第75号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	土師器	椀	—	(5.8)	3.6	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	中央部覆土下層	60%
269	土師器	埴	—	(7.5)	—	長石・雲母	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ	北西部覆土下層	60%
270	土師器	埴	—	(3.1)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き	北東部覆土下層	5%
271	土師器	甕	[12.8]	(4.6)	—	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	西コーナー部覆土下層	15%
272	土師器	甕	—	(8.7)	6.8	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き、下端ヘラ削り、内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	10%
273	土師器	甕	—	(1.7)	4.8	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ 底部外面ハケ目調整	西部覆土下層	5%
TP16	弥生土器	壺	—	(3.3)	—	長石・雲母	橙	普通	頸部3本輪歯による縦区画・横走文、円形浮文 胴部山形文	覆土中	

## 第76号住居跡（第112図）

**位置** 調査区の北部、D3e5区。標高43.4mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸7.45m、短軸6.4mの長方形である。壁は高さ6～22cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-55°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲む位置と北コーナー部と南東部に硬化面が見られる。焼土や炭化材が床面に貼り付くように確認されている。

**炉** 中央部に設けられている。長径80cm、短径36cmの楕円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。

**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部やや東寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が80～94cm、P5が33cmである。

## P2土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量  
2 黒色 炭化粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径82cm、短径68cmの楕円形で、深さは69cmである。

## 貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 4 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量 5 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量  
3 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量

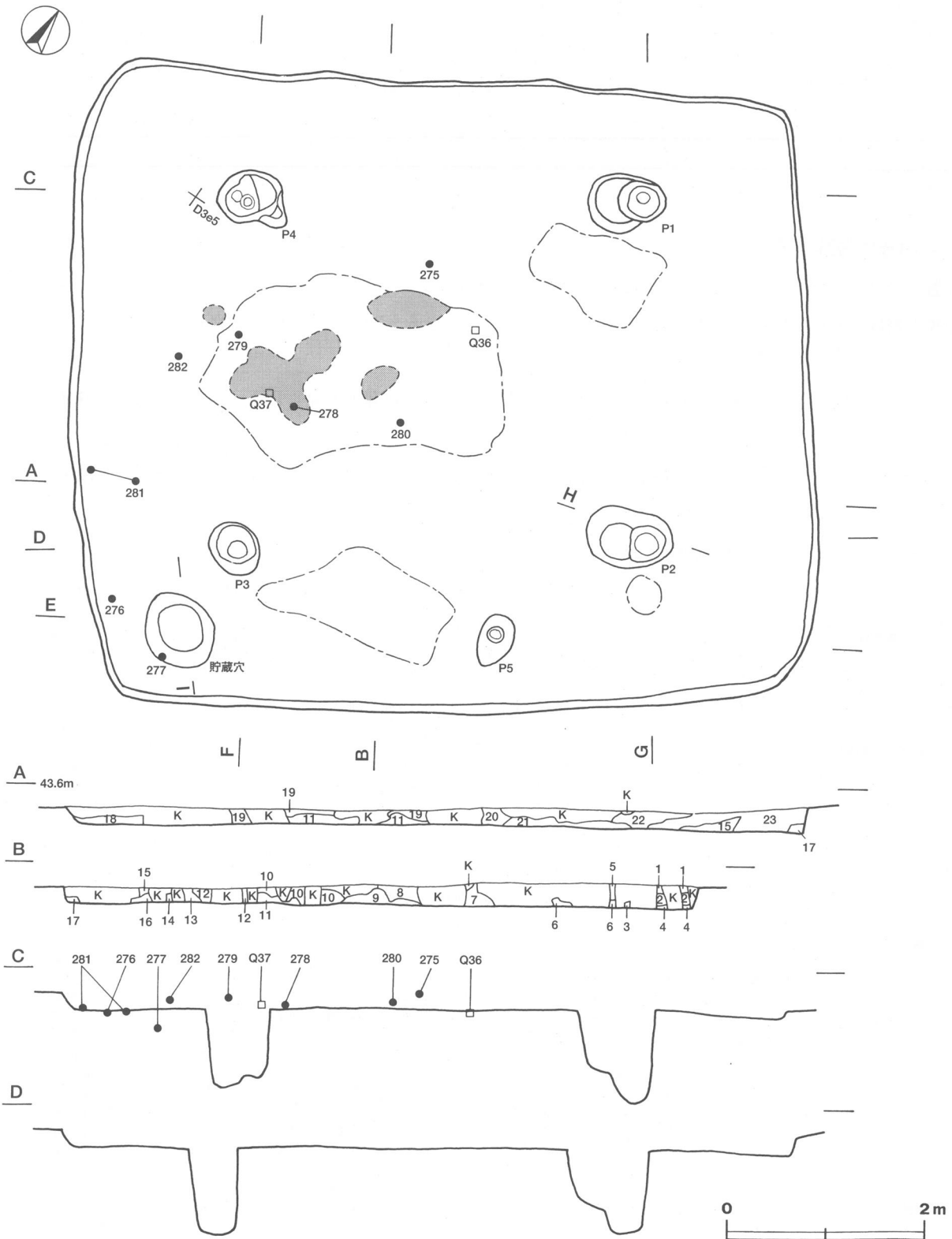
**覆土** 22層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

## 土層解説

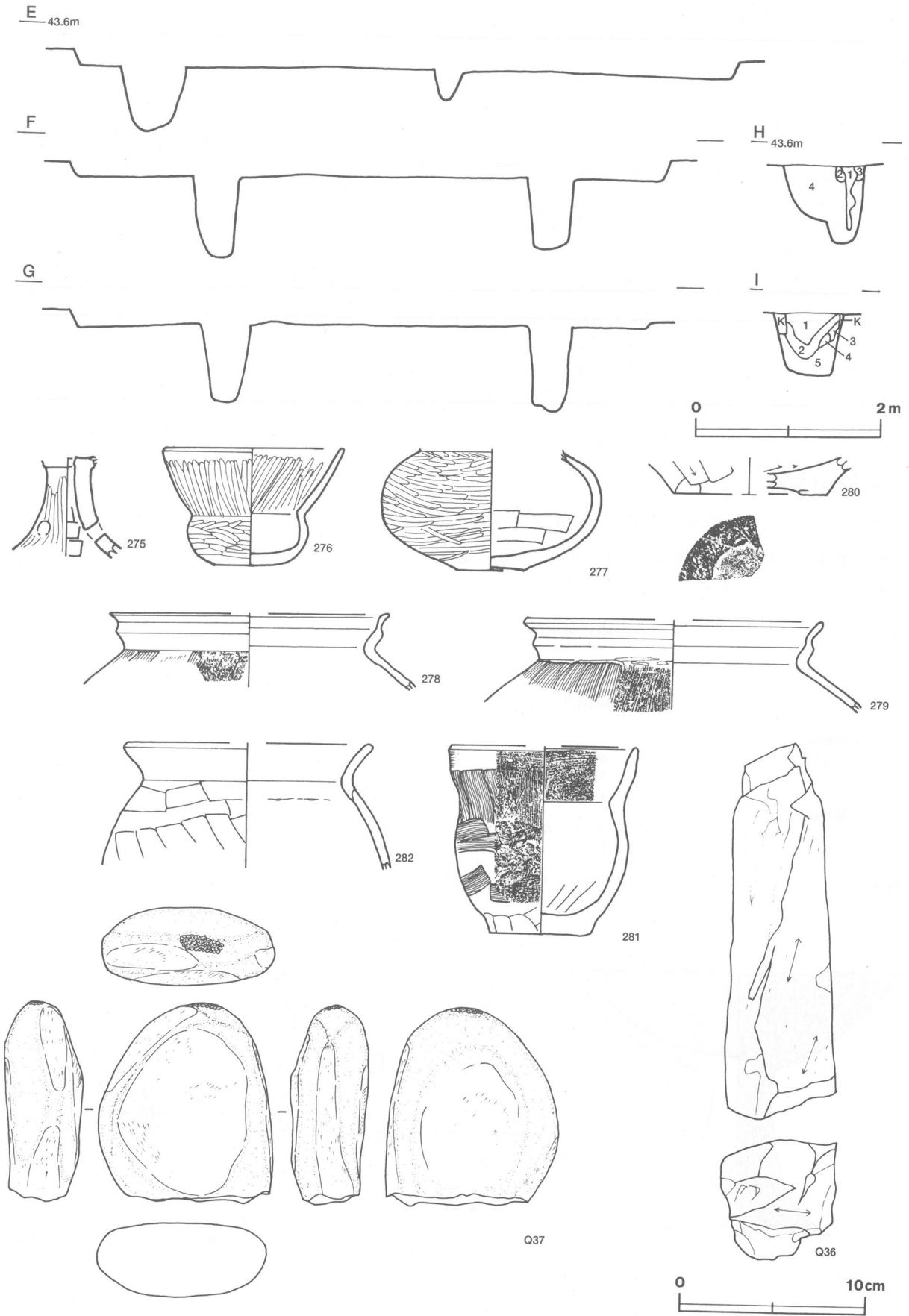
- 1 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 12 暗褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 13 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック少量  
3 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量 14 黒褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化材微量  
4 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化材微量 15 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量  
5 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量 16 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック微量  
6 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 17 極暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量  
7 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量 18 黒色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量  
8 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量 19 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量  
9 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 20 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量  
10 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量 21 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量  
11 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量 22 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片2283点、礫50点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片34点、須恵器片8点、陶器片1点が出土している。遺物は床面全体から散在した状況で出土している。

所見 覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることや、炭化材や焼土が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第112図 第76号住居跡実測図



第113図 第76号住居跡・出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
275	土師器	器台	—	(5.5)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ 脚部3孔	中央部覆土上層	5%
276	土師器	埴	9.8	6.3	3.3	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面及び体部外面ヘラ磨き	南コーナ部床面	100% PL26
277	土師器	埴	—	(6.5)	3.6	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	55%
278	土師器	台付甕	[15.2]	(4.1)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 S字状口縁	中央部覆土下層	10%
279	土師器	台付甕	[16.0]	(4.9)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 S字状口縁	南西部覆土下層	10%
280	土師器	甕	—	(2.0)	[8.4]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ 底部木葉痕	中央部覆土下層	5%
281	土師器	小形甕	[10.0]	10.2	5.4	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面丁寧なハケ目調整、下端及び内面ヘラナデ	中央部覆土下層	60%
282	土師器	甕	[13.2]	(6.8)	—	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ	南西部床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	砥石	20.6	6.1	6.6	1039.5	凝灰岩	砥面1面 使用面の擦痕強し	中央部床面	PL30
Q37	敲石	(10.8)	9.4	4.1	(653.0)	安山岩	表面磨りの痕跡あり、端部に敲打痕あり	中央部覆土下層	

第77号住居跡（第115図）

位置 調査区の北部，D3d7区。標高43.4mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.62m，短軸4.61mの方形である。壁は高さ5～10cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-9°-Wである。

床 ほぼ平坦である。中央部から南側に硬化面が見られる。

炉 確認されなかった。

ピット 4か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは51～76cmである。

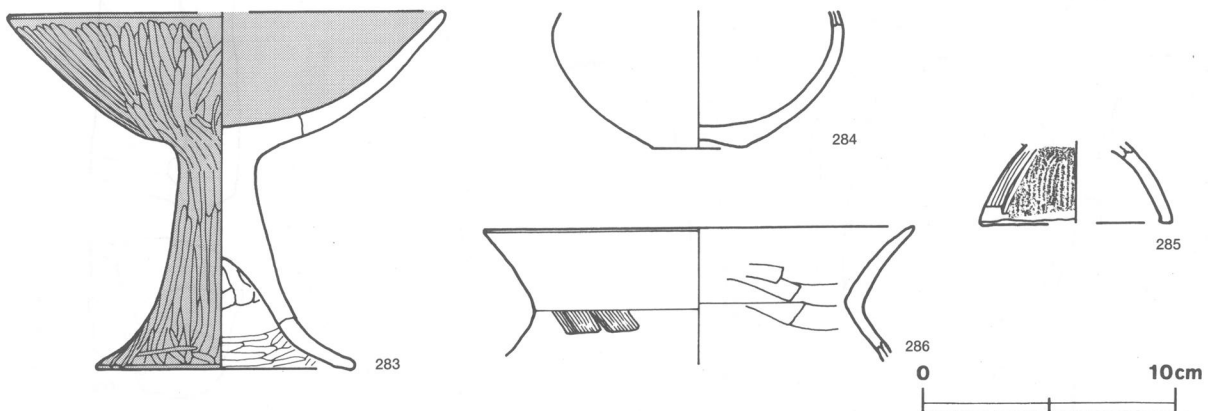
P3土層解説

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量       |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量       |                           |

P4土層解説

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量     |                          |

覆土 9層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる攪乱が多いため，堆積状況は不明である。



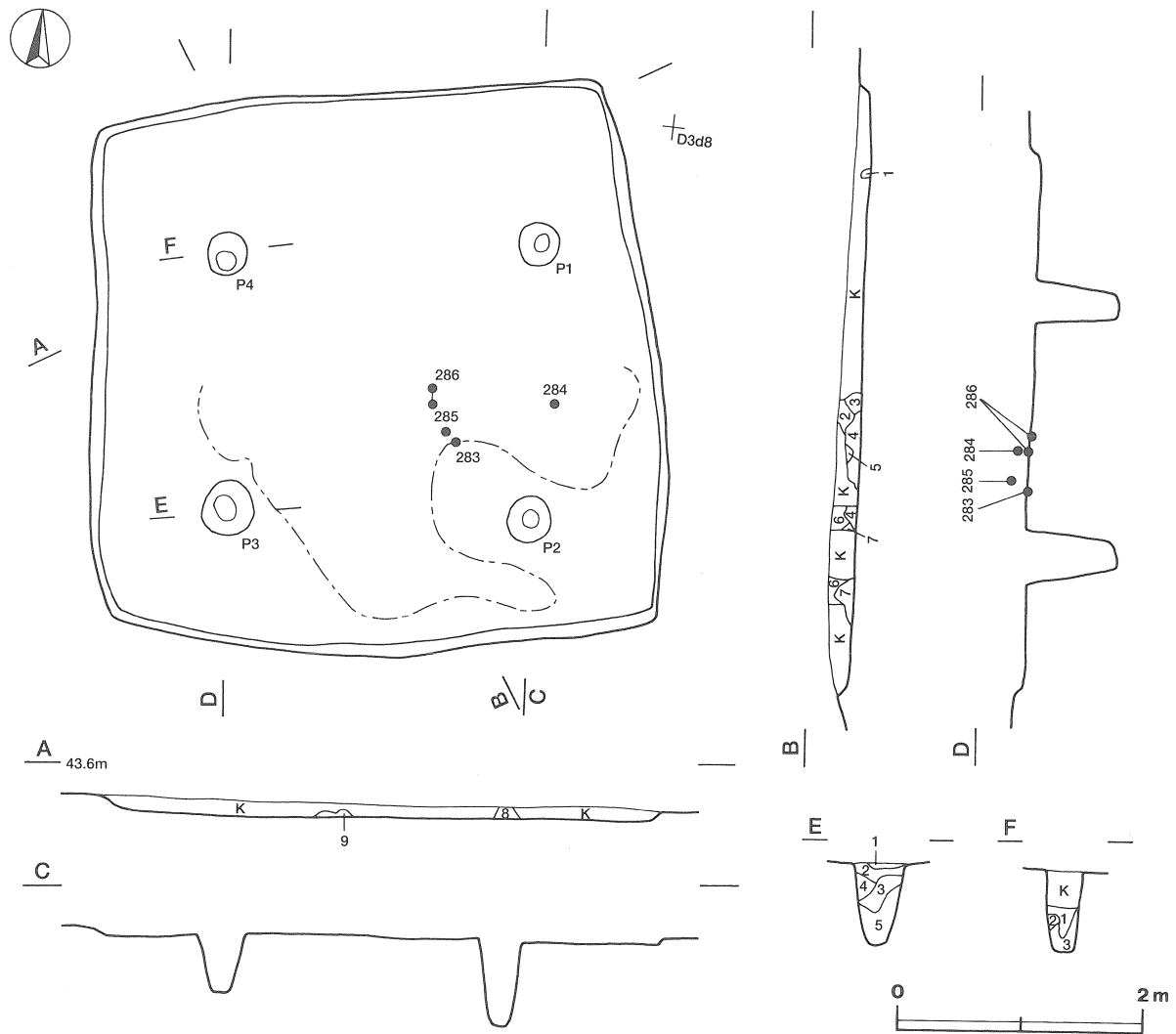
第114図 第77号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量      | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 7 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 8 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量      |
| 4 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  |                              |

遺物出土状況 土師器片236点, 礫3点のほか, 攪乱等により混入したと見られる弥生土器片7点, 縄文土器片2点, 須恵器片7点, 陶器片1点が出土している。遺物は中央部から東部にかけて出土している。

所見 時期は, 出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第115図 第77号住居跡実測図

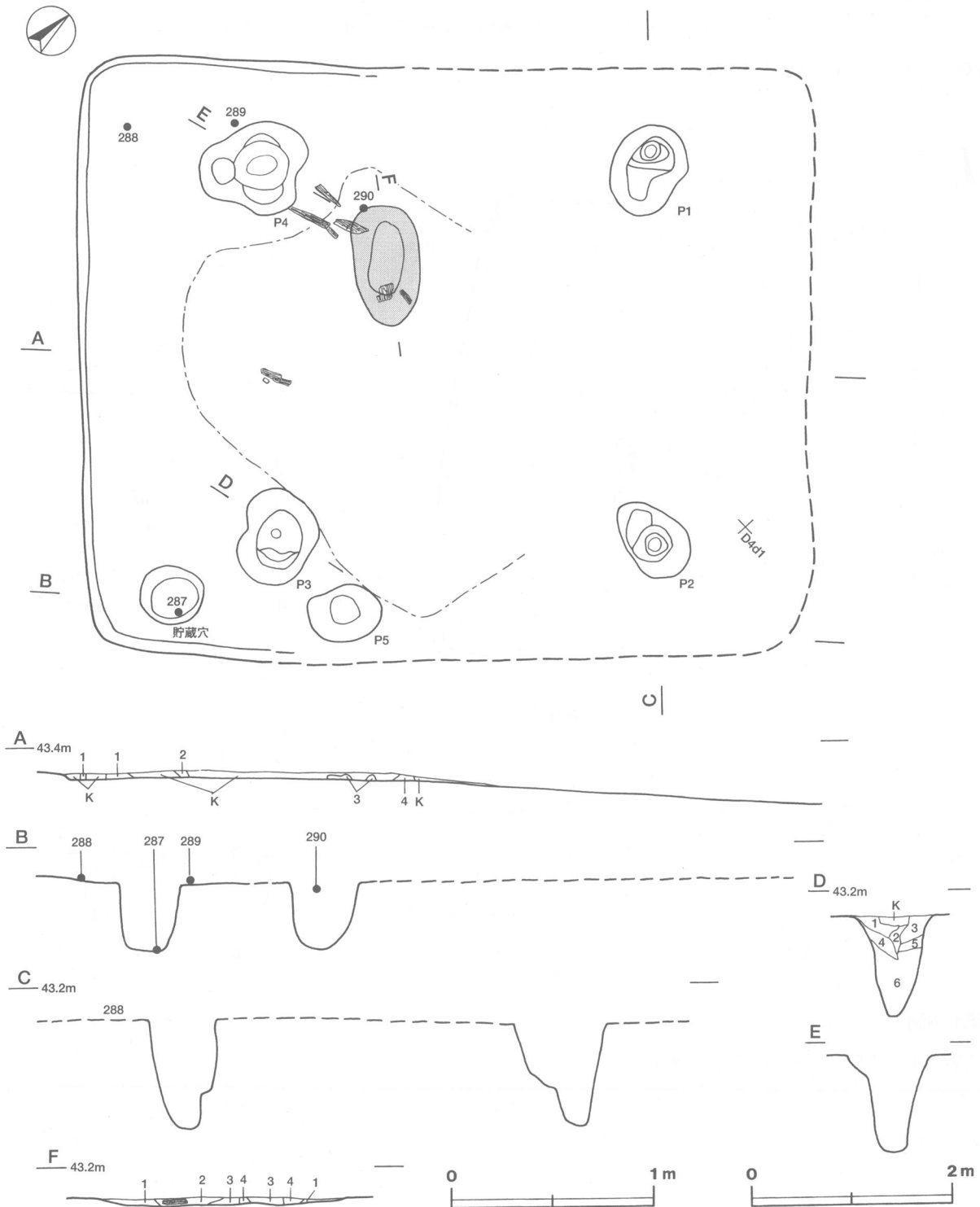
第77号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
283	土師器	高坏	[17.4]	14.2	10.2	石英・長石・雲母	橙	普通	坏及び脚部外面ヘラ磨き, 脚部内面指ナデ・ヘラナデ 内・外面赤彩	中央部床面	80% PL27
284	土師器	埴	-	(5.4)	3.4	長石・雲母	橙	普通	内・外面摩滅	東部覆土下層	40%
285	土師器	台付甕	-	(3.2)	[7.8]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	台部外面ハケ目調整	中央部覆土上層	5%
286	土師器	甕	17.2	(5.3)	-	石英・長石・礫	橙	普通	体部外面弱いハケ目調整, 内面ヘラナデ	中央部床面	5%

第78号住居跡 (第116図)

位置 調査区の北部, D4c0区。標高43.1mの平坦部に位置している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱が見られ, 南西壁と南東・北西両壁の一部が遺存しているのみであるが, 推定長軸7.20m, 短軸6.00mで長方形と推定される。壁は高さ1~5cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸



第116図 第78号住居跡実測図

方向はN-48°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡の南側に硬化面が見られる。炭化材が床面に貼り付くように確認されている。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径122cm, 短径64cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが強いため、長期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量

**ピット** 5か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は掘り込みが深くしっかりとしたものであるが、南東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1~4が101~121cm, P5が71cmである。

**P3土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径65cm, 短径60cmの円形で、深さは68cmである。

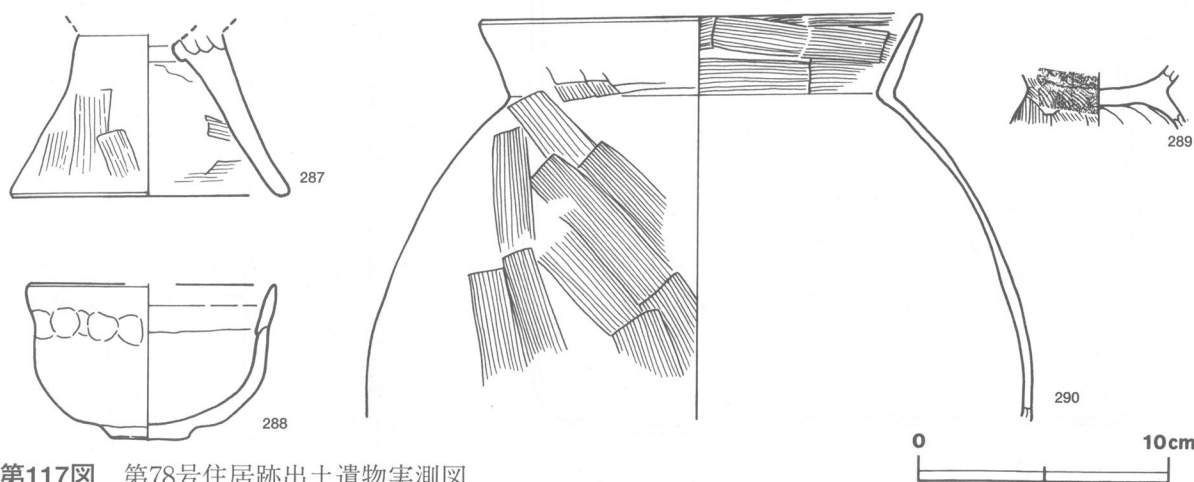
**覆土** 4層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片328点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点、須恵器片3点が出土している。遺物は貯蔵穴内と炉跡周辺から出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第117図 第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
287	土師器	器台	-	(6.5)	11.0	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部内・外面ハケ目調整 上から下へ穿孔	貯蔵穴覆土中	50%
288	土師器	椀	[9.8]	6.2	3.2	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部指頭による押圧	西コーナー部床面	40%
289	土師器	台付甕	-	(2.4)	-	長石・雲母	橙	普通	体部から台部外面ハケ目調整, 台部内面指ナデ	西部床面	5%
290	土師器	甕	17.7	(16.3)	-	石英・長石・雲母・礫	灰褐	普通	口縁部外面弱いハケ目調整後横ナデ, 内面及び体部外面弱いハケ目調整	北西部床面	20% PL27

第79号住居跡 (第118図)

位置 調査区の北部, D3f9区。標高43.1mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.83m, 短軸4.67mの方形である。壁は高さ4~18cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-3°-Eである。

床 ほぼ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

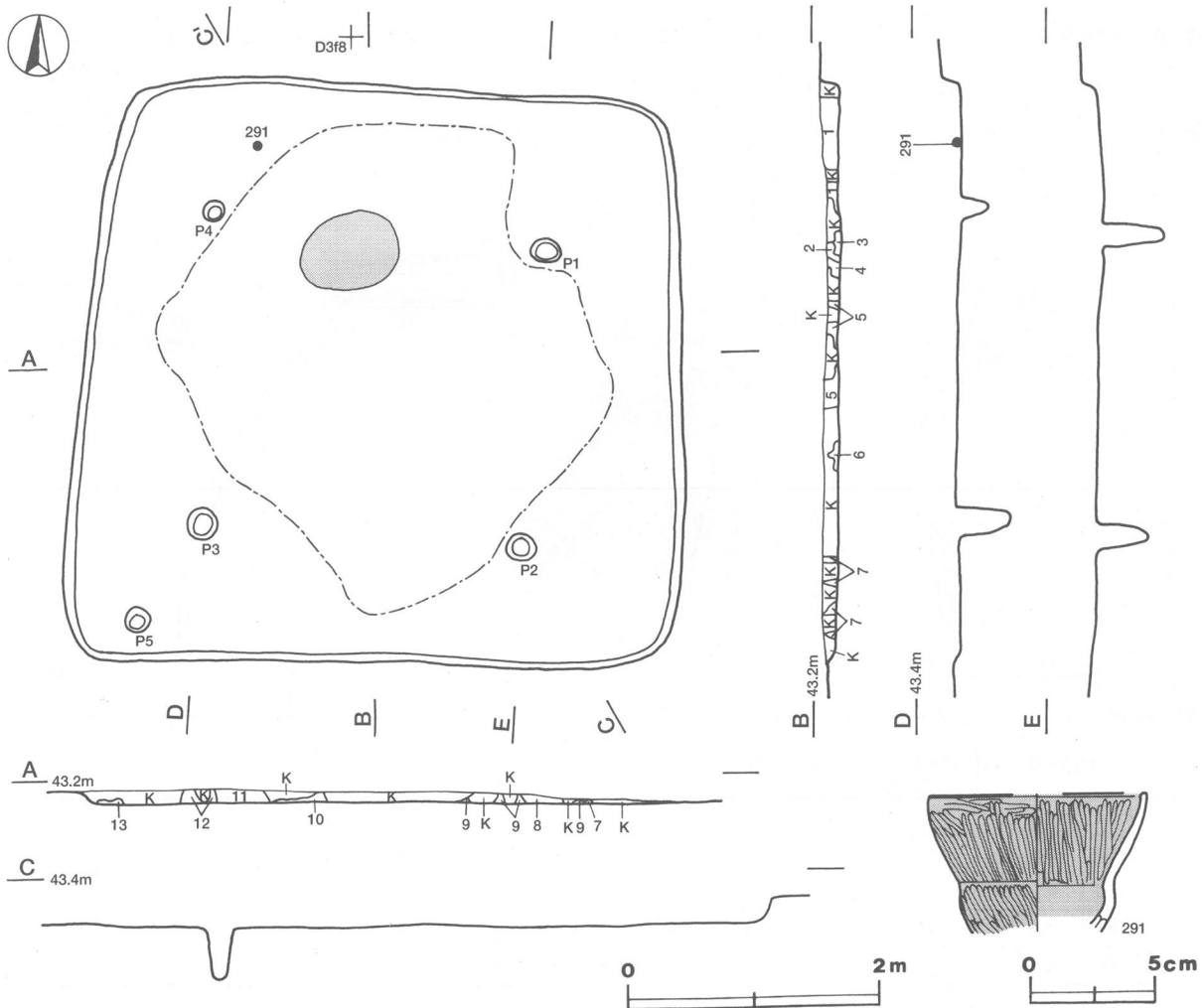
炉 中央部やや北寄りに設けられている。長径82cm, 短径62cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので, 短期間の使用と考えられる。

ピット 5か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南西コーナー部に位置しているが, 性格は不明である。深さはP1~4が25~53cm, P5が41cmである。

覆土 13層からなる。層厚が薄く, トレンチャーによる攪乱が多いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 8 褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 極暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量  |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        | 11 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量   | 12 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 6 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  | 13 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量         |
| 7 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |                                |



第118図 第79号住居跡・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 土師器片49点、礫2点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片2点が出土している。遺物は炉跡の周辺から出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。

第79号住居跡出土遺物観察表（第118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
291	土師器	埴	[8.8]	(5.6)	—	長石	赤	普通	口縁部内・外面及び体部外面へラ磨き 内・外面赤彩	北西コーナー付近	40%

第80号住居跡（第119図）

**位置** 調査区の北部、D3h1区。標高43.4mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸6.23m、短軸5.96mの方形である。壁は高さ3～25cmで外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-12°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲むように広い範囲で硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径108cm、短径68cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが強いため、長期間の使用と考えられる。炉床の中央部に長さ12cmと8cmほどの炉石を2個持っている。

**炉土層解説**

1	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	10	暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒色	焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子微量	11	暗赤褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量	12	赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量
4	極暗赤褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量	13	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
5	暗赤褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量	14	暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量
6	黒褐色	炭化粒子多量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量	15	暗赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
7	暗赤褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	16	にぶい赤褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
8	暗赤褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	17	にぶい赤褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9	極暗赤褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量			

**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が59～71cm、P5が22cmである。

**P1土層解説**

1	黒色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量	4	灰褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量	6	褐色	ローム粒子極多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**P2土層解説**

1	灰褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	4	褐色	ローム粒子極多量
2	黒色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	5	褐色	ローム粒子極多量
3	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量			

**P3土層解説**

1	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量			

**P4土層解説**

1	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量	5	褐色	ローム粒子極多量, 炭化粒子微量
3	灰褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量			

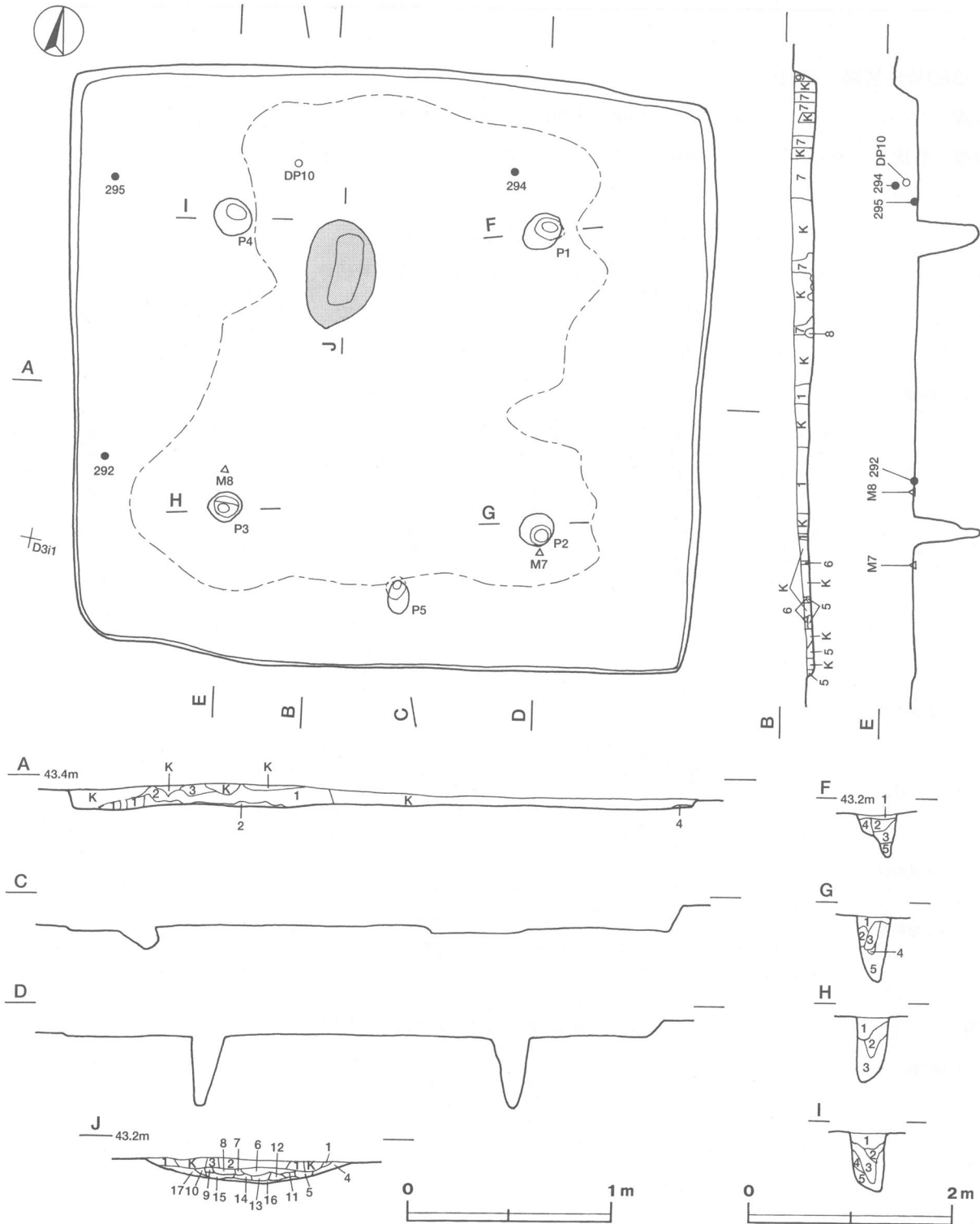
**覆土** 9層からなる。トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

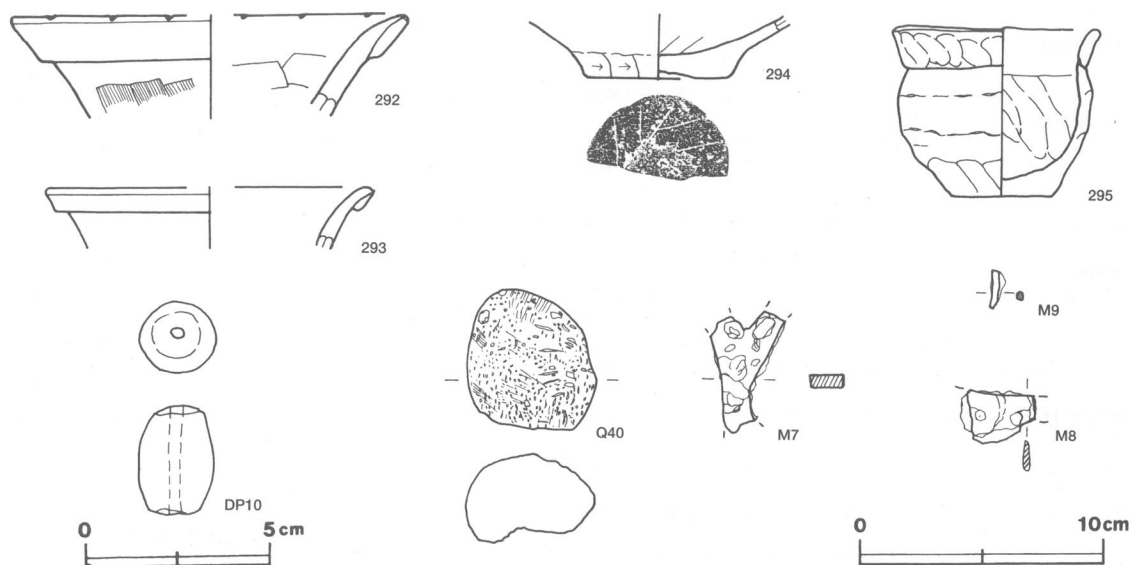
1	黒褐色	炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量	7	黒褐色	炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量
3	黒褐色	炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量	8	黒褐色	炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
4	極暗褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量	9	暗褐色	炭化粒子中量, ロームブロック微量
5	暗褐色	炭化粒子中量, ロームブロック微量			

**遺物出土状況** 土師器片326点、炉石2点、軽石1点、礫11点、管状土錘1点、鉄鏝1点、不明鉄製品2点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片34点、須恵器片5点が出土している。遺物は炉跡の周辺から北西部にかけてから出土している。M7の鉄鏝はトレンチャーによる攪乱の中からの出土である。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第119図 第80号住居跡実測図



第120図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
292	土師器	壺	[16.2]	(4.2)	—	長石・雲母	橙	普通	口縁端部キザミ目 体部外面弱いハケ目調整, 内面ヘラナデ	南西部床面	5%
293	土師器	壺	[13.1]	(2.5)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	頸部外面ハケ目調整	北東部覆土中	5%
294	土師器	甕	—	(2.6)	5.5	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ 底部木葉痕	北東部覆土上層	5%
295	土師器	小形甕	8.3	7.0	4.1	石英・長石・雲母	赤褐	普通	口縁部外面指頭による押圧 体部外面ヘラナデ, 内面指ナデ	北西部床面	95% PL27

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	管状土錘	3.0	0.4	2.1	14.3	土	外面ナデ	北西部覆土中層	
Q38	炉石	22.9	7.9	5.2	869.7	砂岩	全面被熱	炉跡底面	未掲載
Q39	炉石	11.8	7.1	5.5	545.8	安山岩	全面被熱	北東部覆土中層	未掲載
Q40	浮子	5.8	5.3	3.6	15.0	軽石	外面擦痕有り	北西部覆土中層	PL30
M7	鎌	(5.0)	(3.1)	0.6	(12.5)	鉄	有頭雁股 鎌身部から茎部の破片	南東部覆土中	
M8	不明	(2.2)	(2.9)	0.3	(8.5)	鉄	断面環状	南西部床面	
M9	不明	(1.6)	0.5	0.3	(0.4)	鉄	鎌の茎部の破片か	南西部覆土中	

第81号住居跡（第121図）

位置 調査区の北部，D3j4区。標高43.4mの平坦部に位置している。

規模と形状 北壁と東・西両壁の北側は削平されているが，長軸5.41m，推定短軸5.04mで方形と推定される。壁は高さ8cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-71°-Eである。

床 ほぼ平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。

炉 確認されなかった。

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が46～77cm，P5が32cmである。

P1土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**P3土層解説**

- |       |                         |         |                             |
|-------|-------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子極多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 黒褐色   | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量     |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |

**P5土層解説**

- |       |                           |      |                         |
|-------|---------------------------|------|-------------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 3 黒色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック微量  |      |                         |

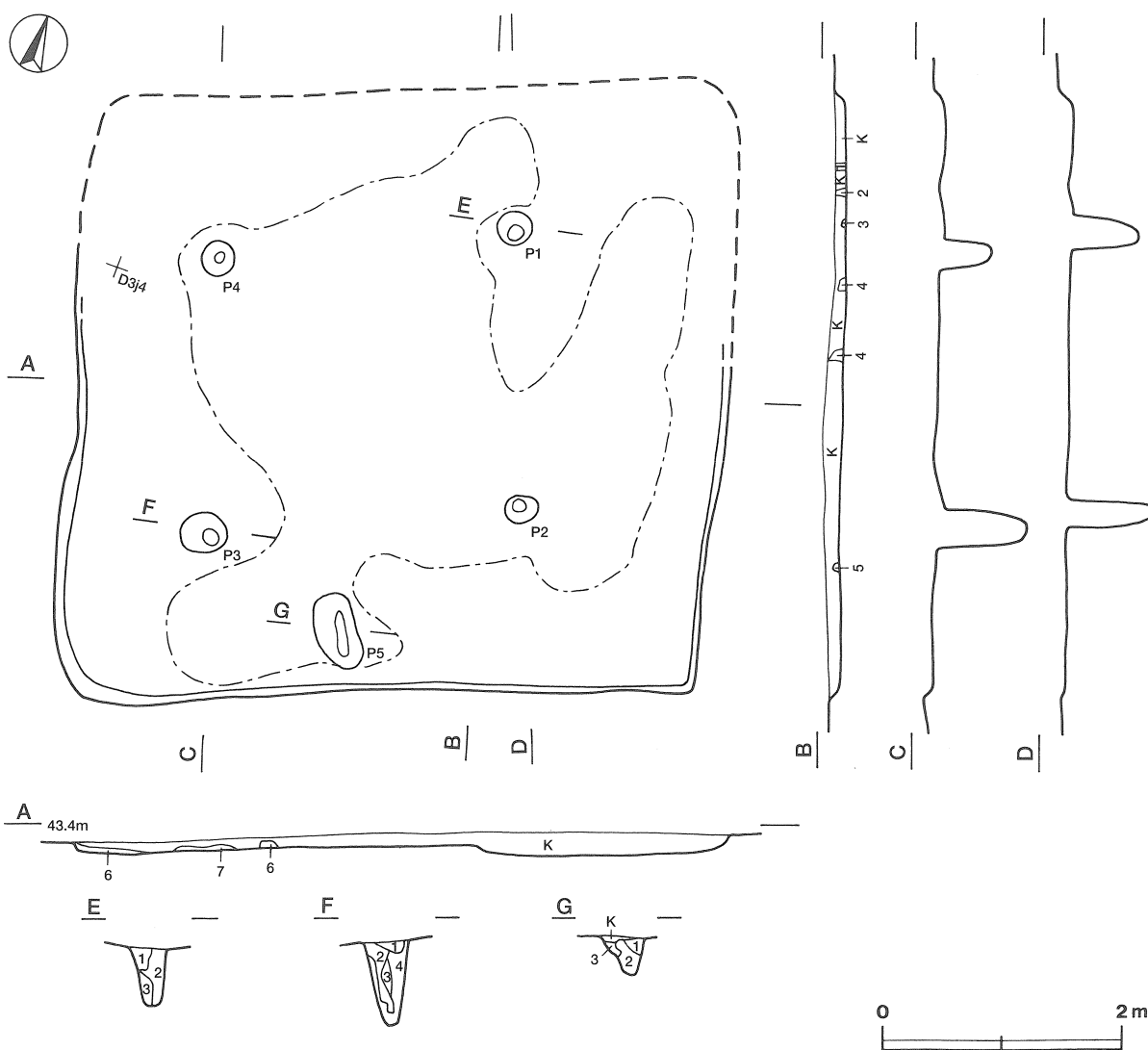
**覆土** 7層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

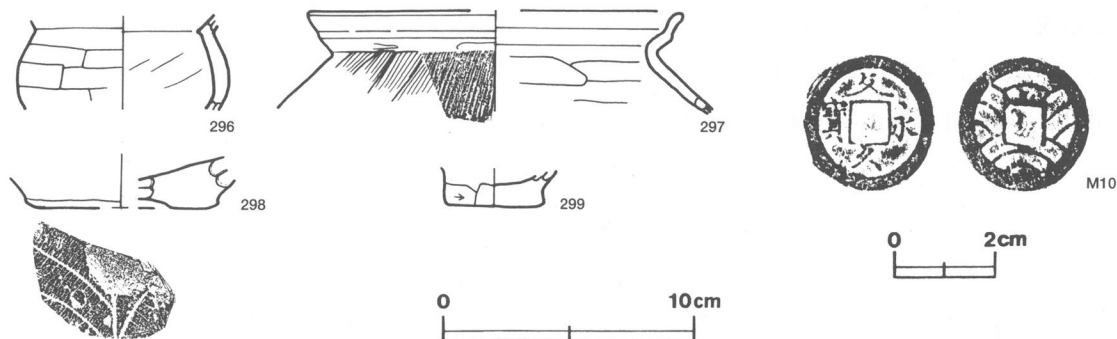
- |       |                        |        |                        |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 暗褐色  | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量      | 7 褐色   | ローム粒子多量, 炭化粒子微量        |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量 |        |                        |

**遺物出土状況** 土師器片220点、礫1点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点、須恵器2点、古銭1点が出土している。遺物は大部分が覆土中からの出土で、しかも破片がほとんどである。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第121図 第81号住居跡実測図



第122図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
296	土師器	埴	-	(3.9)	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	南東部覆土中	5%
297	土師器	台付甕	[15.0]	(4.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面強い横ナデ 体部外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ S字状口縁	北東部覆土中	5%
298	土師器	甕	-	(2.2)	[7.8]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部木葉痕	北西部覆土中	5%
299	土師器	小形甕	-	(1.5)	3.8	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	北西部覆土中	10%

番号	種別	径	厚さ	重量	材質	初鋳年	出土位置	備考
M10	文久永寶	2.6	0.5	3.0	青銅	1863年	中央部攪乱土中	PL30

第82号住居跡（第123図）

位置 調査区の中央部, E3c0区。標高43.3mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.65m, 短軸3.99mの長方形である。壁は高さ6~12cmで外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-14°-Wである。

床 ほほ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

炉 中央部に設けられている。長径64cm, 短径42cmの楕円形をした地床炉で, 炉床は火熱を受け, 赤変硬化しているが, 床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので, 短期間の使用と考えられる。

ピット 5か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1~4が31~40cm, P5が9cmである。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

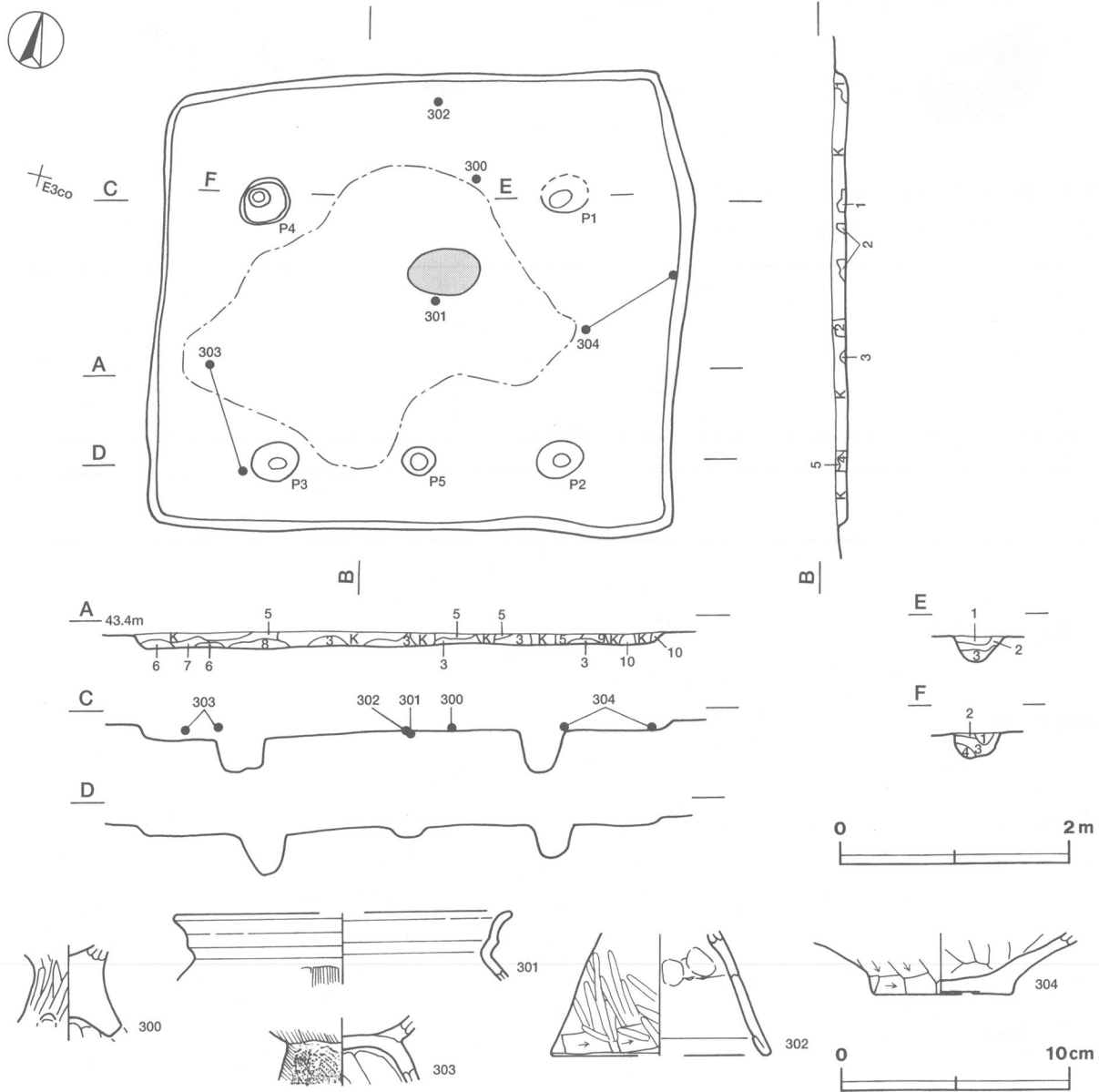
覆土 10層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが, ブロック状の堆積状況を示し, ロームブロックや焼土粒子, 炭化粒子を多く含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 5 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 8 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 9 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片136点、礫2点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点、須恵器片1点が出土している。遺物は炉跡の東側と南西コーナーから出土している。

所見 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第123図 第82号住居跡・出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
300	土師器	高坏	-	(4.0)	-	石英・雲母	明赤褐	普通	脚部外面へラ磨き、内面指ナデ 脚部3孔	北西部覆土下層	10%
301	土師器	台付甕	[14.8]	(3.1)	-	石英・長石・雲母	褐色	普通	体部外面ハケ目調整 S字状口縁。	中央部床面	5%
302	土師器	台付甕	-	(5.4)	[9.6]	石英・雲母	にぶい橙	普通	台部外面へラ削り後へラ磨き、内面指頭による押圧	北部覆土上層	10%
303	土師器	台付甕	-	(3.0)	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面下端から台部外面ハケ目調整、台部内面指ナデ	南西部覆土上層	5%
304	土師器	甕	-	(2.7)	6.2	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り、内面へラナデ	東部覆土下層	5%

**第83号住居跡（第124図）**

**位置** 調査区の中央部，D4i4区。標高43.2mの平坦部に位置している。

**規模と形状** トレンチャーによる攪乱が激しくすべての壁は削平されていて，床は硬化面の確認のみであるが，長軸4.35m，短軸4.17mの方形と推定される。主軸方向はN-50°-Wである。

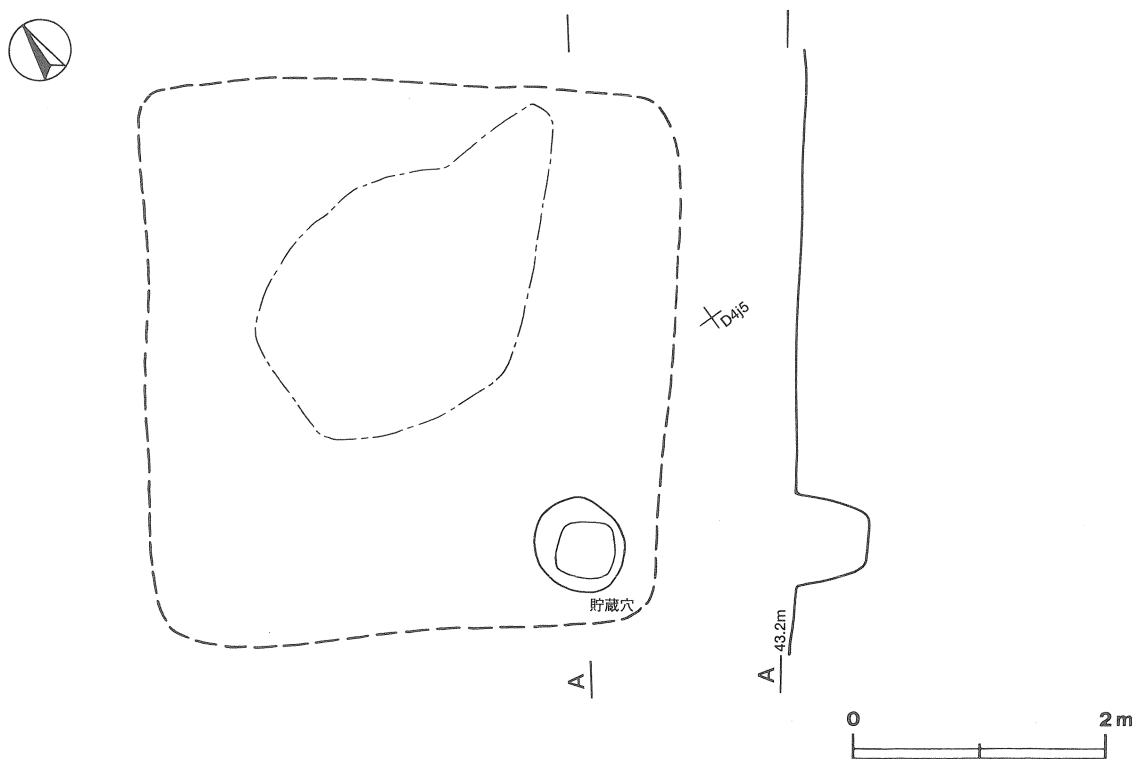
**床** ほぼ平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。

**炉** 確認されなかった。

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設され，長径78cm，短径70cmの楕円形で，深さは58cmである。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかった。

**所見** 出土遺物がないため，時期は決定することは難しいが，遺構の形態から古墳時代と考えられる。



第124図 第83号住居跡実測図

**第84号住居跡（第125図）**

**位置** 調査区の中央部，E4a4区。標高43.3mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.80m，短軸5.69mの方形である。壁は高さ11～21cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-52°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや北寄りに設けられている。長径78cm，短径54cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いため，長期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

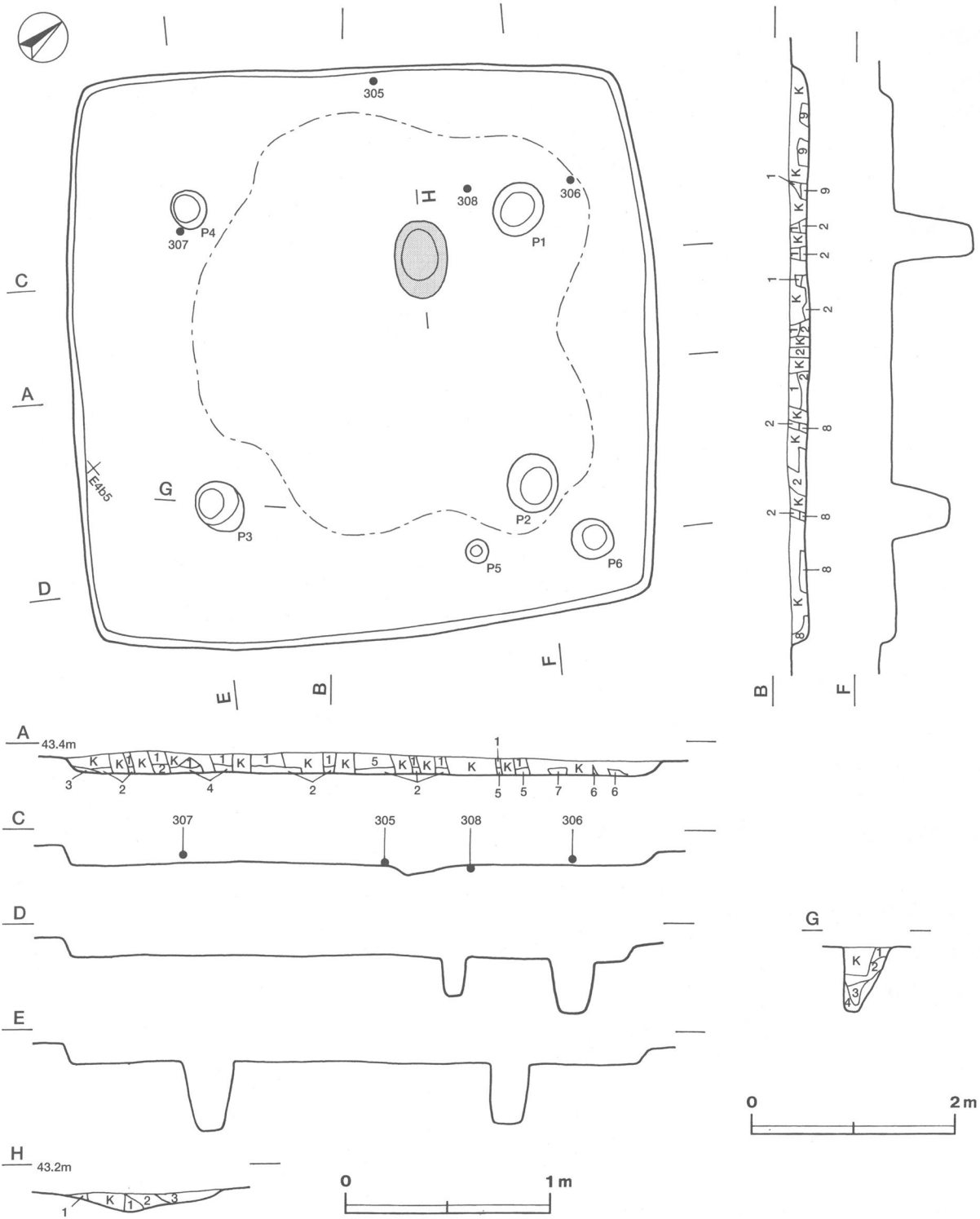
- 1 暗赤褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子中量，焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量

**ピット** 6か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部やや東寄りに位置

していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6はP 2に隣接しているので、補助柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。深さはP 1～4が59～83cm、P 5が41cm、P 6が57cmである。

**P 3土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量   | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色  | ローム粒子多量   |



第125図 第84号住居跡実測図



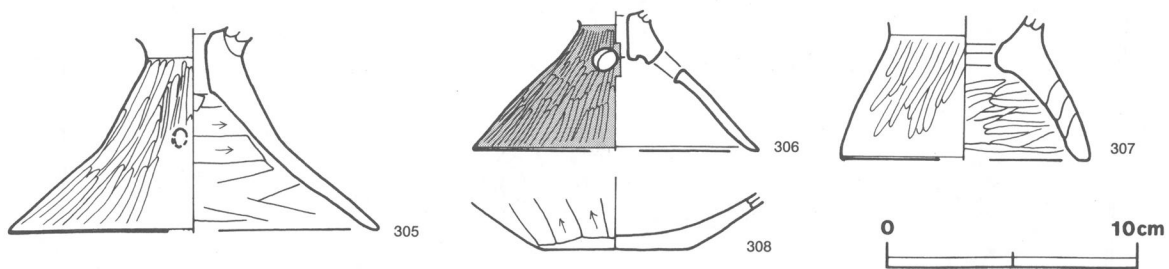
**覆土** 9層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                         |        |                       |
|-------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒色  | 炭化粒子多量，ロームブロック微量        | 6 黒色   | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック微量      | 8 黒褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子多量，焼土粒子中量，ロームブロック少量 | 9 黒褐色  | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量     |        |                       |

**遺物出土状況** 土師器片77点、炉石1点、礫2点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点、須恵器片1点が出土している。遺物量は少ないが、床面全体に散在した状況で出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第126図 第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
305	土師器	器台	-	(8.2)	[15.0]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面上位ヘラ削り，下位ヘラナデ 脚部側面孔数不明	北西壁際床面	20%
306	土師器	器台	-	(5.6)	[11.5]	石英・長石	赤褐	普通	脚部外面ハケ目調整 脚部外面赤彩 脚部側面3孔	北部覆土下層	30%
307	土師器	器台	-	(5.8)	[10.0]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部内・外面ヘラ磨き	P4南側覆土上層	20%
308	土師器	甕	-	(2.4)	6.0	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	北部床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	炉石	(15.1)	10.6	10.8	(2167.0)	安山岩	全面被熱	P4覆土中	未掲載

**第85号住居跡（第127図）**

**位置** 調査区の中央部，E3c6区。標高43.4mの平坦部に位置している。

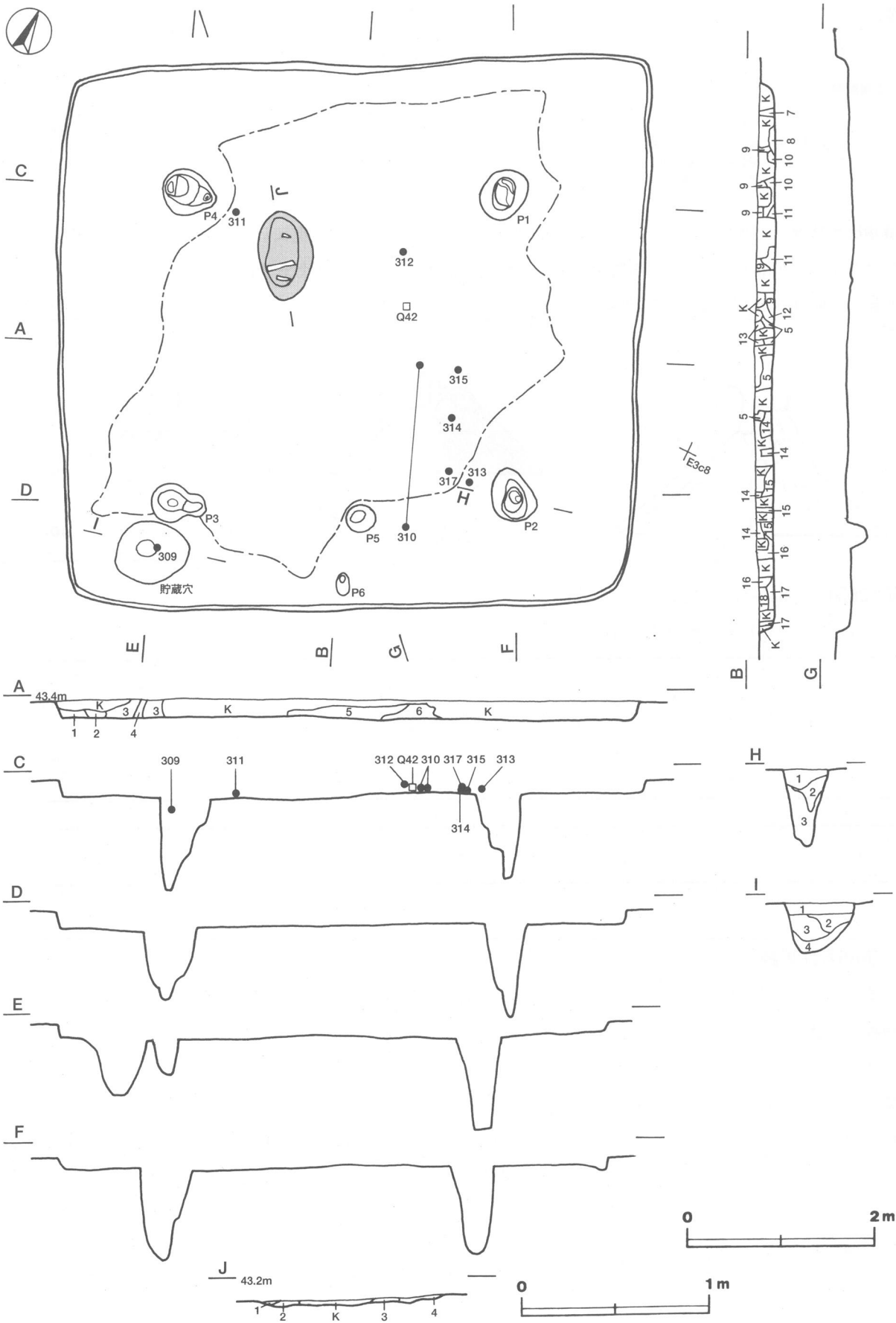
**規模と形状** 長軸6.23m，短軸5.90mの方形である。壁は高さ12～19cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-27°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲むように広い範囲で硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや西寄りに設けられている。長径94cm，短径60cmの楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが弱いので，短期間の使用と考えられる。焼けていない粘土塊3か所が，炉を廃棄後に作り直したような状況で確認されている。

**炉土層解説**

- |        |                         |       |                         |
|--------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   | 3 黒褐色 | 炭化粒子多量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量     |



第127图 第85号住居跡实测图

ピット 6か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5・6は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられるが、規模からP5のみが出入口施設に伴うピットである可能性が考えられる。深さはP1～4が76～102cm、P5が22cmである。

P2土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子微量    | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 |                 |

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径78cm、短径66cmの楕円形で、深さは60cmである。

貯蔵穴土層解説

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量          | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 灰褐色 ロームブロック少量 |

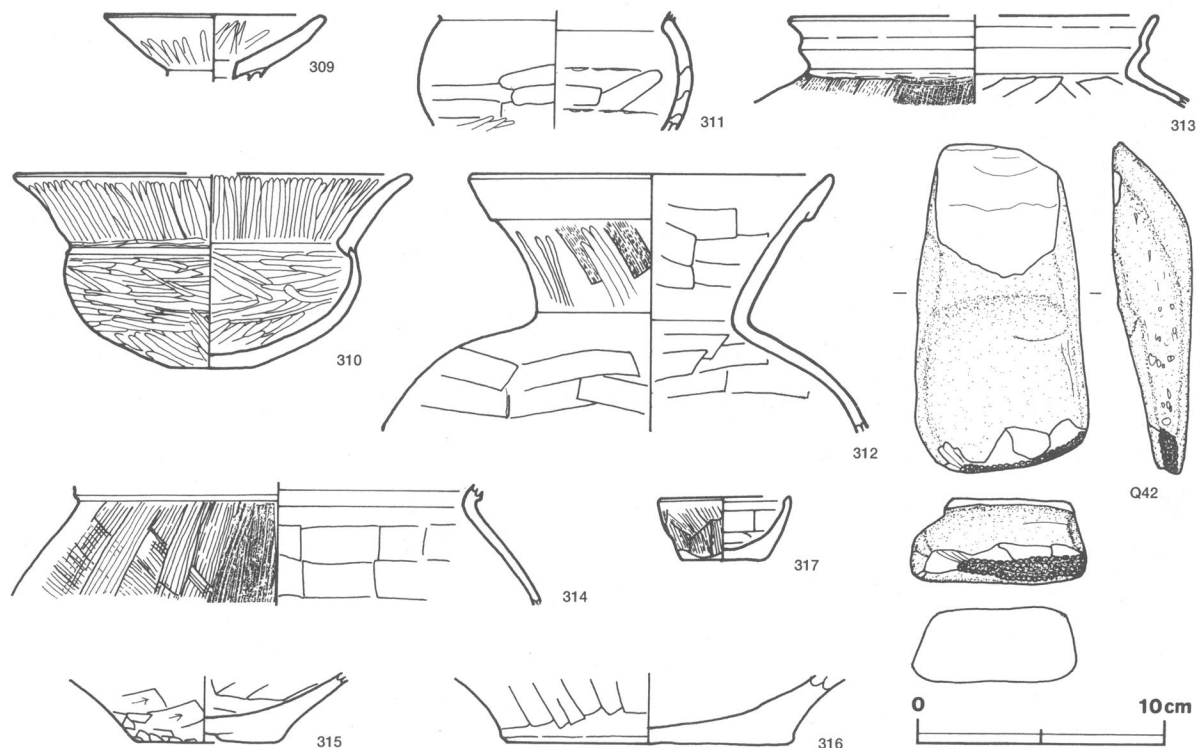
覆土 18層からなる。トレンチャーによる攪乱は見られるが、ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |                              |                                 |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 10 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量              |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 11 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 12 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 4 褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量       | 13 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 14 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量     | 15 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 7 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子微量         | 16 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子微量          |
| 8 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 17 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子微量          |
| 9 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 18 黒色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    |

遺物出土状況 土師器片655点, 不明石製品1点, 礫5点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片6点, 須恵器片8点, 陶器片1点が出土している。遺物は中央部の覆土下層から床面にかけてと貯蔵穴から出土している。

所見 炉跡から焼けていない粘土塊が確認されていることが特徴的である。時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第128図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
309	土師器	器台	8.8	(2.6)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	器受部内・外面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土中	40%
310	土師器	埴	[15.9]	7.8	3.4	石英・長石・雲母・ 礫・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き	南東部覆土下層	30%
311	土師器	埴	—	(4.6)	—	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き、内面ヘラナデ	西部覆土下層	5%
312	土師器	壺	14.7	(10.3)	—	石英・長石・礫	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ヘラ磨き、内面ヘラナデ 体部内・外面ヘラナデ	中央部覆土中層	15% PL27
313	土師器	台付甕	[15.0]	(3.6)	—	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ S字状口縁	南東部覆土下層	10%
314	土師器	台付甕	—	(4.9)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ S字状口縁	中央部覆土下層	10%
315	土師器	甕	—	(2.8)	5.7	石英・長石・ 雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	中央部覆土下層	5%
316	土師器	甕	—	(2.8)	11.4	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラナデ	南西部覆土中	5%
317	土師器	小形鉢	5.3	2.5	3.4	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整、内面ヘラナデ	南東部覆土下層	95% PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	磨石	13.3	7.1	3.3	394.1	粘板岩	表面擦痕あり 端部に敲打痕あり	中央部覆土下層	

第86号住居跡（第129図）

位置 調査区の西部、D2j6区。標高43.4mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.45m、短軸5.08mの方形である。壁は高さ26～52cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-31°-Wである。

床 ほぼ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。壁溝は北西壁と南西壁下を巡っている。上幅8～20cm、下幅6～10cm、深さ4～8cmで、断面形はU字状である。この溝の中や北東壁や南東壁下に、径が9～33cmの円形や楕円形をし、深さ6～20cm程度の小ピット群が54か所見られ、壁柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。炭化材が床面全体から貼り付くように確認されている。

炉 中央部やや西寄りに設けられている。長径124cm、短径73cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが強いので、長期間の使用と考えられる。炉床の中央部南寄りに長さ20cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

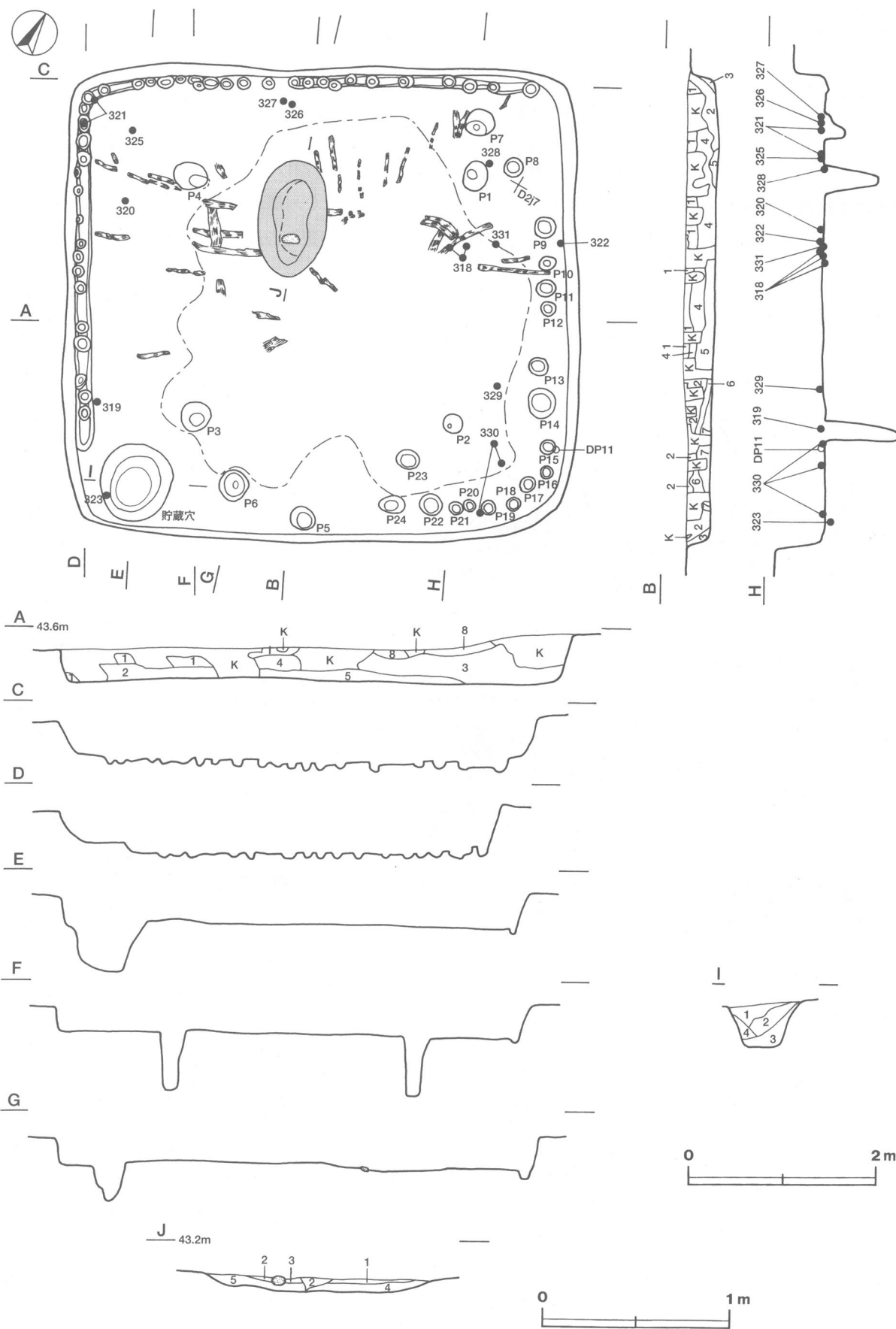
- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量   | 5 明赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量      |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |                            |

ピット 63か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・8はP1に、P23はP2に、P6はP3に隣接する位置でそれぞれ確認されているので、補助柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。深さはP1～4が57～79cm、P5～8・23が14～42cmである。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径85cm、短径75cmの楕円形で、深さは58cmである。

貯蔵穴土層解説

- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量   | 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子中量    |



第129図 第86号住居跡実測図

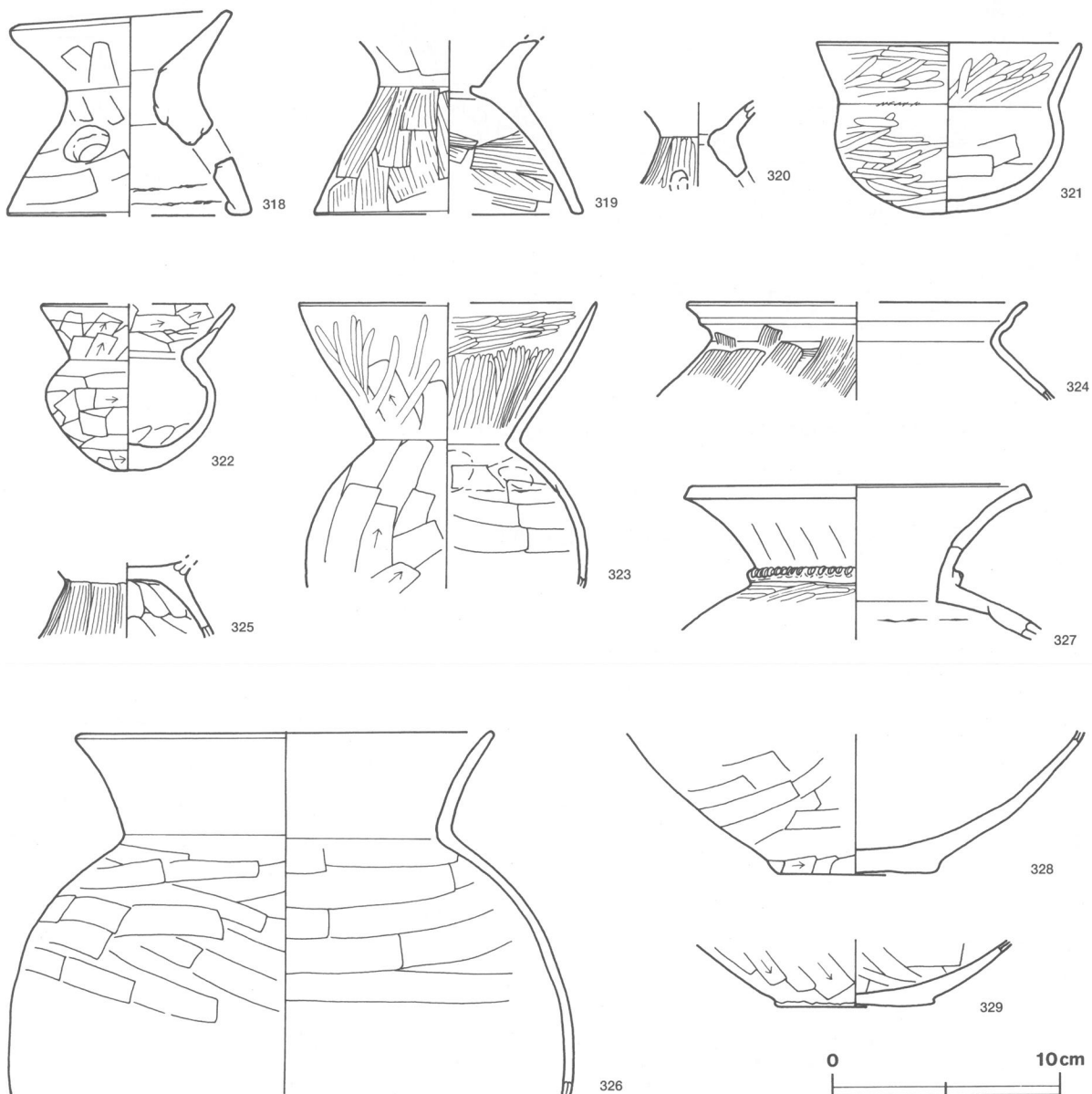
**覆土** 8層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

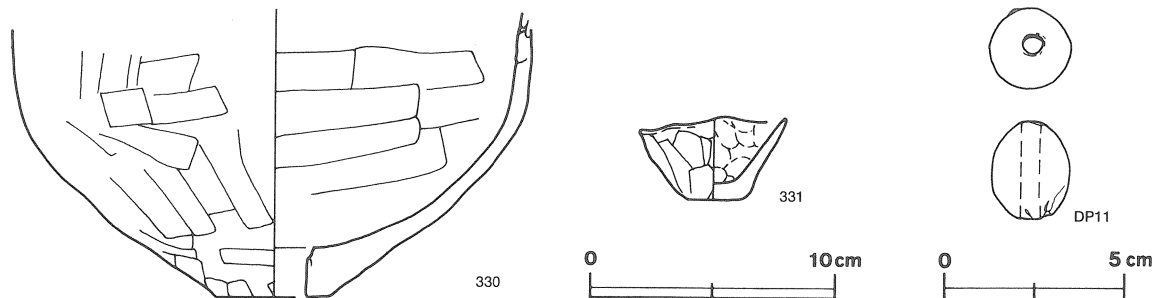
- |       |                       |       |                        |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量   | 5 黒色  | 炭化材多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒色  | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量   | 7 褐色  | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量   | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量         |

**遺物出土状況** 土師器片484点，管状土錘1点，炉石1点，礫12点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片2点，須恵器片3点が出土している。遺物の大半は炉跡の周辺や貯蔵穴内，東コーナー部から出土している。

**所見** 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から4世紀後半と考えられる。



第130図 第86号住居跡出土遺物実測図（1）



第131図 第86号住居跡出土遺物実測図（2）

第86号住居跡出土遺物観察表（第130・131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
318	土師器	器台	9.2	9.0	[10.7]	石英・長石・雲母・ 礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	器受部及び脚部外面ヘラナデ 脚部側面3孔	北東部床面	40% PL27
319	土師器	器台	—	(7.6)	[11.8]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	器受部外面ヘラナデ 脚部内・外面ハケ目調整	南部床面	15%
320	土師器	器台	—	(3.8)	—	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ磨き 脚部側面3孔	西部床面	15%
321	土師器	埴	11.6	7.5	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面及び体部外面ヘラ磨き	西コーナー部 覆土下層	95% PL28
322	土師器	埴	[8.4]	7.3	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面及び体部外面ヘラ削り、体部内面 下端指ナデ	北東壁際床面	90% PL28
323	土師器	埴	[13.0]	(12.5)	—	石英・長石・ 雲母・礫	にぶい橙	普通	口縁部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土中	20%
324	土師器	台付甕	[15.3]	(4.2)	—	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	頭部及び体部外面ハケ目調整 S字状口縁 内・外面赤彩	北西部覆土中	10%
325	土師器	台付甕	—	(3.4)	—	石英・長石・雲母	橙色	普通	台部外面ハケ目調整、内面指ナデ	西コーナー部床面	5%
326	土師器	甕	18.2	(16.0)	—	石英・長石・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北西部床面	40%
327	土師器	壺	14.8	(6.8)	—	長石・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外面ヘラナデ、体部外面ヘラ磨き 頭部キ ザミ目の粘土紐貼り付け	北西部床面	20% PL27
328	土師器	甕	—	(6.3)	7.0	石英・長石・礫	橙	普通	体部外面ヘラナデ、下端ヘラ削り	北部床面	10%
329	土師器	甕	—	(2.9)	6.6	石英・長石	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	東部覆土上層	5%
330	土師器	甕	—	(11.7)	[4.7]	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面ハケ目調整後ヘラ削り、内面ヘラナデ	東部床面	10%
331	土師器	手捏	6.0	3.4	2.2	石英・長石	橙	普通	体部外面指ナデ、内面指頭による押圧	北東部床面	90%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	土錘	2.6	0.5	2.2	11.4	土	外面ナデ	東コーナー部床面	PL30
Q43	炉石	20.3	6.9	4.1	797.8	砂岩	全面被熱 煤付着	炉跡底面	未掲載

第87号住居跡（第132図）

位置 調査区の西部，E2B6区。標高43.5mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.14m，短軸5.17mの長方形である。壁は高さ22～36cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-19°-Wである。

床 ほぼ平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

炉 中央部やや北寄りに設けられている。長径101cm，短径50cmの楕円形で，床面を3cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いため，長期間の使用と考えられる。

炉土層解説

- 1 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が55～83cm，P5が22cmである。

P1 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量

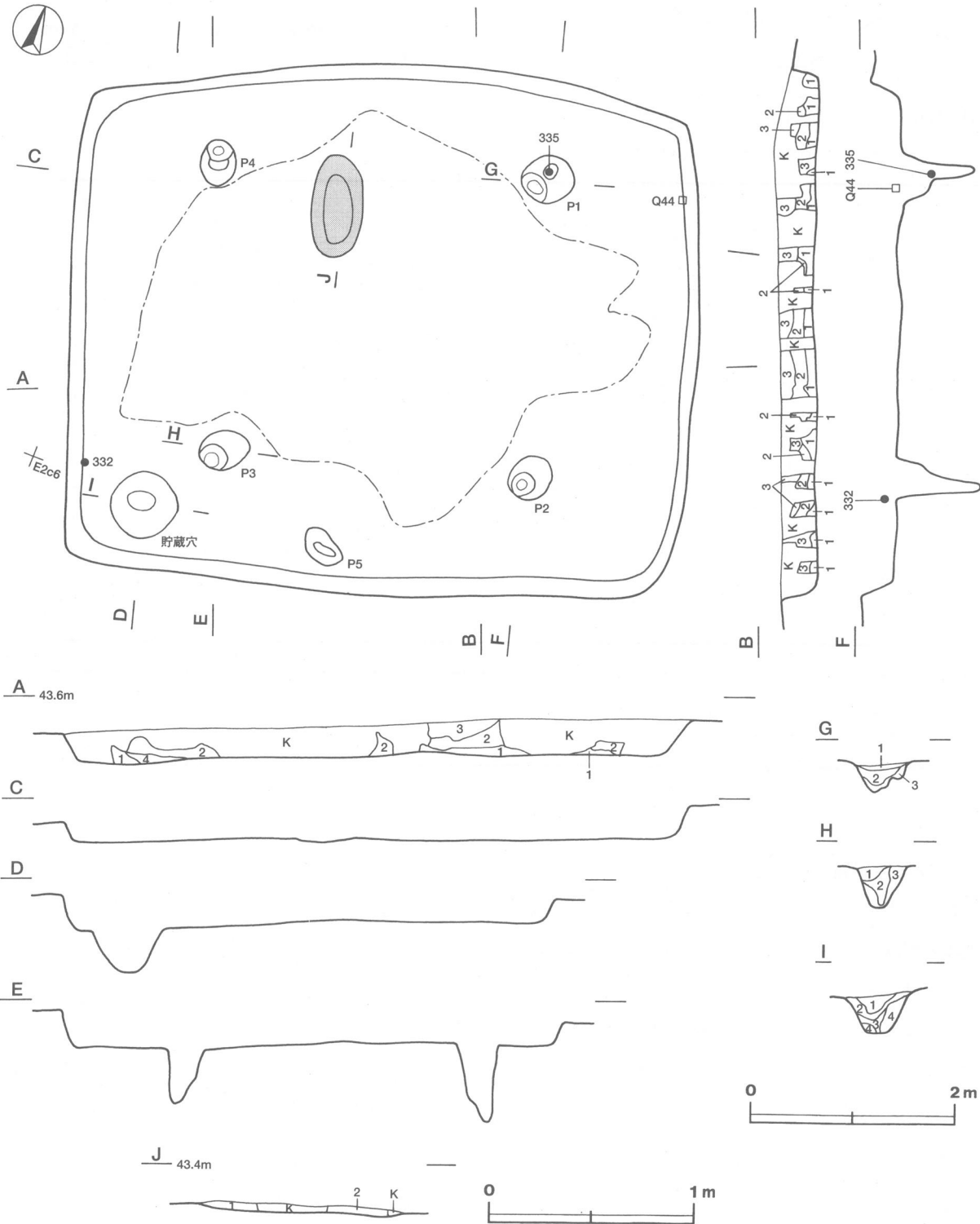
- 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

P3 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量

- 3 極暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック微量

- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量



第132図 第87号住居跡実測図



**貯蔵穴** 南西コーナー部に付設されている。長径68cm，短径64cmの円形で，深さは43cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量，粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

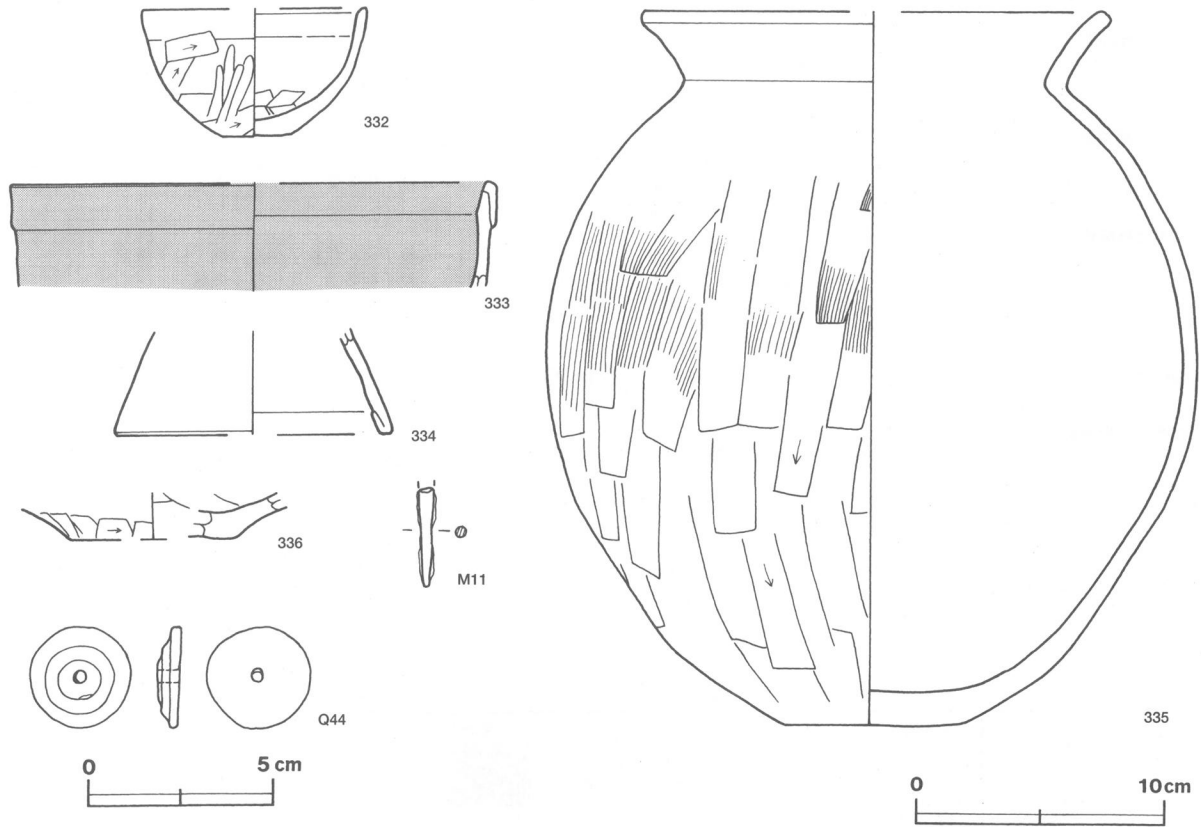
**覆土** 4層からなる。トレンチャーによる攪乱は見られるが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒色 炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片348点，石製模造品1点，礫10点，鉄鏃1点のほか，攪乱等により混入したとみられる弥生土器片3点，須恵器片7点が出土している。遺物は北側と貯蔵穴から出土している。335の土師器甕はP1内から出土している。

**所見** 時期は，出土土器等から4世紀代と考えられる。



第133図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土師器	椀	[9.2]	5.1	2.8	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南コーナー部 覆土中層	40%
333	土師器	鉢	[19.6]	(4.3)	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内・外面赤彩	南西部覆土中	5%
334	土師器	台付甕	-	4.7	[11.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	台部内・外面ナデ	南西部覆土中	5%
335	土師器	甕	[18.8]	29.0	7.0	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ハケ目整形	P1覆土中	80% PL27
336	土師器	甕	-	(1.9)	[6.4]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	南西部覆土中	5%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q44	単孔円板	2.7	0.4	0.6	7.8	滑石	全面丁寧に研磨	北東壁際覆土中層	PL30
M11	鐵	(4.0)	0.7	0.5	(3.3)	鐵	柄部片(匏部から基部にかけての破片)関部不明	北西部覆土中	

### 第88号住居跡 (第135図)

**位置** 調査区の西部, E2b9区。標高43.6mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.82m, 短軸5.75mの方形である。壁は高さ5~23cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-51°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。中央部, 北部, 西部や南東壁際中央部に硬化面が見られる。

**炉** 確認されなかった。

**ピット** 5か所。P1~4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1~4が63~68cm, P5が26cmである。

#### P1土層解説

- |                               |                      |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック微量       | 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量   |
| 3 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック微量       |                      |

#### P3土層解説

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 4 明褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 明褐色 ローム粒子極多量, 炭化粒子微量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |                         |

#### P4土層解説

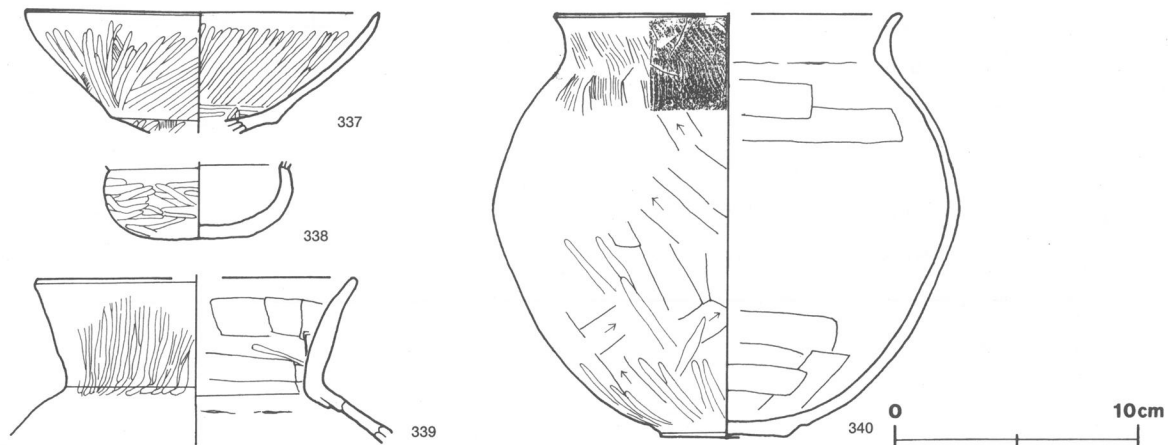
- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量    | 5 明褐色 ローム粒子極多量, 炭化粒子微量    |
| 3 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量     |

**貯蔵穴** 南コーナー部に付設されている。長径82cm, 短径46cmの楕円形で, 深さは40cmである。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量  | 5 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 2 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量   | 7 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 4 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量   |                                |

**覆土** 6層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。



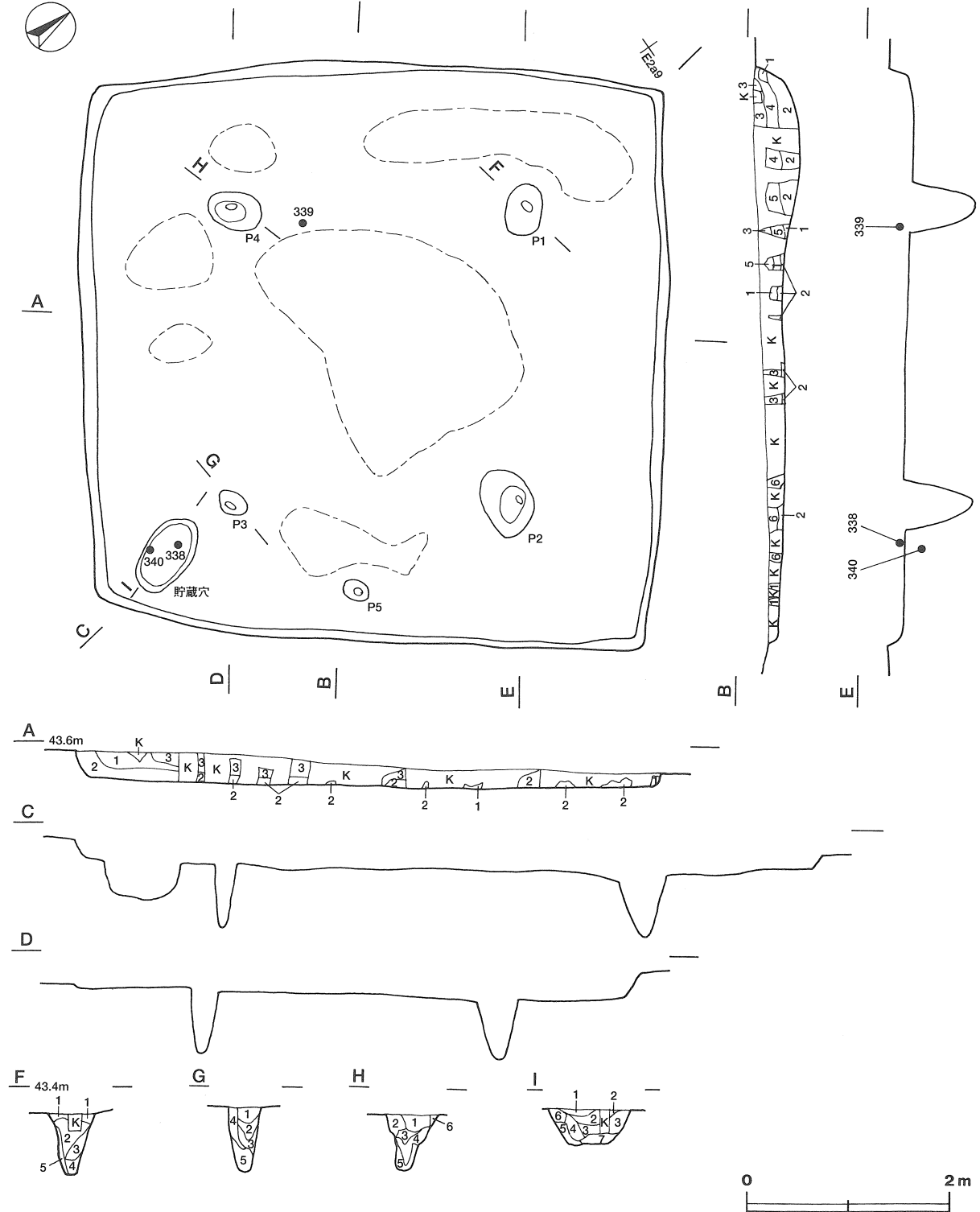
第134図 第88号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- |       |                        |       |                         |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 黒色  | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量   | 5 黒色  | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量  |

遺物出土状況 土師器片171点, 礫4点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点, 須恵器片2点が出土している。遺物は貯蔵穴やその周辺から出土している。

所見 時期は, 出土土器等から4世紀代と考えられる。



第135図 第88号住居跡出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
337	土師器	高坏	14.6	(5.0)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	坏部外面ハケ目調整後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土下層	50%
338	土師器	埴	—	(3.2)	3.0	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土上層	50%
339	土師器	壺	[13.1]	(6.8)	—	石英・長石・雲母・スコリア・礫・小石	にぶい褐	普通	口縁部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ	北西部覆土下層	10%
340	土師器	甕	[14.2]	17.4	5.2	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面ハケ目調整 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	貯蔵穴覆土中層	45%

第89号住居跡（第136・137図）

**位置** 調査区の西部，E2d8区。標高43.5mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸7.07m，短軸6.82mの方形である。壁は高さ37～52cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-16°-Wである。

**床** 平坦である。炉跡を囲むように広い範囲で硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅14～20cm，下幅5～10cm，深さ4～8cmで，断面形はU字状である。溝の中に径が12～32cmの円形や楕円形をし，深さ5～14cmほどの小ピット群が74か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。西壁からは小ピット群は確認されなかった。炭化材が床面から少量ではあるが確認されている。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径128cm，短径61cmの楕円形で，床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床中央部に長さ22cmほどの炉石を持っている。

**炉土層解説**

- |        |                         |       |                       |
|--------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   | 4 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量   | 5 褐色  | ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量 |       |                       |

**ピット** 79か所（その中の74か所は床面の項で述べた壁際のピット群）。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南壁際のやや西寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が54～73cm，P5が56cmである。

**P1土層解説**

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック微量 | 4 褐色  | 炭化粒子中量，ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | 炭化粒子中量，ロームブロック少量      | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量     |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック微量      | 6 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量     |

**P2土層解説**

- |       |                  |       |                       |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック少量 | 3 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量        |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 |

**P3土層解説**

- |       |                           |         |                  |
|-------|---------------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 4 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量     | 5 暗褐色   | 炭化粒子中量，ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量   | 6 にぶい褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子少量   |

**P5土層解説**

- |        |                     |      |                |
|--------|---------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量 |      |                |

**貯蔵穴** 南西コーナー部に付設されている。長径66cm，短径61cmの円形で，深さは65cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |        |                       |        |                         |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化材微量    | 4 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | 炭化材少量，ローム粒子・焼土ブロック微量  | 5 褐色   | ローム粒子多量，炭化粒少量           |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子少量 |        |                         |

**覆土** 9層からなる。トレンチャーによる攪乱が見られるが，ブロック状の堆積状況を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                       |       |                         |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 3 黒色  | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量   | 4 黒褐色 | 炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

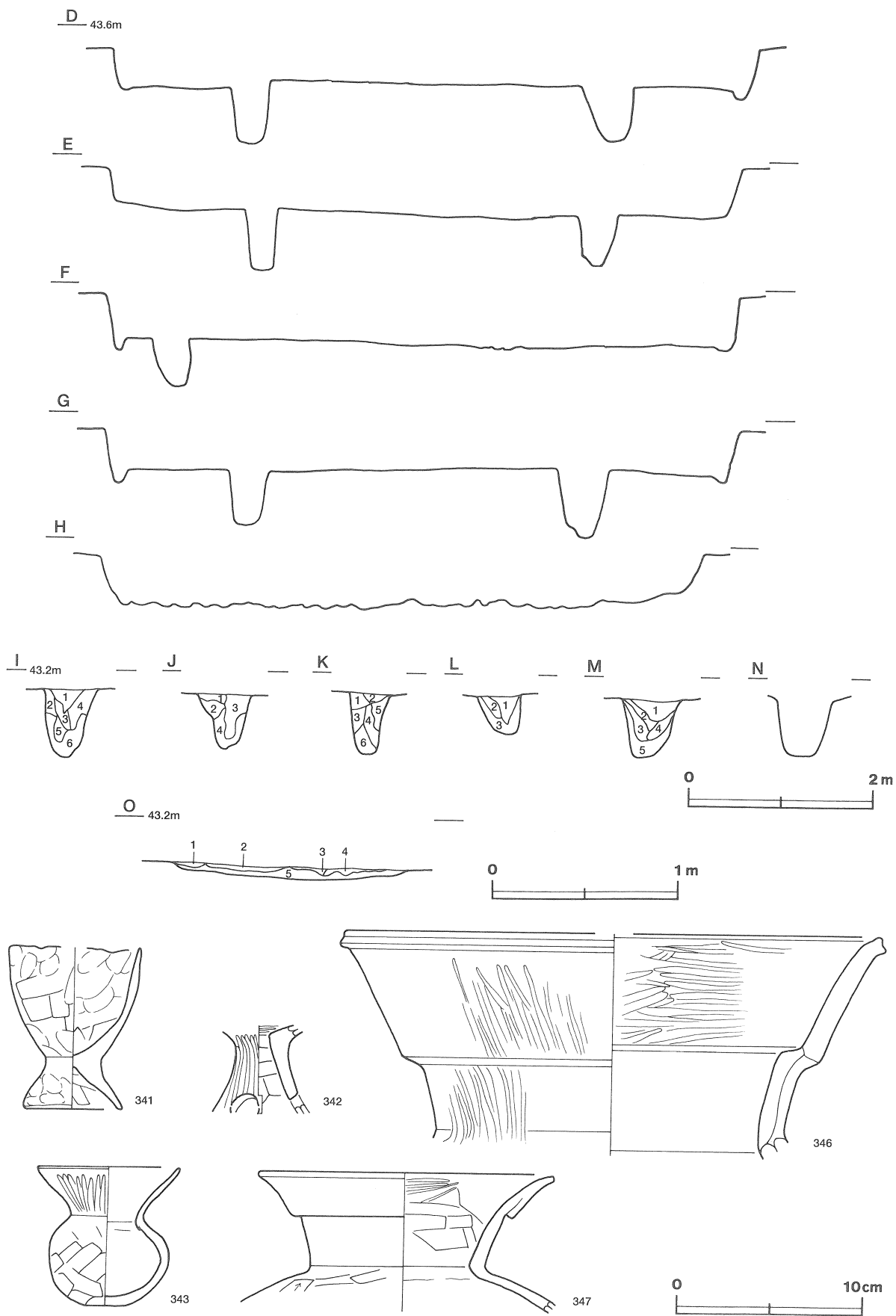
- |                             |                                |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 5 黒色 焼土粒子多量, ロームブロック・炭化材少量  | 8 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 黒褐色 炭化材少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量   |
| 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量   |                                |

**遺物出土状況** 土師器片1204点, 炉石1点, 瑪瑙製石製品1点, 不明石製品1点, 礫21点のほか, 攪乱等により混入したとみられる弥生土器片9点, 須恵器片10点, 陶器片1点が出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて投棄されたような状況で出土している。

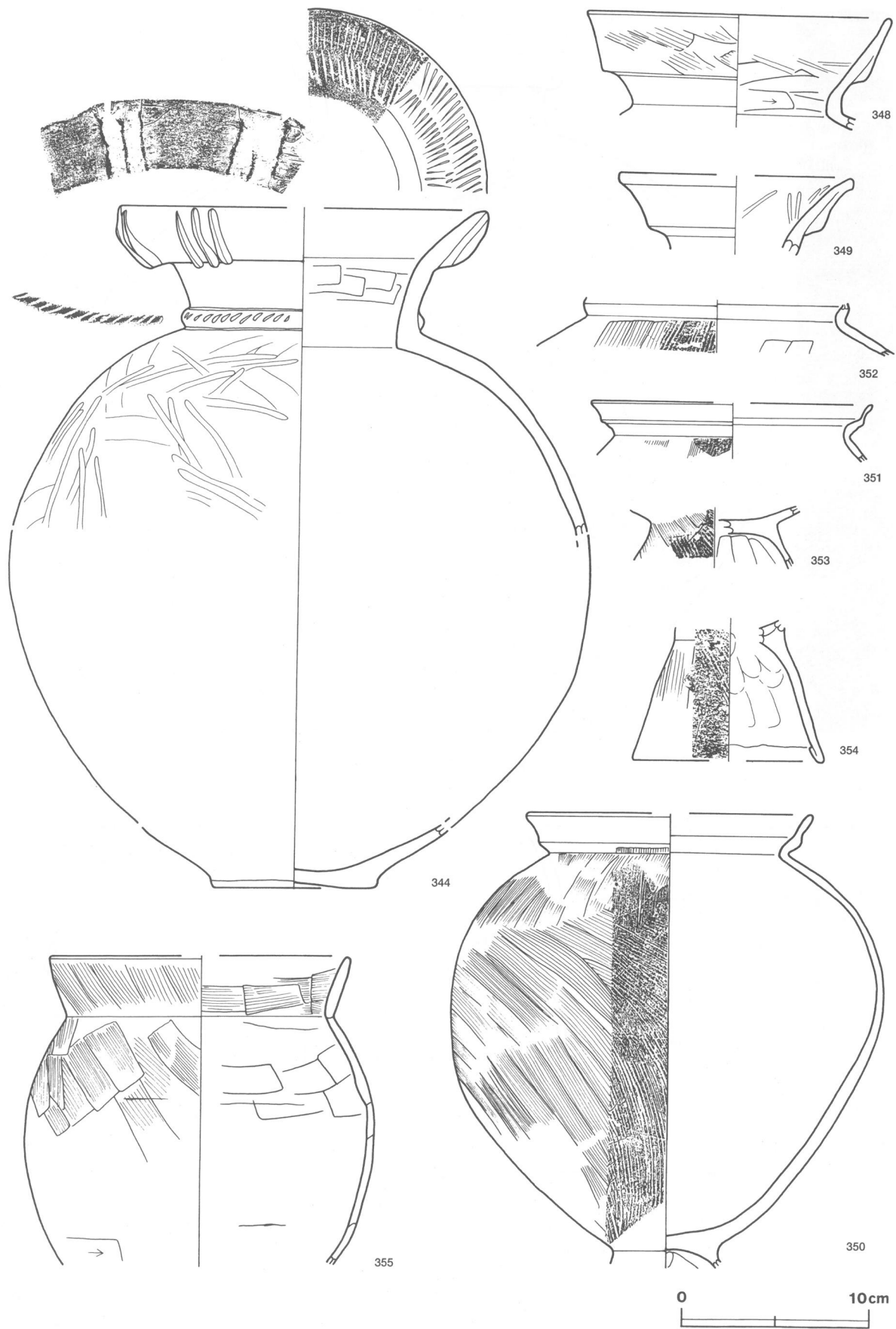
**所見** 覆土下層に多量の焼土粒子が含まれていることや, 炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器等から4世紀前半と考えられる。



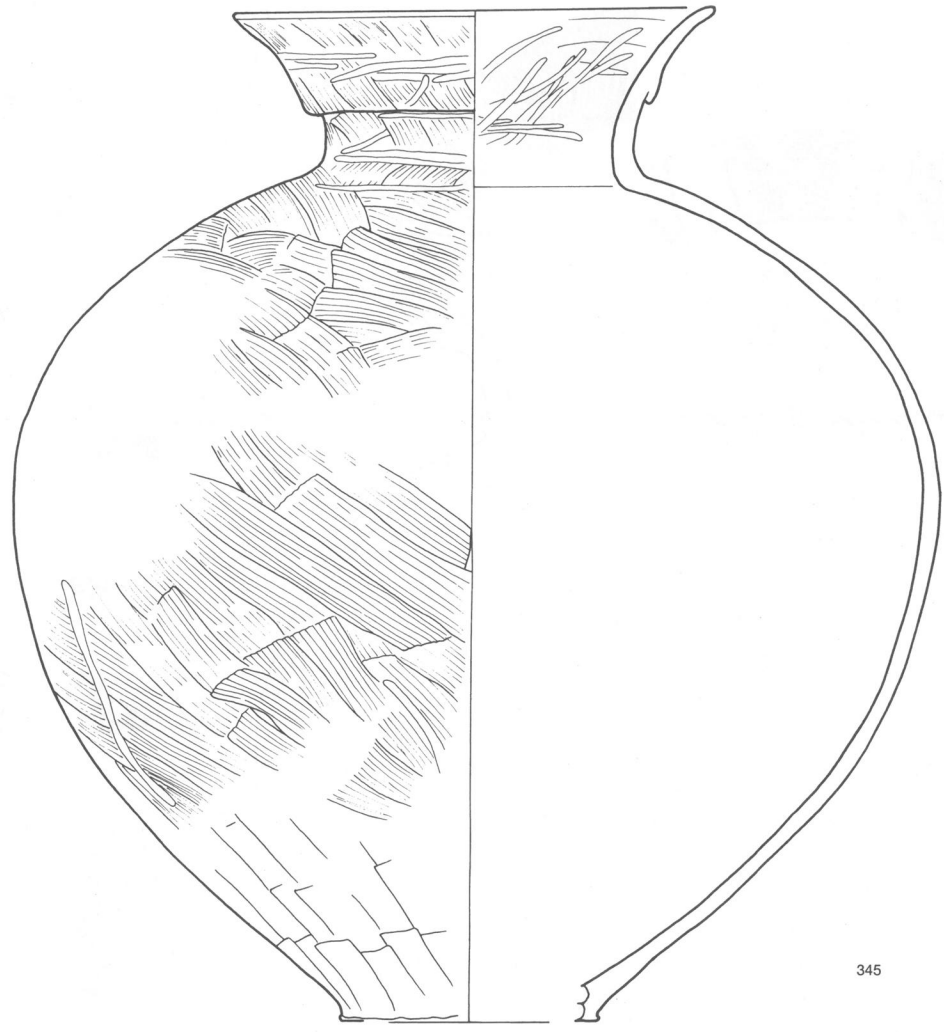
第136図 第89号住居跡実測図



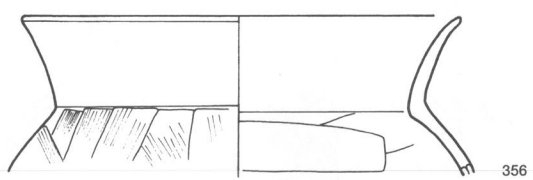
第137图 第89号住居跡・出土遺物実測図



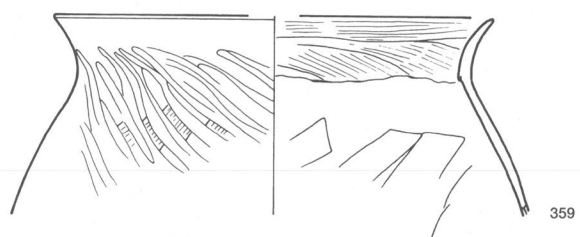
第138図 第89号住居跡出土遺物実測図 (1)



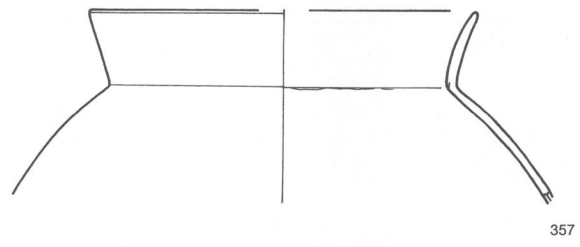
345



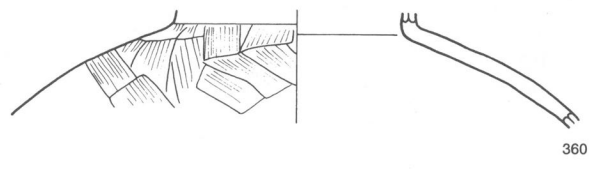
356



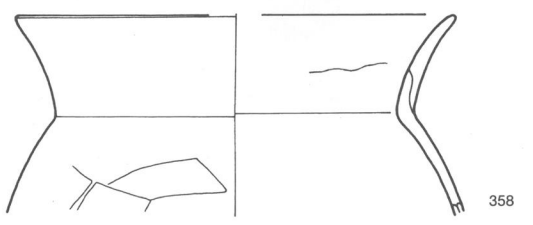
359



357



360



358

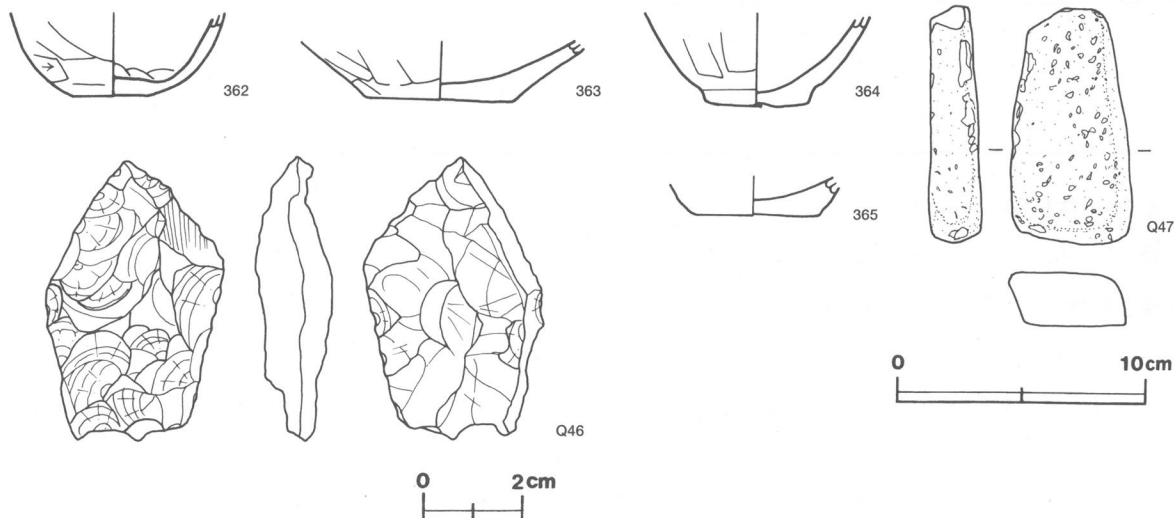


361



第139图 第89号住居跡出土遺物実測図 (2)





第140図 第89号住居跡出土遺物実測図(3)

第89号住居跡出土遺物観察表(第137~140図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	土師器	台付椀	[6.8]	8.7	[5.0]	石英・長石・雲母・ 礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部から台部外面指頭による押圧	南西部床面	40% PL28
342	土師器	器台	-	(4.8)	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	器受部外面ヘラナデ 脚部外面ヘラ磨き 脚部 側面3孔	南東部覆土中層	15%
343	土師器	埴	7.4	7.4	2.2	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面ヘラ磨き 体部外面ヘラナデ	南東部床面	15% PL28
344	土師器	壺	[19.2]	36.0	8.5	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面棒状貼文, 内面キザミ目施文, 頸部外面隆帯 貼り付後キザミ目, 内面ヘラナデ 体部外面ヘラミガキ	北東部覆土中層	80% PL28
345	土師器	壺	19.1	40.3	[10.4]	石英・長石・礫	にぶい橙	普通	口縁・体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 口縁部内面ヘラ磨き 体部外面下端ヘラ削り	北東部覆土下層	40% PL28
346	土師器	壺	[28.4]	(11.8)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面及び頸部外面ヘラ磨き	北東部覆土中層	5%
347	土師器	壺	15.9	(7.5)	-	石英・長石・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内面ヘラ削り後ヘラ磨き 体部外面ヘラ 削り	中央部床面	10% PL28
348	土師器	壺	16.0	(6.1)	-	長石・雲母・礫	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整, 内面ヘラ削り後ヘラ磨 き・横ナデ	南東部覆土下層	10%
349	土師器	壺	[12.4]	(4.2)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き	西部床面	5%
350	土師器	台付甕	[14.8]	(24.0)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ハケ目調整 台部内面ヘラナデ S字状口縁	中央部床面	30% PL28
351	土師器	台付甕	[15.0]	(3.0)	-	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 S字状口縁	中央部床面	5%
352	土師器	台付甕	-	(2.8)	-	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整, 内面ヘラナデ S字状口縁	中央部覆土下層	5%
353	土師器	台付甕	-	(3.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	台部外面ハケ目調整, 内面指ナデ	南東部覆土中層	5%
354	土師器	台付甕	-	(7.6)	[10.2]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	台部外面ハケ目調整, 内面指ナデ	東部覆土下層	5%
355	土師器	甕	[16.0]	(16.5)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面及び体部外面ハケ目調整 体部 外面下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ	中央部床面	10%
356	土師器	甕	17.5	(6.4)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面弱いハケ目調整, 内面ヘラナデ	南東部床面	5%
357	土師器	甕	[15.5]	(7.8)	-	石英・長石・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面摩滅	北東部覆土下層	5%
358	土師器	甕	[22.6]	(8.0)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ	北東部覆土下層	5%
359	土師器	甕	[17.6]	(8.0)	-	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内面ハケ目調整 体部外面ハケ目調整後 ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	北東部覆土下層	5%
360	土師器	壺	-	(4.6)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整	南東部床面	5%
361	土師器	甕	-	(3.9)	[6.9]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 下端ヘラ削り, 内面ヘラナデ	北東部床面	5%
362	土師器	小形甕	-	(3.4)	3.1	長石・雲母	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	南東部覆土中層	5%
363	土師器	甕	-	(2.6)	6.0	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ	中央部床面	5%
364	土師器	小形甕	-	(3.7)	4.3	長石・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラナデ	北東部床面	5%
365	土師器	小形甕	-	(1.6)	5.1	長石・雲母・礫	にぶい褐	普通	体部外面摩滅, 内面ヘラナデ	北東部覆土下層	5%

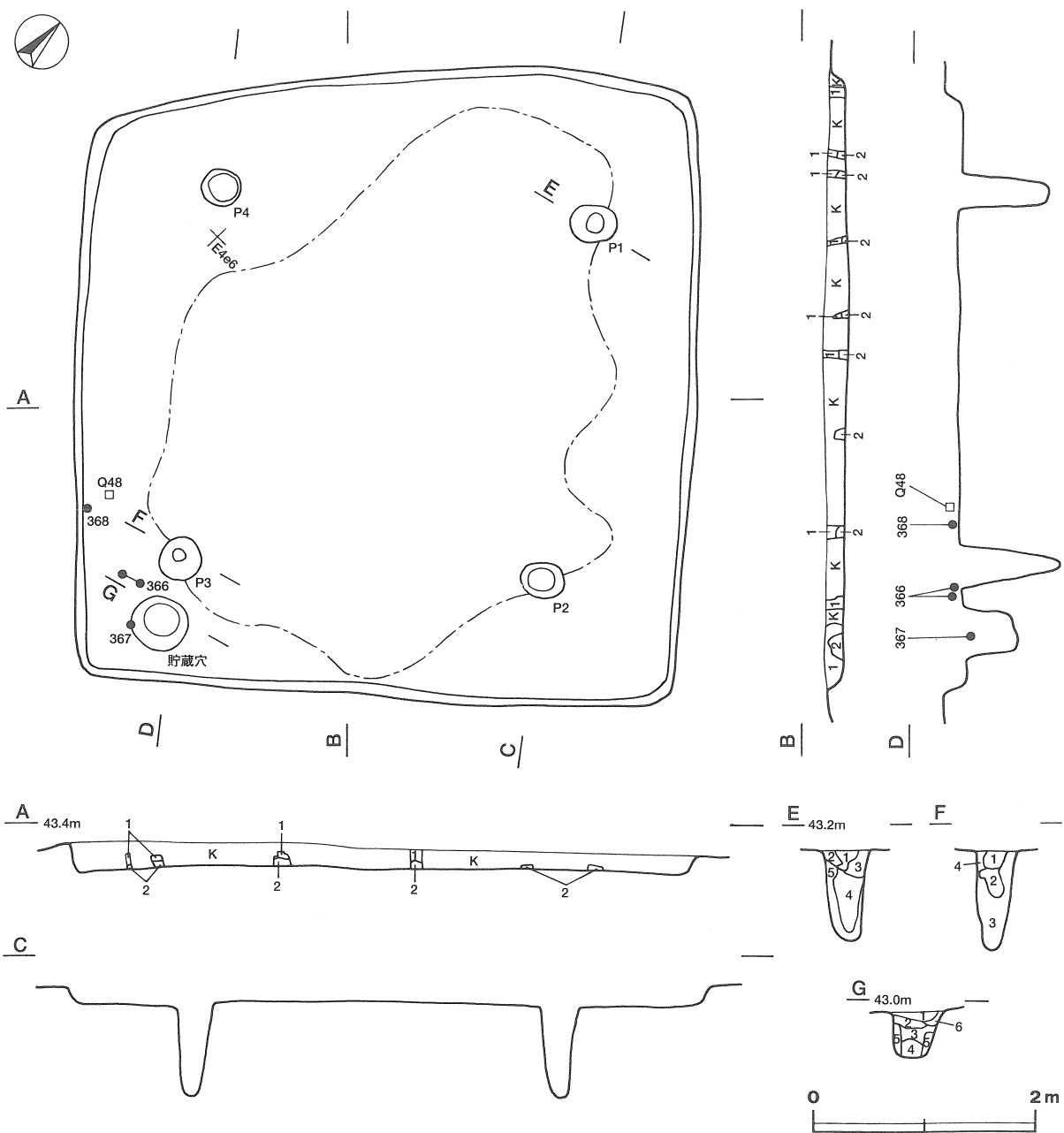
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	炉石	22.3	9.9	6.7	1958.7	砂岩	全面被熱 煤付着	炉跡覆土中	未掲載
Q46	剥片	5.7	3.6	1.6	26.7	チャート	多方面から打撃を加えられた剥片	中央部床面	
Q47	不明	(9.6)	5.0	2.1	(160.5)	粘板岩	表面に擦痕あり	南東部覆土中	

第90号住居跡 (第141図)

位置 調査区の中央部, E4d6区。標高43.2mの平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.80m, 短軸5.65mの方形である。壁は高さ15~21cmで, 外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-46°-Wである。

床 ほぼ平坦である。中央部を中心に硬化面が見られる。



第141図 第90号住居跡実測図

炉 確認されなかった。

ピット 4か所。P1～4は配置と規模から支柱穴と考えられる。深さは82～93cmである。

**P1土層解説**

- |                                |                         |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量  | 4 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量        | 5 灰褐色 ロームブロック・炭化粒子少量    |
| 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |                         |

**P3土層解説**

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子極多量, 焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 2 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。径が52cmほどの円形で、深さは49cmである。

**貯蔵穴土層解説**

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量     | 4 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量        |
| 2 極暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量     | 6 黒色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

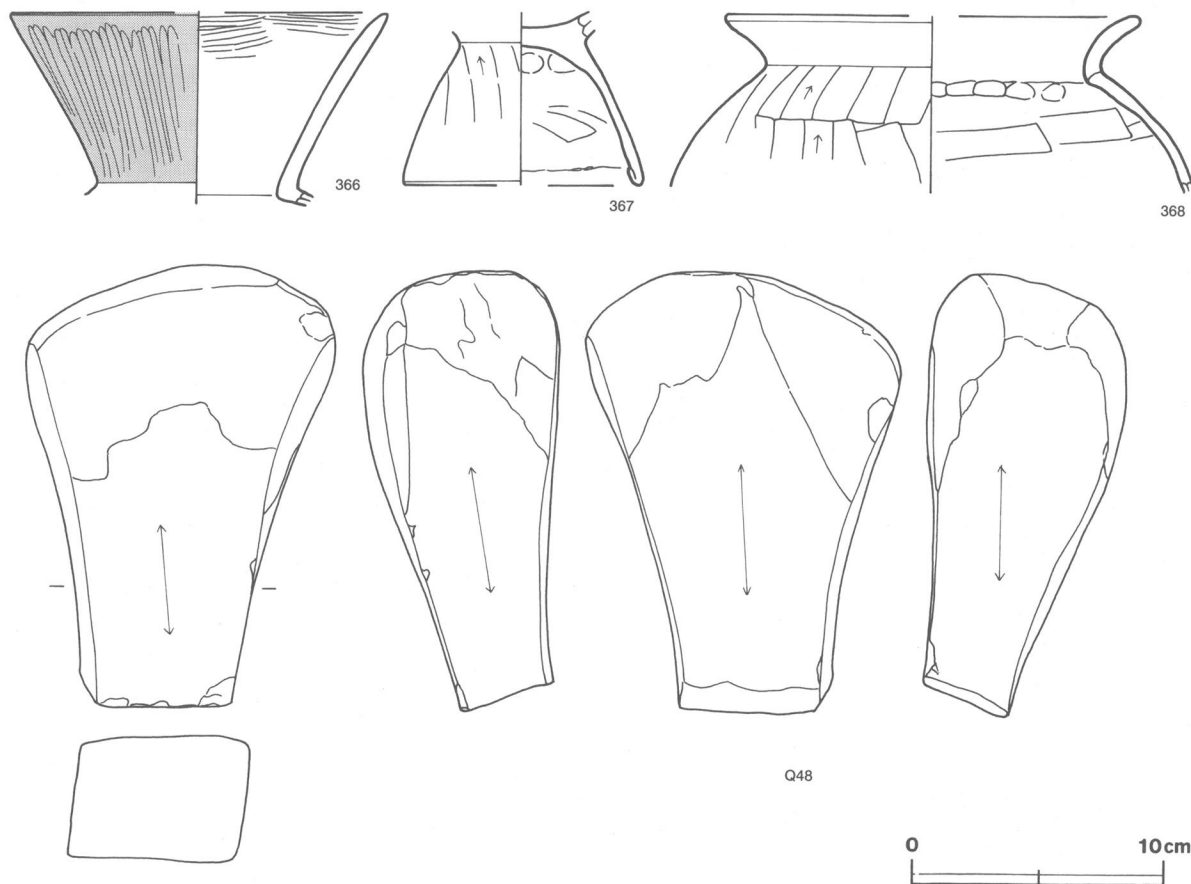
覆土 2層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1 黒色 ローム粒子微量 | 2 極暗褐色 ロームブロック少量 |
|--------------|------------------|

遺物出土状況 土師器片211点、砥石1点のほか、攪乱により混入したとみられる須恵器片2点が出土している。遺物は貯蔵穴周辺と北コーナー部から集中して出土している。

所見 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第142図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表 (第142図)

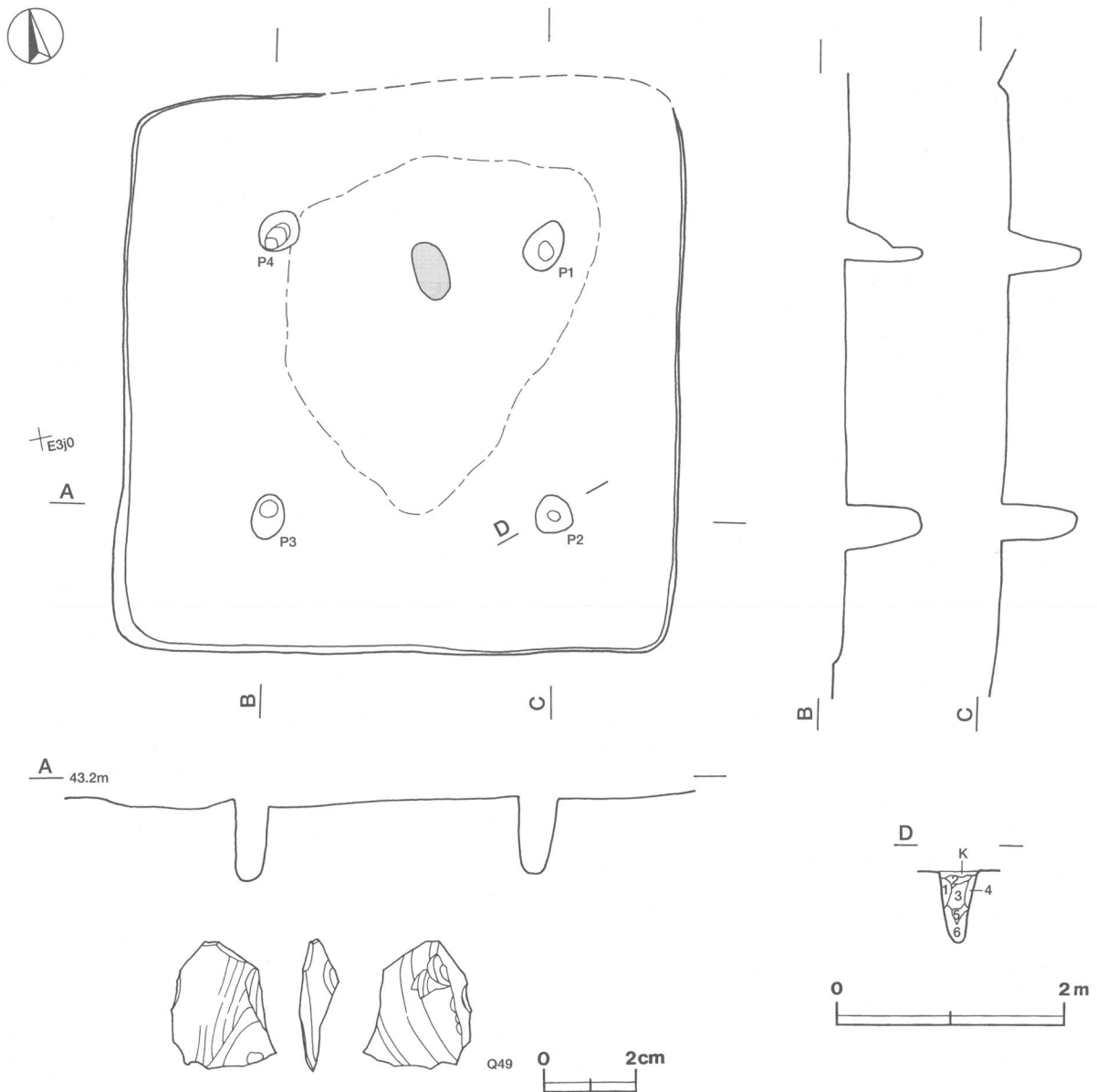
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	土師器	埴	[14.9]	(7.8)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面へラ磨き 外面赤彩	貯蔵穴西側床面	5%
367	土師器	台付甕	-	(6.9)	[9.4]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	台部外面へラ削り, 内面上位指頭による押圧, 下位へラナデ	貯蔵穴覆土上層	5%
368	土師器	甕	[16.5]	(7.1)	-	石英・長石・雲母	黒褐	普通	頸部内面指頭による押圧。体部外面へラ削り, 内面へラナデ	南西壁際床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q48	砥石	17.9	12.5	7.8	1943.3	砂岩	砥面4面	南西部床面	PL30

第91号住居跡 (第143図)

位置 調査区の中央部, F3i0区。標高43.5mの平坦部に位置している。

規模と形状 壁はほとんど削平されているが, 長軸4.95m, 短軸4.90mの方形と推定される。主軸方向はN-12°-Wである。



第143図 第91号住居跡・出土遺物実測図

**床** 平坦である。炉跡を囲むように硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径52cm, 短径30cmの楕円形をした地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化しているが、床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので、短期間の使用と考えられる。

**ピット** 4か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは64～68cmである。

**P2土層解説**

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量      | 4 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量         | 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量   |

**覆土** 壁が削平されていて、堆積状況は不明である。

**遺物出土状況** 土師器細片61点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片1点、須恵器片1点、剥片1点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器等から4世紀代と考えられる。

**第91号住居跡出土遺物観察表 (第143図)**

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	剥片	2.8	2.3	0.8	3.5	チャート	礫面が残る剥片	北西部覆土中	

**第92号住居跡 (第144・145図)**

**位置** 調査区の中央部, E3j7区。標高43.1mの平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸7.75m, 短軸7.74mの方形である。壁は高さ10～12cmで、外傾して立ち上がっている。主軸方向はN-26°-Wである。

**床** ほぼ平坦である。炉跡を囲むように広い範囲で硬化面が見られる。

**炉** 中央部やや北西寄りに設けられている。長径140cm, 短径71cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱を受け、赤変硬化している。硬化の度合いが強いため、長期間の使用と考えられる。

**炉土層解説**

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量 |
|----------------------------|------------------------------|

**ピット** 5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部やや南寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が89～101cm, P5が43cmである。

**P3土層解説**

- |                                   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量   | 4 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量       |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック中量, 焼土粒子微量   | 5 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量       |

**貯蔵穴** 西コーナー部に付設されている。長径106cm, 短径89cmの楕円形で、深さは50cmである。

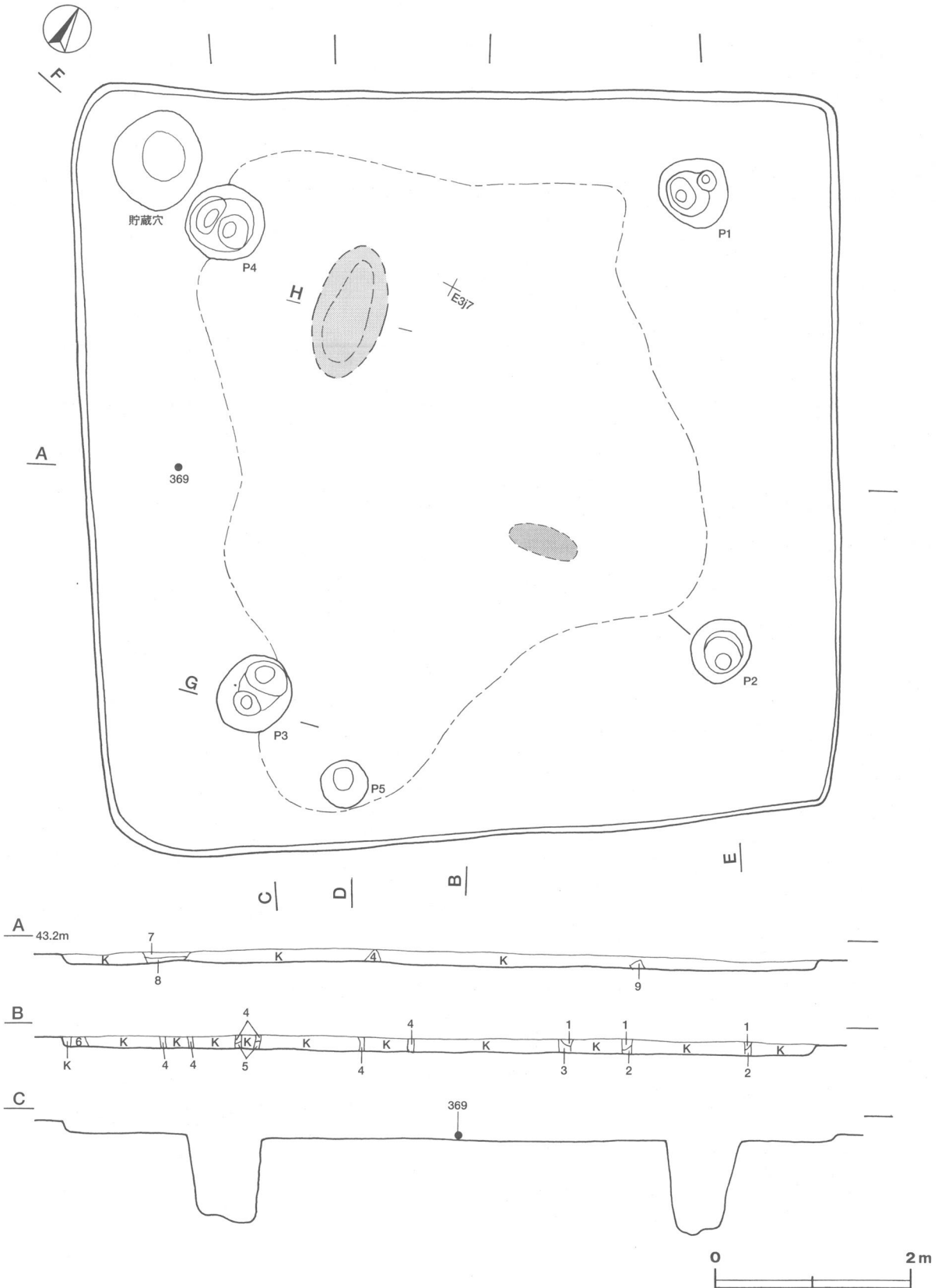
**覆土** 9層からなる。層厚が薄く、トレンチャーによる攪乱が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

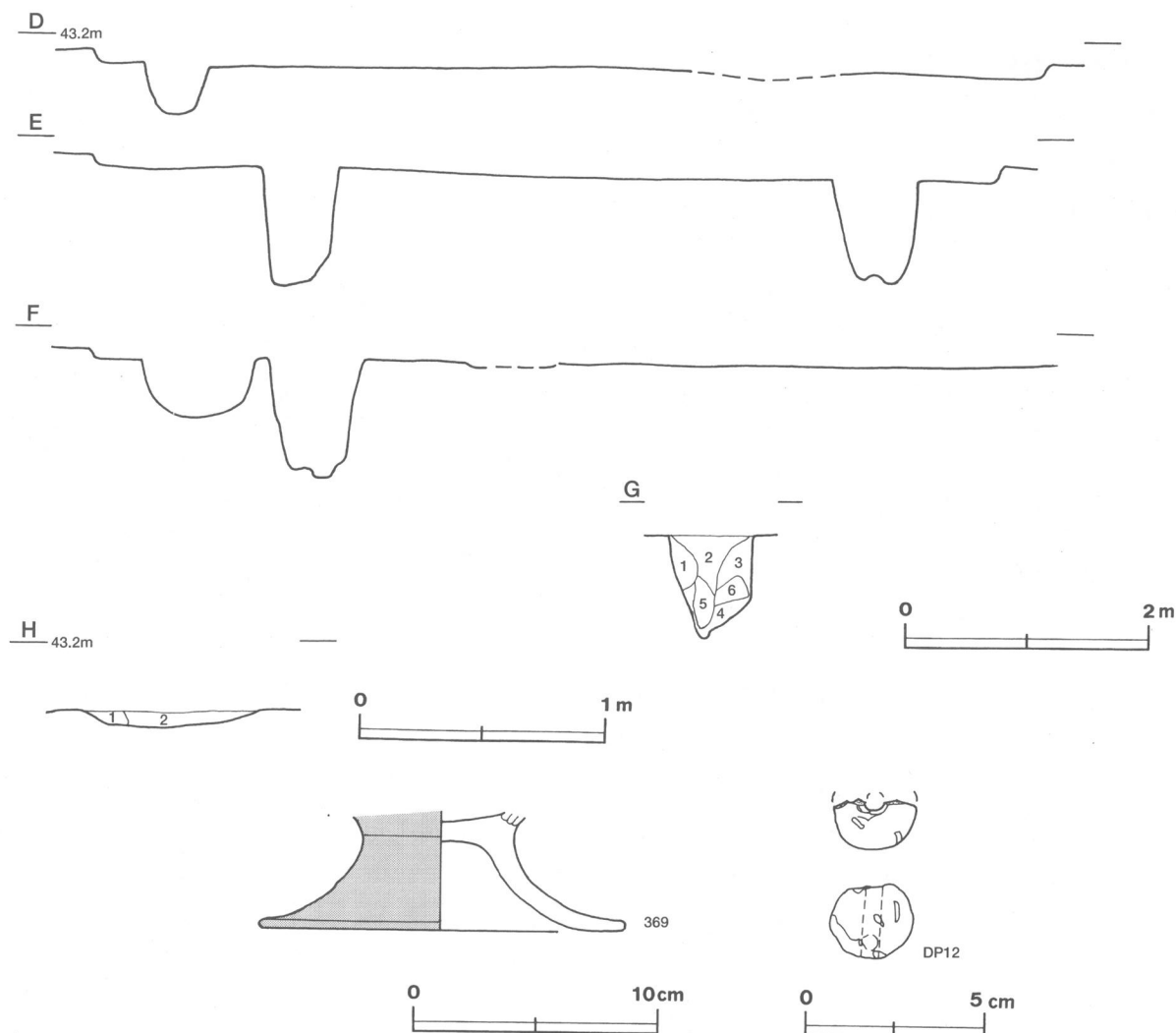
- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量    | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 8 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 9 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |                              |

遺物出土状況 土師器片265点、礫3点のほか、攪乱等により混入したとみられる弥生土器片5点、陶器片1点が出土している。遺物は炉跡の周辺と貯蔵穴から出土している。

所見 時期は、出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第144図 第92号住居跡実測図



第145図 第92号住居跡・出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
369	土師器	高坏	—	(4.9)	15.0	石英・長石・雲母・ 礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面ナデ 被熟し磨減 外面赤彩	南西部覆土下層	40%

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	土玉	2.0	0.5	2.3	(5.1)	土	外面ナデ	南西部覆土中	

#### 4 平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺構としては、竪穴住居跡を7軒確認した。遺構は調査区の南縁辺部に多く、北側では部分的に1軒確認しただけである。当期の集落は、調査区の南側にさらに広がると推測される。調査区域外の南方向には谷津頭が位置し、その谷津を挟んで向かい側（南側）には、ニガサワ古墳群が位置している。同様に当期の住居跡が確認されている。第41号住居跡は激しく削平され、竈の袖と考えられる粘土の範囲と火床部の残存部分のみの確認なので、文章での記載は省略し一覧表中にのみ記す。以下、確認された遺構の特徴と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第6号住居跡 (第146図)

位置 調査区の南東端部, F7d2区に位置している。

重複関係 東コーナーが第5号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.53m, 短軸3.32mのほぼ方形である。主軸方向はN-25°-Wである。壁高は14~20cmで外傾して立ち上がっている。

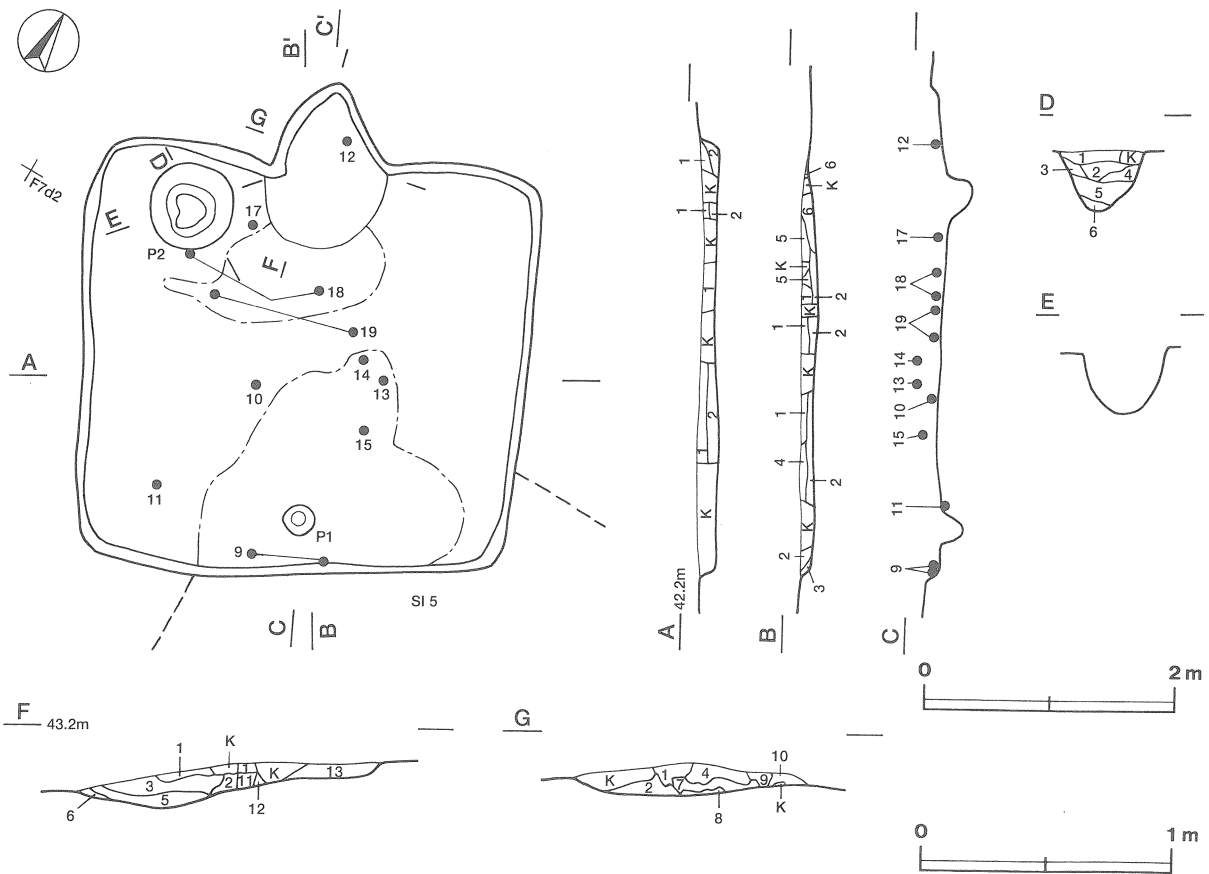
床 平坦で, 出入り口及び焚口周辺が硬化している。

竈 北壁の中央部に付設されている。天井部, 袖部は攪乱され残存しておらず, 掘り方のみの確認である。竈の土層図中第11・12層に粘土粒子が認められることから判断し, この層が袖部の残骸と思われる。

竈土層解説

- |                                  |                                 |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 赤黒色 焼土ブロック・ローム粒子微量             | 8 褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック微量          |
| 2 灰褐色 粘土ブロック・ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 9 褐灰色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 極暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・ローム粒子微量      | 10 暗褐色 ロームブロック少量,               |
| 4 灰褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量         | 11 灰褐色 焼土ブロック・粘土粒子・ローム粒子少量      |
| 5 極暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量           | 12 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子極微量          |
| 6 黒褐色 ローム粒子微量                    | 13 灰褐色 ロームブロック多量, 粘土粒子極微量       |
| 7 褐灰色 焼土ブロック・粘土粒子・ローム粒子少量        |                                 |

ピット 2か所。P1は円形で, 深さは16cmである。位置及び規模から出入り口施設のピットと思われる。P2は径62cmのほぼ円形で, 深さは56cmである。断面形は逆台形状を呈している。規模や形状及び位置から貯蔵穴として構築されたと思われる。覆土はロームブロック, 焼土ブロックを含んでおり, 人為的に埋められた可能性が高い。また, 第1層は非常に硬く締まっており, 埋めた後に貼床して踏み固められたと考えられる。



第146図 第6号住居跡実測図



P 2 土層解説

- |         |                  |         |                   |
|---------|------------------|---------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量   | 4 褐 色   | ローム粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒 色   | ロームブロック微量         |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量        | 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量           |

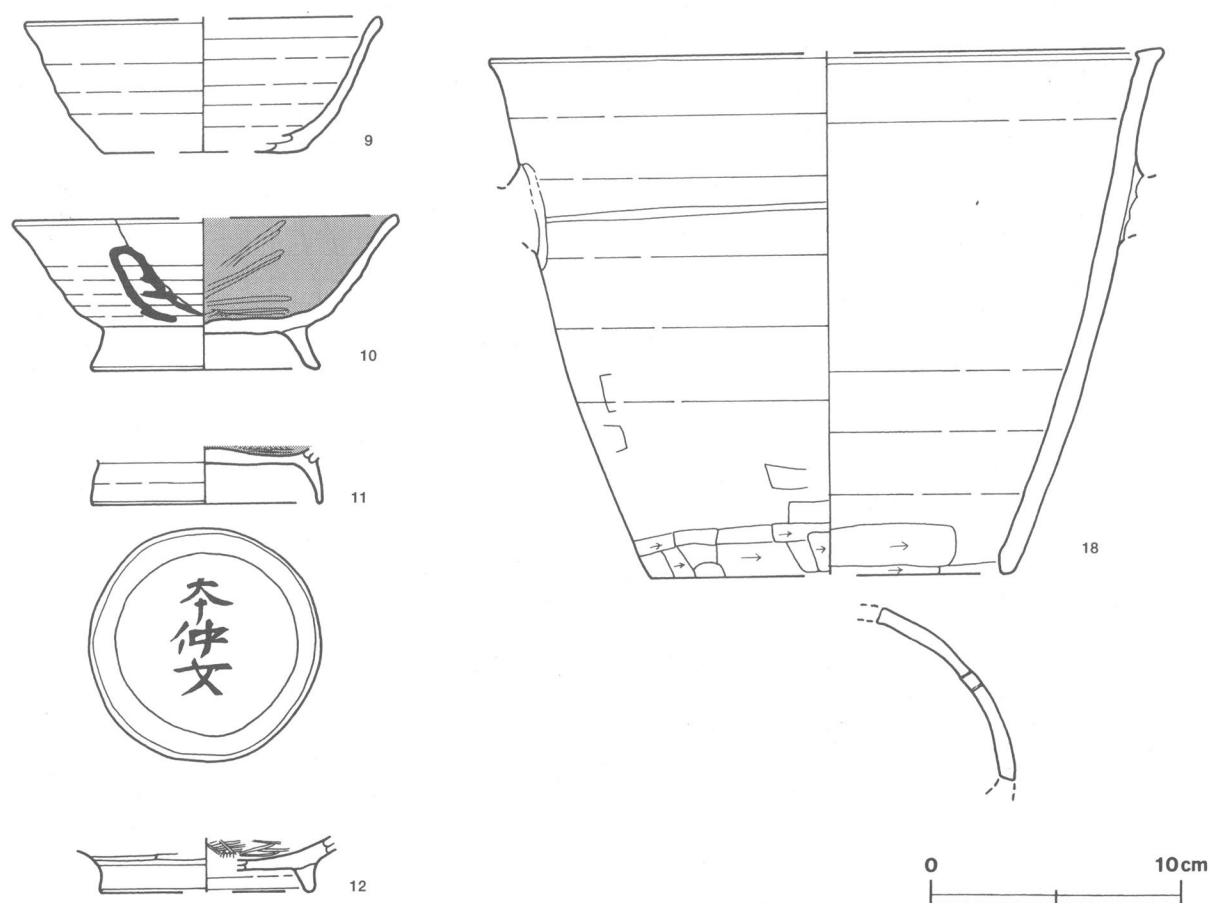
**覆土** 6層からなる。覆土の半分以上が攪乱であり、判断は困難であるが、竈の焼土粒子が北西から床面に流れ込んでいることや、より下位の層にローム土が多いことから自然堆積と考えられる。

土層解説

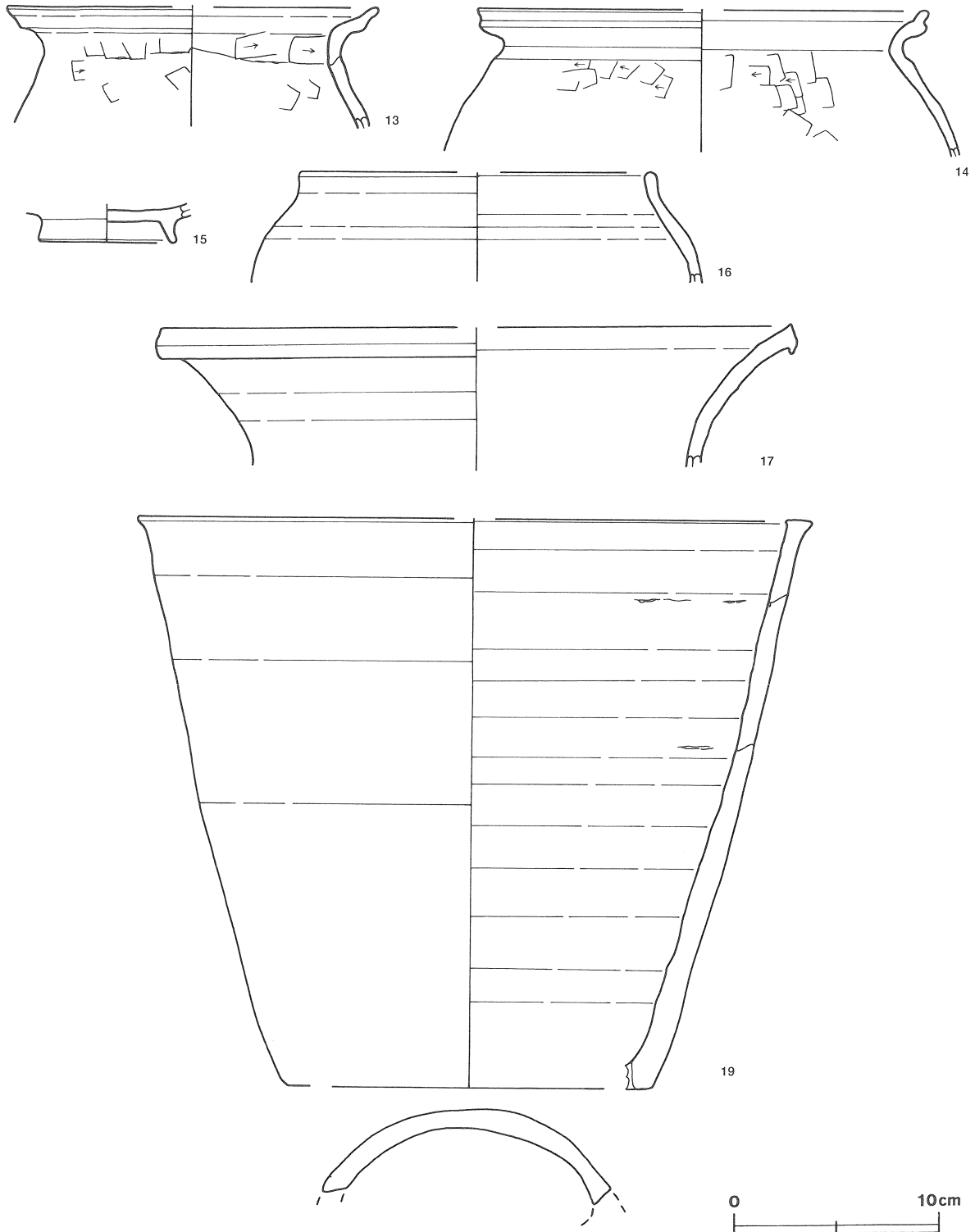
- |         |                  |         |                        |
|---------|------------------|---------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土ブロック微量   | 4 黒 色   | ロームブロック微量              |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 5 黒 褐 色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量      |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量        | 6 黒 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片105点, 須恵器片21点, 弥生土器片9点が出土している。9の土師器坏は、南東壁寄りの覆土中層から破片で出土している。10~12は土師器高台付坏で、10は中央部, 11は南コーナー部, 12は竈内のそれぞれ覆土下層から出土している。13・14の土師器甕は中央部の覆土上層から出土している。15の須恵器高台付坏は中央部の覆土上層から, 17の須恵器甕は竈左袖部付近の床面から, 18の須恵器甕は西コーナー近くの覆土下層からそれぞれ出土している。19の須恵器甕はP 2 付近の床面から破片で, 16の須恵器短頸壺は、トレンチャーの攪乱土中から出土している。

**所見** 時期は、遺構の形状や出土土器から平安時代（9世紀後半）と思われる。



第147図 第6号住居跡出土遺物実測図(1)



第148図 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

第6号住居跡出土遺物観察表(第147・148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
9	土師器	坏	[14.2]	5.3	[8.0]	石英・長石・針状鉱物	灰白	普通	口縁部・体部内外面横ナデ 底部ヘラ削り調整	覆土中層	15%
10	土師器	高台付坏	[15.2]	6.1	9.0	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り調整 内面黒色処理	覆土下層	60% 墨書 PL22

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
11	土師器	高台付坏	—	(2.3)	9.2	石英・長石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り調整 底部内面ヘラ磨き 内面黒色処理	覆土下層	30% 墨書「本分仲分」 PL22
12	土師器	高台付坏	—	(2.2)	[8.4]	石英・長石・白色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り調整 底部内面ヘラ磨き 高台貼り付け後、ナデ調整	覆土下層	30%
13	土師器	甕	[18.0]	(5.9)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	覆土上層	10% PL22
14	土師器	甕	[22.0]	(7.0)	—	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	覆土上層	5%
15	須恵器	高台付坏	—	(1.9)	6.8	石英・長石・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り調整	覆土上層	30%
16	須恵器	短頸壺	[17.4]	(5.3)	—	長石	灰	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	攪乱土中	5%
17	須恵器	甕	[30.8]	(7.0)	—	石英・長石	灰黄褐	普通	口縁部内外面横ナデ	床面	5%
18	須恵器	甌	[26.6]	21.0	[14.6]	長石・雲母	灰褐	普通	体部内外面横ナデ 体部下端面ヘラ削り調整	覆土下層	20% PL22
19	須恵器	甌	[33.0]	27.9	[17.8]	石英・長石	灰白	普通	口縁部内外面横ナデ 体部下端面ヘラ削り調整	床面	20%

### 第13号住居跡（第149図）

**位置** 調査区の南端部，G5h5区に位置している。

**重複関係** 南西コーナー部付近が，第4号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸7.0m，確認できた短軸は3.55mで長方形である。推定主軸方向はN-15°-Wである。本跡の東側半分は調査区域外に延びている。壁は高さが34cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，P1・2及び焚き口付近が硬化している。北西コーナーから西壁及び南東コーナーにかけて，断面形が逆台形状の壁溝が確認された。溝の上幅は20～24cm，下幅は10～18cm，深さは6cmである。掘り方は，壁周辺が深く掘り込まれ，暗褐色土を主として埋め戻し，さらに褐色土で平坦に調整して床面としている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。壁外に65cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。両袖部は攪乱されそのほとんどが消失している。両袖部には中に構築材として凝灰岩（通称勝見沢石）が用いられている。規模は，焚き口から煙道部まで1.45m，両袖部幅は推定で2mほどである。火床部は床面を皿状にわずかに掘り窪め，被熱し硬化している。煙道部は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |         |                         |        |                     |
|---------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗赤褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，粘土粒子微量 | 5 褐灰色  | 粘土粒子多量              |
| 3 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土粒子少量 |        |                     |

**ピット** 2か所。P1・2は円形，深さは58～69cmで，どちらもコーナー寄りに位置している。規模や配置から判断し，支柱穴と考えられる。どちらの底面も硬く締まっている。

**覆土** 4層からなる。覆土の大半が攪乱されているが，わずかな残存部でレンズ状堆積が認められる。また，下位の層は，ローム粒子及びブロックが上位の層よりも多く確認できることから，自然堆積と考えられる。

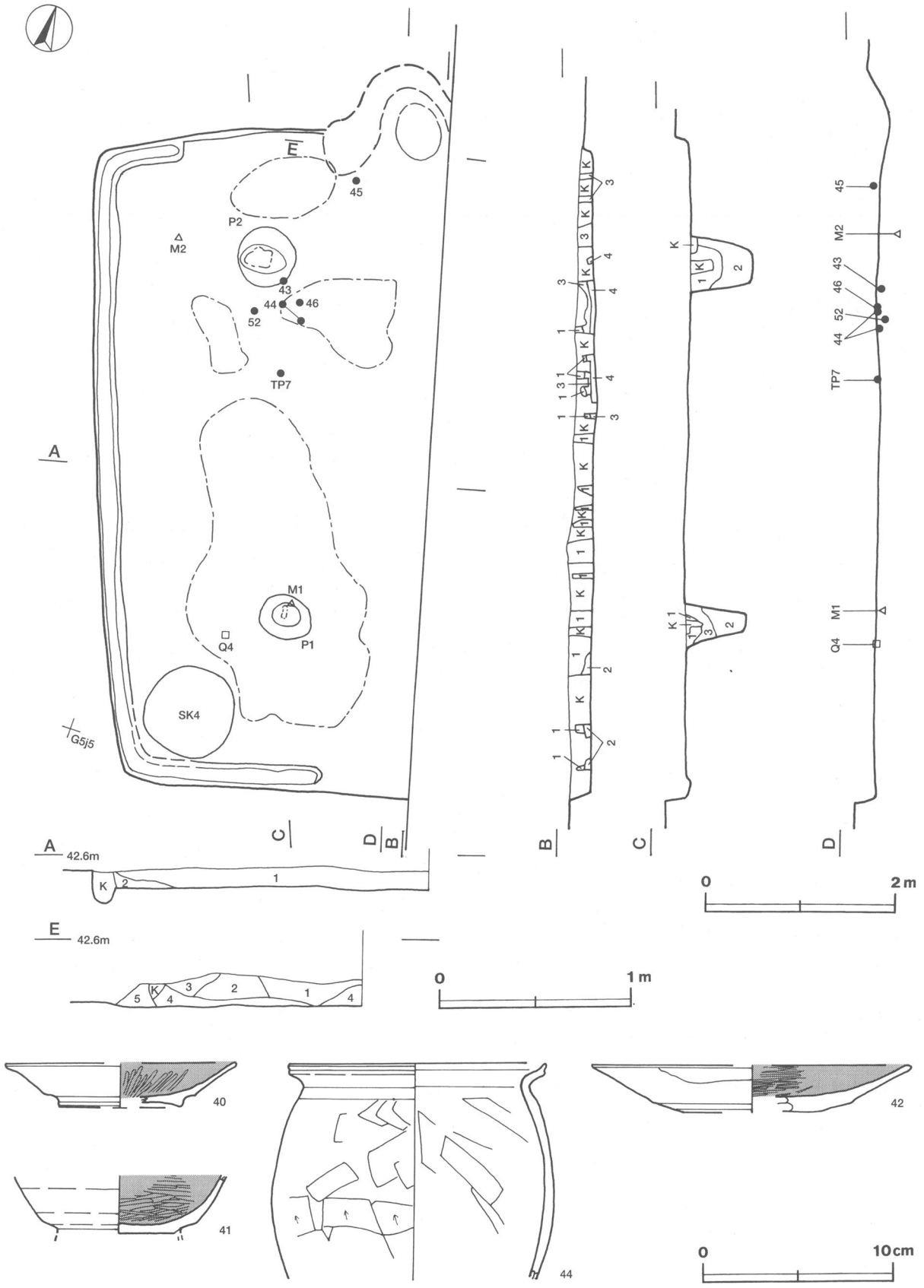
#### 土層解説

- |        |                  |         |                  |
|--------|------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量     | 3 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 極暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |

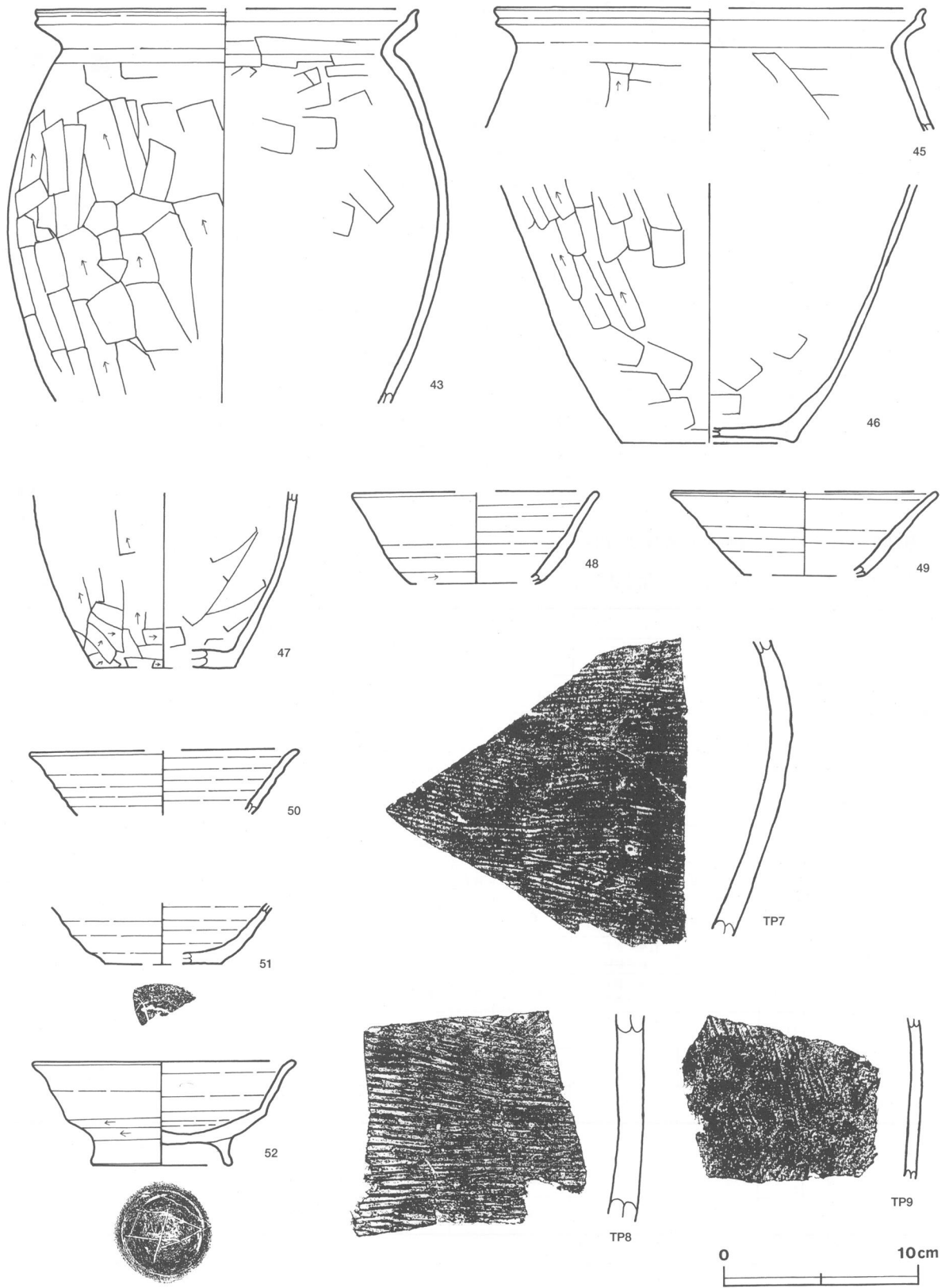
**遺物出土状況** 土師器片237点，須恵器145，弥生土器5点が出土している。40～42，50・51はトレンチャーによる攪乱土中から出土している遺物であるが，本跡に伴う可能性が高い。43～46の甕は，43・44・46が潰れた状態でP2付近の覆土下層から，45は焚き口付近の覆土下層から，47はP1の覆土中層からそれぞれ出土している。M1・M2の刀子は，M1が南西コーナー付近の床面近くの覆土中から，M2が北西コーナー付近の掘り方の埋土中からそれぞれ横位で出土している。

**所見** 長軸が7mあり，大型の住居跡となるが，建て替え及び拡張と思われる痕跡は認められない。右半分が調査区域外であり，全容が確認できないため断定はできないが，本跡は当初からこの規模で構築されたと思わ

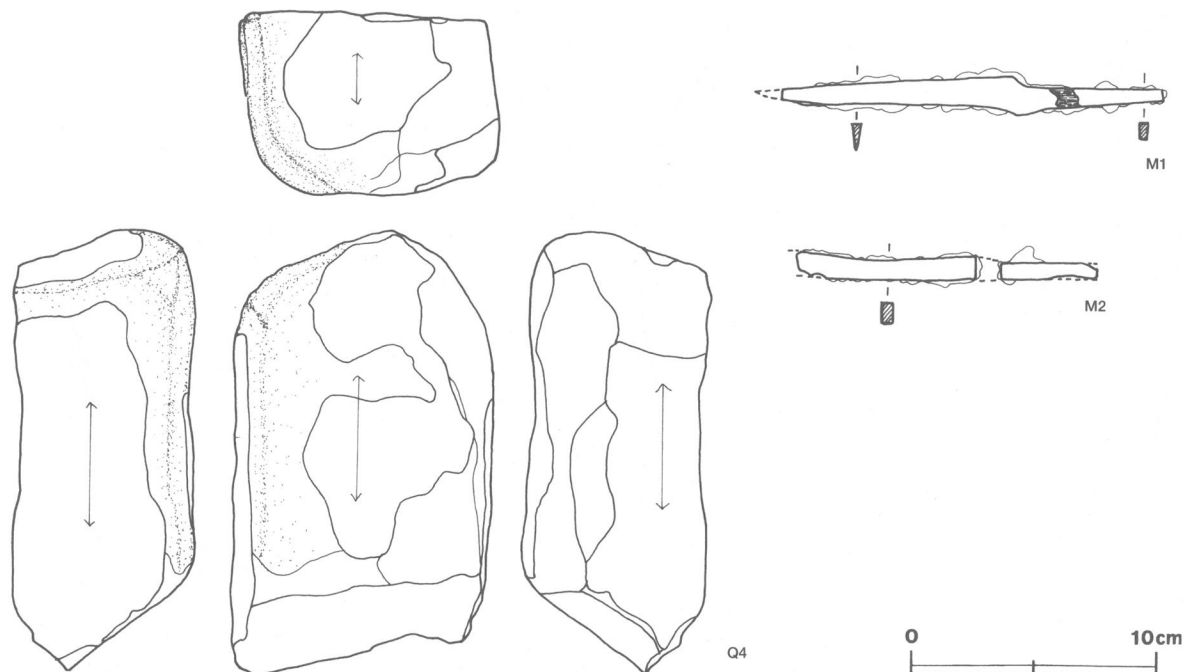
れる。M2の刀子が出土した地点は、攪乱を受けていないので、出土状況から判断して住居構築時に意図的に置かれていたと考えられる。時期は、遺構の形態及び出土土器から平安時代（9世紀後半）と判断される。



第149図 第13号住居跡・出土遺物実測図



第150図 第13号住居跡出土遺物実測図（1）



第151図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表(第149~151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	高台付皿	[12.0]	2.2	[6.4]	石英・長石	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き 底部ナデ調整 内面黒色処理	攪乱土中	20%
41	土師器	高台付坏	-	(3.1)	-	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り調整 内面黒色処理	攪乱土中	30%
42	土師器	皿	[16.8]	2.5	[7.0]	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部・体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き 底部ヘラ削り調整 内面黒色処理	攪乱土中	30%
43	土師器	甕	[19.4]	(20.4)	-	石英・長石	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ	覆土下層	50% PL22
44	土師器	甕	13.5	(11.4)	-	石英・長石	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部下半外面ヘラ削り調整, 内面ヘラナデ	覆土下層	30% PL22
45	土師器	甕	[22.2]	(6.3)	-	石英・長石	浅黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	覆土下層	5%
46	土師器	甕	-	(13.4)	[8.9]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ 底部ヘラ削り調整	覆土下層	40% PL22
47	土師器	甕	-	(9.6)	[7.2]	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り調整, 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り調整	覆土中層	10% PL22
48	須恵器	坏	[12.5]	4.7	[6.6]	石英・長石・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部内外面横ナデ 体部下端回転ヘラ削り調整	攪乱土中	20%
49	須恵器	坏	[13.6]	4.8	[6.2]	石英・長石・針状鉱物	黄灰	普通	口縁部・体部内外面横ナデ	攪乱土中	10%
50	須恵器	坏	[13.8]	(3.4)	-	石英・長石・針状鉱物	灰	普通	口縁部・体部内外面横ナデ	攪乱土中	30%
51	須恵器	坏	-	(3.2)	[5.6]	石英・長石・針状鉱物	黄灰	普通	体部内外面横ナデ 底部回転ヘラ削り調整	攪乱土中	20% 底部ヘラ記号
52	須恵器	高台付坏	13.3	5.4	7.2	石英・長石	灰オリーブ	普通	口縁部・体部内外面横ナデ 体部外面下端回転ヘラ削り調整 高台貼り付け後, ナデ	攪乱土中	70% 底部ヘラ記号 PL22
TP7	須恵器	甕	-	(15.8)	-	長石・礫	褐灰	普通	体部片 外面横位の平行叩き目, 内面ナデ	攪乱土中	
TP8	須恵器	甕	-	(10.6)	-	石英・長石	灰黄褐	普通	体部片 外面横位の平行叩き目, 内面ナデ	攪乱土中	
TP9	須恵器	甕	-	(7.5)	-	長石・礫	灰	普通	体部片 外面横位の平行叩き目, 内面ナデ	攪乱土中	

番号	器種	長さ(径)	幅(孔径)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	18.1	10.6	7.4	2391.5	砂岩	断面長方形 研ぎ面は四面	床面	炉石に転用
M1	刀子	[15.7]	1.6	0.4	27.4	鉄	刃身部先端欠損 断面形は刀身部が楔形, 基部が長方形	床面	
M2	刀子	(11.6)	1.6	0.8	13.9	鉄	刃身部両端欠損 断面形は刀身部が楔形, 基部が長方形	掘り方	

第23号住居跡 (第152図)

位置 調査区のほぼ中央部, F5h9区に位置している。

規模と形状 壁のほぼ南側半分が, 耕作により攪乱されているため不明確な部分が多いが, 長軸3.60m, 推定短軸2.80mの長方形と推測される。推定主軸方向はN-58°-Eである。壁は高さ27cmで, やや外傾して立ち上がっている。

床 中央部から北側にかけては床面を確認できたが, 南側は耕作により削平されている。残存している床面部分は踏み固められ締まっている。壁溝を西コーナー付近で確認した。上幅13~18cm, 下幅4~6cm, 深さ8cmで, 断面形はU字状である。

竈 壁の規模が不明であるため, 位置の断定はできないが, 北東壁の中央に付設されていると推測される。壁外に63cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 煙道部が一部攪乱されており明確ではないが, 焚き口から煙道部まで1.35m, 両袖部幅は1.1mである。火床部は床面を皿状にわずかに掘り窪め, 被熱して硬化している。

竈土層解説

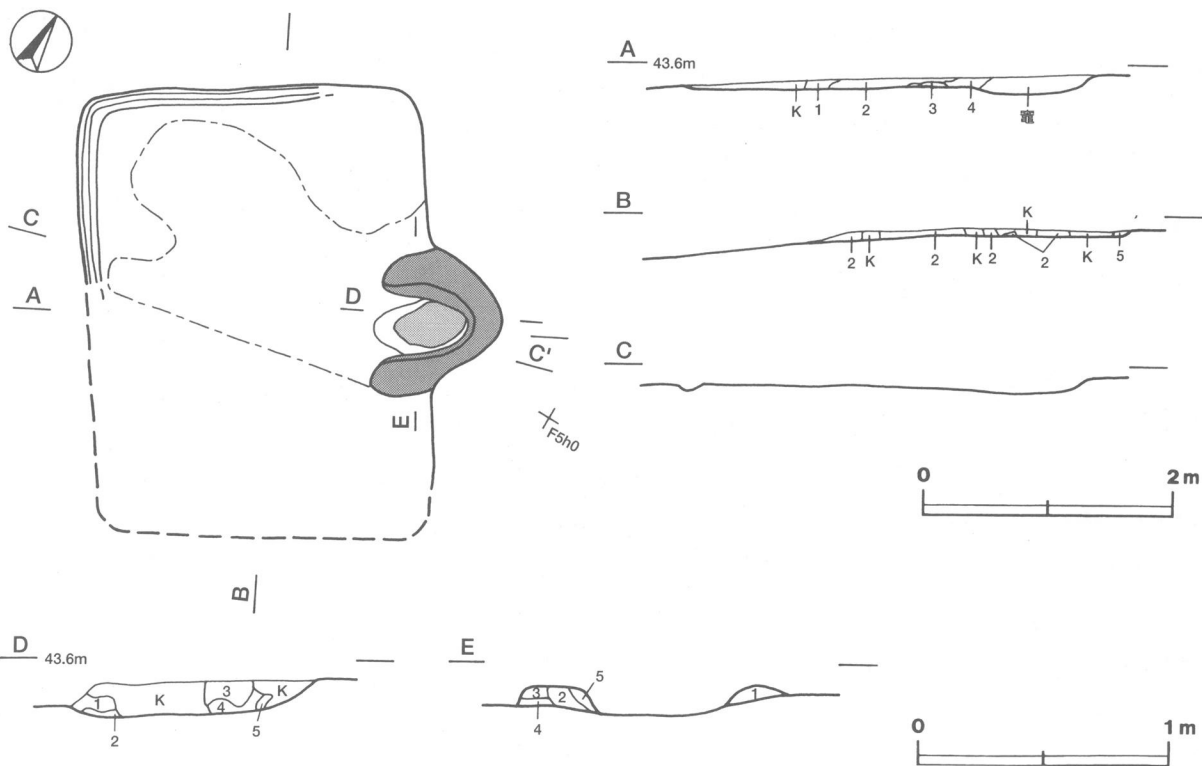
- |                                      |                                      |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量      | 4 褐灰色 ローム粒子・炭化粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・灰少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | 5 褐 灰 ローム粒子多量, 粘土粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量      |                                      |

ピット 精査したが確認できなかった。

覆土 5層からなる。覆土の半分以上が攪乱であり, 判断は困難であるが竈の焼土粒子が北東から床面に流れ込んでいることや, より下位の層にローム土が多いことから自然堆積と考えられる。

土層解説

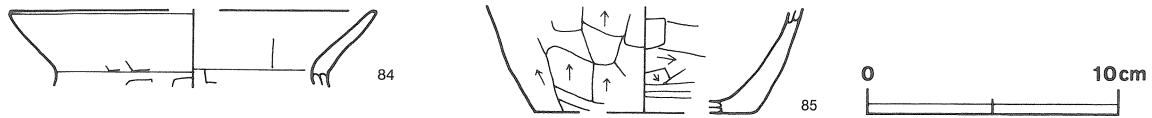
- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量     | 4 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 灰色 ロームブロック少量    | 5 暗褐色 ローム粒子微量              |
| 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |                            |



第152図 第23号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片49点，須恵器7点，弥生土器2点が出土している。84・85の土師器甕はどちらも竈付近の攪乱土中から破片で出土している。

**所見** 84・85が遺構に伴うと断定はできないが，本跡の周囲に当該期の遺構は確認されておらず，耕作による移動等を考慮すると，本跡に伴う可能性はかなり高いと考えられる。時期は，遺構の形態や出土土器から平安時代（9世紀後半）と思われる。



第153図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
84	土師器	甕	[14.6]	(3.0)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内外面へら削り調整後，横ナデ	攪乱土中	5%
85	土師器	甕	—	(4.2)	[8.6]	長石・石英・白色粒子	橙	普通	体部内外面へら削り調整	攪乱土中	5%

#### 第48号住居跡（第154図）

**位置** 調査区の南西端部，C3i0区に位置している。

**規模と形状** 長軸2.99m，推定短軸2.70mのやや長方形である。主軸方向はN-13°-Wである。北壁は耕作による攪乱のため確認できない。残存部での壁高は22~29cmで，ほぼ直立している。

**床** 床面は平坦で，中央部が踏み固められ硬化している。硬化面の中で，P1付近と北東壁寄りがわずかに高まっている。

**竈** 中央部分は耕作により攪乱され，残存しているのは全体の3割程度である。残存部分から北壁のほぼ中央に付設されていたと推測される。煙道部は壁外へ約65cm突出している。両袖部はわずかに残存し，砂質粘土で構築されている。火床部は残存部から推測して，ほぼ平坦で床面を掘り込んでおらず，緩やかに上がり煙道部に至っていると思われる。

##### 竈土層解説

- |         |                       |         |                    |
|---------|-----------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土ブロック微量              | 4 灰褐色   | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量        | 5 にぶい褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック微量   |
| 3 極暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量 |         |                    |

**ピット** P1は楕円形で，深さは14cmである。規模や位置から判断して出入り口ピットと考えられる。

**貯蔵穴** 西コーナー部寄りに位置し，径75cmのほぼ円形で，深さは28cmである。底面は皿状に掘り込まれている。覆土は8層からなる。各層中に焼土ブロックが混在し，さらに第2・6層中には灰が認められる。

##### 貯蔵穴土層解説

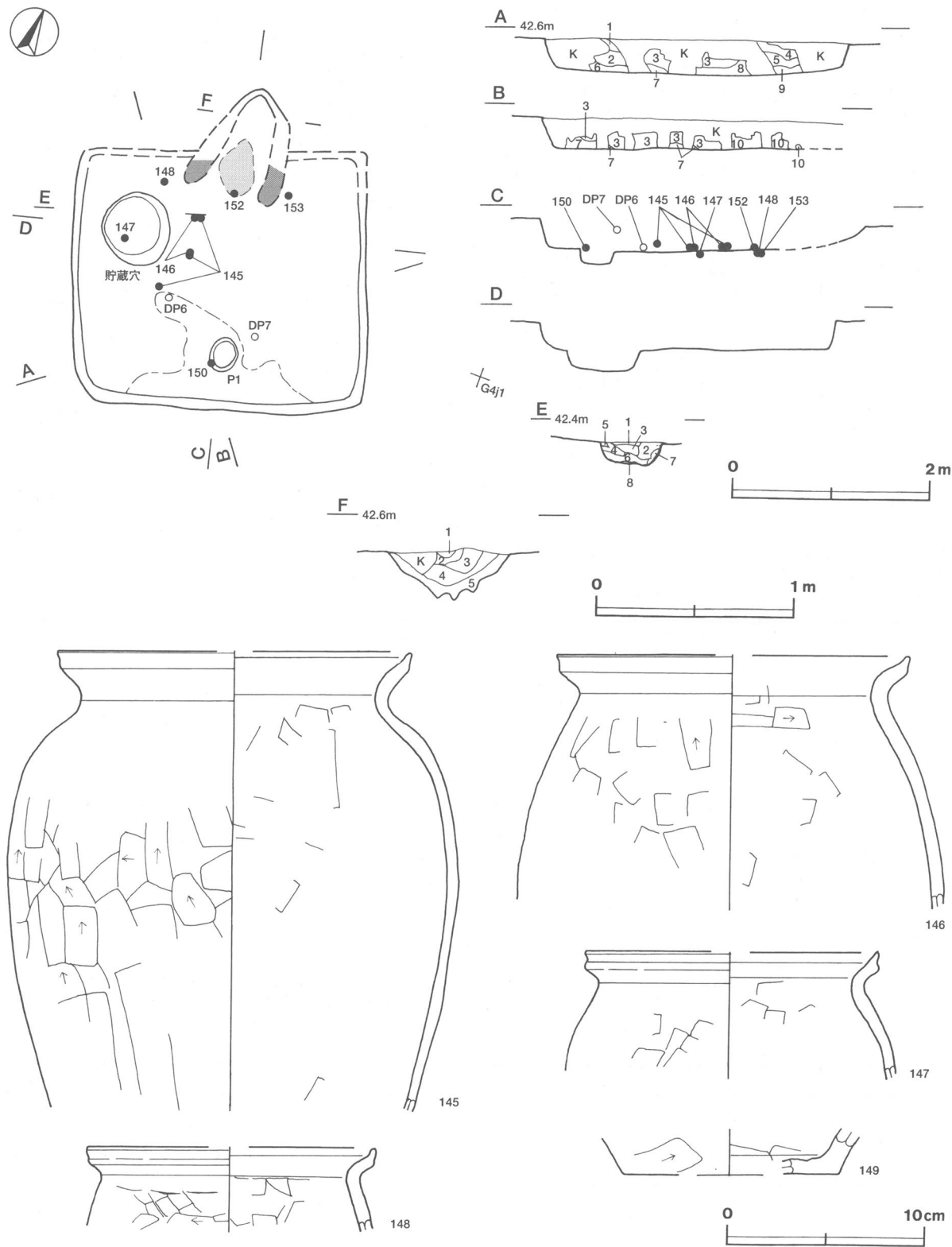
- |       |                        |       |                      |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量       | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック微量     |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・灰微量   | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・灰微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量       | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量   |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック微量   |

**覆土** 10層からなる。覆土全体の約6割が攪乱されているため，残存している覆土はレンズ状堆積を呈しているが，自然堆積とは断定できない。



土層解説

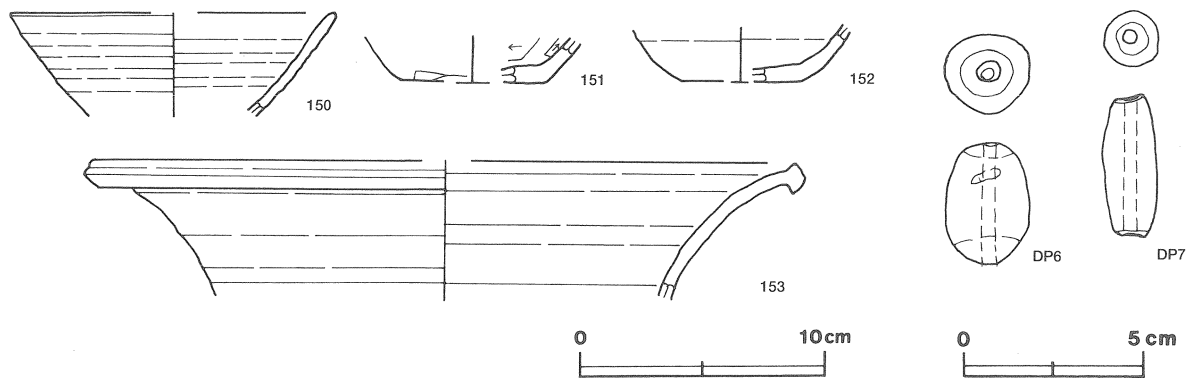
- |        |                       |        |                        |
|--------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子少量               | 6 暗褐色  | ロームブロック・ローム粒子微量        |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量       | 7 暗褐色  | ロームブロック微量              |
| 3 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量           |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量        | 9 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量         |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |



第154図 第48号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片262点, 須恵器片34点, 及び混入によると思われる弥生土器片21点が出土している。145~148の土師器甕は中央部の覆土中層から, 破片で数か所に散在して出土しており, 投げ込まれたと思われる152の須恵器坏と153の須恵器甕は, 竈付近の床面上から破片で出土している。150の器坏片は, 出入り口ピット (P1) 付近の覆土中層から出土している。149の土師器甕と151の須恵器坏は, 攪乱された覆土中から破片で出土している。

**所見** 貯蔵穴の覆土中に灰と焼土ブロックが検出されたが, 床面上には確認できず, また焼失住居でもないことから竈で産出したものが混入していると推測される。竈に関わる何らかの使用方法があった可能性も否定できない。形状や規模及び位置関係からみて, 第6号住居跡のP2に近似している。時期は, 出土土器から平安時代 (10世紀前葉) と思われる。



第155図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表 (第154・155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
145	土師器	甕	[17.9]	(23.5)	-	石英・長石・雲母・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り調整, 内面ヘラナデ	中央部覆土中層	40%
146	土師器	甕	[17.8]	(12.9)	-	石英・長石・スコリア	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り調整, 内面ヘラナデ	中央部覆土中層	15% PL22
147	土師器	甕	[14.8]	(6.5)	-	石英・長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面ヘラナデ, 外面ヘラ削り調整	中央部覆土中層	10%
148	土師器	甕	[14.6]	(4.4)	-	石英・長石・スコリア	橙	普通	器受部内・外面ヘラ磨きa口縁部内外面横ナデ体部外面ヘラ削り調整, 内面ヘラナデ	中央部覆土中層	5%
149	土師器	甕	-	(2.3)	[11.0]	石英・長石・スコリア・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り調整, 内面ヘラナデ	攪乱土中	5%
150	須恵器	坏	[11.8]	(4.6)	-	石英・長石・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部内外面横ナデ	P1付近覆土中層	5%
151	須恵器	坏	-	(1.9)	[5.8]	石英・長石・針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内外面横ナデ 体部下端手持ちヘラ削り調整 底部回転ヘラ削り調整	攪乱土中	5%
152	須恵器	坏	-	(2.4)	[4.8]	長石・針状鉱物	にぶい赤褐	普通	体部内外面横ナデ 底部回転ヘラ削り調整	竈付近床面上	5%
153	須恵器	甕	[28.6]	(5.6)	-	石英・長石・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ	竈付近床面上	5%

番号	器種	長さ(径)	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	霰玉	3.3	0.4	2.3	15.1	土製	断面円形 両端はヘラ削り調整	中央部床面	PL30
DP7	管状土錘	3.9	0.4	1.5	8.5	土製	断面円形 両端は僅かに細い	P1付近覆土中層	PL30

第55号住居跡 (第156図)

位置 調査区の中央部, F4c6区に位置している。

規模と形状 長軸3.35m, 短軸3.06mのほぼ方形である。主軸方向はN-55°-Eである。壁高は10~17cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、コーナー部を除いて全体的に硬く踏みしめられている。硬化面の中でも西コーナー寄りがわずかに高まっている。壁溝は北コーナー付近で確認した。上幅18~26cm, 下幅8~20cmで断面形はU字状, 深さは約12cmである。壁溝の底面には、径12~20cmのほぼ円形で深さ15~20cmのピットが12か所, 1列に並んだ状態で確認できた。

竈 耕作による攪乱のため、大半が残存していない。北東壁の中央からやや東コーナー寄りに付設されている。煙道部は壁外へ約30cmほど突出している。左袖部はわずかに粘土粒子の範囲で位置がつかめる程度で、右袖部は完全に残存していない。火床部は床面を深さ15cmほど皿状に掘り窪め、緩やかに上がりながら煙道部に至る。覆土は8層からなる。土層図には、掛からない部位で天井部の崩落と思われる粘土粒子の多い部分が、中央部の上層に認められた。

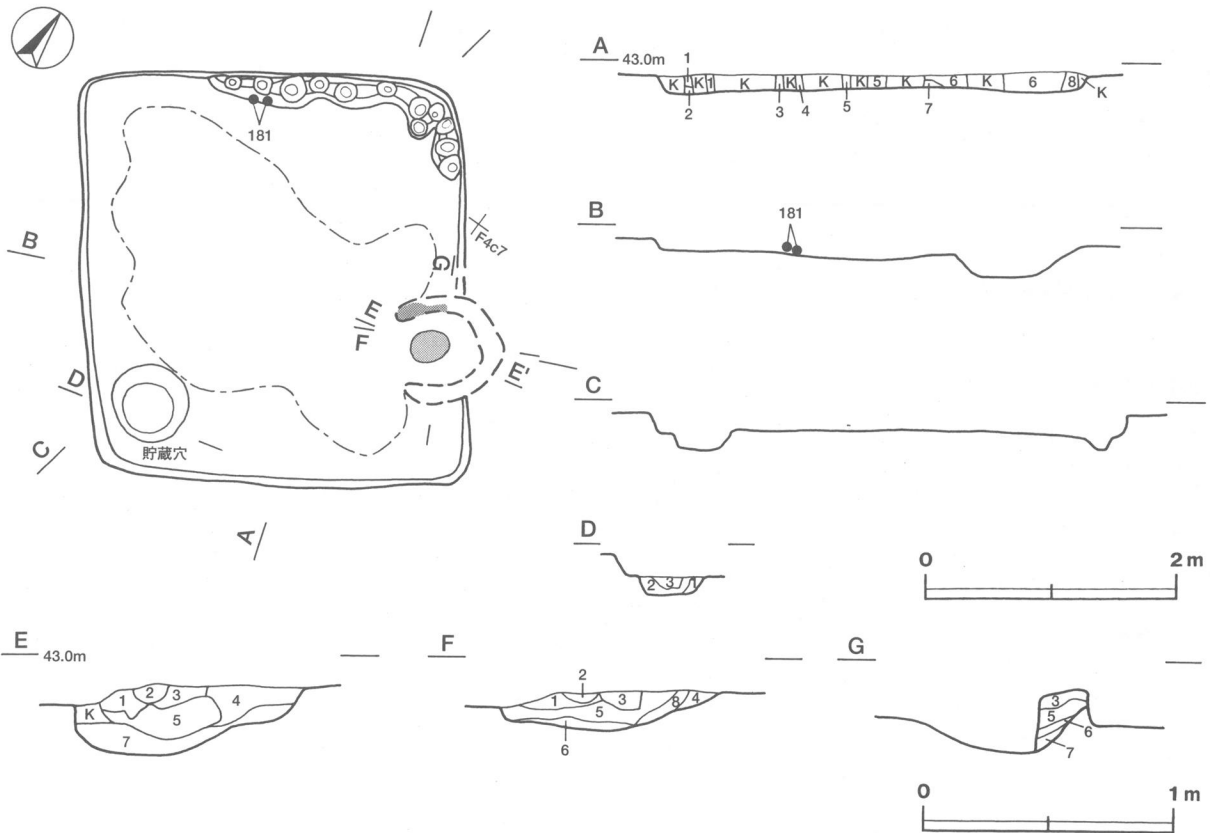
竈土層解説

- |                                   |                                    |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量      | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量         |
| 2 灰褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量    |
| 3 暗赤褐色 ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 赤褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量      |
| 4 暗赤褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量     | 8 暗赤褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |

貯蔵穴 南コーナーで確認され、径65cmの円形で深さは15cmである。底面は皿状である。覆土は3層からなる。

貯蔵穴土層解説

- |                                 |                              |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 3 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子微量      |                              |



第156図 第55号住居跡実測図

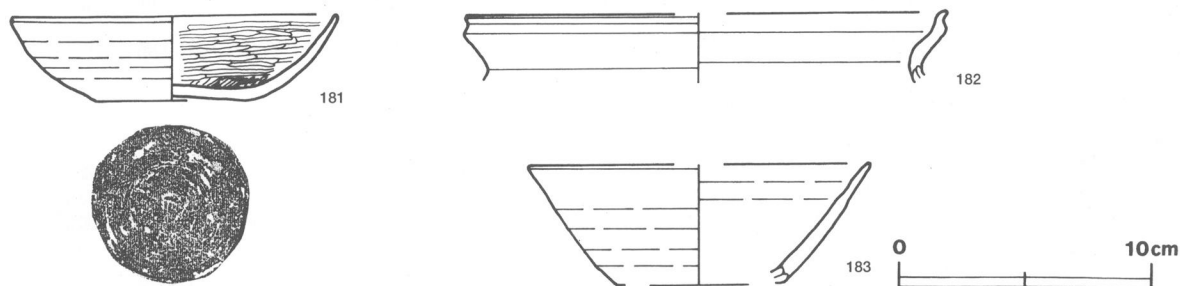
**覆土** 8層からなる。耕作による攪乱が激しく、堆積状況の判断は困難であるが、残存部ではレンズ状堆積が認められず、人為堆積であると思われる。

**土層解説**

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量           | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 8 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片124点, 須恵器片3点, 流れ込みと思われる弥生土器片が2点が出土している。181の土師器坏は, 北西壁中央付近の壁際の覆土下層から逆位で出土している。182の土師器甕と183の須恵器坏はトレンチャー溝内から出土している。

**所見** 壁溝の底面に検出された12か所のピットの性格は不明であるが, 規模や位置から判断して壁面に対する何らかの構築物の跡と考えられる。時期は, 出土土器から平安時代(9世紀後半)と思われる。



第157図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表 (第157図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
181	土師器	坏	13.0	3.3	6.0	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き 体部下端外面回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り調整	北西壁際覆土下層	90% PL27
182	土師器	甕	[19.6]	(3.1)	—	長石・石英・スコリア	褐	普通	口縁部内外面横ナデ	攪乱土中	5%
183	須恵器	坏	[12.4]	(5.7)	[6.6]	長石・石英・スコリア・針状鉱物	灰黄	不良	口縁部・体部外面横ナデ, 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り	攪乱土中	10%

**第69号住居跡 (第158図)**

**位置** 調査区の北端部, C3h3区に位置している。

**規模と形状** 大半が調査区域外に延びているため, 南西壁付近のみの確認である。したがって, 規模や形状は不明である。南西壁の長さは3.25mである。壁高は25~28cmで, やや外傾して立ち上がっている。

**床** 全体は不明であるが, 確認範囲では平坦で硬く踏みしめられている。

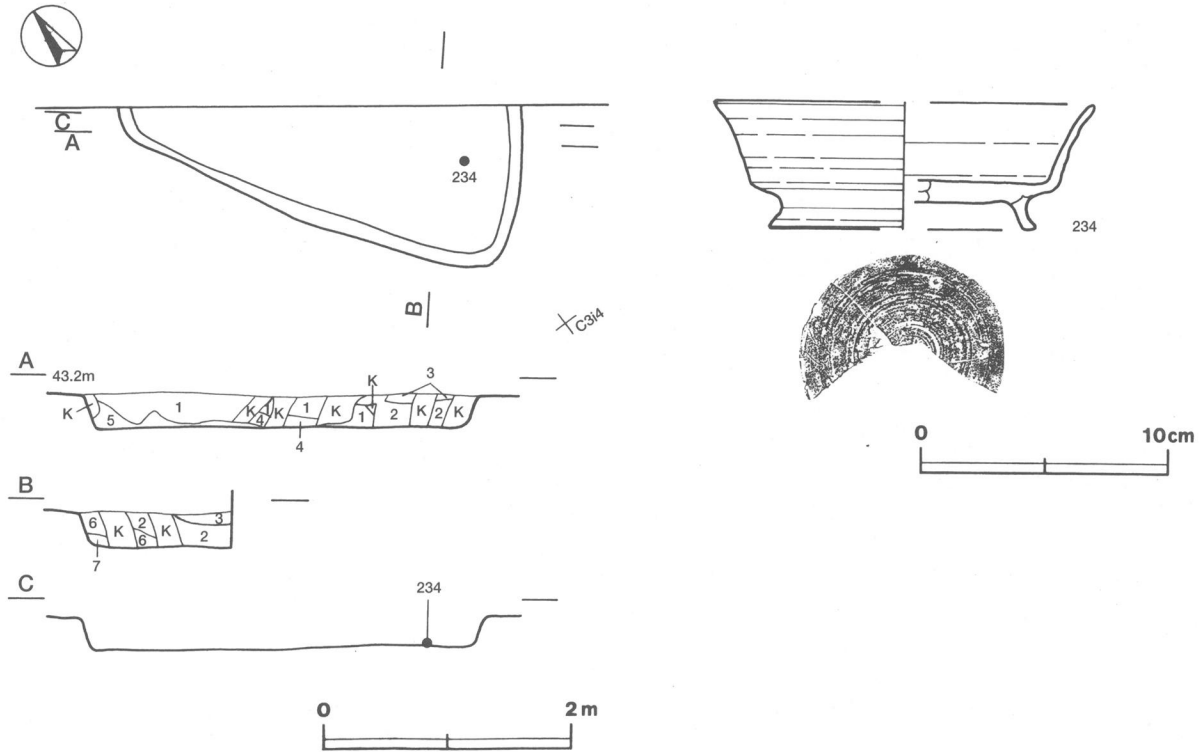
**覆土** 7層からなる。部分的な確認のため堆積状態の全体的な把握はできないが, レンズ状堆積が認められないことから人為堆積である可能性が高い。

**土層解説**

- |                                 |                              |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 5 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量    | 7 暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量        |
| 4 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック微量         |                              |

**遺物出土状況** 土師器片1点、須恵器片1点、流れ込みと思われる弥生土器片が1点が出土している。234の須恵器高台付坏は、南コーナー付近の床面近くから逆位で出土している。

**所見** 遺構の形態や規模等不明な点が多く、また出土遺物が少ないため断定はできないが、平安時代（9世紀）と考えられる。



第158図 第69号住居跡・出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
234	須恵器	高台付坏	[15.2]	5.1	[10.6]	長石・石英・針状鉱物	黄灰	普通	口縁部・体部内外面横ナデ 底部回転ヘラ削り調整 高台部貼り付け後、ナデ	覆土下層	60% PL27

表2 二の沢A遺跡住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長軸 × 短軸 (径)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	F7e6	N-27°-E	[方形]	[3.62] × [3.30]	-	-	-	-	-	-	炉1	-	-	炉石	弥生時代後期後葉	
2	F7e5	N-25°-E	[方形]	[4.00] × [3.98]	-	-	-	-	-	-	炉1	-	-	弥生土器(壺)	弥生時代後期後葉	
3	F7c5	N-67°-W	楕円形	[5.80] × [5.25]	-	-	-	-	-	7	-	-	-		縄文時代早期末葉	
5	F7d3	N-16°-W	[方形]	[4.05] × [3.99]	-	平坦	-	4	-	-	炉1	-	-	土師器(台付甕・壺・甌), 紡錘車, 凹石	4世紀前半	本跡→S16
6	F7d2	N-25°-W	方形	3.53×3.32	14~20	平坦	-	-	1	1	竈1	-	自然	土師器(坏・高台付坏・甕) 須恵器(高台付坏・短頸壺・甕・甌)	9世紀後半	S15→本跡
9	F6c8	N-33°-W	長方形	[5.00] × [4.50]	10	平坦	-	3	-	-	-	-	-	弥生土器(壺)	4世紀	
10	E6i7	N-59°-W	方形	7.22×6.92	24~30	平坦	全周	4	1	-	炉2	1	人為	土師器(台付甕・壺・甌), 紡錘車, 凹石	4世紀前半	本跡→SK1・29
11	F6b4	N-24°-W	方形	6.17×6.08	5~15	平坦	-	4	-	-	炉1	1	-	土師器片, 須恵器片, 弥生土器(壺)	4世紀	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長軸 × 短軸 (径)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
12	E6j2	N-49°-W	方形	5.82×5.34	5~20	平坦	—	4	—	—	炉1	2	—	土師器 (碗・高坏・埴・甕)	4世紀後半	
13	G5h5	N-15°-W	[長方形]	7.00×[3.55]	20~24	平坦	ほぼ半周	2	—	—	竈1	—	自然	土師器 (高台付皿・高台付坏・甕)・須恵器 (坏・高台付坏)・砥石・刀子	9世紀後半	本跡→SK4
14	E6h1	N-2°-W	[方形]	4.45×[4.35]	11	平坦	—	1	—	—	—	—	—	土師器 (甕)	4世紀後半	
17	F7g4	N-9°-W	方形	5.50×5.47	8~13	平坦	—	4	1	—	炉1	1	—	土師器 (器台・壺・台付甕・甕)・炉石	4世紀後半	
18	G4e7	N-14°-W	[長方形]	[4.55] × [3.74]	—	平坦	—	4	1	2	炉1	—	—	—	古墳時代	
19	F7f2	N-16°-W	方形	3.45×3.18	8~14	平坦	—	—	—	21	—	—	—	土師器 (高坏・甕)・土製支脚・炉石	4世紀前半	
20	E6j7	N-105°-W	[長方形]	[6.47] × [6.25]	7	平坦	—	4	—	—	炉1	—	—	土師器 (埴・甕)・砥石	4世紀前半	
21	F5g0	N-18°-W	長方形	6.25×5.6	3~15	平坦	—	—	—	—	炉1	—	—	土師器 (高坏・器台・壺・台付甕・甕)・炉石	4世紀後半	
22	F5e0	N-22°-W	長方形	6.91×6.15	5~15	平坦	—	4	1	—	炉1	1	—	土師器 (壺・甕・甗)	4世紀後半	
23	F5h9	N-58°-E	[長方形]	3.60×[2.80]	4~12	平坦	一部	—	—	—	竈1	—	自然	土師器 (甕)	9世紀後半	
24	F5i7	N-21°-W	方形	6.28×6.13	5~24	平坦	—	4	1	—	炉1	1	—	土師器 (高坏・器台・甕)	4世紀	
26	F5f6	N-19°-W	[方形]	[5.62] × [5.52]	5	平坦	—	4	—	—	炉1	1	—	土師器 (甕)	4世紀後半	
27	F5e6	N-26°-W	長方形	[6.39] ×5.68	2~11	平坦	—	4	—	—	—	1	—	土師器 (壺)	4世紀後半	
28	F5g2	N-19°-W	長方形	16.2×13.2	5~21	平坦	全周	4	—	1	炉2	1	自然	土師器 (坏・器台・埴・台付甕・甕・壺)・砥石・磨石	4世紀後半	
29	E5h4	N-74°-E	[方形]	[5.8] × [5.5]	4~6	平坦	—	4	—	—	—	—	—	—	古墳時代	
30	E5f8	N-60°-W	[方形]	[5.13] × [5.12]	—	平坦	—	4	—	—	炉1	—	—	土師器片, 炉石	4世紀	
31	E6e3	N-29°-E	[長方形]	[5.17] × [4.65]	—	平坦	—	4	—	—	炉3	—	—	土師器 (台付甕)・炉石	4世紀前半	
32	E6b5	N-18°-W	[長方形]	[5.92] × [5.00]	10~20	平坦	—	4	1	—	炉1	1	—	土師器 (甕)	4世紀後半	
33	E5b7	N-29°-W	[方形]	[4.75] × [4.45]	6	平坦	—	2	—	—	炉2	1	—	土師器 (埴・小形甕)	4世紀後半	
34	E5g1	N-1°-E	[長方形]	[5.76] × [5.12]	6	平坦	—	4	—	—	—	1	—	砥石	4世紀	
36	F4a0	N-20°-W	長方形	5.43×4.90	10~19	平坦	—	4	1	—	炉1	1	人為	土師器 (甕)	4世紀後半	
37	G5b8	N-28°-W	方形	5.75×5.72	4~6	平坦	—	4	1	—	炉1	2	—	土師器 (高坏・台付甕・甕)	4世紀後半	
38	G5b6	N-27°-W	不明	[4.78] × [4.45]	—	平坦	—	1	—	—	—	—	—	土師器片, 須恵器片	4世紀後半	本跡→SI39・SK 3
39	G5c5	[N-25°-W]	[方形・長方形]	8.48×(4.62)	37~46	平坦	全周	2	—	—	—	—	自然	土師器 (高坏・台付甕・甕)	4世紀後半	SI39→本跡
40	G4d9	[N-41°-W]	方形	4.42×4.41	16~24	平坦	—	4	1	—	炉1	1	人為	土師器 (坏)	4世紀後半	
41	F5j2	N-53°-E	不明	— × —	—	平坦	—	—	—	—	竈1	—	—	土師器片	—	
42	G5a1	[N-40°-W]	[方形]	[5.44] × [5.38]	—	平坦	—	4	—	—	—	—	—	—	古墳時代	
43	F4j7	[N-26°-W]	長方形	5.83×5.25	10~16	平坦	全周	4	1	—	炉1	1	自然	土師器 (器台・台付甕)・須恵器片, 弥生土器片	4世紀	
44	G4d5	N-27°-W	方形	6.48×6.32	17~27	平坦	全周	4	1	5	炉2	1	—	土師器 (坏・台付甕)・土玉, 砥石	4世紀	
45	F4j4	[N-15°-W]	長方形	5.65×4.85	10~14	平坦	—	3	—	—	炉1	1	—	土師器 (器台・壺・甕)	4世紀後半	
46	F4g5	[N-35°-W]	長方形	7.90×5.64	23~33	平坦	全周	4	1	—	炉1	2	—	土師器 (高坏・甕)・磨石	4世紀後半	
47	H3b9	N-38°-W	方形	6.11×5.99	10~20	平坦	全周	4	1	—	炉1	—	—	土師器 (器台・甕)	4世紀後半	
48	C3i0	N-13°-W	長方形	2.99×[2.70]	22~29	平坦	—	—	1	—	竈1	1	自然	土師器 (甕)・須恵器 (坏・甕)・甕, 管状土錘	10世紀前半	
49	G3h0	N-44°-W	方形	4.66×4.35	35~40	平坦	全周	4	1	—	炉1	1	自然	土師器 (埴・台付甕・小形甕)	4世紀前半	
50	G3d8	N-45°-W	方形	6.63×6.60	10~19	平坦	全周	4	1	—	炉1	1	人為	土師器 (埴・台付甕・甕・小形甕)・炉石	4世紀前半	
51	G3c0	N-25°-W	方形	6.30×5.72	18~32	平坦	全周	4	—	1	炉1	1	人為	土師器 (高坏・埴・壺・甕)	4世紀後半	
52	F4f2	N-15°-W	方形	3.80×3.65	14~19	平坦	全周	1	1	48	炉1	—	—	土師器 (甕)	4世紀後半	
53	F4e8	N-55°-W	[方形]	[6.32] × [5.80]	—	平坦	—	4	1	—	炉1	—	—	土師器 (碗・器台・甕)	4世紀後半	本跡→SK92
54	F4c5	N-20°-W	方形	5.84×5.60	30~40	平坦	全周	4	1	65	炉1	2	自然	土師器 (甕)・炉石	4世紀後半	
55	F4c6	N-55°-E	方形	3.27×3.05	10~17	平坦	一部	—	—	—	竈1	1	人為	土師器 (坏・甕)・須恵器 (坏)	9世紀後半	
56	F4c8	N-20°-W	方形	5.10×4.90	10~14	平坦	—	4	2	—	炉1	1	—	土師器 (甕)・砥石	4世紀後半	
57	E4i6	N-7°-W	方形	6.56×6.10	10~18	平坦	全周	4	1	28	炉1	2	—	土師器 (埴・壺・甕)	4世紀前半	
58	E4f8	N-65°-E	方形	5.92×5.07	6~10	平坦	—	4	—	1	—	1	—	土師器 (台付甕・甕)	4世紀前半	
59	F3b8	N-29°-E	長方形	6.63×5.90	12~18	平坦	—	4	1	—	炉2	1	—	土師器 (甕・甗)	4世紀後半	本跡→SD 1
60	E3d3	N-34°-E	方形	[4.40] × [4.0]	—	—	—	—	—	—	炉1	—	—	—	—	
61	E3e2	N-13°-W	長方形	7.45×5.84	14~26	平坦	—	4	1	—	—	1	—	土師器 (碗・壺・甕)	4世紀後半	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長軸×短軸 (径)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 (旧→新)	
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
62	E2d9	N-27°-W	方形	4.90×4.5	16~36	平坦	-	4	1	-	炉1	1	-	土師器(壺), 台石	4世紀後半		
63	F3c1	N-37°-W	長方形	5.81×4.87	24~50	平坦	全周	4	1	43	炉1	2	自然	土師器(埴・台付甕・甕), 土玉	4世紀後半		
64	F2j7	N-34°-W	長方形	6.71×6.01	20~30	平坦	ほぼ半周	4	1	3	炉1	1	-	土師器(鉢・器台・埴・小形甕・甕・甌)	4世紀前半		
65	E2j3	N-30°-E	方形	4.25×4.06	6	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(台付甕)	4世紀前半		
66	E1j9	N-30°-W	方形	6.56×6.20	40~50	平坦	全周	4	1	130	-	-	自然	土師器(埴・甕・手捏土器)	4世紀前半		
67	E1b8	N-50°-W	方形	6.70×6.66	25~40	平坦	全周	4	1	88	炉1	1	人為	土師器(埴・台付甕・甕・壺・手捏土器) 原石, 剥片, 鉄鏝	4世紀前半		
68	D2i6	N-19°-W	[方形]	4.50×[2.85]	5	平坦	-	1	1	1	炉1	1	-	土師器(埴)	4世紀前半		
69	C3h3	-	不明	3.23×[1.15]	25~28	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(高台付埴)	9世紀		
70	C3f1	N-50°-E	[長方形]	4.10×3.45	3	平坦	-	-	1	4	炉1	-	-	土師器(壺)	4世紀前半		
71	C2j0	N-10°-E	方形	5.63×5.18	6~32	平坦	-	4	1	2	炉1	1	人為	土師器(高坏・埴・台付甕・甕・壺・ミニチュア土器), 磨石	4世紀前半	SI72→本跡	
72	C2i9	N-53°-W	方形	5.24×5.20	22~27	平坦	-	4	1	3	炉1	1	人為	土師器(鉢・高坏・器台・埴・壺・甕), 炉石, 砥石, 砥石	4世紀前半	本跡→SI71	
73	C2i7	N-65°-E	方形	4.50×4.09	5~23	平坦	-	3	-	79	-	1	人為	土師器(埴・甕・手捏土器), 炉石, 砥石, 不明鉄製品	4世紀前半		
74	D2b7	N-79°-W	方形	4.87×4.84	12~28	平坦	-	4	-	-	炉1	-	人為	土師器(台付甕・甕・甌)	4世紀後半		
75	D2d9	N-47°-W	長方形	6.89×5.27	6~16	平坦	-	4	1	1	炉1	1	人為	土師器(埴・甕・椀・壺)	4世紀前半		
76	D3e5	N-55°-E	長方形	7.45×6.44	6~22	平坦	-	4	1	-	炉1	1	人為	土師器(器台・埴・台付甕・甕・小形甕), 砥石, 磨石	4世紀前半		
77	D3d7	N-9°-W	方形	4.62×4.61	5~10	平坦	-	4	-	-	-	-	-	土師器(高坏・埴・台付甕・甕)	4世紀後半		
78	D4c0	N-48°-W	[長方形]	[7.20]×6.00	1~5	平坦	-	4	1	-	炉1	1	-	土師器(器台・椀・台付甕・甕)	4世紀後半		
79	D3i9	N-3°-E	方形	4.83×4.67	4~18	平坦	-	4	-	1	炉1	-	-	土師器(埴)	4世紀前半		
80	D3h1	N-12°-W	方形	6.23×5.96	3~25	平坦	-	4	1	-	炉1	-	-	土師器(壺・甕・小形甕), 管状土鏝, 炉石, 浮子, 鉄鏝, 不明鉄製品	4世紀前半		
81	D3j4	N-71°-E	[方形]	5.41×[5.04]	8	平坦	-	4	1	-	-	-	-	土師器(埴・台付甕・小形甕・甕), 古銭	4世紀前半		
82	E3c0	N-14°-W	長方形	4.65×3.99	6~12	平坦	-	4	1	-	-	-	人為	土師器(高坏・台付甕・甕)	4世紀前半		
83	D4i4	N-50°-W	方形	4.35×4.17	-	平坦	-	-	-	-	-	1	-		古墳時代		
84	E4a4	N-52°-W	方形	5.80×5.69	11~21	平坦	-	4	1	1	炉1	-	人為	土師器(器台・甕), 炉石	4世紀後半		
85	E3c6	N-27°-W	方形	6.23×5.90	12~19	平坦	-	4	1	1	炉1	1	人為	土師器(器台・埴・壺・台付甕・甕・小形鉢)	4世紀前半		
86	D2j6	N-31°-W	方形	5.45×5.08	26~52	平坦	半周	4	1	5	8	炉1	1	自然	土師器(器台・台付甕・埴・甕・甌・手捏土器), 土鏝, 炉石	4世紀後半	
87	E2b6	N-19°-W	長方形	6.14×5.17	22~36	平坦	-	4	1	-	炉1	1	自然	土師器(椀・鉢・台付甕・甕), 単孔円板, 鉄鏝	4世紀		
88	E2b9	N-51°-W	方形	5.82×5.75	5~23	平坦	-	4	1	-	-	1	自然	土師器(高坏・埴・壺・甕)	4世紀		
89	E2d8	N-16°-W	方形	7.07×6.82	37~52	平坦	ほぼ全周	4	1	7	4	炉1	1	人為	土師器(台付椀・器台・埴・壺・台付甕・甕・小型甕), 炉石, 剥片	4世紀前半	
90	E4d6	N-46°-W	方形	5.80×5.65	15~21	平坦	-	4	-	-	-	1	-	土師器(埴・台付甕・甕), 砥石	4世紀前半		
91	F3i0	N-12°-W	[方形]	4.95×4.90	2~7	平坦	-	4	-	-	炉1	-	-	土師器片, 須恵器片, 弥生土器片, 剥片	4世紀		
92	E3j7	N-26°-W	方形	7.75×7.74	10~12	平坦	-	4	1	-	炉1	1	-	土師器(高坏), 土玉	4世紀前半		

## 5 その他の遺構と遺物

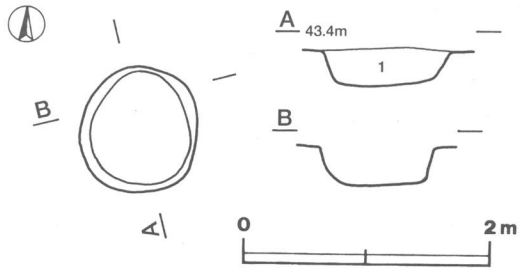
### (1) 土坑

確認された土坑は91基で、全体に耕作による削平のため浅いものがほとんどである。遺構に伴うと判断される遺物がほとんどなく、時期の判断は困難である。文章中、遺物出土状況の項目で記載している攪乱土とは、耕作用機械(トレンチャー)による溝の土を指している。ここでは、特に規模や形状が明確な土坑について記載し、その他は一覧表に記した。

#### 第6号土坑(第159図)

**位置** 調査区の東部, F6e7区に位置している。

**規模と形状** 長径1.03m, 短径0.97mのはほぼ円形で、深さは34cmである。壁面は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。長径方向はN-16°-Wである。



**覆土** 単層である。全体にロームブロックが混入しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**  
1 黒色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片1点、須恵器片1点が攪乱土中から出土している。

第159図 第6号土坑実測図

**所見** 本跡は遺構に伴うと判断できる遺物がなく、時期・性格等は不明である。

### 第7号土坑（第160図）

**位置** 調査区の東部、F6f7区に位置している。

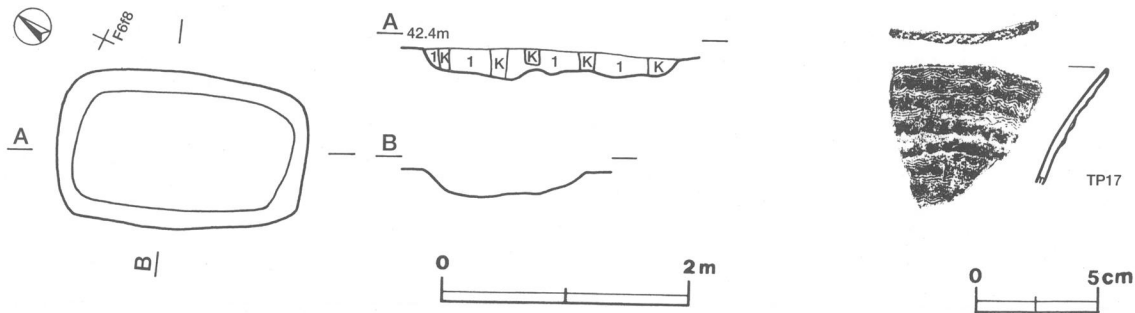
**規模と形状** 長軸2.06m、短軸1.52mの隅丸長方形で、深さは20cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、底面は凹凸である。長軸方向はN-26°-Wである。

**覆土** 単層である。全体にロームブロックが混入しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**  
1 黒色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片8点、弥生土器片2点が覆土中及び攪乱土中から出土している。TP17は弥生土器片で覆土中から出土している。

**所見** 本跡に伴うと判断できる遺物がなく、時期・性格等は不明である。



第160図 第7号土坑・出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP17	弥生土器	広口壺	-	(5.8)	-	長石・石英・金雲母	浅黄橙	普通	口唇部附加条二種の縄文施文（4本）による波縄文施文。頸部から口縁部は櫛歯状工具	攪乱土中	5% 炭化物付着 PL29

### 第13号土坑（第161図）

**位置** 調査区の南端部、F7c5区に位置している。

**重複関係** 第3号住居跡の北東部床面を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸1.15m、短軸0.63mの円形で、深さは16cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。長軸方向はN-16°-Wである。

**覆土** 単一層である。層全体にロームブロックが混入しており、人為堆積と考えられる。